

財団法人徳間記念アニメーション文化財団年報 2005—2006 別冊

平成 16 年度 アニメーション文化調査研究活動助成制度
研究成果発表

目次

研究者募集から本誌発行までの経緯	1
載録にあたって	2
選考委員による講評	3
① 「果敢な挑戦に、若い覇気を感じる」	浜野 保樹 ... 3
② 「時代とアニメ、現代史とアニメの関わり合いを追求」	岡田英美子 ... 5
③ 「アニメーションそのものに目を向けた研究を」	三好 寛 ... 7
研究論文載録	10
「1928—45 年におけるアニメーションの言説調査および分析」	佐野 明子 ... 10
「韓国における日本のアニメーションの受容に関する一考察」	朴 紀吟 ... 102

研究者募集から本誌発行までの経緯

財団法人徳間記念アニメーション文化財団は、平成 16 年度の「アニメーション文化に関する活動の奨励」事業において、アニメーション文化調査研究活動助成制度として以下の要領で助成対象となる研究者を募集した。

1) 趣旨

財団法人徳間記念アニメーション文化財団は、アニメーション文化の理解及び発展のために、国内外におけるアニメーション文化に関する調査研究活動に対し、助成を行う。

2) 対象とする領域

アニメーション文化に関する領域全般とする。

但し、特定のアニメーション作品に対する評論等については対象外とする。

3) 調査研究計画及び助成額

調査研究計画は平成 17 年 9 月 30 日までに調査研究が完了し、成果を取りまとめられるものとする。

助成額は 1 調査研究あたり 30 万円程度とし、選考時に決定するものとする。

4) 募集の対象者

平成 17 年 4 月 1 日現在で、35 才以下の者であって、次の条件の何れかを満たす者とする。

- ・大学院修士または博士課程に在籍する者及び調査研究期間中に進学を予定する者
- ・大学、研究機関、教育機関等において調査研究活動に従事する者
- ・博物館（含む類似施設）及び図書館で調査研究活動に従事する学芸員・図書館司書等の職員
- ・その他、当該調査研究活動に従事できると当財団が認める者

5) その他の条件

- ・調査研究計画は、申請者が主体となって行う調査研究とする。申請者は個人またはグループとする。
- ・他の調査研究助成制度から既に助成を受けているか、受けることが決定している調査研究は対象外とする。
- ・申請者の国籍、在籍地は問わないが、申請及び調査研究発表は日本語で行えること。
- ・調査研究成果は完全なオリジナルであること及び調査研究内容に含まれる第三者の著作物に関しては適法に著作権等の処理がなされていることを条件とする。

6) 申請の方法

- ・当財団の指定する助成申請書に必要事項を記入し、調査研究計画書（書式自由）とともに提出する。
- ・1 個人（又は 1 グループ）が応募できる調査研究計画は 1 つとする。
- ・申請の際の申請書、調査研究計画書、添付された資料等は返却しない。

7) 選考方法

学識経験者及び当財団理事・学芸員で構成する選考委員により、審査選考を行う。

（選考委員）

浜野保樹	（東京大学大学院教授）
池田宏	（東京工芸大学アニメーション学科教授）
岡田英美子	（アニメーション評論家）
宮崎吾朗	（財団法人徳間記念アニメーション文化財団理事）

8) 募集期間及びスケジュール

応募締め切り 平成 17 年 2 月 15 日

助成対象者の決定・通知 平成 17 年 3 月初旬

9) 調査研究成果の提出

当助成の決定した場合、当財団と調査研究成果の提出に関する覚書を締結し、調査研究成果を文書にして提出する。

調査研究成果は当財団が行う普及啓発活動において出版物（Web 等を含む）に、当財団が自由に使用できることを条件とする。

10) 助成申請書の請求・問い合わせ先

財団法人徳間記念アニメーション文化財団 事務局

選考委員による審査の結果、以下の 2 氏の研究に助成を行った。

- ・佐野明子「1928－45 年におけるアニメーションの言説調査および分析」
- ・朴紀吟「韓国における日本のアニメーションの受容に関する一考察」

各研究者は、研究成果の提出期限である平成 17 年 9 月 30 日までに研究論文を提出した。
本誌は研究成果の発表の場として、提出された論文を選考委員の講評とともに載録するものである。

載録にあたって

本誌では、研究成果の提出順に、下記のような処置を施した上で提出された文章のまま載録した。

- ・各論文の表紙にあたる頁を研究タイトルと研究者名のみを記したものに改めた。
- ・明らかな誤字脱字は訂正した。
- ・作品名や登場人物名などは、劇場用パンフレット等の出版物にある一般的な表記に従った。
- ・頁数表示は本誌の通しの頁数を入れなおした。

「果敢な挑戦に、若い覇気を感じる」

浜野保樹

アニメーションに関する高等教育機関がやつぎばやに創設され、アニメーションに関する文献もひきもきらない状態が続いているが、アニメーション研究に関する限り、細々となされているという印象はぬぐえない。こういった状況に風穴をあける若手研究者の登場することへの期待を込めて、「アニメーション文化調査研究活動助成制度」は設けられたが、本年度の2編の研究は戦前の歴史と韓国の状況という、一般の者では情報が得にくい分野に果敢に挑戦しているところに、若い覇気を感じられた。特に佐野明子氏の研究は、充実した文献リストから研究にかけた膨大な時間を推測できるものであった。それは今後の研究に大きな貢献を果たすものであり、この制度が大きな成果を得たことを喜びとしたい。

・佐野明子「1928-45年におけるアニメーションの言説調査および分析」

第二次世界大戦以前のアニメーションに関する文献を可能な限り探索し、その論説から、アニメーション史に肉薄しようとする手法は見事である。戦前の制作現場の一次資料が少なく、入手が困難で、関係者がほとんど他界しているため、これまで戦前に関する学術的な研究を欠いていたが、その空白を文献という「史実」で埋めようとした貴重な試みとなっている。

惜しむらくは、やや断定的な言い回しが散見されるが、主たる歴史的根拠としているのが評論であるため、個人的な、あるいは一面的な意見である可能性がないとは言えず、もう少し抑制的な言い回しを行えば、学術研究として申し分なかった。先に述べたように、一次資料が入手困難であるため、事実の照合が難しいものの、今後そういった努力がなされることを希望している。

しかし、本研究はアニメーション研究として画期的なものであることはまちがいない。文献調査が精緻に行われ、その一覧を開示し、当然ながら出典が必ず明示されており、今後のさらなる研究を誘発することになるだろう。研究方法の卓越さ、その方法を完遂した力量からして、佐野氏の研究者としての資質がなみなみならぬものであることが理解でき、今後の研究を期待している。

・朴紀吟「韓国における日本のアニメーションの受容に関する一考察」

本研究は、主観的な個人史と歴史的事実が羅列されているが、読者の有用性からすれば、編年的な記述は年表にすれば、一層利用勝手があがったであろう。また論点についても時間的な経過に沿って羅列的に記述されているため、せつかくの論点が不明確になっている。

個人的な記述は、一つの事例として貴重なものではあるが、主観的記憶は事実を彩る具体的なイメ

ージを提供してはくれるものの、それを確認できない。研究方法として厳しく求められる客観性と再現性が担保されないため、蓄積できる知見となり得ない。客観性と再現性が不可欠な研究で、それを欠いていれば、研究としても認められないことになる。

本論が資料を駆使して書かれていることは引用文献の数などから理解できる故に、よけいに残念に思った。これだけの資料を駆使して書くのであれば、客観的に書きあげることにも可能であったはずである。研究が、次の研究の糧になるためにも、また研究助成という本事業の趣旨からすれば、客観的な記述に徹するべきであった。

ただ、他国の事情を日本語で記述するという作業は、日本では英語圏のみにかたよりがちであり、アジアに関しては、その作業は極めて困難である。韓国における日本のアニメーション事情が、日本語で書かれた意義は極めて大きい。

「時代とアニメ、現代史とアニメの関り合いを追求」

岡田英美子

二名の方のご研究、興味深く拝見しました。どちらも作品や作家に関するご自分の批評や考察ではなく、その時代のジャーナリズムが扱って来たアニメへの姿勢と論評の内容をテーマとされたという共通項があります。いわば時代とアニメ、現代史とアニメの関り合いをそれぞれ追求されたわけで、その姿勢はまず評価されます。評価した上で、それぞれのご研究について感想を述べさせていただきます。

・佐野明子「1928-45年におけるアニメーションの言説調査および分析」

これは大変な労作です。研究・考察以前に、国会図書館その他で使われた時間と費用の膨大さを考えるとまず頭が下がります。請求資料がひとつ手元に出てくるまでの待ち時間、それをコピーできるまでの時間、市内のコンビニとは比較にならないコピー代、その他もろもろ、本当によくやって下さったと思います。現在、私を含めてアニメ研究、評論活動をしている人は誰もこの大仕事ができませんでした。そのことだけでも、まず大きく評価したいと思います。後半 58 ページに及ぶアニメ記事リスト、これだけでも佐野さんはアニメ史に残る仕事をなさった、と言っていいでしょう。誰もできなかった、それも一番地味でしんどい調査を、よくやって下さいました。アニメ研究者の一人として、お礼を申し上げます。

日本では長い間アニメーションは子供の見る映画として一段低く見られ、一部の理解ある評論家以外には的を得た批評が少ない時代が長く続きました。それでもこれだけの分量のアニメ関係の記事があった、という事実の確認は貴重です。批評がディズニー一辺倒になりがち、また製作法もアメリカ作品の模倣や追随になりがちだったのは、アメリカ作品の完成度の高さの前に、ほかのタイプのアニメーションの可能性や方法論がなかなか思いつけなかったことがあるでしょう。だからこそ、中国から来た中国の物語による長編は、作る側にも見る側にもまさに盲点を突かれた衝撃だったことでしょう。そうしたご指摘もおもしろく読ませていただきました。わが国のアニメの研究と論評はいまだに成熟したとは言い切れませんが、佐野さんのご調査は今後の研究者たちに大きな刺激となり、かつ豊富な資料となって、役立つことと思います。

・朴紀吟「韓国における日本のアニメーションの受容に関する一考察」

非常に興味深い主題ではありますが、物足りない部分もあります。やはり韓国で公開された日本のアニメーションの絶対数が少なすぎ、サンプル数もサンプル自体もかなり偏っています。日本人とし

ではこれで「日本のアニメとは」と決め込まれ、思い込まれては、と感じてしまいます。早い話が、「ドラえもん」もないし。

また、引用された映画評は年齢・業績を含めどういう批評家の文章か存じませんが、韓国の映画批評はあまり成熟していないのではないのでしょうか。引用した雑誌が韓国でどういうレベルにあり、どんな年齢層が読者なのか、とか、この批評家が韓国の映画ファンにどのくらい信頼されているのか、その批評の影響は大きいのか、などの情報がほしいところです。

朴さん自身の日本のアニメーション体験の記憶や印象はなかなか興味深いものがあります。どういう順序でテレビ放映されて行ったのか、というあたりはまったくその国の人でないと書けません。貴重な記録だと思います。

韓国で日本のアニメーションが正式に公開されるまでの情勢変化についての報告も興味深く、またよく説明されていますが、どうしてアニメの全面開放が遅れていたのか、その理由も知りたいものです。

かつて広島国際アニメフェスでは多くの韓国ジャーナリストやプロデューサーと親しくなりましたが、みんな本当に熱心で新情報を意欲的に吸収していました。また韓国でもアニメ映画祭はありましたから、映画祭関係者や映画担当記者などに取材して意見を聞く方法もあるのでは。

興味深い要素を多数含み、日本人にとって考えさせられる情報が多いにもかかわらず、もう少し足でかせいでほしかった、という印象が否めないのは残念です。どことなく急いでまとめた宿題のレポートのような印象も感じました。

しかし、母国語でない言葉で論文を書くというのは並々ならぬ努力を必要とします。敢えてその困難に挑まれた姿勢は大きく評価したいものです。現在はかなりの日本のアニメのソフトが入手可能で、レンタルで見ることができるので、例えばジブリの作品はもちろん、それ以前の高畑勲、宮崎駿の作品を全てチェックするぐらいの意欲がほしかったところです。数多く見れば、日本側の公開作品の選択に注文をつけることもできますし、現在作られている韓国のアニメとの比較、日本のアニメの影響のよい点悪い点などもより具体的に書きましょう。今後一層のご研究に期待します。

「アニメーションそのものに目を向けた研究を」

三好寛

近年、世間でのアニメーションへの関心が高まり、アニメーションを研究する人も増えているようだ。それもあってか、この活動奨励事業も助成申請の応募数が前回から増えた。それ自体は喜ばしいのだが、申請された研究案には、文学、社会学、心理学など既成の諸学問の材料にアニメーションを選んだだけのものが多く見られた。

そうした傾向の強い中、助成をした二氏の研究は、アニメーションを視点の中心に据えようとしているものであった。日本のアニメーションの歴史を丹念に振り返った佐野氏、自身の体験を交えて韓国における状況や課題を述べた朴氏、両氏の努力と誠意に敬意を表したい。

今後もアニメーション研究への需要や期待が高まる中、この活動奨励事業では、充実した成果を挙げることはもちろん、アニメーションそのものに目を向けた研究をサポートし、「アニメーションとは何か」「これまでどう歩んできたか」「これからどうあるべきか」といったことを考えるために有効となる研究を支えていきたい。

以下、個々の研究に対して講評する。

・佐野明子「1928-45年におけるアニメーションの言説調査および分析」

膨大な量の文献を地道にコツコツと紐解いた労作である。また、単にアニメーションについての記事を記録しただけでなく、当時の制作者、興行関係者、言説の執筆者、さらに観客がそれぞれ抱える問題を多方面からとらえようとし、当時のアニメーションが日本においてどのような存在であったかをより深く知る手がかりを示したと言える。特に、これまで一種定説となっていた戦前のアニメーションに対する評価に対して、アンチテーゼを試みた点を評価したい。

添えられたリストも有効なデータベースとなっている。記事の時系列的羅列に終わらず、特記事項を設けて内容の端緒に触れている点が資料性を高めている。今後の研究者にとって、このリストは大いに活用されるだろう。

気になる点をいくつか述べる。当時の日本作品に多様性があったとするならば、なぜこうもアメリカ作品が高く評価されたかも、もっと分析すべきであろう。例えば、日本とアメリカ作品の比較事項で、「三次元的」「動きが滑らか」といった表現や技術の問題に言及していたが、そこにもう少し追求が必要だったのではないか。また、アメリカ作品に見られた「リアリズムや心理描写」が、日本においてはどうだったかも俎上に載せるなど、言及すべき点は多いと考える（蛇足ながら、表現や技術の問題で、独創的な動きを追求した上での「リミテッド」と、いわゆる省力化を図ったそれとの扱いは、注意深く分ける必要があるだろう）。また、今回中心的に動向を追った大藤信郎のほかの制作者につ

いても、この方法論による考察を試みてほしい。

いろいろと欲が出てしまったが、この時代のアニメーション史を紡ぐには、わずかに残された作品と、膨大な文献の中にある有意義な言葉を拾い集め、恣意的に陥らないよう心がけながら分析を続けるしかない。本論はそれを誠実に実行した例と言えるだろう。今後も、過去に目を向けることで現代に生かすことのできる要素を見出す、意義ある研究を期待したい。

・朴紀吟「韓国における日本のアニメーションの受容に関する一考察」

他国の文化研究論文を他国の言語で書く困難に挑んだ努力は多大なものであっただろう。韓国のことに興味は持ちつつも知識が乏しい私としては、知り得たことや興味深い事実が多く、現在の韓国アニメーションの隆盛に日本のアニメーションがどうかかわってきたのか、その一端が見られ、有意義であった。

とはいえ、現地調査でもっと明らかにしてほしいと思わせる調査不足な点、具体的な記述の不足などにはあえて苦言を呈したい。

そもそも、ここで言う「受容」が、単に公開されたことを指すのか、一般的に広く認知されたということなのか、いまひとつ不明である。そうした基本姿勢の不徹底さが、述べている事項の具体性の不足に結びついているように思える。例えば、日本作品の韓国での上映・公開事例が多く挙げられ、それを見た研究者自身の証言も説得力を持つが、それらが韓国内でどのぐらいの人に見られ、人気があったのか、もう少し具体的事例や数値的データがほしい。あるいは、2006年に実現するとはいえ、文化開放においてなぜアニメーションだけがなかなか完全に至らなかったのか、ここでの報告だけでは真意が見えてこない。なにより、こうした調査を生かして論を展開していく3章以降の未消化・未整理さが残念である。日本作品の「多様性」の問題、なかでも「日本的」なもの「無国籍」さとの比較から、韓国作品の状況、実写映画とアニメーションの違いなどが交じり合って登場し、個々に言いたいことは何となくわかるが、それらをもって何を示したいのかが明確に伝わってこない。分析や考察の要となるところを文献からの引用に多くを任せている点も気になる。

とはいえ、かつての日本作品に対する編集や改変、韓国での日本のアニメーションの下請け制作状況、衛星放送やインターネットなど非公式レベルの普及具合など、ここで触れられていた諸問題には興味深いものが多い。

文化開放という重要な節目を迎え、韓国のアニメーション研究の重要性はますます高まるだろう。朴氏には、今後も活動を継続し、ぜひとも、日本との関係を中心にした韓国のアニメーション史をまとめていただきたい。

1928—45 年におけるアニメーションの言説調査および分析

佐野 明子

1. はじめに

近年、日本のアニメーションが世界的に脚光をあびている。しかし、そこで言及されるのはおもに1960年代以降の作品群にかぎられ、それ以前の作品についての研究は端緒にすぎたばかりといえよう。歴史資料を駆使して通史的に述べる『日本アニメーション映画史』（山口且訓、渡辺泰、有文社、1977年）、「創始者」の業績を明らかにして現代作品との関連を論じるもの、昭和初期のモダニズムとテキストとの関連を考察するもの、影絵アニメーションにおける前衛性をしめすものなど、これまでにすぐれた成果が蓄積されてきたことはたしかである。しかしそれでも現代の作品群にたいする注目度にくらべると、1950年代以前のアニメーションについてはやはり貧しい研究状況にあるといわざるをえない。アニメーションというジャンルがどのような文化的・経済的・政治的な背景とかかわりながら変遷してきたのか、いまだ不明瞭な状態におかれている。日本アニメーションの歴史的経緯は、いままさに再検討すべき時期にきているのではないだろうか。

1950年代以前の作品群が看過される要因のひとつに、それらが従来の日本アニメーション映画史では「未熟な段階」の作品と位置づけられてきたことがあげられる。ある到達点（現代の日本アニメーション映画や同時代のアメリカのもの）に向かって直線的に進行するという進歩史観にそって、大正・昭和初期の作品群を「未発達」ととらえるようなパラダイムは、現在はもちろんのこと、当時からしばしば認められるものである。そこで「進歩」と評されるのは、日本最初の長篇アニメーション映画『桃太郎の海鷲』（瀬尾光世、1942）や『くもとちゅうりっぷ』（政岡憲三、1943）のような、当時のアメリカ製アニメーションの「滑らかな動き」を再現した作品である。この2本のアニメーション映画が傑出した作品であることに異論をさしはさむ余地はない。しかしながら、それを単純に「進歩」とみなす態度は、必然的にそれ以前の作品群を「未発達」段階と軽視し、同時代における歴史的意義を見失わせる危険性をはらむだろう。

しかし大正・昭和初期の日本製アニメーション映画を虚心にながめると、千代紙による見目鮮やかな表現や墨の濃淡を巧みにもちいた閑静な描写、1920年代に世界的に流行した前衛的描写など、その多様性に驚かざるをえない。じっさいテキストの多様性に呼応するかのようになり、当時の日本製アニメーション映画は「線画」、「線画喜劇」、「描画」、「漫画」、「漫画映画」など、多様かつ曖昧な名称をあたえられていた。またアニメーション映画の用途も一般の映画館での娯楽用興行ばかりでなく、『病毒の伝播』（山本早苗、1926）のように社会教育・学校教育の場でもちいられるもの、『映画演説 政治の倫理化』（幸内純一、1926）のように政治家の政見をわかりやすく視覚化するもの、『三匹の小熊さん』（岩崎昶他、1931）のよう

に日本プロレタリア映画同盟（プロキノ）によるものなど、きわめて多岐にわたっている。そこには進歩史観にもとづく「未成熟」という言説のみではくくりきれない、テキストとしてのきらめきや観客に訴えかける力能がたしかに息づいている。そこで本稿は、大正・昭和初期の作品群をアニメーションという表現形式の「多様性」あるいは「可能性」を体現したものとして、より積極的にとらえなおす。そうすることによって、たんに「未発達」として片づけられない、日本製アニメーションの新たな相貌と可能性が浮かびあがるはずである。

くわえて従来の日本アニメーション史研究に見られるいまひとつの問題点は、ディズニーを筆頭とするアメリカ製アニメーションの存在を重視するいっぽう、アメリカ以外の輸入作品の受容については、ほとんど関心ははらわれていないことである。ドイツの影絵アニメーション作家ロッテ・ライニガーなどに言及している『日本アニメーション映画史』（山口且訓、渡辺泰、有文社、1977年）をのぞいては、戦前の日本における外国アニメーション映画受容研究はほとんど皆無といえよう。しかし当時の映画雑誌をひもとけば、ドイツのオスカー・フィッシンガーの抽象アニメーション映画や、ロシア出身のラディスラフ・スタレヴィッチの人形アニメーション映画など、さまざまな外国製アニメーション映画が縦横に論じられていたことがわかる。もっとも、これらはいわゆる「漫画映画」ではないため、アニメーション映画研究史から意図的に捨象されたとも考えられる。しかしそれでも後述するアジア初の長篇アニメーション映画『鐵扇公主』（萬籟鳴、萬古蟾、1941年、日本公開時『西遊記・鐵扇姫の巻』に改題）の受容問題さえ、日本アニメーション映画史の文脈で正当にとりあつかおうとしないような現在の批評／研究状況は、それじたい問題といえるのではないだろうか。本稿のいまひとつの目的は、大東亜戦争期に「支那」のアニメーション映画が日本映画界ではたした役割を検証することによって、国際市場の獲得という側面のみが強調されがちな近年の日本アニメーション論に、アジアとの歴史的文化的交通という視点をしめすことにある。

2. 研究方法

2. 1 調査対象

1928－45年の映画関連雑誌・書籍にたいして調査を行い、アニメーション関連記事の書誌情報をリストにまとめた（計 2684 項目）¹。そのさい映画関連資料を多く所蔵する早稲田大学坪内記念演劇博物館、国立国会図書館、阪急学園池田文庫を中心に、関東と関西の公立・私立図書館ならびに大学図書館を利用した。

2. 2 分析方法と本研究の意義

本研究は、1928－45年（トーキー移行期から大戦期）にさだめて調査を行った。なぜならトーキー移行期から大戦期にかけて、日本のアニメーション映画に甚大な変容が要請されたからである。この時期に生じた以下3点の問題を、当時の言説を引証しながら考察する。

- ① 1930年代に世界のアニメーション市場を席卷したミッキー・マウスなどのアメリカ製アニメーション映画は、日本でどのように受容、規範化され、日本製アニメーション映画にいかなる変容をせまったのかという問題。
- ② 30年代は中国大陸における戦況が拡大してナショナリズムが昂揚し、アニメーションにすら「日本的なるもの」が要求された時期であるが、アメリカ志向と日本志向のはざま、日本のアニメーションはいかなる方向に向かったのかという問題。
- ③ 1941年12月の日米開戦以後、「アメリカ」に代わってあらわれた「支那」という第三項（長篇『鐵扇公主』）が「日本」にいかなる指針をあたえたのかという問題。

本稿は、以上3点を作品受容の言説分析を中心に、映像資料のテキスト分析、国家統制などの歴史的側面をとおして多面的に考察し、日本アニメーション映画の変遷過程を検証するものである。本調査をとおして、従来の見方（大正・昭和初期の日本アニメーション映画を「未熟」ととらえる進歩史観や、外国作品の受容をアメリカ製のものみに着目するもの）とは異なる、日本の漫画映画の変遷過程が明らかになるだろう。

¹ ただし点検整理等の理由で閲覧不可の状態にあった資料を除く。また『活動寫眞フィルム検閲時報』『映画検閲時報』には、日本で公開された国内外のアニメーションのほぼ全作品にわたる検閲情報が掲載されているが、リストには割愛した。

2. 3 本研究の要旨

本調査をとおして明らかにしたものの概略を以下にのべる。

<トーキー移行期（1928-1930年代半ば）>

アメリカ製トーキー・アニメーションは日本で人気を博し、映画館で「漫画大会」が流行する。アニメーションというジャンルへの注目度・認知度を飛躍的に高めたという点において、アメリカ製アニメーションの功績が重要なものであったことは間違いない。しかしながらいっぽう、日本製アニメーションにたいしてはアメリカ製におよばない「未熟」なものとみなす言説が台頭し、アメリカ製に近づくことが「進歩」とみなされるようになる。つまりアメリカ製アニメーションの一大流行は、日本のアニメーションが本来内包していたはずの多様性を、アメリカ風のスタイルへ収斂させていくという結果を招いたといえる。アメリカ以外の外国作品も公開され評価されてはいたものの、おおむね別のカテゴリーに属するものとみなされた。

<日中戦争（1937年-）前後>

アメリカ製アニメーションが優勢をたもつっぽう、日本の実作者たちは「アメリカ」と「日本」の中庸をいくような折衷策を模索した。そうしたなか戦局が拡大しナショナリズムが高揚するにつれて、漫画映画に「日本的なるもの」が積極的に求められるようになる。「アメリカ」への憧憬と排除という矛盾したイデオロギーが併存するなか、日本の漫画映画は暗中模索していく。なかでも大藤信郎は「千代紙映画」→「漫画映画」→「影絵映画」と二度にわたる転向をみせ、日本アニメーション界の「揺れ」を端的に体現している。

<日米開戦以降（1941-45年）>

1941年12月に日米開戦、アメリカ製アニメーションは上映禁止となる。そこへアジア初の長篇アニメーション『鐵扇公主』が輸入公開され（長篇文化映画『空の神兵』と併映）大ヒットをとばす。『鐵扇公主』はアメリカ以外のオルタナティブとして日本の映画関係者たちから脚光を浴び、日本のアニメーションが長尺化していく契機ともなる。さらに「アニメーションと長編文化映画の併映」というプログラムを定着させ、アニメーションが国策映画の「客寄せ」という役割を果たしていく契機になった。

3. アメリカ製漫画映画の受容

3. 1 アメリカ製「トーキー漫画」の登場

トーキー導入以前、「漫画映画」²は日本でどのように受容されていたのだろうか。

1920年代の漫画映画は、劇映画の添え物として映画館で公開されるほかに、教材映画として公共施設の上映会で上映されていた。アニメーションを含む映画というメディアは、明治末期の誕生当初からすでに社会教育および学校教育の場において、行政組織に利用されはじめていたのである³。

しかし日本製にせよ外国製にせよ、ジャーナリズムは漫画映画にほとんど関心を向けていなかった。警視庁検閲係長・文部省嘱託の橋高廣をはじめ少数の批評家たちが散発的に論じてはいたものの、漫画映画が批評に値する対象として本格的に認識されたのは、トーキー移行期からのことである。「ミッキイ・マウスの数え切れない模倣が、フランスにも、独逸にも、発生し」⁴、ヒトラーがディズニー風の漫画映画を第二次大戦中に製作させたほど、アメリカのトーキー漫画は世界標準規格ともいえるべき存在になっていった。

では日本においてアメリカの漫画映画を志向するイデオロギーはどのように形成されていたのだろうか。

世界初のトーキー映画は1927年の『ジャズ・シンガー』とされているが、アニメーションにおいては1928年の『蒸気船ウィリー』*Steamboat Willie* (ウォルト・ディズニー) を嚆矢とする。日本で初めてトーキー漫画が輸入公開されたのはおそらく1929年9月5日に新宿武蔵野館で封切られたフライシャー兄弟の『螢の光』だと思われる⁵。アメリカ製トーキー漫画はひとびとに歓呼をもってむかえられ、なかでもミッキイ・マウスとベティ・ブープは、喫茶店の店名や雑誌の表紙になるほど一般的な存在になっていった⁶。

²本章ではこれ以降、当時の呼称にならって、戦前・戦中のいわゆるマンガ的な線描方式のアニメーション映画を基本的に「漫画映画」と総称し、そのうち特にトーキー・アニメーション映画を「トーキー漫画」と呼ぶ。

³ 西本肇「映画と文部省（上）―統制時代の一考察―」『北海道大学教育学部紀要』第67号、1995年、259頁。

⁴ エリック・ウォルター・ホワイト(蔵田国正訳)「影絵映画とミッキイマウス漫画映画」『映画評論』1934年1月号、177頁。なお日本でもミッキイ・マウスのキャラクターの明白な流用が『黒猫萬歳』(中野孝夫、1933)などにしばしば認められる。

⁵新宿武蔵野館の館報による(『Musashino Weekly』第9巻37号、1929年、早稲田大学坪内逍遙記念演劇博物館所蔵)。『螢の光』は「スクリーン・ソング」シリーズのひとつであり、当時は「小唄漫画」とよばれた。スクリーンに映される歌詞の上をボールが跳ねて、どの単語を歌えばよいかを観客に示すという形式のもの。ボールのみならず「インク壺のココ」などキャラクターが登場するものも多い。なお『螢の光』公開の約一ヶ月前に内務省警保局の検閲を通過した「兎のオズワルド」シリーズのトーキー漫画が先に封切られた可能性もあるが、具体的な公開情報は不明である(『映画検閲時報』第8巻、不二出版、1985年、570頁)。

⁶滋野辰彦「シリイ・シムフォニイ」『映画評論』1933年4月号、91頁。

3. 2 「漫画大会」の流行

映画館では、おもにアメリカの漫画映画数本からなる（実写短篇を含むこともある）「漫画大会（漫画短篇大会）」を劇映画と併映するプログラムが流行した。「漫画大会」はそれ以前からときおり企画されていたものの⁷、確実に収益をあげる番組編成として定着したのは1933年頃のトーキー移行期である。「漫画大会」に関する当時の記事を以下に列挙しよう。

「又しても漫画大会をはさんでおりますが、漫画だけを覗いて来る観客もすくなくありません。ここのところ客の好尚が漫画に傾いて、漫画全盛の感があります」⁸（東京倶楽部）
「三日間に限って朝間だけを入場料十銭で発声漫画—『ミッキーの蹴球王』『ポロ靴屋敷』『火星結婚』『森の朝』『交通珍整理』外にパ社のもの二種一ばかりを觀せようとする名付けて十銭漫画劇場と云う奴を始めたことは漫画のみで立派に興行出来得るようになった今日ではこれは敢えて目新らしいとは云わない」⁹（名古屋：千歳劇場）

「『密林の王者』をトリに置いて十一本の傑作漫画短篇大会で大いに家族連れの観客を狙った好番組……SP開館以来初めて見る集計[興行収入]を得た」¹⁰（武蔵野館）

「『犯罪都市』と宣伝久しかったミッキー・マウス、シリー・シムフォニー極彩色漫画の封切で相当の入り」¹¹（京都：キネマ倶楽部）

「『暁の耕地』に「ミッキーマウスとシレイ・シムフォニー」上映中だが、相当の成績をあげている」¹²（神戸：キネマ倶楽部）

「名篇短篇マンガ・オン・パレードここがヶ月の赤字を帳けしにする月例のお家族週間のプロ」¹³（新宿松竹座）

「流行の漫画大会……漫画大会は外国映画専門館の最も安全なる方策」¹⁴（昭和館）

「近頃は方々で漫画大会が行われるが、それが何れも相当の成績を収め得る」¹⁵（大阪：東洋劇場）

このように短篇の漫画映画を数本まとめて上映するプログラムの流行は、漫画映画がもはや「添え物」ではなく「目玉商品」として興行価値が認められたことを意味するといえよう。

⁷ 山口且訓、渡辺泰『日本アニメーション映画史』有文社、1977年、8頁。

⁸ 「映画館の声」『キネマ旬報』1932年12月11日号、35頁。

⁹ 「地方景況」『キネマ旬報』1933年5月21日号、25頁。

¹⁰ 「東都映画館番組及景況調査」『キネマ旬報』1933年6月1日号、19頁。

¹¹ 同上、21頁。

¹² 同上。

¹³ 「映画館景況調査」『キネマ旬報』1933年8月11日号、21頁。

¹⁴ 「映画館景況調査」『キネマ旬報』1933年10月21日号、33頁。

¹⁵ 「映画館景況調査」『キネマ旬報』1933年11月11日号、21頁。

アメリカのトーキー漫画はなぜこれほど脚光を浴びたのだろうか。トーキー化で漫画映画に初めて音声を加えられたからではけっしてない。日本に限らず、サイレント映画の上映には楽団の演奏や弁士による説明などが必ずといってよいほど添えられており、日本において映画と音はトーキー以前の段階から不可分の関係にあった。国産ではディスク式トーキーの漫画映画『黒ニャゴ』（大藤信郎、1929）もつくられている。しかし、それにもかかわらず、人々の関心がアメリカのトーキー漫画に集中したのはいったいなにゆえだったのだろうか。

まず、キャラクターの身体運動と音楽・音響効果に重きをおく、つまりセリフの意味がわからなくても十分に理解できるような作品構成が考えられる。だからこそ、劇映画の初期のトーキー興行に見られるような、スクリーン脇の説明者（弁士）がはりあげる肉声が映画の音声と重なり、観客の不興をかうという混乱も起きなかったのだろう¹⁶。人間の実写の歌手と漫画映画のキャラクターが共演する「小唄漫画」も登場している。トーキーの普及とともに音楽や踊りを中心とする「音楽映画」が世界各地で大流行したように¹⁷、トーキー漫画の音楽と身体運動もまた、言語や文化の相違をこえる「普遍性」をもっていたと考えられる。

そして、トーキー漫画の音楽にジャズがよく用いられたことも重要である。なぜなら昭和初期に勃興した西洋志向の娯楽、すなわちレビュー、ダンス・ホール、カフェー、レコード、ラジオなどは、総じてジャズを体験し消費するものだったからである。Bosko という主人公に、「ジャズ大将」のニックネームがつくほどジャズにあふれていたトーキー漫画は、当時のモダニズムの潮流に合致していたといえよう。

¹⁶外国のトーキー映画は輸入当初、観客に敬遠されて興行成績は減少傾向にあった。なぜなら日本語字幕が挿入されず、俳優の外国語のセリフが弁士の言葉と重なりあい、不明瞭さを生じさせたからだという。したがって暫くの間、会話の少ないミュージカル映画を中心に上映せざるをえなかった。1931年2月封切の『モロッコ』で初めて日本語字幕が挿入され、トーキー映画がようやく興行的に成功を収めたのである（田中純一郎『日本映画発達史Ⅱ：無声からトーキーへ』中央公論社、1976年、144頁）。

¹⁷ 笹川慶子「音楽映画の行方 日中戦争から大東亜戦争へ」岩本憲児編『日本映画とナショナリズム：1931-1945』森話社、2004年、325頁。

3. 3 漫画映画と「リアリズム」

さらに興味深いのは、映画館の経営者や一般観客のみならず、批評家や教育者など当時の知識層もトーキー漫画に多大な関心を寄せたことである。雑誌『映画評論』は1932年8月号と1934年7月号の2回にわたり、『映画教育』は1933年8月号において、いずれも創刊以来初の漫画映画特集を組んでいる。またディズニーの『シリー・シンフォニー』シリーズは、『キネマ旬報』の昭和8年度外国映画ベストテン第4位に選出された¹⁸。大衆と知識層の嗜好は異なる場合が多いが、トーキー漫画においてはひとまず一致していたのである。

これまで漫画映画を顧みなかった批評家たちが、かつてないほど漫画映画に注目したのはいったいなぜだろうか。ディズニーの『花と木』*Flowers and trees* (1932) などが本国アメリカでアカデミー賞を受賞したことや、ほかにもいくつか要因が考えられるが、なかでも重要なもののひとつに、トーキー移行期の映画批評家たちが盛んに唱えていた「リアリズム」論の存在があげられよう。そこでは映画がより「現実」に近づくことが、トーキー映画の達成目標として掲げられていた¹⁹。そうした批評家たちにとって、シリー・シンフォニーは「単に漫画」ではなく、トーキー映画の「リアリズム」を実現に近づける成果のひとつに映ったと考えられる。たとえば映画評論家の岸松雄は、シリー・シンフォニーを次のように推奨している。

誰もが、この境地を狙っているのだ。ワルト・デスニイは、この誰もが狙っているところのものを、極めて簡単にさばいて了ったのだ。映画におけるリアリズムは、シリー・シンフォニーを止揚する瞬間に完成するのではなかろうか。²⁰

漫画映画と「リアリズム」は一見相容れないものにみえるかもしれない。しかし現代のアニメーション製作においても現実との一定の整合性が必須要件であるように、それは当時から重視されていた。たとえば映画評論家の今村太平は、ディズニー作品の「写真性」の重要性をくりかえし論じている²¹。日本の作家や批評家たちも、俳優の演技を写真撮影して分析した

¹⁸ 「昭和八年度優秀映画推薦発表！」『キネマ旬報』1934年3月1日号、34-35頁。

¹⁹ 1920年代の映画には視覚的・形式的に突出するような技巧が探究されていた。しかし1930年代半ばになると、物語の円滑な伝達を防げるような技巧は排除され、あくまで「現実」に密着するような映画形式が目指されるという世界的な潮流が認められる（藤井仁子「日本映画の1930年代—トーキー移行期の諸問題」『映像学』第62号、1999年、21-37頁）。

²⁰ 「昭和八年度優秀映画 わが推薦の言葉」『キネマ旬報』1934年3月1日号、38頁。

²¹ 今村は1936年に次のように記している。「漫画における架空の、非現実的な行為は実は計算された、最も数理的な行為だ。デスニイは、人間や動物を形態学的に一番正しくデフォルメーションする……ここでは、現実の物質が、正しい特徴的な線だけで再構成される。これは立体派の画家の意識的なデフォルメーションその再構成に似ている。漫画の空想のなかにおけるあらゆる物は、現実の物が幾何学的に秩序づけられ得るといふ、科学的な、今世紀の理性から発足している」（今村太平「音楽美学の序章—漫画、音楽、実写について—」『キネマ旬報』1936

ものをキャラクターの動作に応用するという、ディズニー・スタジオの方針をよく認識していたのである。

また、キャラクターに「内面」が見出されていることも興味深い。ミッキーマウスの飼い犬のプルートについて、1934年に蔵田国正が次のように述べている。

もしよくミッキイ・マウス映画を吟味するならば、その滑稽味とか諧謔とかいうよりも、むしろそこに盛られた悲痛と皮肉とが、かえってしみじみと身に沁みて感じられるのである。たとえばミッキイ・マウスの従者の犬でさえ、滑稽な格好をして人を笑わすには充分であるけれども、むしろかれは悲痛そのものの姿となって現されることが数えきれないほどである。自分の身は疲労のためにあえぎながらも、主人のミッキイのためには万難もものとしめない犬の悲壮な忠実さは、笑うどころかむしろ見るものを厳粛な気持ちにせずには置かないのである²²。

トーキー漫画はたんに愉快的明朗さだけではなく、キャラクターたちの悲しみや怒りといった「内面」を表出しており、観客もまたそこにひきつけられていた²³。じっさい、ディズニーも漫画映画製作は「ただ笑わせるだけではだめ」で、「感情を吹き込まなければ意味がない」と主張していた。ディズニー・スタジオでは心理描写のために「リアリズムの戯画化 (caricature of realism)」を基底とし、絵のキャラクターが気持ちや情緒や考えをもった生き物のように見え、観客が容易に感情移入しうるような作品づくりを目指したという²⁴。このように、リアリズムや心理描写という当時の劇映画で重視されていた要素がトーキー漫画にも見出され、かつて漫画映画に関心をしめさなかった批評家たちにも高く評価されたのだといえるだろう。

年7月11日号、73頁)。つまり今村は、漫画映画で奔放な空想力を実現するためには、まず現実の人間や動物の動きを「科学的」に正確に把握することが必要不可欠と主張している。実際、当時のディズニー・スタジオでは生身のモデルを参照しており、しだいに俳優の演技をフィルムにとりコマごとにプリントしてパラパラマンガの要領でアクションを研究する方法がとられるようになる (Frank Thomas and Ollie Johnston, *Disney animation: the illusion of life*, New York: Abbeville Press, 1981, pp. 320-323)。

²² 蔵田国正「漫画映画の特異性」『映画評論』1934年7月号、29-30頁。

²³ 四方田犬彦は、トーキー映画とサイレント映画における登場人物の相違を、「内面」の有無に見ている。四方田によれば、サイレント映画は「人間の実存が本質に先行」していたが、トーキー映画はこの関係を逆転した。サイレント期のバスター・キートンが演じているのは「つねにある状況に叩き込まれた人間のありかたであって、彼が演じている青年がどのような内面をもった人間であるかは語られていない」。いっぽうトーキー映画の登場人物は「あらかじめ他の人物とは異なった、かけがえのない内面をもった存在として、スクリーンに登場する。次にその人物を取り囲む状況が描かれる。俳優たちは脚本に定められたとおりの華麗な科白を口にし、人格なり、その場の心理状態なりを存分にわれわれにむかって告げ知らせたあとで、おもむろに行動に取りかかるようになる」、すなわち「人間の本質が実存よりも先行」するようになったというのである。その結果、トーキー映画はサイレント映画よりも人間の細かな心理をリアルに描くことができるようになった (四方田犬彦『映画史への招待』88-90頁)。四方田の仮説を信じるならば、漫画映画における「内面」の表出は、この劇映画における変遷と並行したものということになるだろう。

²⁴ Thomas and Johnston, pp. 29-35.

3. 4 アメリカ以外の海外作品

いっぽう、アメリカ以外の輸入作品はどのように受容されていたのだろうか。それらはたいてい漫画映画のカテゴリーの外で論じられていた。ドイツのロッテ・ライニガーの「影絵映画」や、ロシア出身のラディスラフ・スタレヴィッチの「人形映画」、ドイツのオスカー・フィッシングの「音楽映画」など、ヨーロッパの諸作品も当時から注目を集めていた。これらの作品は基本的にコマ撮り法で作られているため、現在ならアニメーション映画として分類されてしかるべきものばかりだろう。しかし当時は、漫画映画とはまったく別なカテゴリーに属するものとみなされたのである。

3. 4. 1 影絵映画

まず、日本における外国製の影絵映画の受容について瞥見しよう。影絵映画は1920年代のドイツで勃興した。ロッテ・ライニガー、トニ・ラボルト、エヴァルト・マティアス・シューマッハーらによって製作された影絵映画の一部は日本でも公開された。まず『カリフの鶴』*Kalif storch* (E. M. シューマッハー、1922) が1924年2月、次いで『アクメッド王子の冒険』*Die Abenteuer des Prinzen Achmed* (ロッテ・ライニガー、1923-26) が1929年6月に封切られた。ライニガー作品はその後『恋の狩人』²⁵、『影絵カルメン』、『盗まれた心臓』²⁶、『幸運の女神』²⁷が輸入されている。

こうしたドイツ製の影絵映画の輸入公開と併行して、日本製の影絵映画も登場した。列挙すると、『傀儡師』(小林貞二、1924)、『蟹満寺縁起』(奥田秀彦、木村白山、内田吐夢、1924)、『鯨』(大藤信郎、1927)、『四十人の盗賊』(鈴木俊夫、1928)、『一寸法師』(作者不詳、1929)、『煙突屋ペロー』(田中喜次、1930)、『商人と猿の群れ』(坪内逍遙監修、金井木一路作画、1931)、『百年後の或る日』(荻野茂二、1933)、『黄金の鈎』(荒井和五郎、1939)、『お蝶夫人の幻想』(荒井和五郎、1940)、『ジャックと豆の木』(荒井和五郎、1941)、『かぐや姫』(荒井和五郎、1942)、『マレー沖海戦』(大藤信郎、1943) が終戦までに生みだされている²⁸。

これら一連の影絵映画のなかでも最も脚光を浴びたものは、ロッテ・ライニガーの『アクメッド王子の冒険』であった。ストーリーは『千夜一夜物語』から翻案したもので、アクメッド王子によるパリ・バヌー女王の救出劇である。ライニガーによる精巧な影絵細工や、ヴ

²⁵ 『キネマ旬報』1935年9月21日号、ウーファ短篇映画の広告。

²⁶ 『キネマ旬報』1935年12月1日号、P. C. L. 特選短篇映画の広告。

²⁷ 「短編映画欄」『キネマ旬報』1939年6月21日号、57頁。

²⁸ ほかに撮影台本が残っているものの公開情報が不明なものに『からくり地獄』がある。原案・製作：松崎啓次、平泰陣、田中喜次、中野孝夫、舟木俊一。月形映画撮影所研究部第一回作品(田中喜次、中野孝夫他「影絵トーカー『からくり地獄』(撮影台本)」『映画往来』1931年11月号、117-123頁)。

アルター・ロットマンが担当した効果によって、絢爛たる影絵映画に仕上がっている。これはまず『キネマ旬報』1929年3月11号において、8頁にわたるカラー広告で大々的に宣伝された。そこではストーリーがスチールとともに絵本のような華やかな装丁で紹介され、メイキングの解説、「アクメッド王子の歌」の歌詞と楽譜まで掲載されている。『アクメッド王子の冒険』へ寄せられた関心は多方面にわたり、大藤信郎のような実作者にとどまらず²⁹、プロキノの理論面を支えた岩崎昶や³⁰、物理学者かつ随筆家の寺田寅彦などが言及した³¹。教育界からも高く評価され、『映画教育』1929年2月号の表紙を飾り、さらには文部省の推薦映画に選定されている³²。

3. 4. 2 人形映画

海外の人形映画で最も高く評価されたのは、ラディスラフ・スタレヴィッチの作品群であった。1928年には『蛙の王様』*Les Grenouilles qui demandent un roi* (1923)、1930年には『魔法の時計』*L'horloge magique ou La Petite fille qui voulait être princesse* (1928)、1931年には『蟻と蟋蟀』*Strekoza i muravey* (1913) が、おもに学校教育の場で上映された記録が残っている。

なかでも『魔法の時計』は、ライニガーの『アクメッド王子の冒険』と同様、多方面からの注目を集めた。教育映画としてのみならず、「前衛映画」としてクローズアップされ、スタレヴィッチはしばしば「フランス前衛映画派の巨頭」³³と称されている。また小説家・劇作家の坪内逍遙は「人形映画『魔法の時計』は私を映画宗にした」³⁴と述べ、映画製作にかかわり影絵映画『商人と猿の群れ』を完成させている。

その他ロシアのアレクサンドル・プトゥシコの『新ガリヴァー』*Novyy Gulliver* (1935) 『黄金の鍵』*Zolotoy klyuchik* (1939) や³⁵、ドイツのディール兄弟の作品が紹介された³⁶

²⁹ 大藤信郎「影絵映画の話（一）」『映画教育』1930年1月号、20-21頁。

³⁰ 岩崎昶「影絵映画について」『キネマ旬報』1929年3月11日号、61-62頁。岩崎昶『映画と資本主義』往來社、1931年、386-399頁。

³¹ 寺田寅彦『映畫藝術』岩波書店、1932年、33頁。

³² 「教育映画界消息」『映画教育』1929年3月号、27頁。

³³ たとえば『映画教育』1930年6月号、『キネマ旬報』1930年5月11日号の広告頁。

³⁴ 坪内逍遙「人形映画『魔法の時計』は私を映画宗にした」『映画教育』1930年7月号、2-3頁。

³⁵ たとえばフェリックス・パーカー（北村莊一郎訳）「人形映画『新ガリヴァー』」『映画評論』1937年12月号、94-96頁。袋一平「上半期・佳篇揃いのソ連児童映画」『映画朝日』1939年10月号、90-91頁。

³⁶ G. ブレトン・スミス（北村莊一郎訳）「ソヴェートと独逸の人形映画」『映画評論』1937年12月号、92-94頁。

3. 4. 3 絶対映画

1920年代から30年代初頭にかけて、コマ撮り法でつくられた抽象的な作品がドイツにおいて登場した。ヴィッキング・エッゲリングの『対角線交響曲』*Symphonie diagonale* (1924)、ハンス・リヒターの『リズム 21』*Rhythmus 21* (1921) など、点や線の運動を追求し、幾何学的構図を表現した作品群が、「絶対映画」として日本で論じられていた³⁷。

オスカー・フィッシンガーの *Studie* シリーズをはじめとする1930年代の諸作品は『光の交響楽』シリーズとして公開され、注目を集めた³⁸。音楽にあわせて馬蹄形や波状の線が様々な動きを見せるものであり、「絶対映画」の流れをくむ「音楽映画」としておおむね評されている。

なかでも『光の踊り』『ハンガリアンダンス五番』『ハンガリアンダンス六番』『魔術師の弟子』の4作品は文部省認定の「文化映画」に選ばれている³⁹。文化映画は1939年の「映画法」で強制上映が定められたため、40年代にもフィッシンガー作品は映画館で上映され、多くの人々に鑑賞されていたと思われる。

なお1935年のアマチュア作品の傾向として「オスカー・フィッシンガー氏の『光の交響楽』からの影響が濃厚」と記されており⁴⁰、実際、萩野茂二の『表現』(1935)のように線や図形がリズムカルに変形するような作品がたしかに認められる。

3. 4. 4 その他

フランス・マセレールの木版画を映画化した『観念』*L' Idée* (バルトルト・バルトーシュ、1932)、ピンスクリーン・アニメーション『禿山の一夜』*Une nuit sur le mont chauve* (アレクサンドル・アレクセイエフ、1933) が紹介されている⁴¹。ピンスクリーン・アニメーションとは、白いボードに数万～数十万個の小さな穴を開けてそれぞれに針状の棒を通し、そこに両側からライトをあてることによって、黒から中間調のハーフトーンのグラデーションが表現されるという技法である。ムソルグスキーの同名の交響詩にあわせて、光と影の繊細なグラデーションの表現が展開される映像は、ゴヤやドラクロワの版画にたとえられた。

³⁷ たとえば佐々木能理男「前衛映画芸術論」佐々木能理男、飯島正『前衛映画芸術論』天人社、1930年、3-60頁。武田忠哉「ドイツ映画一九三〇年」岩崎昶他『現代映画芸術論』天人社、1930年、33-74頁。

³⁸ たとえば宇野甫「光の交響楽」『映画連盟』第1号、1934年、57-58頁。西村正美「光の交響楽」『アマチュア映画』1934年8月号、96頁。青山唯一「『光の交響楽』について」『映画評論』1934年3月号、105-107頁。

³⁹ 「文部省認定文化映画総覧」『キネマ旬報』1939年9月1日号、167-173頁。「文部省推薦・認定月報」『映画教育』1940年5月号、22-24頁。

⁴⁰ 宇野真佐男「小型映画の一年間」飯島正他編『映画年鑑 一九三六年版』第一書房、1936年（日本図書センターより1994年復刊）、35頁。

⁴¹ 時津黎「漫画映画論(二)」『映画評論』1936年3月号、75-76頁。

「漫画映画」に近い形式のものとしては、『生の悦び』*La joie de vivre* (アントニー・グロス、1934) が1936年頃に公開されて話題になった⁴²。これは若い二人の女性が都会や田舎の風景のなかを軽やかに跳躍していくさまが詩情豊かに線描で表現されたものであり、アメリカの漫画映画とは異なる可能性を体現した「線画」として称賛された。またゲルハルト・クリュウガーの色彩漫画『牧場の倭人』は「漫画的センスが湧溢して居て、その点、アメリカものに対して遜色ない」と評されている⁴³。さらにロシアにおける漫画映画の製作状況について、映画評論家の袋一平らがしばしば報告している⁴⁴。

このように、アメリカ以外のアニメーション作品は当時から注目を集めていた。これらはほとんどが短篇作品であるが、トーキー移行期から漫画映画をふくむ短篇映画がにわか人気を博して映画館では「短篇大会」が頻繁に催され、映画館ばかりでなく学校においても映写会が活発化していく時期でもあったため、アメリカ以外のアニメーション作品にも需要があった。じっさい、影絵映画や人形映画は、輸入当初は1920年代の前衛芸術運動の潮流において「前衛映画」として高く評されていたが、その流行が沈静化すると「教育映画」としての側面が強調され、教育の場に活路を見出すようになったのである。

ただしこうしたアメリカ以外のアニメーション作品は、「漫画映画」とは別のカテゴリーに属するものとみなされていた。「漫画映画」とは線描のキャラクターたちがストーリーを展開するような、カトゥーン形式に限定された名称だったのである。1930年代の日本において、カトゥーン形式の輸入作品のほとんどをアメリカ製が占めており、漫画映画はアメリカ製と日本製のものでほぼ二分されていた。数も人気もアメリカの漫画映画が他を圧倒するなか、漫画映画は即アメリカ風のことを意味するという共通認識が確立されていた傍証であるといえよう（のちに詳述する）。

⁴² 同上、73-75頁。飯田心美「短篇・漫画・決算」『新映画』1938年1月号、95頁。野口久光「漫画トーキーの作者達」『キネマ旬報』1936年6月21日号、70頁。前掲、「音楽美学の序章1」、72-73頁。

⁴³ 「海外製作状況」『映画旬報』1941年5月11日号、55頁。

⁴⁴ 前掲、「上半期・佳篇揃いのソ連児童映画」、90-91頁。袋一平「ロシアの児童映画—その製作機構と最近の作品について」『映画教育』1938年4月号、22-27頁。袋一平『露西亜映画史略』往来社、1932年、183-184頁。馬上義太郎「ソヴェートの「ミッキー・マウス」」『キネマ旬報』1934年9月1日号、112頁。佐々木一夫「ソヴェットに於ける最近の児童映画について」『日本映画』1940年6月号、86-90頁。

3. 5 アメリカ製トーキー漫画の規範化

こうして漫画映画をめぐって形成された日本の同時代の言説は、ごく自然にアメリカ製トーキー漫画の形式を規範化するようになる。『元祿恋模様 三吉とおさよ』(瀬尾光世、1934)の広告が「日本の漫画が外国映画の漫画に劣ると言う時代が既に過ぎ去ったことをハッキリ認識出来る！！」⁴⁵と記しているように、日本の漫画映画はアメリカ製のものより低く見られていた。日本人自身が日本映画を蔑視する傾向は1910年代から認められるが⁴⁶、サイレント期にはジャンルそのものが軽視されていた漫画映画において、その傾向はトーキー移行期から顕著になる。

批評家の多くは、トーキー漫画の魅力は「三次元空間」と「滑らかな動き」にあると考えていた。彼らが評価したのは、三次元的な空間のなかでキャラクターが縦横無尽に滑らかに動くことであり、日本の漫画映画の「二次元空間」と「ぎこちない動き」は否定された。

ところで「三次元空間」「二次元空間」とはどのようなものだったのか。映画とはそもそも平面のスクリーンに投影される映像であり、本来的に二次元的な性質をもつ。フラットなスクリーンにまるで奥行きがあるかのような空間を構築するため、数々の映画の技法が考案されてきている。それは漫画映画も同様であった。黒板に描かれたキャラクターが様々に変化させる『おかしな百面相』*Humorous phases of funny faces* (J. S. ブラックトン、1906)のように、誕生当初はスクリーンに近い平面的なものだった。そこから、背景に遠近法を用いたり、仰角ショットや俯瞰ショットをつなぎあわせたりすることなどによって、空間的な広がりを観客に知覚させる試みが行われている。

それでも日本の漫画映画は「平面的」と批判された。それはなぜか。日本において一般的な製作法は「切り抜き法」であった。切り抜いた絵を背景の上で動かしてコマずつ撮影するこの方法では、上下左右の平面的な動きしかあたえられない。キャラクターが手前から奥へ去っていくような立体的な動作をあたえようとすれば、絵を一枚一枚すべて描かざるをえず(「推稿法」)、非常に手間がかかってしまう。一本の作品のなかで切り抜き法は70%以上を占め、その残りに推稿法を用いていたという⁴⁷。だからこそ背景や編集によって空間的な広がりを画面内に構築しえたとしても、キャラクターの動きは平面的なものが多いために、結果として「二次元」の印象を観客に抱かれてしまったといえよう。日本の漫画映画にたいする当時のイメージを、漫画家の近藤日出造が1943年に以下のように述べている。

ミッキーやポパイが縦横無尽、斜に前後に、変転闊達な動きを、迫る様な音楽に乗せて

⁴⁵ 『キネマ旬報』1934年6月11日号、16頁。

⁴⁶ アーロン・ジェロー「戦ふ観客—大東亜共栄圏の日本映画と受容の問題」『現代思想』2002年7月号、141頁。

⁴⁷ 前掲、『日本アニメーション映画史』、20頁。

見せて居た時、扁平な人物が上手からヨチヨチと現れ、立ち止ってパクパクと口を動かし、下手へ消えて行くが如き幼稚な日本漫画映画が出て居たという、ああした状態が、戦勝の今日、再び現地などで繰返されてはならない⁴⁸。

つまり当時の批評家たちにとって、漫画映画の醍醐味はキャラクターが三次元的な空間のなかを縦横無尽に滑らかに動くところにあり、それが漫画映画の成熟を意味するという「虚構」を信じていたのである。「立体的で滑らかな動き」が漫画映画にとっての絶対的な価値でないことは、のちにアメリカのUPAや日本のTVアニメーションが人気を博することによっても実証されるが⁴⁹、当時の言説は日本の漫画映画の「平面的でぎこちない動き」を矯正されるべき「欠点」とみなし、「立体的で滑らかな動き」の実現を製作者に要請したのである。

しかしながらアメリカの漫画映画のような「立体的で滑らかな動き」を達成するには、基本的に絵の支持体として高価なセルロイドを使用せねばならず、多額の製作資金を要した。しかも常設館用のトーキー版と学校用の無声版の両方を用意しなければならなかったために二重の製作費がかかり、トーキー漫画の製作は「とうてい小資本の堪え得ない程に厩大な物」⁵⁰となっていたのである。トーキー漫画人気にあやかって日活など大手映画会社も漫画映画製作に参入したものの、採算がとれないために1935年頃には早くも撤退し、国産の興行用漫画映画の製作は下火になってしまう。日本映画界全体としては、巨額の設備投資を強いられながらもトーキー化への構造的再編を断行していくが、漫画映画ではそれが中断され、アメリカ製漫画映画がふたたび日本の映画館を占有していくことになるのである。

⁴⁸ 「『桃太郎の海鷲』を観て—漫画栄華論—」『新映画』1943年5月号、47頁。

⁴⁹ UPA (United Productions of America) は一九四四年、元ディズニー・スタジオのスタッフ三名が設立したアニメーション映画製作会社。UPAが生んだ人気キャラクター「近眼のマグー」は一〇年にわたってシリーズ化された (Giannalberto Bendazzi, *Cartoons: One Hundred Years of Cinema Animation*, Indiana University Press, 1994, pp. 130-133.)。日本初のTVアニメーション『鉄腕アトム』(1963-66年) は30%台の視聴率を安定して獲得するヒット作品となった。アニメーションは動きの密度によってフル・アニメーションとリミテッド・アニメーションに大別されるが、UPAと日本のTVアニメーションは双方とも多くがリミテッド・アニメーションである。フル・アニメーションとは一般的に、フィルム1秒/24コマ全てに少しずつ異なる絵を挿入してなめらかな動きを生み出す、ディズニー作品に代表される方式をさし、リミテッド・アニメーションは2~3コマ以上に同じ絵を連続して挿入するため、動きが荒くみえるが速成に適する方式である (山口康男編著『日本のアニメ全史：世界を制した日本アニメの奇跡』テン・ブックス、2004年、75頁)。ただしじっさいには、基本的には2コマに1枚、素早い動きのときには1コマに1枚の割合で絵を描くという手法が定着しているという (『日本のアニメーションを築いた人々』若草書房、2004年、223頁)。またたとえ2コマに1枚の割合で製作したとしても、2コマ撮りに特有の描き方や工夫がなされていなければ、厳密にフル・アニメーションとはいえないという説もある (大塚康生『作画汗まみれ』徳間書店スタジオジブリ事業本部、2001年、103頁)。

⁵⁰ 政岡憲三「我邦に於て漫画映画は育つかどうか」『キネマ旬報』1939年3月1日号、77頁。

4. 「日本」と「アメリカ」の相克

4. 1 大藤信郎の方向転換

1930年代における日本の漫画映画の歴史的変容をしめす格好の例は、大藤信郎の作品群である。大藤こそは、アメリカ製トーキー漫画の規範化によって、その作風に明確な方向転換を強いられた作家であった。大藤のアニメーションは「千代紙映画」と呼ばれ、1920年代には高い評価を受けていた。しかし30年代前半のトーキー移行期には一転して否定され、やむなく「千代紙映画」から「漫画映画」の製作へ移行する。しかし40年代にはその漫画映画製作も中断し、大藤はさらに「影絵映画」へと転向した。大藤作品の二度の方向転換には、どのような歴史的背景が作用したのだろうか。

そもそも「千代紙映画」とは何か。それは千代紙を切りぬいて着物、袴、手、足、首等の各パーツをつくり、これらを組みあわせて人形のかたちにとりまとめ、各部を少しずつ動かしながらコマ撮り撮影するもので、大藤信郎の専売特許ともいべき独自のアニメーション映画であった⁵¹。『馬具田城の盗賊』(1926)を嚆矢とする一連の大藤の千代紙映画は、サイレント期には「切紙細工の美しい技術は、日本独特のもので、その趣味の高雅なことは、海外に誇るに足る」⁵²などとおおむね高く評価された。「安田式簡易トーキー」の広告では「大藤信郎先生」⁵³と敬称でしるされている。じっさい大藤の『珍説・吉田御殿』(1928)は、1929年にパリで衣笠貞之助の実験的映画『十字路』(1928)とともに上映され、国際的脚光を浴びるいっぽう⁵⁴、日本の学校や公共施設でもたびたび上映され、大藤はのちに文部省の委託で千代紙映画『心の力』(1931)を製作することにもなる。また千代紙映画『こがねの花』(1929)は漫画映画『蛙は蛙』(村田安司、1929)とともに文部省から優良映画賞牌があたえられている⁵⁵。千代紙映画は、サイレント期には映画界でも教育界でも歓迎され、大人から子どもまで幅広く受容されていたのである。

しかしひとたびアメリカのトーキー漫画が日本の市場を席卷すると、千代紙映画はその「平面的でぎこちない動き」がいまだ「立体的で滑らかな動き」にいたっていない、技術的に「未熟な」段階の指標とみなされるようになる。映画評論家の加藤彦平が次のように記している。

ロッセ・ライニガアの影絵や、大藤信郎の千代紙細工には、パーズペクティブ（遠近）

⁵¹ 大藤信郎「千代紙映画と色彩映画について」『映画評論』1934年7月号、65-66頁。

⁵² 松平覚義「切紙細工映画『馬具田城の盗賊』を讃す」『映画教育』1926年8月号、17頁。

⁵³ 『キネマ旬報』1932年3月1日号、58頁。

⁵⁴ 岡田真吉「フランスに於ける日本映画の進出」『映画往来』1929年9・10月合併号、30頁。

⁵⁵ 「優良映画賞牌交付」『文部省教育映画時報』第8号、1931年、46頁。

がないので、人物は二次元の空間の中で運動する。これに反して、ウォルト・ディズニーの「ミッキイ・マウス」は、この法則[パースペクティブ]を守っているので、われわれの視覚を欺いて第三次元の空間の中で踊っているように見える。この「自然の如く」見えるところにミッキイ・マウス漫画の価値がある⁵⁶。

加藤は、ロッテ・ライニガーの影絵映画と大藤信郎の千代紙映画を「二次元」、アメリカ製トーキー漫画を「三次元」と対比的に定式化し、トーキー漫画の魅力を「第三次元の空間の中で踊っているように」「自然の如く」見える」ところに見出していた。アメリカの漫画映画を上位に、日本のそれを下位にみなす当時の風潮は、大藤自身も十分に自覚していた。大藤は千代紙映画をみずから封印し、セルロイドのうえに線描するアメリカ方式をとり入れた漫画映画の製作へと移行するのである。

アメリカ方式を導入した大藤の漫画映画はいかなるものだったか。『蛙三勇士』(1933)、『沼の大將』(1933)、『天狗退治』(1934)、『ちんころ平平玉手箱』(1936)には、千代紙映画の名残をうかがわせるような装飾性や軟体動物のようなやわらかい動き、それに同時代のアメリカの漫画映画ではほぼ消滅したアイリスの多用という、ある種の「作家性」がしめされている。また『蛙三勇士』では、劇中に当時の流行歌(「銀座の柳」と「肉弾三勇士の歌」)を挿入するという、同時代の日本で流行した「小唄映画」⁵⁷の形式も見られる。いっぽう『天狗退治』でベティ・ブープによく似た侍の主人公を登場させているように、アメリカの漫画映画を志向する観客の要請に応えることも忘れていない。

「日本」と「アメリカ」の理想的なハイブリッド化を目指す大藤の姿勢は、日本の漫画映画の傾向と一致していた。たとえば『動絵狐狸達引(うごきえこりのたてひき)』(大石郁雄、1933)、『茶釜音頭』(政岡憲三、1935)、『證城寺の狸囃子 塙団右衛門』(片岡芳太郎、1935)はいずれも「アメリカ」的な「立体的で滑らかな動き」を早くも自家薬籠中のものとしている。いっぽう内容面に目をうつすと、これらはいずれも「狸」を主要キャラクターとし、漫画映画ならではの華麗な変身合戦を見せ場とする点において、「日本」的な主題を志向しているといえよう。

しかしながら、こうした折衷策を採る日本の漫画映画を「行き詰まってきた」とみなし、これを是正しようとする勢力が出現する。それが1936年の「漫画映画座談会」であり、大藤をふくむ漫画映画作家、東京市官吏、教育関係者という産官学に映画評論家加わり、漫画

⁵⁶加藤彦平「発声漫画論考」『映画評論』1934年7月号、24頁。

⁵⁷「小唄映画」とはレコードの流行歌や映画主題歌を導入した映画のこと。画面の一部に歌詞字幕が付けられ、まるで現代のカラオケのような映像が挿入されている。映画会社九社が競作した『君恋し』(1929)や映画主題歌の初の試み『東京行進曲』(溝口健二、1929)などがある。なお『蛙三勇士』の詳細な分析については拙論(佐野明子「大藤信郎『蛙三勇士』(1933)におけるモダン文化と「軍国美談」の相克」『言語文化共同プロジェクト2004表象と文化Ⅱ』大阪大学大学院言語文化研究科、2005年、77-86頁)を参照されたい。

映画関係者が一堂に会して漫画映画をめぐるおそらく最初の座談会が開催された。そこでは「日本独自の漫画」をいかに実現するかが中心的議題のひとつとなり、具体案はまともらなかったものの、結論として「正しい行き方」としての「日本の児童漫画映画の特質」をしめすことを、東京市社会教育課教化係長が出席者に訴える⁵⁸。このことは日本方式とアメリカ方式のあいだで動揺する漫画映画の製作者にたいして、公権力が「日本」を志向するよう指導したことを意味するだろう。

いっぽう、そこで同時に露呈したのは、当時の日本でいかにアメリカの漫画映画が強力に浸透し、大きな影響力をもっていたかという、権力側の思惑との矛盾である。あらためて確認されたのは、漫画映画にはアメリカ風のものを期待してしまう「或る狭い、いわゆる漫画的効果への執着があるために、作る側も見る側も、そうした妙な既成観念から抜けきれないでいる」⁵⁹という事実であった。大藤自身もつぎのように発言している。

私も日本には日本のギャグなり筋というものがあるんじゃないか、しかしアメリカの漫画を見て居るために、日本の漫画というものが常に寂しさを受けるという気分を持って居りますが、そのためにスランプに陥って、丁度一年ばかり製作を中止している次第です⁶⁰。

漫画映画にアメリカ風のスタイルを期待する潮流のなかで、大藤はすでに「スランプ」におちいていたのである。そうした風潮はさらに、学校教育の場にも混乱を招いていた。たとえば『小兎の天空旅行』（西倉嬉代治、1936）が各地の学校で上映されたさい、教師の反応が二極分化している。「よく出来た漫画」と称賛するものもあれば、「こまったもの」とみなして上映を中断した学校まであった⁶¹。映画教育運動の中心人物である関野嘉雄は、こうした賛否のくいちがいを「漫画に対して求むる所の相違から起きたと考えられる。非難する人々は表面的な、固定した漫画の概念に累されてはいないだろうか」と分析している⁶²。つまり関野は「固定した漫画の概念」すなわち「アメリカ風のもの」にそぐわないという理由によって作品を批判する教師たちに再考を促したのである。したがって1936年には「漫画映画＝アメリカ風のもの」という共通認識が、ひとびとの間に確立されていたといえるだろう。

さらに1937年には日中戦争が勃発、排外主義・帝国主義的ナショナリズムがいよいよ昂揚するとともに、漫画映画をめぐる言説空間では「日本的なるもの」を重視する声があがって

⁵⁸今坂一男、濱田廣介、西田正壽、大藤信郎、小川一郎、田河水泡、内山一夫、青地忠三、北川冬彦、關猛、瀬尾光世、關野嘉雄、稲田達雄「漫画映画座談会（続）」『映画教育』1936年12月号、23頁。

⁵⁹同上、18頁。

⁶⁰「漫画映画座談会（1）」『映画教育』1936年11月号、19頁。

⁶¹「学校巡回映画 十月プログラムの感想と批判」『映画教育』1936年12月号、32-34頁。

⁶² 関野嘉雄「『龍神祭』と『天空旅行』に対する感想への批判」『映画教育』1936年12月号、35頁。

くる。権力側が「日本」への方向性を要請した結果は、漫画映画に日本の「伝統」を見出す声としてあらわれた。たとえば1938年に今村太平は、平安時代の絵巻物のような「時間的であろうとした絵画」の伝統を漫画映画に生かすことを提唱した。絵巻物の題材の多くが「宗教的な空想」であることから、「空想芸術としての絵巻は、現代漫画映画の空想性にたいするはるかな歴史的準備である」として、絵巻物を漫画映画の起源とみなす見解を披露している⁶³。このように漫画映画を日本の伝統芸術のなかに位置づけようとする態度は、大戦中にもしばしば認められる。ナショナリズム意識の高揚は、漫画映画の言説にさえあらわれていたのである。そうした傾向は大藤作品への（再）評価にも反映された。1936年の『ちんころ平平玉手箱』を「千代紙独自の美しさで語られている」⁶⁴と手放しで賞讃するなど、30年代初頭には「珍しさのため」⁶⁵に注目された一時的な流行にすぎないと軽視した千代紙のモチーフを、再評価する批評が現れるのである。今村太平にいたっては、『ちんころ平平玉手箱』を「稚拙」として批判するかわりに、千代紙映画を再び復活させるよう進言するほどであった⁶⁶。

しかし再評価の機運にもかかわらず、大藤は『空の荒鷲』（1938）を最後に漫画映画から離れ（戦後に再開するが）、40年代には影絵映画へと移行する。たとえば「影画戦記映画」と記された『マレー沖海戦』（1943）は、1941年12月10日に日本の海軍航空隊がイギリス東洋艦隊を攻撃し「不沈戦艦」プリンス=オブ=ウェールズを沈めるさまを、ニュース映画さながらに実況するナレーションとともに、影絵とセロファンの切り抜きをもちいて描いている。

すでに『鯨』（1927）で影絵映画を試みていた大藤が、40年代になって「20年代的」な影絵映画へ転向／逆行したのはなぜだろうか。さまざまな要因が推測されるが、ディズニー・スタジオが700人もの従業員を動員して世界初の長篇カラー漫画映画『白雪姫』*Snow White and the Seven Dwarfs*（1937）を完成させたことと報じられるなか、これとは対照的に、個人規模の製作方針を生涯貫くことになる大藤がアメリカ式の漫画映画の製作に限界を感じたであろうこと、そして影絵が日本の占領地域に娯楽文化として古くから親しまれており、影絵映画が南方輸出用映画として注目されていたことがあげられよう。いずれにせよ大藤の度重なる転向が端的にしめしているのは、アメリカ志向と日本志向のはざまに進むべき方向性を見いだせないでいる日本の漫画映画の暗中模索期であった。

⁶³今村によると、絵巻物は「時間的であろうとした絵画のおそらく最も古い、また最も優れた芸術である。現代の漫画と同じく、それは絵による物語の展開である。それがいかに映画の時間技巧にちかいかはおどろくべきものがある」。なぜなら、異なる時間空間をひとつの絵に連続的にまるで移動撮影のように示していること、そして西洋画のようにあらゆる部分を平均的に描くのではなく、重要な部分は雲によってかくしてしまうという省略法がフェイド・アウトやオーヴァーラップに相当するからだという（今村太平『映画芸術の性格』第一芸文社、1939年〔ゆまに書房より一九九一年復刊〕、150-152頁）。

⁶⁴「アマチュア映画」『キネマ旬報』1936年8月11日号、68頁。

⁶⁵齊藤晃司「千代紙映画社作品」『映画評論』1934年7月号、68頁。

⁶⁶今村太平「小型映画評」『映画集団』第9号、1937年、29-30頁。

4. 2 映画統制の埒外におかれた漫画映画

ここで日中戦争の勃発（1937年）にともなう国家統制が、漫画映画にどのように作用したのかを確認しておく必要があるだろう。

戦時経済統制がもたらした映画環境の変化としてまず指摘できるのは、外国映画の輸入規制によってアメリカ製漫画映画の流入が減少したことである。ディズニーによる世界初の長篇カラー漫画映画『白雪姫』は、当初日本公開にそなえて『キネマ旬報』にカラー2頁広告を掲載したものの、公開は戦後にもちこされてしまう。つづく『ピノキオ』*Pinocchio*（1940）以降のディズニー長篇映画も同様のあつかいを受けた。それゆえ日本の漫画映画製作者にとっては、映画館に復帰する大きな好機が到来したのである。

しかし事態は好転するどころか、1936年には25本あった日本の漫画映画の年間製作本数がむしろ減少方向に向かい、37年から41年まで毎年15本前後にとどまっている。漫画映画の最大市場であるニュース映画館では、アメリカの漫画映画が日米開戦の直前までくり返し再映された。このように好機到来を生かせなかった原因は、やはり日本製漫画映画の不人気のせいなのだろうか。仮に不人気をかこっていたことが動かせぬ事実だとしても、それだけが原因ではない。1939年の「映画法」にはじまる国家統制において、漫画映画が長らくその「統制」の埒外に放置されたことも日本のアニメーション映画が雄飛できない要因となるのである。

「国家統制」という言葉からは、製作者の自由をおびやかすマイナス・イメージのみが想起されるかもしれない。しかしイメージとは逆に、当時の映画関係者たちが映画法を歓迎し期待する態度をしめしていたことは、近年の研究でしばしば指摘されることである。具体的な利点としては、許可制度によって映画業界内の過当競争を緩和させること、従業員登録制度によって映画法施行以前の従業者を保護すること、映画そのものの社会的地位を向上させることなどがあった⁶⁷。映画法にはむしろ製作者側にとってマイナスに作用する検閲制度などの規制も盛り込まれてはいたが、プラス面が見出されていたこともまた事実なのである。トーキー化にともなう大資本化を中断され、旧態依然とした家内制手工業的条件下におかれていた当時の漫画映画関係者たちが、製作環境の改善を国家権力に期待したのは当然の流れだったといえよう。

しかしながら1939年の「映画法」から40年の「映画新体制」、41年の「映画臨戦体制」へ展開しても、漫画映画にプラスにはたらく措置は何ひとつ採られなかった。逆にマイナスに作用する要因、すなわち入場者の範囲を規定し、制限する「一般用映画／非一般用映画」の区分が漫画映画にも適用された。「非一般用映画」に指定されると14才未満の「観覧」が

⁶⁷加藤厚子『総動員体制と映画』新曜社、2003年、67-71頁。

許されないために（保護者同伴の6才未満の子どもはのぞく）、他ジャンルに比べて年少者の観客が圧倒的に多い漫画映画にとって、これは非常に不都合な制度だったのである⁶⁸。

1940年後半には生フィルム不足が表面化するにもかかわらず、フィルムの配給歩合が決められたのは当初、劇映画・ニュース映画・文化映画の3種にほぼ限定され、漫画映画にたいして生フィルムなどの基本的資材がどれほど提供されるかは明示されなかった。漫画映画を軽視する国家の態度に関係者は危惧をいだき、たとえば映画教育運動の中心人物である稲田達雄は、1942年の時点で「児童映画とか漫画映画を作るための資材が予定されていないとすれば、それを出して貰うように陳情する」⁶⁹意志を見せている。また劇映画・ニュース映画・文化映画以外を興行者が上映するには「規定の歩率以外の支出を負担しなければならない」⁷⁰など、漫画映画をめぐる状況はむしろ悪化していった。こうして漫画映画は大戦末期にいたるまで「映画統制の埒外に置かれた」⁷¹と認識され、国家による統制／援助を望む声からしばしば発せられたのである。

このように漫画映画を軽視する国家の態度にたいして、アニメーション映画製作者側はみずから対応策を講ずることになる。1941年2月、漫画および線画の映画統一機関「日本線画協会」を設立すべく、瀬尾光世、村田安司、大石郁雄の三者が中心となり、内務省に同協会の設立許可を提出することが報じられた⁷²。しかし「日本線画協会」のその後の動向は伝えられず、3人のアニメーション映画作家はそれぞれ個別に製作をつづけていることから、最終的に設立許可を得られなかったか、仮に設立に成功したとしても実質的に機能していなかったか、そのいずれかであったと推測される。じっさい瀬尾光世と政岡憲三は大資本の松竹株式会社の漫画映画部に所属することになり、その他小規模のプロダクションに一定の統合が実現するのは、1944年に完了する文化映画の4次にわたる統合を待たなければならなかった。

⁶⁸ 「非一般用映画」に指定され子どもの鑑賞が禁止された漫画映画には『元禄恋模様 三吉とおさよ』（瀬尾光世、1934）『とびこんだ文福』（政岡憲三、1940）『新篇とびこんだ文福』（政岡憲三、1940）『居酒屋の一夜』（村田安司、一九三六年）『空の荒鷲』がある（「年少者の教育上支障なき一般映画認定状況」『映画教育』1940年1月号、26-27頁。「文部省推薦・認定月報」『映画教育』1941年5月号、25頁。「文部省推薦・認定月報」『映画教育』1941年7月号、20頁。「文部省推薦・認定月報」『映画教育』1942年3月号、29頁。「文部省推薦・認定月報」『映画教育』1942年4月号、25-26頁）。

⁶⁹ 三橋逢吉、筑紫義男、稲田達雄、関谷五十二、今村太平、村上忠久、友田純一郎「児童映画の現状を語る」『映画旬報』1942年7月11日号、33頁。

⁷⁰ 「興行展望」『映画旬報』1942年6月11日号、50頁。

⁷¹ 「興行展望」『映画旬報』1943年7月21日号、31頁。

⁷² 「文化映画界彙報」『映画旬報』1941年2月1日号、56頁。

4. 3 日本製漫画映画のアポリア

このように漫画映画の製作環境が整備されず、むしろ悪化するなか、実作家たちが選択したのはやはり「アメリカ」と「日本」の折衷だった。日本の帝国主義戦争にかかわる主題が増加するいっぽう、技術面ではアメリカの技術が積極的に採用されていく。たとえば横浜シネマ商会では、1940年1月から山本繁、浅野恵を中心に『ポパイ』シリーズ（デイヴ・フライシャー監督）のフィルムを分解して作画技法の研究まではじめている⁷³。じっさい『ポパイ』シリーズには「立体的で滑らかな動き」を生み出す高度の工夫がほどこされていた。たとえば1937年の『ポパイ』シリーズのひとつ『ポパイの空中戦』 *I Never Changes My Altitude* では背景にミニチュア・セットをおき、線遠近法と空気遠近法によるパースペクティブが、広大な風景や目もくらむような高さを再現している。この三次元的立体空間のなかを、ポパイとブルートが飛行機にのって文字どおり縦横無尽かつ伸縮自在に動き回ることにより、三次元性はいやがうえにも高められている。また画面に立体感をあたえる手法としてマルチプレーン・カメラ⁷⁴がアメリカで考案されていたが、日本ではそれを模倣した国産の多層式撮影台によって『アリチャン』（瀬尾光世、1942）と『こがね丸』（山本繁、浅野恵、未完）の製作が進行していた。

にもかかわらず日米開戦後も「暴虐アメリカを憎んでも、『白雪姫』の夢は憎み切れない」⁷⁵という発言がみられるように、日本の漫画映画をめぐる言説にはアメリカの漫画映画にたいする愛着や憧憬がしめされた。なかでもアカデミー賞を1932年からほぼ毎年受賞し続けているディズニーは「芸術家」とよばれるなど敬意を表されることも多い。漫画映画を基本的にとりあつかわない評論家や評論雑誌においても、ディズニーにだけは目配りを忘れないという傾向がみられるのである。こうして日本の批評界は、日本製のものを看過するばかりか、アメリカのものを称揚し規範化する態度がますます加熱していく。

たとえば桑原信六郎（ウォルト・ディズニー・プロダクションからMGMに引き抜かれた漫画映画考案家）をふくむハリウッドの日本人を囲む座談会が催され⁷⁶、さらに『キネマ旬報』では1941年6月、「ワルト・ディズニイ・スタジオに働く邦人二世と語る」座談会を掲載している。もはや日本語を解しない日系二世たちであったが、「同胞」がディズニー・スタジオ

⁷³前掲、『日本アニメーション映画史』、226頁。浅野恵の戦後の作品『キツネとヒヨコ』（1947）などの「キツネシリーズ」も『ポパイ』に似すぎていると知人に指摘されたという（2004年7月20日東京国立近代美術館フィルムセンターにおける浅野恵氏の談話による）。

⁷⁴ マルチプレーン・カメラとは、数枚のガラス・パネルを水平に距離をあけて重ね（最多六枚）、各パネルに風景の画をのせ、最上部にそなえられたカメラから撮影する装置。パネルは可動式で各パネル間の距離を調節でき、さまざまな奥行き感を生み出すことができる。

⁷⁵ 筈見恒夫「上海映画日記」『新映画』1942年5月号、42頁。

⁷⁶ 今津安平、上山平八、駒井哲、倉本義夫、桑原信六郎、高村勘吾、谷次郎、山川浦路「ハリウッドの日本人座談会」『映画朝日』1939年9月号、98-106頁。

で働いていることは、「是非この喜ぶべき事実を日本へ通信して、この喜びを別ちたい」ものだったのである⁷⁷。また日本未公開のディズニー長篇作品は、スチールと解説が「誌上公開」と称して、しばしば映画雑誌に掲載された。なかでも『ファンタジア』*Fantasia* (1940) は 50 枚近くの写真やイラストとともに『映画評論』で 4 号にわたって紹介されている⁷⁸。それはディズニーの長編を見たいという観客の欲求を、疑似映画体験によって補填させようとしているかに見えるほどである。

いっぽう日本の漫画映画に関しては、「アメリカあたりのような良い漫画映画がつかられない」⁷⁹「我国映画界で最も技術的に遅れているのは漫画映画」⁸⁰といったような、アメリカに遅れをとっているとみなす見解がいぜん大半をしめていた。もっともそれは当然といえるかもしれない。なぜなら前述したように、「漫画映画」という言葉にはアメリカ的なスタイルのものをさすという意味が含まれるようになっており、「漫画映画」と「日本」はすでに矛盾する概念となっていたからである。この大前提をくつがえすのは容易なことではない。

しかしながら日本の漫画映画がかかえるこのアポリアにたいして、ひとつのオルタナティブとなるものが 1942 年に登場する。それが「支那」で完成されたアジア初の長篇漫画映画『鐵扇公主』であった。

⁷⁷ 田口修治「ワルト・ディズニー・スタジオに働く邦人二世と語る」『キネマ旬報』1941年6月21日号、35-37頁。

⁷⁸ ディームス・テイラー「ウォルト・ディズニーのファンタジア」『映画評論』1941年6月号から9月号。

⁷⁹ 滋野辰彦「ジャックと豆の木」『映画旬報』1941年5月11日、71頁。

⁸⁰ 前掲、「ワルト・ディズニー・スタジオに働く邦人二世と語る」、35頁。

5. 「支那」というオルタナティブ

5. 1 アジア初の長篇漫画映画の衝撃

「支那映画」『鐵扇公主』について検討する前に、まず「孤島」時代の上海の状況を瞥見しておこう。1937年8月に日本軍が上海に進入、11月にはアメリカ、フランスなどの租界地域をのぞいて上海を占領した。上海での抗日運動は、抗日民族統一戦線の拡大とともに活発になっていく。しかし国民党政府は抗日映画製作をのぞむ映画人たちの要求をうけいれず、上海の映画人たちは各地に離散、主要な映画会社の活動はほぼ停止状態にあった。そのなかで唯一映画製作を精力的につづけたのが、張善琨の新華影業公司である。張は1938年だけで18本もの劇映画をつくり、さらに翌1939年公開の『木蘭従軍』は抗日メッセージをふくむものとして中国人に歓迎され3ヶ月ものロング・ランとなり、張は上海映画界のトップに立った。

その張善琨がアジア初の長篇漫画映画『鐵扇公主』をプロデュースしたのである。『鐵扇公主』は「西遊記」のなかの火焰山のエピソード、芭蕉扇をめぐって孫悟空と牛魔王や鐵扇姫が戦うストーリーを脚色したものである。萬兄弟が70数名のスタッフとともに約1年半をかけて完成、1941年11月19日に大上海大戲院ほか3館で同時公開され⁸¹、同年公開作品の88本中8位以内にはいる興行成績をおさめた⁸²。

上海での『鐵扇公主』大ヒットのニュースは日本にもつたえられ、翌1942年には『茶花女』『木蘭従軍』につづいて日本で公開される3本目の「支那映画」となった。9月10日に白系公開⁸³（文化映画『空の神兵』[渡辺義美、1942]と併映）、同年度前半期の興行収入第5位という好成績をおさめ、大きな反響をよんだ。当時の日本のジャーナリズムは作品批評だけでなく萬兄弟のインタビューや製作過程を紹介し、座談会を設けるなど、特定の漫画映画作品にたいして、かつてないほど多くの言説が生み出されている。それが半年ほどのちに公開される日本初の長篇漫画映画『桃太郎の海鷲』に寄せられる関心と量的にほぼ匹敵することから、『鐵扇公主』が日本の映画界にあたえた衝撃のほどが見てとれるだろう。

にもかかわらず、これまでの日本アニメーション史研究において、『鐵扇公主』が日本の漫画映画製作にはたした役割はまだ十分に検討されていない。『鐵扇公主』の製作過程や萬兄弟については小野耕世の研究にくわしく⁸⁴、また公開当時14才だった手塚治虫がこの映画に強

⁸¹小野耕世『中国のアニメーション：中国美術電影發展史』平凡社、1987年、29-30頁。

⁸²多田裕之「上海租界進駐と文化工作」『映画評論』1942年2月号、36-37頁。

⁸³1942年4月から全国の映画館は紅白二系統に分割され、上映プログラムが1週間交替で編成された。つまり基本的に1週間あたり紅系・白系の2プログラム、1か月あたり8プログラムに上映作品が限定されていたのである。

⁸⁴前掲、『中国のアニメーション』、5-42頁。

く感銘を受けたことは、手塚治虫の漫画『ぼくの孫悟空』（講談社、1977年）のあとがきや、TV放映用アニメーション『手塚治虫物語 ぼくは孫悟空』（手塚治虫、1989）に述べられている。しかしこれらはあくまで「中国アニメーション史」および「手塚治虫の個人史」という限られた枠内でのみ語られたものといえる。先述の『日本アニメーション映画史』においても若干ふれられてはいるが、『鐵扇公主』の日本映画界における歴史的意義は明らかにされていないことが多い。1940年代の日本の漫画映画を再考するには、『鐵扇公主』が日本にどのような影響をあたえたのか、映像テキスト、製作、興行、受容の諸側面から検証してみる必要がある。

5. 2 「アメリカ」、「支那」そして「映画」

当時『鐵扇公主』の日本公開にあたっては具体的にどのような反響が寄せられたのだろうか。批評家たちはおおむね高く評価した。「日本の技術者も一寸顔負け」「日本の映画人の学ぶべき点」といった言葉が頻出するように⁸⁵、日本の漫画映画が参照すべきいまひとつの模範例とみなされた。映画評論家の大塚恭一による以下の記述には、当時の評価が要約されている。

この作品がアメリカ漫画の影響を多分に受けていることは事実であるが、如何にも支那人らしい構想や動きも決して少なくない。そうして何よりも映画的な動きを立派に作り出していて、同じ題材から作られた日本映画などとは——俳優の演ずる劇映画と漫画とを同一に論ずることは出来ないとしても——格段の映画的な喜びを観るものを感じさせるのである。その奔放な空想力を、漫画映画の世界に存分に伸ばし得たことには感服せざるを得ない⁸⁶。

つまり「アメリカ」の特徴を採りいれつつ、「支那」らしさも強くしめされ、「映画」的な演出に優れているというのが、『鐵扇公主』にたいする当時の認識だったのである。

⁸⁵澤田稔「中国最初の長篇漫画映画「鐵扇公主」をめぐって」『映画評論』1942年4月号、97-98頁。

⁸⁶大塚恭一「西遊記」『映画之友』1942年11月号、92頁。

5. 2. 1 「アメリカ」の影響

じっさいにフィルムを見ると、これらの評言がたしかに的を射たものであることがわかる。まず1930年代のアメリカの漫画映画に典型的な描写が多々見うけられる。たとえば家や木など無生物の擬人化、猪八戒が自分の耳をはずして団扇代わりにあおぐといった表現は、「背景乃至物語との調和を欠いて不快を感じた」「油っこいギャグ」と否定的に受けとめられている⁸⁷。そして玉面姫がベティ・ブープの中国版であることや、キャラクターの線の描きかたに『ポパイ』シリーズで有名なフライシャー兄弟の影響が指摘された。じっさい萬兄弟は管理のきびしいディズニー作品ではなく、もち出しの容易なフライシャー作品を参照したのであった⁸⁸。日本の批評家たちに「未だ多分のヤンキーイズムの影が失われては居ない」と指摘されたのは当然だったのである⁸⁹。

そのようにアメリカの漫画映画の影響が映像テキストに多分に反映されてはいたものの、登場人物を「動かす」技術については、アメリカに遠くおよばないと否定された⁹⁰。たしかに「動き」という一点に絞るならば、『アリチャン』や『カンガルーの誕生日』（熊川正雄、1940）など、当時の日本にも『鐵扇公主』よりなめらかな動きをみせる作品は多数存在する。

では『鐵扇公主』において、「動きのぎこちなさ」や「ヤンキーイズム」という「欠点」を補って余りある、漫画映画としての魅力はどこに見出されていたのだろうか。

5. 2. 2 「支那」らしさ

それは「支那」らしさと「映画」的な演出である。フィルムを見てすぐに気づくことは、火焰山から家財道具にいたるまで、背景がきわめて細密に灰色の微妙な濃淡によって描かれ、『西遊記』という原作から連想される「支那」の雰囲気のみごとく醸し出されていることである。またジャズ風の音楽を用いない点など、アメリカの漫画映画とは異なる表現方法を日本の批評家たちは「支那らしさ」として歓迎した。「八戒が熊手をとり出してとんぼがへりしつつ画面を横切るところがあるが、この型は支那芝居の型らしく非常に美しい。また彼が長い袖をふりふり歩く歩きぶりなぞも支那的なユーモラスな傑作である」といったように、登場人物の動作や身振りにも「支那らしさ」が見出され、日本人観客に好意的に受容されたのである⁹¹。

ではなぜ「支那らしさ」が日本で高く評価されたのか。それは「日本らしさ」の表象に腐

⁸⁷高木場務「絵画映画の特殊性—中華の作品「西遊記」を見て—」『文化映画』1942年10月号、52頁。

⁸⁸前掲、『中国のアニメーション』、37頁。

⁸⁹前掲、「中国最初の長篇漫画映画「鐵扇公主」をめぐる」、97頁。

⁹⁰前掲、「絵画映画の特殊性—中華の作品「西遊記」を見て—」、52頁。

⁹¹今村太平「漫画映画評」『映画旬報』1942年10月1日号、39頁。

心していた日本の漫画映画にとって、格好の参考対象となったからである。日本の漫画映画は1942年当時でも依然として「アメリカ漫画の影響を受けて、それを模倣することが精いっぱい」と批判されていた⁹²。おりしも1942年4月18日にアメリカ軍による初めての本土空襲を受け、ひとびとの反米感情とともに日本映画におけるアメリカニズム排撃の気運が高まっていたときである。4月23日公開のマキノ正博監督の劇映画『待ってゐた男』が空前の大ヒットとなりながらも、「聖林風のメイクアップ及び演技を、模倣して満足している」⁹³、「日本映画界の恥辱」⁹⁴などと酷評されたのは、その典型であろう。だからこそ『鐵扇公主』が「民族的」な特徴をそなえつつ、しかも観客を魅了したという点に、批評家たちの関心が集まったと考えられる。「支那らしさ」にあふれた『鐵扇公主』は、「日本らしさ」へ進もうとする日本の漫画映画の方向性に明確な指針をあたえるものとみなされたのである。

5. 2. 3 「映画」的な演出

ところで映画評論家の大塚が述べた「映画的な喜び」とは具体的にどのようなものだったのだろうか。一言でいえば、それはストーリー展開と演出の巧みさである。戦後に記録映画社を設立する上野耕三は、以下のように述べている。

『西遊記』には前にも話されたように、作画にもひどく手をぬいたところがあり、又つまらぬアメリカ風ギャグの夾雑物が多いにも拘わらず、ここという要所や山場では、うんと手をこませ迫力をつけて押してゆく……この点は日本映画全体の、問題だが、スマートなだけでは駄目なので、本格的な話の進め方が必要なのだ……兎に角日本漫画には良きシナリオと演出が必要だと思われる。動きの点、つまり演技では優れているのだから⁹⁵。

たしかに『鐵扇公主』は、まったくの静止画という「ひどく手をぬいたところ」（三蔵法師の話を書く群衆たちのカット）があるいっぽう、クライマックスの牛魔王と孫悟空たちの戦い

⁹²三橋逢吉、筑紫義男、稲田達雄、関谷五十二、今村太平、村上忠久、友田純一郎「漫画・影絵・ホームグラフ・相撲映画を語る」『映画旬報』1942年7月21日、19頁（稲田達雄の発言）。

⁹³清水千代太「頹廢娛樂を排せよ」『映画旬報』1942年5月11日号、3頁。

⁹⁴『朝日新聞』1942年4月23日付け。

⁹⁵大日本映画協会文化映画研究会「漫画「西遊記」合評—瀬尾光世氏を囲んで—」『映画技術』1942年10月号、65-66頁。なお『鐵扇公主』における「静止画」の使用や緩急をつけた演出が1942年の時点で肯定的に評価されたことは、日本アニメーションの技術史の側面からみても興味深い事項だろう。なぜなら日本のTVアニメーションにリミテッドの手法を定着させた手塚治虫は、少年時代に見た『鐵扇公主』に強く感銘を受けたことを明言しているからである。たとえば連載マンガ『ぼくの孫悟空』（1952-59年）において「ことに「火焰山と牛魔王」のくだりは、はらいのけようと思ってあのアニメのイメージが心にちらついて、とうとう、ほとんどイミテーションにちかいものになってしまったくらいです」と述べている（手塚治虫『ぼくの孫悟空⑧』1980年、講談社、頁数は不記載[あとがき]）。

のシーンでは、躍動感あふれるカットがクロスカッティングの手法でしめされて緊迫感があたえられている。

クロスカッティングは、「アメリカ映画の父」とよばれる D.W. グリフィスが発明したとされている。ふたつ（以上）の異なる空間でのアクション（のショット）が交互にしめされ、最終的にひとつの空間に結合するさまが「あわやというところでの救出」とよばれるように、クライマックスの演出に効果を発揮する編集法である。たとえば『東への道』 *Way Down East* (1920) においては、流氷の上で気を失ったヒロイン（ショット群 A）と、彼女の救出にかけるヒーロー（ショット群 B）が交互にくりかえし示され（A→B→A→B→…）、「あわやというところで」ヒーローがヒロインを救うさまを、きわめて効果的に演出している⁹⁶。

『鐵扇公主』においてクロスカットされるふたつのアクションは、いっぽうは巨大な牛に変身した牛魔王と戦う孫悟空、たほうは牛魔王を罾にかけようと画策する村人たちであり、双方が交互に提示されることによって最後の決戦に映画的な緊張感（サスペンス）があたえられている。というのも形勢不利な孫悟空が完全に敗北する前に村人たちが牛魔王を罾にかけて捕らえねばならないのだが、その村人たちのアクションが挿入されることによって、かえって孫悟空の危機的な状況が長引いてしまうからである。このように勝敗の行方が遅延されるからこそ、牛魔王が罾にかかって火焰山の炎が消され、一致団結した孫悟空たちと村人たちの連帯感と勝利の歓喜が、観客に心地よいカタルシスをもたらすのである。

このような萬兄弟の「物語る心構えと、それを映画的に処理する才能」が「わたしたちの模範とすべきもの」として絶賛されるなか、否定されたのは日本の漫画映画の「映画のなかのうごきにとらわれて、画面自体の変化・うごきを忘れる」点であった⁹⁷。たとえば『アリチャン』はなめらかな動きを実現しているものの、「見る者に画面から直接訴えるものがない」⁹⁸と物足りなさが指摘されており、「動き」以外の改善点が思案されていた。『鐵扇公主』が登場したのは、ちょうどそのような時期だったのである。だからこそ『鐵扇公主』で実践されたような、めくるめくストーリー展開や演出で観客を牽引してゆく方法が、日本の漫画映画が今後進むべきひとつの方向として注目されたといえるだろう。

⁹⁶ 加藤幹郎『鏡の迷路：映画分類学序説』みすず書房、1993年、120-123頁。

⁹⁷ 前掲、「絵画映画の特殊性—中華の作品「西遊記」を見て—」、52頁。

⁹⁸ 野口久光「漫画「西遊記」とその作者」『映画技術』1942年9月号、22-27頁。

5. 3 「長篇漫画製作熱」

つぎに日本の長篇漫画映画の製作にたいして『鐵扇公主』が果たした役割をみてみよう。日本と支那双方における『鐵扇公主』の興行的成功は、長篇漫画映画の製作を躊躇していた日本の製作者たちに勇気をあたえた。たとえば短篇漫画映画『上の空博士』（1944）を手がけた実作家の前田一は、つぎのように述べている。

従来の日本の漫画映画に対する企業的関心は、大量に輸入された米国漫画に禍されて、極めて徐々にしか高められて来なかった、と言うよりも殆ど関心は持たれなかったと言ってもよい程顧みられなかったのである。それが支那人によって作られた長篇漫画映画『西遊記』の上映、及び大東亜戦勃発による米国漫画の退散と言う二つの事実によって、急激に濃厚となって来たことは明白である。日本人にとっては残念なことであるが、『西遊記』の上映成績は、米国の漫画を観て居るだけでは、その製作に確信を持つことの出来なかった映画界当事者に、一種の安全感を与え、長篇漫画製作熱の勃興へと押し出して行った⁹⁹。

じっさいこれまでほとんど1巻か2巻ものしかつくられていなかった日本の漫画映画界において、3巻以上の中・長篇が1943年に1本（全11本中）、1944年には3本（全7本中）製作されている。本数としては少なくみえるかもしれないが、全体の割合としては、とくに1944年は5割ちかくも占めている。「長篇漫画製作熱」はたしかに当時の製作の場に生じていたと考えられよう。そして「日本人にとっては残念なこと」という前田の言葉にもあるように、「大東亜映画圏」において日本が指導するはずの「支那」に先を越されたという焦燥感もまた、「長篇漫画製作熱」を後押しする一助となっていたことは想像にかたくない。

⁹⁹政岡憲三、瀬尾光世、前田一「漫画映画発展のための諸問題」『映画評論』1944年9月号、40頁。

5. 4 国策映画への観客動員

『鐵扇公主』を映画館の興行面からみると、長篇漫画映画と長篇文化映画（『空の神兵』）の2本立てという番組編成は初めての試みであった。しかも1942年4月からは社団法人映画配給社（映配）が一元的配給を開始し、全国の映画館が紅白二系統に分割され、これに原則として劇映画1本、文化映画1本、ニュース映画1本を組み合わせた番組が一週間交替で編成されていた。つまり封切上映は毎週2本、一ヶ月合計8本に抑えられ、紅系対白系の構図で興行成績が競われたのである。これまでは各映画館の判断で、成績のかんばしくない作品を数日で打ち切ることができたが、映配の一元配給下ではそれもかなわず、どんなに客足が悪い作品でも一週間、続映しなければならなかった。映画館にとっては、配給される作品の当たりはずれが死活問題となっていたのである。さらに1930年代前半に流行した「漫画大会（漫画短篇大会）」なる短篇中心のプログラムは、1930年代後半にはニュース映画館¹⁰⁰に移ってゆき、封切館で漫画映画中心の興行はほとんどおこなわれていなかった。そのためか、公開前には『鐵扇公主』の興行的失敗を懸念する声すらあがっていた。

ところが『鐵扇公主』は最終的にヒットメーカー・マキノ正博監督の『婦系図』（1942）すら上回る55万6千円の収益をあげ、「望外の盛況」をもたらしたのである。映画関係者たちにあたえたインパクトの大きさを示す、ふたつの記事を以下に紹介しよう。

日本映画が支那へ輸出されて、「西遊記」のように多数の観客を吸収した映画が一本でもあるだろうか。……ところが日本映画、殊に日本の劇映画は、新体制が樹立されてから低調を辿るばかりで、本当に楽しめる映画が少ない。「西遊記」ならば観客を吸引することが出来るが、「お市の方」は全く顧みられなかったという九月第二週の興行成績は映画関係者としてこれを漫然看過すべきでない。……我々は映画としての「西遊記」よりも「西遊記」の興行成績に教えられる所が多かった¹⁰¹。

文化映画と漫画のために劇映画が惨敗を喫するなどとは数年前までは興行者は夢だに想わなかったことであろう¹⁰²。

おりしも同年8月に長篇文化映画『マレー戦記』が大ヒットしており、そのわずか2週間

¹⁰⁰ 日本で最初のニュース映画館は1935年12月20日、東京の日本劇場地下に開館した第一地下劇場である。1937年7月7日の「支那事変」を契機にニュース映画の人氣が沸騰し、ニュース映画館は日本各地で続々と誕生し隆盛をみせた。プログラムの内容はニュース映画だけではなく、漫画映画、音楽映画、文化映画等の短篇をくみあわせたものであり、それを通常の映画館よりも廉価で提供する「短編映画劇場」といえるものだった（藤岡篤弘「ニュース映画館<誕生期>の興行とその機能」『映像学』第68号、2002年、28-46頁）。

¹⁰¹ 石巻良夫「興行時評」『映画旬報』1942年10月11日号、53頁。

¹⁰² 「興行展望」『映画旬報』1942年10月1日号、54頁。

後に『鐵扇公主』がふたたび劇映画を凌駕したことは、劇映画の低迷をあやぶむ論調に拍車をかけた。劇映画はその頃、脚本の事前検閲が強化されたことや年間製作本数が制限されたことから、利潤確保のために着実に映画館で上映される「無難な」作品を指向せざるをえず、「本当に楽しめる映画」を追求することが難しい状況にあった。劇映画が「低調」であったことも、漫画映画が封切館にふたたび帰ってくる一因になったと考えられよう。『鐵扇公主』以降、漫画映画を目玉とするプログラムが封切館にしばしばあらわれるようになった。終戦までに長篇3本（『桃太郎の海鷲』、『フクチャンの潜水艦』〔関屋五十二、横山隆一、1944〕、『桃太郎・海の神兵』）、短篇4本の組み合わせ（『マンガ映画決戦大会』）¹⁰³が封切館で公開されている。したがって『鐵扇公主』は「本当に楽しめる映画」としての漫画映画の価値を例証し、日本の漫画映画に封切館という市場を開拓したといえるだろう。

さらに特筆すべきは、『桃太郎の海鷲』、『マンガ映画決戦大会』、『フクチャンの潜水艦』がいずれも長尺の文化映画と併映されたことである（『桃太郎・海の神兵』はおそらく単独上映）¹⁰⁴。文化映画でも長篇はしばしば中心作品として封切られていた。しかし『マレー戦記』や『轟沈』のような例外をのぞいては興行成績がふるわず、おおむね年間成績順位の半分以下に低迷していた。『富士に誓ふ』にいたっては、1943年の封切館入場者数順位で最下位を記録している。このように観客が敬遠するような国策映画の観客動員のために、漫画映画が「客寄せ」の役割をはたしたといえよう。また「漫画映画と文化映画の併映」から想起されるのは、ニュース映画館における同様のプログラムではないだろうか。それは国策映画をひとつと見てもらう必要性がいや増した大戦期において、封切館に引き継がれたとみなせるだろう。その興行方針を第一に決定づけたのは、やはり漫画映画『鐵扇公主』と文化映画『空の神兵』の2本立て興行の成功だったのである。

¹⁰³ 「マンガ映画決戦大会」のプログラムは漫画映画4本（『マー坊の落下傘部隊』、『フクチャンの増産部隊』、『お猿三吉 闘ふ潜水艦』、『お山の防空陣』）および短篇2本（『ナカヨシ行進曲』、『仔馬』）。

¹⁰⁴ 漫画映画と文化映画の組み合わせは以下のとおり。『桃太郎の海鷲』と『戦ふ護送船団』、『マンガ映画決戦大会』と『大陸新戦場』、『フクチャンの潜水艦』と『将校生徒の手記』および『陸鷲誕生』。

6. おわりに

本稿では、トーキー移行期から大戦期にかけての日本の漫画映画について、その歴史的変遷を言説と映像テキスト、社会的背景をとおして多面的に考察してきた。従来の研究には、アメリカのトーキー漫画が隆盛するこの時期に、日本の漫画映画がいか「進歩」したかという直線的な進歩史観のもと、目標と現状のへだたりを前提に技術的な「発展」を論じるものが多かった。また外国作品の受容については、アメリカ製以外のものにはほとんど目が向けられていない。そうしたこれまでの歴史観からは見えてこなかった日本アニメーションの変遷過程を本研究で明らかにした。以下の3点に要約する。

- ① アメリカ製トーキー漫画の流行現象が、日本の漫画映画が内包する多様性を、アメリカ風のスタイルという一方向へ収斂させていった。
- ② ナショナリズムの昂揚にともなう「日本」志向への要請と、アメリカ製漫画映画の人気にともなう「アメリカ」志向への要請のはざまに日本の漫画映画が暗中模索するなか、「支那」の『鐵扇公主』が第三のオルタナティブとなった。
- ③ 『鐵扇公主』は日本に「長篇漫画製作熱」をもたらし、さらに大戦期の漫画映画が国策映画の「客寄せ」という役割をはたしていく契機となった。

本稿では映画館で上映された作品を中心にのべたため、教育用の漫画映画を詳述できなかったが、けっして看過できない研究対象であることはまちがいない。教材映画として多用された漫画映画が映画教育運動や文部省とどのように関わったのか、大戦期に国策映画として製作された漫画映画の実態はいかなるものだったのか、アメリカに代わるアジアという対外意識がテキストにどのように投影されたのか。今後の課題としたい。

【付記】

引用文の表記は、旧字体・旧かなづかいは適宜その一部をあらためた。引用中の傍点はすべて引用者による。なお文中で「支那」等の呼称をもちいているが、論述の都合上、あえて選択したことをお断りしたい。

アニメーション映画史研究家の渡辺泰氏、プラネット映画資料図書館の安井喜雄氏、そして三好寛氏には貴重な資料と御助言をいただいた。記して感謝を申し上げたい。

1928-45年におけるアニメーションの言説調査および分析 < 映画雑誌リスト >

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報	1928	2月中旬号	『お江戸の春』		67	紹介
		2月下旬号	< 広告 > 『お江戸の春』		35	
		3月11日号	昭和二年度優秀映画投票		40	『みかん船』57位
		4月1日号	『珍説 吉田御殿』		67	紹介
		5月11日号	『珍説 吉田御殿』	岡村章	65	批評(短所の指摘が多い。運動、光、影の少なさ等)。4/27浅草帝国館、武蔵野館、新宿松竹館封切
		8月1日号	『出世忍術 松之助再来』		75	紹介「中山呑海が「高杉晋作」に次いで製作した漫画映画」
			『出世忍術 松之助再来』		76	スチール
		8月11日号	『きりぬき浦島』		87	紹介
			『四十人の盗賊』		92	紹介
		9月1日号	『出世忍術 松之助再来』	鈴木重三郎	228	批評(称赞「奇想天外式のナンセンスに溢れている」「下手な五六巻もの以上の興行価値あり」)
		10月11日号	『四十人の盗賊』	鈴木重三郎	78	批評(称赞「遠近法を狙ふ撮影法」「カリフの鶴」と比較)9/14邦楽座、東京館封切。
			12月1日号	更らに改善される児童映画デー		17
	1929	1月11日号	『アクメッド王子の冒険』		24	紹介
		3月11日号	< 広告 > 『アクメッド王子の冒険』		35-42	8頁にわたる大広告。ストーリーを絵本風に紹介、アクメッド王子の歌と楽譜あり。
			昭和三年度優秀映画投票		44-45	『動物オリムピック大会』16票
			影絵映画に就いて	岩崎昶	61-62	ヴァルター・ルットマンの写真
		3月21日号	巴里で公開された「十字路口」		45	『珍説 吉田御殿』(大藤信郎)も同時上映。鈴木重吉はスタレヴィッチを訪問。
		7月21日号	『アクメッド王子の冒険』	飯田心美	46	批評(称赞「遠近法を狙ふ撮影法」「絶対映画的手法」等)。6/20武蔵野館封切
		8月11日号	一九二九-三〇年度 ユニヴァーサル陣容		12	オスワルド線画喜劇26本
		8月21日号	一九二九-三〇年度 パテー社陣容		8	発声イソップ物語(線画)26本
		9月1日号	一九二九-三〇年度 コロンビア社陣容		13	クレイジー・キャット漫画26本
		9月11日号	< 広告 > 武蔵野館		33	シネフォンの発声漫画 ミッキー・マウス 9月12日より
		9月21日号	< 広告 > 武蔵野館		37	発声漫画 ハイハット・ジャズ・バンド 9月17日封切
			10月1日号	< 広告 > 武蔵野館		44
	11月1日号	トーキー覚え書	柳澤保篤	57-58	トーキー漫画を称赞「最近武蔵野館で観た「ミッキー・マウス」動物漫画などは堪らなく面白い」	
	11月11日号	映画会二つ		9	「漫画映画の夕」11月23日朝日講堂。オスワルド漫画9種、『アクメッド王子の冒険』。説明:池田重近。	
	12月11日号	< 広告 > 大辻司郎亜米利加土産漫談トーキー 漫画トーキー		97	『南京街』	
	1930	1月1日号	トーキー雑煮(五)	堤寒三	297	「トーキー映画最初の成功は漫画に音を与へたことだらう」ミッキーのイラスト
		1月21日号	観客の立場から常設館への希望	大阪利美	112	「話らぬレビューよりニュースや漫画を是非やって貰ひたい」
		2月21日号	昭和四年度優秀映画投票第六回得点発表		30	『ミッキー・マウスのおペラ見物』6票
			< 広告 > 『クレイジー・キャット』		無	
		3月11日号	昭和四年度優秀映画投票		14	『ミッキー・マウスのおペラ見物』14票
			濠洲の映画界(第一信)		55	3時間のプログラムのなかで漫画フィルムも上映
		4月1日号	< 広告 > 『クレイジー・キャット』		10	「KRAZY KAT CARTOON」、イラスト
		4月11日号	< 広告 > 武蔵野館		17	バ社発声漫画『ノアのお船』4/10封切
			スタレヴィッチの人形映画「魔法の時計」について	柄澤廣之	49	称赞。スタレヴィッチの顔写真。
			旬報グラフィック		無	『魔法の時計』スチール
		4月21日号	千代紙映画にサウンドを附す		13	『お開所』松竹管弦楽団員40名で吹込み中
		5月1日号	漫画トオキイ「黒ニャゴ」完成		12	帝国教育発声映画協会、大藤と提携制作
	第二回 子供のための映写会		68	4/20東京ベビーシネマ倶楽部主催。製作映画線画喜劇等の九ミリ半映画を多数映写		
	5月11日号	『魔法の時計』	村上久雄	38	批評(称赞「映画美」「子供には楽しい童話の夢、大人には限りなき感激を与えるもの」)3/28大阪中央公会堂封切	
	< 広告 > 『魔法の時計』		無	2頁、「フランス前衛映画派の巨頭」		
	6月1日号	小型映画欄		54	『君が代』『化物屋敷』(実写と線画)『ゼリーと汽車』(漫画)	
	『お開所』		74	紹介「第一回千代紙発声映画」		
6月11日号	小石川区小学校をトオキイの巡回		11	『黒ニャゴ』(「千代紙トーキー」)		
	小型映画欄		48	『黒ニャゴ』『鯨』『お開所』		
	< 広告 > 第二回プロレタリア映画の夕		104	『煙突屋ペロー』		
	6月21日号	坪内博士の作品 撮影着手		8	「魔法の時計」を参観して映画製作上のヒントを得る所が多かった」	
	小型映画欄		46	『鼠のダンス』『フェリックス』4種		
	日本トーキー録音余談	友成用三	45	『春の唄』前半、香椎園子嬢の挨拶と独唱及び舞踊→イーストフォンスタジオで音声と同時にフィルムに撮影。中間にある千代紙映画→プレレコ、『お開所』→アフレコ。		
	7月1日号	児童映画の試写会		47	漫画も上映。6/21大阪市内十三区にわたる教材映画協会の催し	
	小型映画欄		48	『呑気放亭武者修行物語』		
	7月11日号	小型映画欄		34	『おい等の野球』	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報		7月21日号	<広告>『おいらの野球』『おいらのスキー』『文福茶釜』『動物オリンピック』		19	
			小型映画欄		39	『おい等の野球』紹介と批評(称赞「村田氏の軽妙な筆致が他に類例のない一般向の漫画映画を成して居る」)
		8月1日号	小型映画欄		56	『鼠のダンス』紹介と批評(「パター・ベビー製、漫画と喜劇との組合せ。アメリカ製作品と比較して称赞」)
		8月11日号	小型映画欄		44	『蠅』(「パター・ベビー、線画」)
		9月11日号	<広告>『混合ジャズ』Congo Jazz『浮世風呂』Sinkin' in Bathtub		無	ボスコのイラスト
			小型映画欄		52	『黒ニヤゴ』『煙突屋ペロー』スチール4枚
		9月21日号	小型映画欄		51	『シャボン玉』(「ココ・シリーズの一つ、邦文字幕入」)『狗犬の眼』(「千代紙」)
		10月1日号	まんだん 江の島見物	山野一郎	98	オスワルドのイラスト
		10月11日号	<広告>『魔法の時計』		無	1頁、「坪内逍遙博士曰く」人形映画「魔法の時計」は私を映画宗にした」と、スチール
		10月21日号	小型映画欄		46	『村祭』紹介と批評(短縮版ゆえに従来の千代紙映画より劣る点を指摘)『馬具田城の盗賊』『お祭り』(「千代紙グラフ」)『フェリックス』4種(「パター・ベビー」)
		11月1日号	小型映画欄		49-51	『フェリックス』8種
		11月21日号	プロキノ第二期製作映画 公開近づく		43	線画『俺達の広告』漫画『アジ太プロ吉消費組合の巻』
		12月1日号	小型映画欄		50	『俺達の広告』『アジ太プロ吉消費組合の巻』紹介と批評
1931		1月1日号	左翼映画の将来	佐々木孝丸	92-93	『煙突屋ペロー』『俺達の広告』『アジ太プロ吉消費組合の巻』おむね称赞
			小型映画欄		120	『かふもり』紹介
			昭和五年度の日本映画		249	イースト・フオンによる漫画「トキ」お関所』
		1月11日号	プロキノの三期企画		8	『第二俺達の広告』『アジ太プロ吉失業の巻』
			<広告>『ちよん切れ蛇』		80	
		1月21日号	<広告>『魔法の時計』		無	
			小型映画欄		60	『魔法の時計』紹介と批評(好評)、17ミリ半試写会:漫画『怪我の功名』『吃驚仰天真珠大王』
		2月1日号	小型映画欄		64	第一回満洲映画週間 線画『吃驚仰天真珠大王』『唐人お吉』『村祭』『煙突屋ペロー』
		2月11日号	昭和五年度優秀映画投票総得点発表		74-75	『お関所』3票(「日本時代映画」)、『骸骨の踊り』15票(「外国発声映画20位」)
			徳川無声の日記	徳川無声	105	「ミッキー・マウス『化物屋敷』は断然良かった」
			小型映画欄		109	『ちよん切れ蛇』批評(称赞)、『珍妙怪我の大手柄』『證々寺の狸ばやし』
		2月21日号	小型映画欄		71	『ちよん切れ蛇』『魔法の時計』スチール
		3月1日号	小型映画欄		99	『奴隷戦争』:線画利用の統計映画
		3月11日号	小型映画欄		83	上海通信:『證城寺の狸ばやし』『黒ニヤゴ』
			小型映画欄		84	『電磁器の原理』→理論を線画で平易に解説
		3月21日号	小型映画欄		76	『君が代』紹介と批評(称赞)、『あめや狸』『小馬』『猿蟹合戦』
		4月1日号	文部省教育映画番組編成調査		13	『タヌ吉』等、新作を製作
			小型映画欄		110	生きた広告博覧会:『春の唄』(大藤信郎)『母を迎えて』荻野茂二
			<広告>『ちよん切れ蛇』		111	
			小型映画欄		112	『鼠の留守番』大石郁雄、紹介と批評(称赞「邦画に從來乏しかった線のふくらみと動きのナイーブ」)
		4月11日号	小型映画欄		68	『猿蟹合戦』スチール、紹介と批評(並「絵の動きの稚拙なところもないではないが」)
		4月21日号	小型映画欄		64	『魔法の時計』9ミリ半発売決定
		5月1日号	小型映画欄		78	浪花踊り撮影大会→大藤信郎『夢の花嫁』ス
			小型映画欄		79	『猿正宗』紹介と批評(好評「動きも従来にみられない自然さを加へたことは、すぐれた漫画映画の少ない業界にとっての一つの喜び」)、動物漫画『チビ公の競馬』
		5月11日号	小型映画欄		86	『文福茶釜』『春の唄』スチール
		6月1日号	小型映画欄		73	『猫の玉子屋さん』外国漫画・邦文字幕入、紹介と批評(称赞「動きの巧みさは言わずもがな、思い付きなど、市販の国産漫画に比して数段まさるもの」)
			小型映画欄		74	線映画製作に関する研究会:大石郁雄講師 5/26日本パターシネ協会
		6月11日号	パター社(RKOパター)の明年度陣容		9	インソップ物語(線画)26本
			パラマウント社陣容		9	スクリーン・ソング18本、発声漫画18本
		6月21日号	値下げさるゝ文部省映画		7	『タヌ吉』既に配布
		7月1日号	小型映画欄		59	『魚釣り大当り』日本語字幕版、スチール、紹介と批評(称赞「動きの巧みな点はさすがに外国漫画の持つ長所」)
		7月11日号	一九三一一三二年度 ユニヴァーサル社陣容		7	オスワルド漫画26本
			小型映画欄		51	『浦島太郎』『天晴安さん』『珍妙怪我の功名』『黄金の花』(「千代紙」)『不思議なランプ』(「実写と線画」)
		7月21日号	第四回プロキノ作品を見て	黒木川喬	46	『奴隷戦争』批評(おむね称赞、難点も指摘)

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報		8月11日号	<広告>トーカートン(発声漫画)、スクリーン・ソング(小唄漫画)		無	マックス・フライシャー提供
		8月21日号	<広告>トーカートン、スクリーン・ソング		無	マックス・フライシャー作品紹介
		9月1日号	<広告>パラマウント発声漫画、スクリーン・ソング		無	「『ピン坊』君は今や映画界きつての寵児」
		9月11日号	<広告>「ピン坊」主演漫画、スクリーン・ソング		無	
		9月21日号	コロムビア映画をパラマウントで提供		7	ミッキー漫画15本提供
			<広告>コロムビア社		無	「ミッキー・マウス漫画の日本配給権は…パラマウント映画株式会社が引受けることに成りました」
		10月1日号	<広告>オスワルド 小型映画欄		無 54	第六回日本写真美術展九ミリ半募集の規定発表→線画を含む
			『難船物語第二篇 海賊船』		73	紹介記事
		10月21日号	小型映画欄		47	『あめや狸』スチール
			<広告>『あめや狸』		47	
			『商人と猿の群れ』		68	紹介記事
		11月1日号	小型映画欄		56	プロキノ製作プラン:線画『児童映画』
		11月21日号	旬報グラフィック		無	W. ディズニーとミッキーマウスの写真
			<広告>ミッキー・マウス		無	イラスト
	1932	1月1日号	<広告>新着メロ発声短篇 <広告>小唄漫画、ピン坊、ミッキー・マウス、クレイジー・カット		32 199	発声漫画6本 「漫画については今更喋々する必要もありませんまい、全世界の人気を一身に集めてゐるいづれも人気者ばかりです」、ミッキーマウスのイラスト
		1月21日号	プロキノ愈々標準型へ		8	『三吉の空中旅行』
		2月1日号	政岡映画製作所 京都に設立		9	政岡憲三、木村角山、清水秀雄、原田誠一、竹内俊一等、トーキー漫画、ミニチュアトリックに関する製作
		2月21日号	小型映画欄		82	『ニャゴダンス』村田安司、『一寸法師』中野孝夫(影絵)、『アジ太プロ吉消費組合の巻』
		3月1日号	<広告>安田式簡易トーキー		58	「大藤信郎先生」推賞(ほか2名:吉川速男先生、大伴祐先生)
		3月11日号	<広告>小唄漫画、ピン坊、ミッキー・マウス、クレイジー・カット		83	
		4月11日号	<広告>『ダグラスの世界一周』		41	ミッキーマウスのイラスト
		5月11日号	アメリカ映画百貨店 その第一期の展覧をみる	讓司鷹彦	44-45	漫画の行き詰まりを指摘
		6月11日号	社告:内外短篇映画欄 愈々本号より新設 内外短篇映画欄		7 23	実写、漫画、スラップスティック等の短編映画。紹介並に記録 漫画:『シャボン玉』(水野商会)『気まぐれ船』(西倉)小唄漫画:『朝起きは辛い』Oh! How I hate to get up in the Morning(D.フライシャー監督)
		6月21日号	内外短篇映画欄		22	漫画:『火事だ火事だ』Fire Fire『いんちき自動車』The New Car『素晴らしき人生』What a Life(フリップ蛙3本)『ピン坊のヴァイオリン狂』In the Shade of the Old Apple Sauce『海賊退治』Swim or Sink(ピン坊、ベティ、ココ)『舞踏会』The Shindig(ミッキーマウス)『消防ピクニック』The Fireman(オスワルド宛)。小唄漫画:『もう一度』Just One More Chance(ベティ)『ベターの家出』Minnie the Moocher(ベティ、ピン坊、キャップ・キャラウェイ及びそのオーケストラ出演)
		7月1日号	内外短篇映画欄		19	漫画:『豚平と猿吉』(村田安司、6/1浅草帝国館封切)『ジャズ大将水道の巻』Ain't Nature Grand?(ボスコ)『恋愛紀元史』The Stone Age(オスワルド宛)『西洋ジンタ』The Band Master(オスワルド宛)『踊る摩天楼』The Dancing Fool(ピン坊、ベティ、ココ)『将棋合戦』Chess Nuts(ピン坊、ベティ、ココ)『ミッキーの猟銃』The Moose Hunt『蛙の技師さん』The Village Specialist『蛙の牛乳屋さん』The Milkman。小唄漫画:『駒鳥の唄』When the Red, Red, Robin
			<広告>ワーナー		無	特選漫画多数入荷、特選小唄漫画到着
		7月11日号	内外短篇映画欄		23	漫画:『かくれんぼ』Hide and Seek(ピン坊)『化物屋敷』Spooks(フリップ蛙)『ワンワンの恋』Happy Love(フリップ蛙)『サニイ・サウス』Sunny South(オスワルド宛)『テキサス泥煙』North Woods(オスワルド宛)。小唄映画:『もう一度』Just One More Chance(ベティ)
		7月21日号	内外短篇映画欄		64	漫画:『入場無料』Admission Free(ベティ、ピン坊)小唄漫画:『恋人と呼ばせて』Let Me Call You Sweetheart(ベティ、ピン坊、エサル・マーナン出演)
		8月1日号	アメリカ映画百貨店 第二期リポオト 内外短篇映画欄	讓司鷹彦	40-41 73	漫画の題材の行き詰まりを指摘 漫画:『ベティの旅興行』The Betty Boop Limited『ジャズ大将難船の巻』Bosko Shipwrecked『ジャズ大将動物園の巻』Bosko at the Zoo『ジャズ大将爆弾三勇士の巻』Bosko, the Doughboy
		8月11日号	松竹蒲田がトーキー漫画		9	『力と女の世の中』全発声ドラマチカル漫画劇

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			内外短篇映画欄		73	漫画:『ジャズ大将狐狩の巻』Bosko's hox Hunt 『ジャズ大将商売繁昌の巻』Bosko's Soda Fountain
		8月21日号	内外短篇映画欄		71	漫画:『蛙の学校』School Days。小唄漫画:『他をお當り』You Try Somebody Else(ベティ、エサル・マーナン出演)『珍音楽会』You Don't Know What You're Doing『カンカン踊』Hittin' the Trail for Hallelujah Land『人気者』Goody Geer(ポール・スミス漫画3本)
			<広告>ペティブープ、スクリーンソング		無	ベティの大きなイラスト
		9月21日号	内外短篇映画欄		69	『蛙の夜逃げ』『蛙のボーイさん』
		10月1日号	内外短篇映画欄		87	漫画:『蛙のチャンプ』The Bully『花形ベティ』Stopping the Show『ベティ博士とハイド』Betty Boop, M.D.
		10月21日号	内外短篇映画欄		73	漫画:『酋長の娘』Betty Boop's Bamboo Isle(ベティ、ピン坊)『商売繁昌』Betty Boop's Bizzy Bee
		11月1日号	愈々日本にも漫画トーキー		13	『空の円タク』『力と女の世の中』『トーキー時代来ると共にニュース及び漫画は急速な進歩を遂げ、漫画はその奇想天外な構成と俟ってトーキー形式の一部門をさへ形成するに至った』
			P.C.L.の天然色 成功を収む		13	漫画トーキーにも進出予定
			内外短篇映画欄		83	『道化役者』『オスワルドの大手柄』
		11月11日号	内外短篇映画欄		77	漫画:『西洋ゼンタ』The Band Master『恋愛紀元史』The Stone Age『動物競馬』Kentucky Belles『豆成金』Wonder Land(オスワルド兎4本)。小唄漫画:『懐かしの南部』Sleepy Time Down South(ボスウェル三人姉妹出演)『学校時代』School Days(ガス・エドワーズ出演)
		11月21日号	映画館の声		10	「漫画を五本、これは猛烈にうけてみます」(東京倶楽部支配人 山田剛氏談)
		12月1日号	内外短篇映画欄		24	漫画:『地球競賞』Betty Boop's Up and Downs『大統領選挙』Betty Boop for President『海賊退治』Fishermer『ギャング征伐』Hot Feet『ばかされ狐』Hunter(以上オスワルド兎3本)。小唄漫画:『恋のしらべ』Romantic Melodies(ピン坊、ベティ、アーサー・トレイシー出演)
		12月11日号	<広告>オスワルド、ワンゴブーチ		32	
			映画館の声		35	「又しても漫画大会をはさんでおりますが、漫画だけを覗いて来る観客もすくなくありません。このところ客の好尚が漫画に傾いて、漫画全盛の感があります」(東京倶楽部支配人 山田剛氏談)
			雑記二つ	杉山静夫	59	アメリカ批評家200名アンケートー好きな短篇にミッキー・マウス
	1933	1月1日号	昭和八年度東都各館正月興行の陣容		11	邦楽座:発声漫画大会、道玄坂キネマ:短篇漫画12本
		1月11日号	内外短篇映画欄		30	漫画:『ベティの博物館見物』Betty Boop's Museum。小唄漫画:『つれづれに』Time on My Hand(ベティ、ピン坊、エサル・マーナン出演)
		1月21日号	千代紙映画を日本映画社が配給		9	第二回千代紙トーキー映画『柳三勇士(ママ)』
		2月1日号	<広告>ボスコ		53	イラスト
			<広告>ミッキーマウス		62	イラスト
		2月11日号	内外短篇映画欄		26	教育文化:『保健いろはかるた』作画大石郁雄。漫画:『ベティの自動車競争』Betty Boop's Ker-Choo『ベティの畜地探検』I'll Be Glad When You're Dead, You Rascal You(ベティ、ピン坊、ココ)『鶏騒動』The Butcher Boy『旋風パンク』The Under Dog『動物オリムピック』The Athlete(ポチ公3本)『兎の合戦』Great Guns『黒猫退治』Cat Nipped『ポロ靴屋敷』Making Good(オスワルド兎3本)
			<広告>『突貫勘太』		無	洋画の宣伝にミッキー・マウスのイラストを使用
		3月1日号	<広告>ミッキー・マウスとシリー・シンフォニー		無	「懐しいニッポンのおぢさん!ボク久しぶりで、やって来ました...ミッキイより」
		3月11日号	内外短篇映画欄		67-68	漫画:『蛙三勇士』(大藤信郎作画)『森の朝』Flowers and Trees『人魚と海賊』King Neptune [スチール]『蜂熊合戦』The Bears and Bees『妖婆の森』Babes in the Woods(シリー・シンフォニー4本)『ミッキー、フービーの巻』The Whoopee Party『ミッキイのトレイダ・ホーン』Trader Mickey『ミッキイの蹴球王』Touchdown Mickey『ミッキイの子煩悩』Mickey's Nightmare。小唄漫画:『ダイナ』Dinah(ミルス黒人兄弟出演、D. フライシャー監督)。
		3月21日号	陽春四月の洋画界 SP・日活の対立戦		7	SPの吉例短篇漫画大会で『蛙三勇士』封切
			内外短篇映画欄		78	漫画:『ベティの発明博覧会』Betty Boop's Crazy Inventions(ベティ、ピン坊、ココ)『ベティの運命判断』Is My Palm Read『街の哀話』Mickey's Good Deed

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報		4月21日号	内外短篇映画欄		76	漫画:『ベティの屋上庭園』Betty Boop's Penthouse『ミッキイの鴨猟』The Duck Hunt『ミッキイの摩天楼狂笑曲』Building a Building。小唄映画:『月と君とは』Reaching for the Moon(アーサー・トレイシー出演、D.フライシャー監督)
			<広告>ベティブープ、小唄漫画、ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	ベティとミッキーのイラスト
		5月1日号	短信一束:二十三日の児童映画デー		7	『力と女の世の中』新富座、動坂松竹館、深川松竹館で上映
			映画館の頁:新宿松竹座のお子様週間		13	各社傑作短篇漫画を含め上映、第1回27日~
			『力と女の世の中』		78	紹介と批評(やや辛口「ミッキーマウスのあのすぐれたトーキー漫画があるので、どうしたって見劣りはするがしかし、相当よく出来てはゐる」「物珍らしさとおかしさで観客は満足してゐた」)4月15日浅草帝国館、新宿松竹館封切
		5月11日号	東都映画館番組及景況調査		20-22	短篇漫画大会の人気(「お家族週間」「お子様週間」)
			読者寄稿欄:発声漫画の新飛躍としてのシリー・シンフォニー	白坂由紀雄	54	
			内外短篇映画欄		75	漫画:『雲雀の宿替』(村田安司作画)『ワン公放浪記』Just Dog『おもちゃの国』Santa's Work Shop『蛮人の踊り』Cannibal Capers『夜』Night『秋』Autumn(シリー・シンフォニー5本)『ミッキイの子沢山』Mickey's Orphans『ミッキーの黄金狂時代』The Klondike Kid『カナリヤ騒動』Wayward Canary(ミッキーマウス)
		5月21日号	MGMで長編物にミッキー・マウス出演		7	
			東都映画館番組及景況調査		23-24	帝国劇場:「ミッキーとシリー・シンフォニー漫画が合計六本もあるのだから番組としては申し分はない...殆ど満員続き」
			地方景況		25	名古屋・千歳劇場で「十銭漫画劇場」→4/29から3日間限定、朝のみ
		6月1日号	東都映画館番組及景況調査		18-21	漫画大会の人気→武蔵野館「密林の王者」をトリに置いて十一本の傑作漫画短篇大会...SP開館以来初めて見る週計を得た」など
			内外短篇映画欄		23	『自動車狂走』『海底騒動』『遊園地』ほか
		6月11日号	映画館番組及景況調査		21-29	漫画大会の人気
		6月21日号	J.O.トーキー発声漫画部設立		8	中野孝夫主任
			映画館番組及景況調査		20-23	漫画大会の人気
			J.O.トーキー漫画部通信		81	第1回作品『特急艦隊』製作決定
		7月1日号	内外短篇映画欄		24-25	『蛙の強壯剤』Nurse Maid『蛙の定九郎』Phoney Express『蛙の蹴球王』The Goal Rush『ベティの誕生日』Betty Boop's Birthday Party『ベティのタイピスト』Betty Boop's Big Boss『小鳥の冒険』Birds in Spring(シリー・シンフォニー)『ミッキーの愛犬』Mickey's Pal, Pluto
			短編映画雑考	村上久雄	25	『力と女の世の中』『蛙三勇士』批評(辛口「もう少しは漫画トーキー独自の面白さを持った物が、日本映画界に現はれてもよくなるか」)←ミッキーマウス、ベティ、シリー・シンフォニーを称賛。
		7月11日号	太秦発声の着色漫画		9	
			映画館番組及景況調査		20	新宿松竹座の短篇漫画大会「吉例月末お子様週間」→「絶対間違ひなしの週間」「一ヶ月中の欠損をこの週で一気に埋めてしまふ」
			J.O.トーキー通信		74	『特急艦隊』製作中
		8月1日号	東都映画館番組及景況調査		22	帝国劇場「名画と漫画とダンスがある、といふので客を呼んだ」
			短篇映画欄		30-31	小唄漫画:『魔法の鏡』Snow White(ベティ、ピン坊、キャップ・キャロウェイ出演)『流行小唄集』Popular Melodies(アーサー・ジャレット出演、D.フライシャー監督)『小唄大売出し』Song Shopping(ピン坊、エセル・マーマン出演)
		8月11日号	映画館番組及景況調査		21	新宿松竹座:名篇短篇マンガ・オン・パレード「一ヶ月の赤字を帳けしにする月例のお家族週間」
		8月21日号	一九三三-三三年度 MGMの陣容		9	ウィリアム・ホッパー漫画13本
			<広告>オスワルド		無	イラスト
		9月1日号	一九三三-三三年度 ユニヴァーサル		15	オスワルド漫画26本、ニュース漫画13本
			<広告>ユニヴァーサル		無	オスワルド漫画26本、イラスト
			短篇映画欄		70	『船乗りポパイ』『森の妖精』ほか
		9月11日号	一九三三-三三年度 ユナイテッド・アーチスト社		9	ウォルト・ディズニー漫画26本(ミッキーマウス漫画13本、シリー・シンフォニー漫画13本)
			J.O.トーキー通信		89	『特急艦隊』完成
		10月1日号	映画館番組及景況調査		28	邦楽座:「シリー・シンフォニー大会といふので景気は帝劇より宜し」。大阪・公楽座:「公楽座自慢の漫画大会」
			<広告>オスワルド		無	イラスト
		10月11日号	新設日本マンガフィルム研究所第一回作品完成		12	『お猿の三吉防空戦』『日本のウォルト・ディズニーたるべき努力をつづけてゐる』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			<広告>人形の家		無	ミッキー・マウスとベティの人形と壁掛け、写真あり
			映画館番組及景況調査		25-29	短篇漫画大会の人気→神戸・キネマ倶楽部「名物の「漫画祭」・・・相当賑わいました」
			J.O.トーキー通信		82	『オ日サマ・パンザイ』製作決定、天然色テスト
		10月21日号	<広告>『世界の刺激』		無	オスワルドのイラスト
			映画館番組及景況調査		31-33	短篇漫画大会の人気→「漫画大会は外国映画専門館の最も安全なる方策」
			短篇映画欄		38	『お猿の三吉・防空戦』『特急艦隊』ほか
			<広告>『箱根八里』『沼の大將』		無	
		11月1日号	映画館番組及景況調査		20-28	短篇漫画大会の人気
			<広告>お猿三吉シリーズ		無	「ミッキー・マウスやベティ・ブーブを持たない日本のお子様方の為に、お猿の三吉が生まれました」
			J.O.トーキー通信		86	『オ日サマ・パンザイ』製作開始
		11月11日号	映画館番組及景況調査		21	「近頃は方々で漫画大会が行はれるが、それが何れも相当の成績を収める」
		11月21日号	映画館番組及景況調査		21	東京・芝園館：スポーツと漫画をまぜて吉例の短篇大会→「成績はバツとせず、いままでもやった短篇大会のなかでは一番よくなかった。この催しが当ると知って余り方々でやりすぎるので観客に対する刺激が弱くなったためらしい」
		12月1日号	短篇映画欄		34-35	『沼の大將』ほか
			『海の生命線』		114	批評「線画を時折り、挿入」
		12月11日号	極彩色漫画三映社に輸入		7	ミッキー・マウスに次いで極彩色のシリーシンフォニーが現はれ漫画全盛の勢を示してゐる米国漫画界
1934		1月1日号	政岡映画製作所新研究所落成		36	
			横浜シネマ商会の漫画トーキーを三映社が配給		37	横浜シネマ商会、月1本くらいで和楽を主としたトーキー漫画を製作予定。第一回作品『お猿の大漁』、三映社が全国配給
			映画館番組及景況調査		51	短篇漫画大会の人気：大阪・公楽座「此処得意の漫画祭り、短篇漫画とりまぜて15本・・・矢張相当の効果」
			短篇映画欄		76	
			<広告>お猿の三吉シリーズ		76	イラスト、「一九三四年は漫画時代です」日本マンガフィルム研究所
			<広告>三映社		無	米国極彩色コミカラー6本、横浜シネマ商会の和楽入り漫画
			W.ディズニーとミッキー・マウス人形の写真		無	
			J.O.トーキー通信		232	『オ日サマ・パンザイ』撮影終了、録音中
			スタヂオ街から		233	政岡映画製作所について
		1月11日号	<広告>飯田俊夫商店		236	ミッキー・マウスとベティの人形、カレンダー
			<広告>東和商事		無	『光の交響楽』『動絵狸達引』（大石郁雄「日本にも遂にワルト・ディズニーが生まれた」）『お猿の三吉シリーズ』
			J.O.トーキー通信		116	『オ日サマ・パンザイ』は『黒猫萬歳』と改題完成
		1月21日号	<広告>コミカラー『ジャックと豆の木』		無	
			J.O.トーキー通信		107	「漫画部、本年度より積極的に活躍」音楽漫画3本、剣戟漫画5本製作予定
		2月1日号	<広告>日比谷映画劇場		20	『ミッキーのキング・コング討伐』
			短篇映画欄		36	『お猿の三吉・突撃隊』ほか
			<広告>コロムビア		無	カラー広告：「トーキー漫画はコロムビア」クレイジー・カット、スクラッピー・ベビー、ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー
			<広告>『光の交響楽』		無	オスカー・フィッシャリア作・音楽短篇 目に見える音楽
			J.O.トーキー通信		115	『絵本一九三六年』製作開始
		2月11日号	<広告>コミカラー3本『ジャックと豆の木』『The Little Red Hen』『The Brave Tin Soldier』		無	
			<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」ミッキー・マウス、クレイジー・カット、スクラッピー・ベビーのイラスト
		2月21日号	<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」ミッキー・マウス、クレイジー・カット、スクラッピー・ベビーのイラスト
		3月1日号	昭和八年度優秀映画推薦発表		34-38	外国映画第4位『シリー・シンフォニー』推薦の言葉：岸松雄など8人
			<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」ミッキー・マウス、クレイジー・カット、スクラッピー・ベビーのイラスト
		3月11日号	<広告>キネマ旬報推薦 昭和八年度優秀映画鑑賞会		無	『シリー・シンフォニー』2本上映
			読者寄稿欄：発声漫画についての戯言	新洞壽郎	86	『動絵狸達引』を称賛
		4月1日号	短篇映画欄		86-87	『茶釜音頭』『黒猫萬歳』ほか
			<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」ミッキー・マウス、クレイジー・カット、スクラッピー・ベビーのイラスト
			<広告>政岡映画美術研究所		187	政岡憲三の新研究所落成挨拶。『茶釜音頭』スケジュール
			J.O.トーキー通信		191	『絵本一九三六年』完成、『花より団子』着手
			J.O.トーキースタヂオ		233-234	漫画部を含む詳細データ
			政岡映画美術研究所		237	詳細データ
		4月21日号	日活トーキー漫画製作		19	第一回『島の娘』製作開始
			<広告>J.O.トーキー漫画		無	
			読者寄稿欄：漫画・断片	瀧瀬初壽	82	『シリー・シンフォニー』を称賛
			日活太秦通信：漫画部		107	再び漫画部を設ける
		5月1日号	漫画映画で『忠臣蔵』		21	J.O.トーキー漫画部

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			短篇映画欄		42	『ベティの鬼退治』ほか
		5月11日号	パラマウント彩色漫画製作		25	『シリー・シンフォニー』に対抗
		5月21日号	<広告>コミカラー『ジャックと豆の木』『赤い牝鶏』『勇敢なる鎧の兵隊』		無	
		6月1日号	短篇映画欄		35	『剣戟学校』『化もの水道』ほか
			<広告>コミカラー		無	
		6月11日号	<広告>『元禄恋模様 三吉とおさよ』日本マンガフィルム研究所		16	ステール、「日本の漫画が外国映画の漫画に劣ると言ふ時代が既に過ぎ去ったことをハッキリ認識出来る！！」
		7月1日号	<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」ミッキー・マウス、クレイジーカット、スクラッピーベビー
			アトラクション講座第二十九回 第三章 ステージ・ショー(四)	内田岐三雄	72	アメリカ・ロキシーのプログラムにミッキー・マウス
			JO太秦映画通信		96	『ボンスケ武勇伝』近日完成
		7月11日号	一九三四-三五年度 ユナイテッド・アーチスト		15	漫画18本
			音楽映画随想	堀内敬三	68	純粋の音楽映画『光の交響楽』
		7月21日号	<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」ミッキー・マウス、クレイジーカット、スクラッピーベビー
			JO太秦映画通信		82	『ボンポコ武勇伝』終了
		8月1日号	短篇映画欄		64	『赤頭巾さん』ほか
		8月21日号	<広告>ウィリー・ホッパ		無	イラスト。極彩色音楽漫画新発売
			一九三四-三五年度 MGM		37	彩色漫画13本
			日活京都通信		110	『島の娘』完成。次回作『忍術火の玉小僧』
		9月1日号	<広告>MGM『ハリウッドパーティー』		無	ミッキー・マウスも出演、イラスト
			キネマ旬報十五周年記念 トーキー漫画ストーリー懸賞募集 三四・三五年プログラム パ社		無	
					75	ベティ・ブーブ漫画12本、ポパイ漫画12本、彩色漫画6本
			短篇映画欄		87	『三吉とおさよ』ほか
			<広告>お猿の三吉シリーズ、『三吉とおさよ』日本マンガフィルム研究所		87	ステール
			ソヴェートの「ミッキー・マウス」	馬上義太郎	112	『気狂ひ競争』ピクトール・スミルノフ監督 ソヴェートの「ミッキー・マウス」のイラスト
		9月11日号	キネマ旬報十五周年記念 トーキー漫画ストーリー懸賞募集		無	
			<広告>ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	イラスト
			短篇映画欄		60	『ジャックと豆の木』ほか
		9月21日号	キネマ旬報十五周年記念 トーキー漫画ストーリー懸賞募集		無	
			<広告>ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	イラスト
		10月1日号	<広告>ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	イラスト
			キネマ旬報十五周年記念 トーキー漫画ストーリー懸賞募集		28	
			<広告>フェリックス猫の乱痴気騒ぎ		無	
		10月11日号	一九三四-三五年度 コロンビア		13	ラブソディーズ彩色漫画、クレイジー・カット漫画、スクラッピー漫画、旅行漫画映画
			キネマ旬報十五周年記念 トーキー漫画ストーリー懸賞募集		31	
			<広告>スクラッピー・ベビー、クレイジー・カット		無	イラスト
		10月21日号	キネマ旬報十五周年記念 トーキー漫画ストーリー懸賞募集		無	
			<広告>スクラッピー・ベビー、クレイジー・カット			クレイジーカットのイラスト
			短篇映画欄		67	『ベティの鏡の国訪問』ほか
		11月1日号	<広告>『ハリウッドパーティー』		無	ミッキー・マウスの「極彩色美麗短篇漫画」を挿入
			目次		11	W. ディズニーと「三匹の子ぶた」の人形の写真
		11月21日号	『ハリウッド・パーティー』		39-40	紹介(「ミッキー・マウスも特別出演」)
			<広告>パラマウント短篇		無	ポパイとベティのイラスト
		12月1日号	<広告>『ハリウッド・パーティー』		無	ミッキー・マウスのイラスト
			JOトーキー漫画『森の野球団』『空襲対防空』、大同商事が関東配給		13	
			<広告>日本RKOラヂオ		無	「漫画は奇抜なベア君の活躍」
			<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア！」スクラッピーベビーとクレイジーカットのイラスト
			短篇映画欄		97	ウィリー・ホッパのイラスト
		12月11日号	短篇映画欄		64	『空襲対防空』『森の野球団』ほか
	1935	1月1日号	<広告>MGM短篇		無	ホッパ漫画、極彩色短篇音楽漫画
			<広告>ユナイテッド・アーチスト		無	ミッキー・マウスのイラスト
			『ハリウッド・パーティー』		116	批評(シリー・シンフォニーの挿入を称賛「色々の踊りや歌も、シリー・シンフォニーの美しさには及ばなかった」)
			<広告>三映社		無	コミカラー漫画、極彩色お伽漫画
			<広告>コロムビアトーキー漫画		無	極彩色音楽漫画COLOR RHAPSODIES、スクラッピーベビー漫画、クレイジーカット漫画
			「映画文化展覧会」出品内容概略		152	発声漫画製作過程
			小型映画欄		181	『ミー坊と狼』『いたづら猫太平洋横断』『黒猫萬歳』『特急艦隊』『絵本一九三六年』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			<広告>政岡映画美術研究所		255	ミーチャンとターチャンのイラスト
		1月11日号	短篇映画欄		58	『忍術火の玉小僧江戸の巻』ほか
		1月21日号	<広告>コロムビア		無	着色漫画第一回入荷 極彩色夢物語『Holiday Land』
			小型映画欄		80	十六ミリになったオスワルド漫画
		2月1日号	短篇映画欄		84-85	『ベティのスピード違反』ほか
		2月11日号	<広告>ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	
		2月21日号	問題の性病映画『血の敵』通検 音楽映画雑考	村上忠久	9 65	線画説明を附して再検 音楽映画を7種に分類。第5種:O.フィッシーガー 『ト短調四重奏曲』『光の交響楽』。第7種:「漫画 並にシリー・シンフォニーの如き物」
		3月1日号	<広告>スクラッピーベビー、クレ イジーカット		無	イラスト
			小型映画欄		106	パターシネ協会の作品募集:「線画」含む
		3月11日号	短篇映画欄		82	『ボンボコ武勇伝』『飛入り忠臣蔵』ほか
		3月21日号	<広告>スクラッピーベビー、クレ イジーカット		無	イラスト
		4月1日号	児童向漫画 筋書懸賞募集		16	
			<広告>東和商事短篇		無	O.フィッシーガー『色彩交響楽』『光の交響楽』
			<広告>ユナイテッド・アーチスト		無	ミッキーマウスが本年度から全てテクニカラー に。第一回作『ミッキーの大演奏会』The Band Concert 近日到着
			<広告>カラー・ラブソディ、スク ラッピーベビー、クレイジーカット		無	イラスト
			日活京都通信		195	『海賊退治の巻』作画着手
			J.O.太秦通信		195	『弱虫珍選組』撮影終了『絵本モモタロー』作画
			日本撮影所録		250-259	日活京都撮影所(漫画部)、J.O.スタジオ、政岡 映画研究所(漫画部)
		4月21日号	<広告>『ミッキーの大演奏会』		無	
			<広告>コロムビア		無	洋画『海を嫌ふ船長』の宣伝にクレイジー・カット のイラストを使用
		5月1日号	<広告>カラー・ラブソディ、スク ラッピーベビー、クレイジーカット		無	イラスト
			短篇映画欄		82	『忍術火の玉小僧・海賊退治の巻』
		5月11日号	トーキー漫画ストーリー当選発表		12	総応募数357「近頃漫画に対する一般の嗜好を 如実に語る一大反響」
			春は色彩映画から	兼子慶雄	64	『春の女神』等シリー・シンフォニーを称賛(「最 高の芸術」「今更ながら其の素晴らしさに打たれ る」)
			<広告>『動絵狐狸達引』『カチカ チ山』『ボン助の春』P.C.L.		無	スチール
		5月21日号	J.O.漫画部が天然色の漫画 ア ンドウ・カラーで製作		22	『め組の喧嘩』
			短篇映画欄		62	『ミッキイの大演奏会』ほか
			<広告>コロムビア		無	「トーキー漫画はコロムビア」カラー・ラブソディ3 本、スクラッピーベビー、クレイジーカット(※イ ラストにミッキーマウスが混じる[ユナイテッド・ アーチストに移籍])
			J.O.スタジオ通信		97	『め組の喧嘩』
		6月1日号	短篇映画欄		61	『スタア祭』『正直靴屋』ほか
		7月1日号	日活漫画部解散 同人組織の製 作所成立		9	
			<広告>ユナイテッド・アーチスト		無	極彩色漫画陸続入荷(4本)
			中国電影印象記(四)	岩崎昶	74-76	『空谷蘭』に漫画のカットあり
		7月11日号	<広告>メロ極彩色短篇漫画		無	ハッピー・ハーモニー(11本)、ボスコが女優・俳 優と握手する写真
		7月21日号	<広告>『ミッキーの大演奏会』		無	イラスト
			短篇映画欄		100	『真夜中行進曲』『ベティの蠅取りデー』ほか
		8月1日号	政岡美術研究所解散		9	
			小型映画欄		70	『蛙の子』『ターチャンの海底旅行』
		8月11日号	一九三五-三六年度 ユナイテッ ドの製作予定		11	ミッキー・マウス及びシリー・シンフォニー(共に 総テクニカラー)各9本宛18本
			短篇映画欄		80	『子猫の武勇伝』『ボスコと赤坊』ほか
		8月21日号	<広告>ハッピー・ハーモニー		無	ハッピー・ハーモニー(10本)
			懸賞募集「夏枯れ打開策」一等当	池田一夫	75-78	漫画短篇大会あり
			短篇映画欄		118	『ボスコの種蒔』ほか
		9月1日号	<広告>ハッピー・ハーモニー		無	ハッピー・ハーモニス(10本)
			新様式天然色映画 虚栄の市 合 評	飯島正 岩崎昶 内田岐三夫 清水千代太	123-126	清水「ウォルト・ディズニーのシリー・シムフォ ニー漫画は三色・・・」、岩崎「ドイツではシリー・ シンフォニーみたいな漫画を研究して居る」
		9月11日号	J.O.スタジオ通信		97	輸出映画『かぐや姫』監督:田中喜次、トリック: 政岡憲三、カメラ:円谷英二(※アニメーションで はない)
		9月21日号	<広告>『恋の獵人』		無	ロッテ・ライニガー製作、スチール。ウファ文化短 篇、東和商事短篇映画部
			短篇映画欄		60	『コック・ロビンは誰が殺した』ほか
		10月1日号	アメリカの制度採用 JOの新製作 職制		12	『かぐや姫の結婚(ママ)』のクランク開始:中野 孝夫、田中喜次、政岡憲三ほか
		11月1日号	小型映画欄		104	『海の水はなぜからい』『飛入り忠臣蔵』『茶釜音 頭』『蛙の子』『ピョンちゃん和小熊』『ボンボコ武 勇伝』『弱虫珍選組』『孫悟空』(政岡憲三作品、 予定)

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			<広告>ポパイ、ベティ、極彩色漫画		無	イラスト。「日本親善の漫画使節ベティ・フープが日本を訪問して日本語で唄ふ素晴らしい傑作!!」
		11月11日号	画家の立場より見た色彩映画	神戸一郎	82	「『シリー・シンフォニー』の色彩は使用目的がはっきりしてかなりの効果が出てゐる。しかし色彩の力や効果がそんな下の方で止つてはならないはずだ」
		11月21日号	ミニチュアの製作と撮影について 短編映画のこと	政岡憲三 友田純一郎	78-79 80	外国の漫画映画は日本の喜劇映画(斉藤寅次郎の短篇以外)より優る「見給へ、すぐれた漫画の夢幻的な場面の笑ひの前には、日本の喜劇映画が如何に果敢なく消へて行くことか」 P.C.L.特選短篇映画。R.ライニガー、O.フィッソングー
		12月1日号	<広告>『影絵カルメン』『盗まれた心臓』『青の交響楽』		無	
		12月11日号	P.C.L.で盛んに製作 宣伝映画の流行		11	大日本ビール漫画『蟻と蛙』
			<広告>『飛入り忠臣蔵』『弱虫珍選組』		無	J・O特作漫画
			<広告>コロムビア		無	極彩色発声漫画
1936	1月1日号		<広告>キネマ旬報 異色映画人紹介 ウォルト・ディズニー		11 115	ミッキー、ドナルドほかのイラスト 称赞
			異色映画人紹介 マックス・フライシャー	南部圭之助	119	「芸術的価値に於て、ウォルト・ディズニーのそれに一歩ゆずる」「都会人的なナンセンス」「グロテスクとナンセンスの極致」ポパイがベティをしのご人気者に。
			異色映画人紹介 オスカー・フィッソングー、ロッテ・ライニガー アマチュア映画	野口久光	120 194	「人形映画のスタレヴィッチと共に尊敬すべき」 『お日様と蛙』『蛸退治』『動絵狐狸達引』
	1月11日号		短篇映画欄		75	『嘆きのスカンク』
			<広告>日本マンガフィルム研究所		111	「一九三六年は漫画時代です」お猿の三吉のイラスト
	2月1日号		アマチュア映画		110	『鼠の留守番』とミッキー・マウス4本→ネズミ年にちなむ。『お山の大将』
	3月1日号		アマチュア映画		100	『茶釜音頭』『凸之助武勇伝』
	3月11日号		仏蘭西映画発達史3	柳亮	76	「漫画は・・・アメリカもののレベルを超え得るほどのものは、他ではできない様である」 ミッキーとドナルドのイラスト
			<広告>『ミッキーと名優の対抗試合』		無	
	3月21日号		<広告>SY武蔵野館		11	3/19- 漫画『ハッチャッチャ』 3/26- ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー
			ウォルト・ディズニー RKOラヂオと契約		42	
	4月1日号		<広告>SY武蔵野館 アマチュア映画		56 154	4/2- 漫画 『小鳥と兎』『おいらの非常時』
			日本撮影所録		253	J.O.スタジオ 漫画部
			改訂映画用語辞典		288	アニメーター Animator 漫画映画の作家
	4月11日号		<広告>SY武蔵野館 外国映画界特報		13 51	4/9- 極彩色数種 アカデミー優秀短篇賞 漫画『三匹の仔猫』(ウォルト・ディズニー)
			<広告>『ミッキーのグランド・オペラ』		無	イラスト
	4月21日号		<広告>SY武蔵野館		30	4/30- 極彩色漫画
	5月1日号		<広告>名映画スーヴニール		27	漫画トキー3本
			<広告>SY武蔵野館		29	4/30- 極彩色漫画 5/7- 漫画
			<広告>光の交響楽シリーズ、 『絵本モモタロー』		31	東和商事文化短篇
	5月11日号		短篇映画欄		49-50	『居酒屋の一夜』ほか
	5月21日号		<広告>ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	ミッキーとドナルドのイラスト
	6月1日号		<広告>光の交響楽シリーズ、 『絵本モモタロー』		無	東和商事文化短篇
	6月11日号		アマチュア映画		78	『お猿の大漁』『空の桃太郎』『月の宮の女王様』 『海の水はなぜからい』『雷ゴロ吉下界修行』
	6月21日号		漫画トキーの作者達	野口久光	70	ウォルト・ディズニー、フライシャー兄弟、フランス漫画『生命の喜び』
	7月11日号		音楽美学の序章1-漫画、音楽、 実写について-	今村太平	72-73	ディズニーのトキー漫画、『生の喜び』
			アマチュア映画		84	『漫画レビュー 春』
	7月21日号		一九三六-三七年度 RKOラヂオ		47	ウォルト・ディズニーのミッキー・マウス漫画及びシリー・シンフォニー漫画がRKOを通じて提供されるが、その本数は未定
	8月1日号		武蔵野館又も新試み 夏向きの早朝興行		8	「夏期短篇博覧会」第三回・第六回→漫画祭
			一九三六-三七年度 ユナイテッド・アーチスト		49	ウォルト・ディズニー漫画18本
			<広告>ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー		無	
	8月11日号		アマチュア映画		68	『玉手箱』『森の小兎』
	8月21日号		<広告>SY武蔵野館		27	8/25- 『ロビンが誰が殺したか?』『仔猫の武勇伝』『ミッキーの闘牛師』
	9月1日号		短篇映画欄 <広告>ポパイ、ベティ、極彩色漫画		127 無	『ミッキイの夢物語』ほか ポパイのイラスト
	9月11日号		アマチュア映画		76	『小兎のいたづら』『蟻の武勇伝』(日本語版)
	9月21日号		短篇映画欄		55-56	『蜘蛛の巣ホテル』ほか

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			<広告>セレブリーティ極彩色漫画		無	
		10月1日号	短篇映画欄		82	『ミッキイのサーカス』ほか
		10月11日号	短篇映画欄		59	『スクラッピーの大統領』
		10月21日号	短篇映画欄		72	『ボバイの無銭旅行』ほか
		11月11日号	短篇映画欄		66	『黄金狂』
			アマチュア映画		78	『ちんころ平平玉手箱』『ワン公の失敗』(実写+漫画)
		11月21日号	短篇映画欄		70	『家鴨の鉛管屋』
		12月11日号	アマチュア映画		84	『天空旅行』『雀のお宿』
			『だんごの行方』		無	『船乗りシンドバッド』(「ポパイ漫画最初の長尺極彩色篇!!」)
	1937	1月1日号	短篇映画欄		126	『鼻のお手柄』
			<広告>日本マンガフィルム研究		259	「全世界は漫画時代!!」、お猿の三吉のイラスト
		1月11日号	短篇映画欄		63	『クレイジーの新聞記者』ほか
			アマチュア映画		88	ミッキーマウス漫画トーカー
		1月21日号	短篇映画欄		74	『船乗りシンドバッド』ほか
		2月11日号	短篇映画欄		47-48	『赤毛布の忠さん』ほか
			アマチュア映画		80	『風さわぎ』、ミッキーマウス4本
		2月21日号	松竹大船文化映画部 映画相談所を新設		33	「漫画、線画等あらゆる種類の映画製作を企画する方々の相談」
			<広告>SY武蔵野館		34	2/25-『ボバイの船乗りシンドバッド』
		3月1日号	短篇映画欄		64	『ボバイの動物園荒し』ほか
			<広告>SY武蔵野館		38	2/25-『ボバイの船乗りシンドバッド』
			短篇映画欄		71-72	『オランダ人形』ほか
		3月11日号	短篇映画欄		68	『いたづら小象』ほか
			アマチュア映画		88	『白鼠物語』ほか
		4月1日号	目次		無	ブルートなどディズニーのイラスト
			短篇映画欄		152	『家鴨の伊達男』ほか
			日本撮影所録		217	J.O.スタヂオ 漫画部
			<広告>ボバイ、ベティ、極彩色漫画		無	ボバイとベティのイラスト
		4月11日号	ニュース劇場新宿に出現		31	「ニュースと漫画映画だけを短時間に安く観せようといふニュース専門の映画館」
			短篇映画欄		64	『ミッキイの魔術師』ほか
			アマチュア映画		78	『漫画のマンガ』
		4月21日号	短篇映画欄		82	『猫とヒヨッコ』ほか
		5月1日号	映画の音楽1ー韻律性の効用についてー	今村太平	14-15	トーカー漫画の音楽を含む
			村田漫画映画研究所創立		35	
			<広告>エムバイヤー商事映画部		無	極彩色短篇4本
			短篇映画欄		79-80	『アリスの農園』ほか
		5月11日号	短篇映画欄		54	『ボバイの窓拭き』『ボバイの彫刻家』ほか
			アマチュア映画		82	『箱根八里』『沼の大將』『天晴れガルスケ』『白兔』
		5月21日号	短篇映画欄		60	『春が来た春が来た』ほか
		6月11日号	アマチュア映画		76	『浮かれ音楽』(ミッキーマウス)『五匹の力』
		6月21日号	短篇映画欄		78	『兎公悪漢退治』ほか
		7月1日号	ニュース劇場への不満	山本幸太郎	64	「料金の高いディズニー作品などはめったに封切しない」
			短篇映画欄		133-134	『ベティと押売り』ほか
		7月11日号	短篇映画欄		55-56	『森の小勇者』ほか
		7月21日号	短篇映画欄		72	『消防署騒動』ほか
		8月1日号	短篇映画欄		78	『お化け踊り』ほか
		8月11日号	一九三七ー三八年度 ユナイテッド・アーティスト		51	ウォルト・ディズニーアカデミー賞レビュー5本、スキッピー色彩漫画9本
			短篇映画欄		80	『空襲音頭』ほか
		8月21日号	一九三七ー三八年度 RKOラヂオ		39	ミッキーマウス9本、シリー・シンフォニー9本
			短篇映画欄		78	『家鴨と電気人形』
			<広告>カラー・ラブソディ、クレイジー・カット、スクラッピー		無	イラスト
		9月1日号	短篇映画欄		59	『復活祭のポスコ』ほか
		9月11日号	世界映画館読本	石見為雄	10-11	ニュース映画館の日仏比較:フランスで漫画はたまに上映←→日本で漫画は多い
			アマチュア映画		64	『小兎の魚釣り』
			短篇映画欄		123	『ベティの不良狩り』『ボバイのSOS』ほか
		9月21日号	短篇映画欄		116	『ジャズ合戦』ほか
		10月1日号	<広告>笑の王国		無	ミッキーマウスほかディズニーのイラスト
		10月11日号	ヴェニス国際展覧会		47	アメリカのウォルト・ディズニーの諸作に対し、最も優秀なる漫画として受賞
		10月21日号	短篇映画欄		122	『ボバイの空中戦』ほか
		11月1日号	<広告>カラー・ラブソディ、クレイジー・カット、スクラッピー		無	イラスト
			短篇映画欄		128	『ベティの消防犬』ほか
		11月11日号	<広告>ニュース漫画 第二号		無	スチール
			『爆弾二将校』			
			短篇映画欄		110	『ワン軍行進曲』ほか
		12月11日号	短篇映画欄		122	『ボバイの子守唄』
	1938	1月1日号	<広告>ニュース漫画 第二篇		無	スチール
			『上海空中戦』			
			<広告>マー坊シリーズほか		無	佐藤映画製作所
			短篇映画欄		347-348	『肉弾ボバイ』ほか
		1月11日号	<広告>ミッキーマウス、シリー・シンフォニー		無	イラスト、ウォルト・ディズニーの写真
			短篇映画欄		112	『メリー・クリスマス』『ボバイの奮戦』ほか
		1月21日号	短篇映画欄		116	『都の大選手』ほか

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報		2月21日号	漫画喜劇論	今村太平	10-11	
		3月1日号	文化映画欄		66	第一地下劇場の国際音楽映画週間(2/16-22): 『光の交響楽 第五号』、マクス・フライシャー 『動物音楽隊』、パラマウント社天然色音楽漫画
		3月11日号	短篇映画欄		56	スクリーン・アトラクション映画
			アマチュア映画		62	『だんごの行方』『蛙三勇士』『沼の大将』『正ちゃんクマ坊珍戦記』
			これからのニュース劇場	北村六郎	116	「スリルと迫真力の乏しい最近のニュース映画…当然の結果として漫画…等が売物となる」
		4月1日号	<広告>ポパイ、ベティ・ブーブ		無	ポパイのイラスト
			<広告>今村太平『映画芸術の形式』		53	「トーキー音楽から漫画にまで及ぶその研究」
			日本撮影所録		192	東宝東京撮影所 線画係 主任 大石郁夫
			<広告>朝日ニュース劇場		223	ミッキー、ドナルド、プルート、ポパイのイラスト
		4月11日号	バ社の長篇色彩漫画 フライシャーが着手		32	
			短篇映画欄		67	『ベティの化物退治』
			<広告>『インク壺のココ』ほか		無	ココのイラスト
		4月21日号	<広告>『だんごの行方』『五匹の力』『蛙の剣法』『フェリックスの乱痴気騒ぎ』		無	
		5月1日号	短篇映画欄		64	『村の水車』ほか
			<広告>『インク壺のココ』ほか		無	ココのイラスト
			<広告>今村太平『映画芸術の形式』		102	
		5月11日号	短篇映画欄		57	『かへる剣法』『五匹の力』
			<広告>『インク壺のココ』ほか		無	ココのイラスト
		5月21日号	<広告>サン・フィルム		無	優秀漫画5本、イラスト
		7月1日号	<広告>東和商事文化映画部		無	漫画篇:7本、スチール
			<広告>『インク壺のココ』ほか		無	ココのイラスト
		7月21日号	<広告>のらくろシリーズ3本		無	のらくろのイラスト
		8月1日号	<広告>のらくろシリーズ3本		無	のらくろのイラスト
			<広告>『空の荒鷲』『子熊の家出』『フェリックスの乱痴気騒ぎ』		無	
			『五匹の力』『かへるの剣法』『だんごの行方』		無	
		8月11日号	短篇映画欄		57	『乱痴気騒ぎ』ほか
		9月1日号	ウォルト・ディズニが百万弗の撮影所		6	『白雪姫』大ヒット
		9月11日号	今村太平の『映画芸術の形式』	岩崎昶	8	「「トーキー漫画論」は、これこそ今村太平の最もオリジナルな観点を示すもの」
			アマチュア映画		56	『マー坊の大陸秘境探検』
		9月21日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
		10月1日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			話題のアメリカ映画		52	『白雪姫』を称賛(「新映画芸術のマイルストーンを成す作品」)。白雪姫と七人の小人のイラスト
			ヴェニスの上賞映画一覧		73	『白雪姫』に映画展芸術トロフィー
			<広告>『五匹の力』『かへるの剣法』『だんごの行方』『空の荒鷲』『子熊の家出』『フェリックスの乱痴気騒ぎ』		無	
			<広告>ポパイ、ベティ、極彩色漫画		無	ベティとポパイのイラスト
		10月11日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
		11月1日号	<広告>『白雪姫』		無	カラー見開き2頁。
			短篇映画欄		80	『ポパイの酋長』
			<広告>『笑へ山男』『空の荒鷲』『子熊の家出』『フェリックスの乱痴気騒ぎ』		無	
		11月11日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			短篇映画欄		53	『ベティの出張販売』ほか
		11月21日号	<広告>『シンデレラの車』		無	スチール
			<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			短篇映画欄		55	『北極物語』ほか
		12月1日号	作品評二つ	岩野静次郎	59	シリー・シンフォニー『村の水車』称賛(「美しい芸術像」)
		12月11日号	短篇映画欄		55	『おやちの仮病』ほか
	1939	1月1日号	<広告>ディズニー作品		無	<広告>RKO
			昭和十三年度映画界総決算	飯田心美 友田純一郎 村上忠久 山本幸太郎 水町青磁 滋野辰彦	101	日本の漫画映画に辛口の評価(飯田「日本に於て漫画といふものは絶望に近い」、友田「一番遅れてゐるらしい」、山本「殆ど進歩はない」「政岡がついに駄目になった」)
			<広告>朝日ニュース劇場		264	ミッキー、ドナルド、プルート、ポパイのイラスト
			<広告>ミツワ		無	ミッキーマウス8本、シリー・シンフォニー3本、その他アメリカ漫画16本、日本漫画14本。ミッキーのイラスト
			<広告>『ポパイのアリババ退治』		無	イラスト
		1月11日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			<広告>ポパイ、ベティ		無	
		1月21日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			短篇映画欄		64	『動物病院』『ポパイのアリババ退治』ほか
		2月1日号	カクテルの時間	真木潤	8	『白雪姫』:アメリカで650万ドルの大ヒット「一九三八年度のアメリカ映画の稼ぎ頭」

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報			昭和十三年度内外優秀映画決定		11,16,19	『村の水車』:18位(今村太平、滋野辰彦が投票)、『ミッキーの化物退治』『ハワイ情緒』:25位(今村が投票)
		2月11日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			短篇映画欄		59	『ドナルドの駅長さん』ほか
		2月21日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
			<広告>『のらくろ二等兵』『のらくろ一等兵』		無	
			短篇映画欄		59	『ベティの漂流記』『おやぢの愛犬』ほか
		3月1日号	我が邦に於て漫画映画は育つかどうか	政岡憲三	77	日本の漫画映画の欠点を指摘
			短篇映画欄		79	『ミッキーの移動別荘』
		3月11日号	短篇映画欄		76-77	『警の消防馬』『鶏のかちどき』『ベティのモダンホテル』
			アマチュア映画		80	『海の荒鷲』『沼の大將』『箱根八里』『蛙三勇士』
		3月21日号	<広告>ディズニー作品		無	イラスト
		4月1日号	日本撮影所録		190	東宝東京撮影所 線画係 主任 大石郁夫
			外国撮影所録		195	ウォルト・ディズニー
		4月11日号	アカデミー賞		28	特殊賞 ウォルト・ディズニー『白雪姫』による漫画の新分野開拓に対して
			アマチュア映画		66	『動物病院』『頓智猫』『地震ゴリラ』『塙田右衛門 化物退治』『ター坊の無敵戦車』
		4月21日号	<広告>RKO		無	『白雪姫』『愈よ近日到着!』
			短篇映画欄		61	『子供の夢』ほか
		5月11日号	短篇映画欄		62-63	『驢馬物語』ほか
		5月21日号	<広告>キネマ旬報主催 音楽映画グラウンド・ショー		無	RKO極彩色漫画『子供の夢』、『ハンガリアン・ダンス』(光の交響楽)
			一九三九-四〇年度 二十世紀FOX		48	テリー・トゥーン漫画26本、うちカラー10本
			文化ニュース劇場の体験	大久保龍一	63	「浅草文化ニュース劇場では、ポパイ漫画とディズニーの極彩色漫画が絶対に強い。ポパイと極彩色漫画を上映して居れば先づ安全率を確保することができる」
			短篇映画欄		65	『夢の火星探検』ほか
		6月1日号	<広告>今村太平『映画芸術の性格』		無	
			外国文化映画の上映率	川名完次	65-66	「オスカー・フィッシング作品の光の交響楽や・・・ロッチェ・ライニガー作品の影絵などは、当時既に識者の眼を驚かせた」「一般には文化映画より漫画の方が客を嬉ばせ、漫画大会は殆ど凡てのニュース劇場の大入番組となった」
			短篇映画欄		67	『町のいかさま師』ほか
		6月11日号	アマチュア映画		66	シリー・シンフォニーの16ミリ化
		6月21日号	短篇映画欄		57	『幸運の女神』(ライニガーの影絵)
		7月11日号	短篇映画欄		59	『ニヤンの浦島』ほか
		7月21日号	一九三九-四〇年度 パラマウント		27	『ガリヴァ旅行記』(長篇彩色漫画)、ポパイ漫画12本、石器時代漫画12本
			短篇映画欄		52	『わんわん騒動』ほか
		8月1日号	色彩映画論	今村太平	4-7	「色彩漫画」を含む
			<広告>日本短篇映画社		無	漫画10本、イラスト
		8月11日号	一九三九-四〇年度 RKOラヂオ		35	『ピノチヨ』Pinocchio ウォルト・ディズニー長篇漫画
			アマチュア映画		60-62	『狼は狼だ』『二つの世界』『ろば』『タヌ吉のお話』『兄弟こぐま』『忠吉は帰った』(映画教育中央会所有の十六ミリ映画)、『ミッキーの愛犬騒動』『ミッキーの自動車大暴れ』
		8月21日号	巡回映写記	藤島昶	58	満州でパラマウントの漫画を上映
		9月1日号	文部省認定文化映画総覧		167-173	『光の踊り』『ハンガリアンダンス五番』『ハンガリアンダンス六番』(フィッシング)
		9月11日号	アマチュア映画		60	『ミッキーのカウボーイ』『ミッキーの大放走』『兎公釣の巻』『ベティの愛犬物語』『ターチャンの怪物退治』『森の野球団』『白鼠物語』
		9月21日号	上海雑信	石川俊彦	10-12	ディズニー漫画9本を見た感想
		10月1日号	旬報象とだんぎ	田中三郎	43	映画法への皮肉、ポパイのイラスト。「ポパイさへ気をもんで。殺伐すぎるんで、わしゃもう日本の坊ちゃん嬢ちゃんがたの御機嫌を伺ふこたあでけんやうに、なるんじやごわへんか」
			短編映画の娯楽性	戸田隆雄	137-138	ミッキーマウスとシリー・シンフォニーを称賛
			<広告>朝日ニュース劇場		197	ドナルドとポパイのイラスト
		10月11日号	アマチュア映画		72	『だんこの行方』
		11月21日号	丸の内に初の登場 児童専門の文化映画劇場		5	第一回興行に『子供の夢』
	1940	1月1日号	一年間の足跡―主として作品を中心に―	飯田心美	136-137	「マンガ映画では白雪姫が輸入されないためにディズニーのものに傑作がなく、デーヴ・フライシャーの「ポパイのアリババ退治」がAクラスに座る作としてのこる」
			短篇映画欄		139	『ポパイの闘牛』『ベティの迷ひ猫』
			<広告>朝日ニュース劇場		203	ドナルドとポパイのイラスト
		1月11日号	短篇映画欄		57	『黄金の釣』(影絵)
		2月1日号	文部省の一般用認定状況―取下げは総計九件―		29	日本の線画→非認定4件、外国の線画→非認定なし。取り下げ映画→『元禄恋模様 三吉とおさよ』『お猿三吉突撃隊』
			旬報余滴	清水千代太 ほか	33	アメリカで550万ドルの利益をあげた映画→『国民の創生』と『白雪姫』のみ
		2月11日号	短篇映画欄		55	『白熊物語』ほか
		2月21日号	<広告>ミヅナカ映画部ほか		57	マー坊シリーズ4本

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
キネマ旬報		3月1日号	旬報余滴	飯田心美ほか	21	歌舞伎「鳥羽絵」→人間と鼠の掛合がある→「ミッキイ・マウスの漫画を誰でも連想するだらうが、「鳥羽絵」の根底に流れる精神はミッキイの場合より遙かに大人であり、成熟してゐる」
			紐育の映画館		52	『ガリヴァー旅行記』パラマウントで封切。1週48000 \$、2週60000 \$
			<広告>マー坊シリーズ4本		70	
		3月11日号	<広告>マー坊シリーズ4本		48	
			紐育の映画館		82	『ガリヴァー旅行記』3週30000 \$、4週23000 \$で終映
		3月21日号	<広告>マー坊シリーズ4本		45	
			短篇映画欄		46	『ベティの鷺鳥狩』
		4月1日号	<広告>マー坊シリーズ4本		102	
		4月11日号	<広告>ドナルド2本		無	イラスト
			アカデミー賞		22	短篇・漫画賞 ウォルト・ディズニー『醜い家鴨の仔』
			<広告>マー坊シリーズ4本		33	
			短篇映画欄		34	『ドナルドの昼寝』
		4月21日号	三月中の一般用認定状況		17	日本映画：線画12件認定、外国映画：線画4件認定
			紐育の映画館		38	『ピノキオ』センターで封切。1週45000 \$、2週36600 \$→「失望」
			<広告>マー坊シリーズ4本		51	
		5月1日号	紐育の映画館		32	『ピノキオ』3週30000 \$、4週31000 \$
			短篇映画欄		58	『ポパイの船長』
		5月11日号	紐育の映画館		30	『ピノキオ』5週30000 \$以下
			<広告>マー坊シリーズ4本		40	
		5月21日号	<広告>RKO		無	ドナルド2本、イラスト
			紐育の映画館		28	『ピノキオ』6週21000 \$、7週24000 \$、8週9000 \$ (4日間で打ち止め)
			<広告>マー坊シリーズ4本		47	
		6月1日号	<広告>マー坊シリーズ4本		45	
			短篇映画欄		46	『ベティの山羊騒動』『ドナルドの道草』
		6月21日号	紐育の映画館		24	ラヂオシティミュージックホールで上映された260本中、4週以上続映されたのは『白雪姫』と『レベッカ』のみ
			<広告>『お蝶夫人の幻想』		無	「三浦環女史がはじめて映画のために作詞・作曲・独唱せる豪華な問題の影絵音楽映画！」
		7月1日号	日本撮影所録		107、110	東宝東京撮影所 大石郁雄、市野正二、山田耕三。村田漫画映画製作所
			短篇映画欄		123	『ポパイの空中戦』
		7月11日号	一九四〇-四一年度 メトロ		29	色彩漫画18本
		7月21日号	一九四〇-四一年度 二十世紀 FOX		20	テリー・トゥーン漫画26本(うち10本天然色)
			一九四〇-四一年度 RKOラヂオ		21	ウォルト・ディズニー漫画18本
			一九四〇-四一年度 パラマウント		21	ポパイ漫画12本、ガビイ漫画8本(『ガリヴァ旅行記』で大当りをとった三枚目ガビイを主役)
			短篇陣		41	『狐の小父さん』(山本早苗)『仲よく働け』(村田安司)『あひる陸戦隊』(瀬尾光世)脚本完成
		8月1日号	文部省の映画製作状況 漫画映画もいよいよ具体化		39	
			朝日映画の影絵シリーズ『ジャックと豆の木』		39	
			短編映画欄		40	『ポパイの志願兵』
		8月11日号	<広告>ポパイ、ベティ		無	ポパイとベティのイラスト
		8月21日号	短編映画欄		35	『ドナルドの少年団長』
			一九四〇-四一年度 ユニヴァーサル		49	色彩漫画6本
			一九四〇-四一年度 ワーナー		49	メリー・メロディーズ漫画26本、ルーニー・テューンズ漫画16本
			短篇陣		50	カラー・ラブソディ漫画16本、ファンタジー漫画8本、寓話漫画8本
			一九四〇-四一年度 コロムビア		50	『ドナルドの狐狩り』
		9月1日号	短編映画欄		61	
		9月11日号	日本短篇映画社解消 松竹文化映画課に合流		46	
			編集後記		64	宮沢賢治の童話→「ウォルト・ディズニーのシリーズ・シンフォニーを想はせる優れた魅力にあふれてゐる」
		9月21日号	紐育の映画館		60	クライティリオンで『白雪姫』再上映+ディズニー短篇4本。第1週15000 \$、続映決定。
		10月1日号	日本短篇映画社解消 松竹文化映画課が継承		5	
			ハリウッドから		101	ウォルト・ディズニー、俳優と漫画とのコンビネーションの新機軸『嫌がる龍』
			紐育の映画館		121	『白雪姫』再上映+ディズニー短篇4本、2週10500 \$、3週7000 \$、打ち止め。
		11月11日号	文部省の認定状況 一年間の調査		5	実写・描画→認定14345件、非認定328件
			短編映画紹介		41	『ベティの歌合戦』『ベティの消防犬』『ポパイのローラー・スケイト』
		11月21日号	積極化した漫画製作 GES、大船、極東が乗出す		50	GES→テック助シリーズ、『あひる陸戦隊』。松竹大船→漫画製作部新設『進めフクちゃん』。横浜極東現像所文化映画→大藤信郎『兵衛のなんせんものがたり』
映画旬報	1941	1月1日号	<広告>『ジャックと豆の木』		10	
			文部省の映画製作陣		11	『狐の小父さん』(山本早苗)『仲よく働け』(村田安司)『あひる陸戦隊』(瀬尾光世)

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画旬報			海外製作状況:アメリカ		100	ディズニーの次作は『不思議の国のアリス』か。『ファンタジア』は、映画批評家、音楽批評家をひっくるめて、毀誉褒貶相半ばしてゐる
		1月21日号	文部省認定文化映画総覧 短編映画紹介		167-173 69	O.フィッシングー作品を含む 漫画:『ベティの学芸会』『ベティの料理番』『ポパイの鬼ヶ島』
			内務省検閲済新映画メートル数 紐育の映画館		90-92 103	日本の漫画が多い 『ファンタジア』ブロードウェイで封切。1週27500\$、2週29500\$、3週27000\$。1、2週は満員。
		2月1日号	座談会 映画興行の実際問題	池田照勝、 南波武男ほか	32-38	池田「ニュース劇場のお客は、ニュースが主眼で漫画で楽しみ、文化映画で退屈する」
			漫画映画の統一機関生る		56	「漫画、線画の映画統一機関として日本線画協会(仮称)が近く誕生する…芸術映画社の瀬尾光世、村田安司、東宝映画線画部長大石郁雄の諸氏が中心となり同協会の設立許可を当局に提出することになった」
			内務省検閲済新映画メートル数		95	日本の漫画が多い
		2月11日号	<広告>『ジャックと豆の木』 紐育の映画館		21 98	『ファンタジア』4週24000\$、5週22500\$、6週27500\$。6週満員、「好況続き」
		2月21日号	<広告>『ジャックと豆の木』 映画音楽座談会		13 31-38	『ファンタジア』についての議論を含む
			<広告>『カンガルーの誕生日』 『動物となり組』		39	
			<広告>『発声漫画の出来るまで』		42	
			文部省認定文化映画 内務省検閲済新映画メートル数		60 75-76	『発声漫画の出来るまで』 『カンガルーの誕生日』『動物となり組』『キンタロー体育日記』
		3月1日号	内務省検閲済新映画メートル数		78	『ポパイの大奮戦』『雀のお宿』
		3月11日号	<広告>『ジャックと豆の木』 紐育の映画館		64-65 78 85	『動物防護戦』 『ファンタジア』7週27500\$、8週27500\$、9週21000\$
		3月21日号	文化映画作品紹介 短編映画		57 58	『発声漫画の出来るまで』 『動物となり組』
			内務省検閲済新映画メートル数 紐育の映画館		72 84	『とびこんだ文福』 『ファンタジア』10週21000\$、11週22500\$、12週22600\$
		4月1日号	内務省検閲済新映画メートル数		146-147	『地震ゴリラ』『動物となり組』『ポパイの大殺陣』『ポパイの拳骨床屋』
		4月11日号	学年末休暇を利用 国劇で児童映画会 映画館の頁		154 90	『ポパイの武勇伝』 京都:松竹座が吉例の家族週間→『ウガンダ』と漫画大会→京都で最高の成績
			告知板:最近の非一般映画 紐育の映画館		91 94	『とびこんだ文福』(日本動映) 『ファンタジア』13週24000\$、14週25000\$、15週24500\$→「素晴らしい好調」
		4月21日号	紐育の映画館		86	『ファンタジア』16週23000\$、17週20000\$→「なほも相当の好調」
		5月1日号	海外製作状況:ソヴェト		75	色彩漫画の製作始る:『サルタン王物語』ヴェ&ゼ・ブルムベルク姉妹、『鼠が猫を葬った話』アイワーノフ
			内務省検閲済新映画メートル数		88	日本の漫画が多い
		5月11日号	<広告>長崎拔天作品 海外製作状況:ドイツ		41 55	漫画『鼻合戦』 色彩漫画『牧場の倭人』ゲルハルト・クリューガー→「漫画的センスが湧溢して居て、その点、アメリカものに対して遜色ない」
			『ジャックと豆の木』	滋野辰彦	71	批評(「日本にアメリカあたりのやうな良い漫画映画がつかられない現在、両氏の影絵映画はおほいに尊重されていいものだと思ふ」)
			内務省検閲済新映画メートル数 紐育の映画館		72-73 90	『ジャックと豆の木』ほか 『ファンタジア』18週18000\$、19週17000\$
		5月21日号	内務省検閲済新映画メートル数		80	『海国太郎新日本島万歳』ほか
		6月1日号	<広告>『動物となり組』 紐育の映画館		56 100-102 118	『ポパイの大平原』ほか 『ファンタジア』20週18000\$、21週16500\$
		6月11日号	大陸映画座談会	鈴木重三郎、 筈見恒夫ほか	45-54	『ピノキオ』『白雪姫』について言及
			外国漫画紹介		68	
			内務省検閲済新映画メートル数 紐育の映画館		86-87 96	『あひる陸戦隊』ほか 『ファンタジア』22週20000\$
		6月21日号	ワルト・ディズニースタジオに働く 邦人二世と語る 外国漫画紹介		35-37 71	日系7人(日本語は殆ど話せない)との座談会
			内務省検閲済新映画メートル数		80	『文福茶釜』ほか
		7月1日号	内務省検閲済新映画メートル数 紐育の映画館		104-105 121	『なまげつね』『マー坊の大陸宣撫隊』 『ファンタジア』23週15000\$、24週12500\$、25週10000\$
		7月11日号	教育映画の現状 紐育の映画館	板垣鷹穂	22-26,31 71	児童劇映画で優れたもの→『ジャックと豆の木』 『ファンタジア』26週9000\$、27週9000\$

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画旬報		7月21日号	内務省検閲済新映画メートル数		57	『ポパイのカウボーイ』
		8月11日号	児童教育映画について	稲田達雄	32-33	『黄金の鉤』『べんけいとウシワカ』『カンガールの誕生日』
			漫画映画製作は冒険である	ウォルト・ディズニイ(大門一男訳)	39-43	
			内務省検閲済新映画メートル数		52-53	『チュー助の報恩』『海国太郎新日本島万歳』
			海外状況		54	ディズニーの次回長篇は『ジャックと豆の木』
			紐育の映画館		61	『ファンタジア』28週9000 \$、29週11500 \$
		8月21日号	映画新体制展覧会		7-9	横浜シネマ研究所とディズニー・スタジオを中心とする「漫画映画の製作過程」の説明あり
			海外状況		52	イタリアのディズニイ:セルジヨトファーノ『おうむの島』
			内務省検閲済新映画メートル数		56-57	『マー坊の東京オリムピック大会』『ポパイの海底王』
			紐育の映画館		65	『ファンタジア』30週10000 \$、31週9500 \$
		9月1日号	内務省検閲済新映画メートル数		52-53	『カンガールの誕生日』
		9月21日号	内務省検閲済新映画メートル数		63	『のらくろ二等兵 教練の巻』『黒猫万歳』
		10月11日号	教育映画業者の陳情		6	教育映画同業組合が教育映画、漫画製作の一社設立案を内務省・文部省へ陳情。
			内務省検閲済新映画メートル数		52-53	『かちかち山』『夢の魔術師』『かへる剣法』
		10月21日号	<広告>『かぐや姫』		10	
			内務省検閲済新映画メートル数		54	『ポパイの幽霊屋敷』『かえるの剣法』
		11月21日号	内務省検閲済新映画メートル数		53	『改訂 マー坊の大陸宣撫隊』
		12月1日号	統合直前の文化映画界		28-30	横浜シネマ商会:「最近新スタジオを竣工したばかりで、本格的に文化映画や漫画映画の製作にも乗り出す計量があったらいいが、今度の統合でこれも中止の運命になった」
		12月11日号	<広告>『かぐや姫』		15	
			『ダムボオ』		43	批評(称赞「ディズニイ流の絵と色彩の見事さ」)
			内務省検閲済新映画メートル数		48	『ポパイの子煩悩』
1942	1月1日号		<広告>『かぐや姫』		無	2頁広告
			内務省検閲済新映画メートル数		92	『マー坊の大陸宣撫隊 前篇サーカスの巻』『雷ゴロ吉下界修行』
		2月1日号	<広告>『かぐや姫』		無	2頁広告
			<広告>『こがね丸』(製作中)		18	
			内務省検閲済新映画メートル数		102	『かりた帽子』『マー坊の大陸宣撫隊』
		2月11日号	去年の文化映画	今村太平	31-34	ディズニーの『家鴨と電気人形』に言及
			移動映画運動の根底	永原幸夫	38-40	今後の上映希望映画→3位 漫画 245票
		2月21日号	『かぐや姫』	清水晶	33-34	批評(「過渡期」と捉える)
		3月1日号	昭和十六年度 文化映画封切表		58-62	『発声漫画の出来るまで』(認定、ただしアニメーションではない)『ジャックと豆の木』(認定されていない)
		3月21日号	国民学校教科用映画発表		16	課外用映画:『あひるの子』
			外地映画通信		31-32	長篇漫画『鉄扇公主』:大上海大戲院で30日間続映。日本映画館でも邦人に絶賛、連日満員。
			『かぐや姫』	鈴木勇吉	47	批評(おおむね称赞「添物としての効果を發揮」)
			<広告>東和商事提供短篇映画一覧表		無	『光の交響楽』シリーズ、影絵映画『黄金の鉤』、漫画『森の妖精』『雀のお宿』『雷のゴロ吉下界修行』『お猿三吉おらが艦隊』『無敵正義軍』『お山の大将』
		4月11日号	文化映画・短編映画製作状況		37	『桃太郎陸軍部隊』瀬尾光世 製作中
			昭和十七年 一月より三月 封切映画一覧		58-62	『空の勇者』『マー坊の鉄血陸戦隊』『チュウ児の羽衣』『かぐや姫』『僕等の海兵団』『フクちゃん奇襲』『マー坊大陸宣撫隊(前・後)』
		5月1日号	児童映画偶感	清水晶	42-43	漫画『フクちゃん奇襲』が、一番の大喝采
		5月21日号	文化映画・短編映画製作状況		22	『桃太郎海軍部隊』撮影中。『国語』線画・瀬尾光世 準備中
			中国の長篇漫画映画 鉄扇公主		31	紹介、写真
		6月1日号	東日児童文化映画劇場		20	日本には漫画製作が大不振→支配人、番組編成にたいへんな苦心
			ニュース映画館のこと	徳永直	58	映画の低調を嘆く(「ポパイ物もダメ、ミッキイ物も行詰り…もうあいそが尽きた」)
		6月11日号	上海映画通信	白川武夫	14-15	『白雪姫』再上映
			紅白往来		50	「相撲、漫画、影絵の三種類は南方への輸出映画として劇映画よりむしろ適応性が豊富である」
		6月21日号	文部省の教化用映画内定		27	課外用映画:『猿正宗』『海の桃太郎』『文福茶釜』ほか
		7月1日号	昭南と映画	北町一郎	13-15	漫画、ニュース、劇映画を原則に上映
			漫画映画文化映画紹介		52-53	『桃太郎空襲部隊』(仮題)『アリチャン』『マー坊の大陸宣撫隊』
			漫画映画の諸問題	今村太平	56-58	戦時宣伝のために優れた漫画映画の製作の必要性を主張。ディズニー作品の優秀性を説明。
		7月11日号	日本映画の租界進出について	筈見恒夫	6-9	『白雪姫』を称赞(「『白雪姫』の美しさに、心を惹かれ、嫉ましくも思った」)
			<広告>『鉄扇公主』		無	
			児童映画の現状を語る	三橋達吉 筑紫義男 稲田達雄 関谷五十二 今村太平 村上忠久 友田純一郎	33-35	映画法の枠外におかれた映画(漫画映画を含む)について検討。稲田「児童映画とか漫画映画を作るための資料が予定されておないとすれば、それを出して貰ふやうに陳情する」。三橋「漫画をやっている人達が心配して、どうなるんだらうと文部省に見えたので、懇談をしたことがある。文部省としては…大いにやるつもり」
		7月21日号	影絵映画について	荒井和五郎	10-13	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画旬報			<広告>『西遊記』(『鉄扇公主』改題)		無	
			漫画・影絵・ホームグラフ・相撲映画を語る	三橋達吉 筑紫義男 稲田達雄 関谷五十二 今村太平 村上忠久 友田純一郎	18-22	漫画映画製作の急務が検討されるが、映画新体制における漫画映画の割合は未定。南方への漫画映画の輸出にたいして、今村・三橋(文部省社会教育官)・筑紫(内務省検閲官)が賛成。
		8月1日号	<広告>『西遊記』(『鉄扇公主』改題)		無	
		8月11日号	<広告>『西遊記 鉄扇姫の巻』		無	3頁
		8月21日号	短篇漫画の配給 単売制で決定す		5	
			<広告>『西遊記 鉄扇姫の巻』		無	2頁
		9月1日号	<広告>『西遊記 鉄扇姫の巻』		無	4頁
			シーズン・トップの興行予想	紅白亭	64	『西遊記』の興行予想:紅白亭→期待できない。映配→大変な自信。いずれにせよ『西遊記』がヒットすれば中華の画に信用がついて共栄圏映画の公開が非常にやりやすくなる大事な興行
			内務省検閲済新映画メートル数		70	『アリチャン』ほか
		9月11日号	<広告>『西遊記 鉄扇姫の巻』		無	4頁(製作プロセスの解説あり)
		9月21日号	<広告>『西遊記 鉄扇姫の巻』		無	2頁
			内務省検閲済新映画メートル数		52	『凸之助武勇伝』ほか
		10月1日号	劇映画の恥辱記録	清水千代太	3	『西遊記』→封切成績5~7位の見込み
			漫画映画評	今村太平	39	『西遊記』批評(称賛「日本映画界の顔色を奪ふ」「作画はわが国の漫画映画に比べて格段に秀れ」)
			中国映画人評伝:萬籟鳴 萬古蟾	清水晶	41	紹介と賛辞(「現下のひからびた支那映画界に真に貴重な存在」)
			興行展望		54	『西遊記』『空の神兵』(文化映画)2本立、大当たり→「文化映画と漫画のために劇映画が惨敗を喫するなどは数年前までは興行者は夢だに想はなかったことであらう」
			内務省検閲済新映画メートル数		57	『べんけい対ウシワカ』ほか
		10月11日号	興行時評	石巻良夫	53	『西遊記』のヒットを鑑みて、「本当に楽しめる映画」の必要性を日本の劇映画に訴える。
		10月21日号	興行展望		47	昭和17年度前半期封切成績:『西遊記』5位
			封切映画一覧表(四月-九月)		53-54	
		11月1日号	華北ニュース		41	華北電影が影絵映画を製作:『快樂的朋友』
			華京十夜	鈴木重三郎	42-44	華北電影の影絵映画について
			内務省検閲済新映画メートル数		78	『アリチャン』
		11月11日号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	2頁
			上海映画通信		47	萬兄弟、中華電影会社と契約
		11月21日号	内務省検閲済新映画メートル数		54	『桃太郎の海鷲』ほか
		12月1日号	<広告>『桃太郎の海鷲部隊』		無	
			敵国アメリカの映画界	田口修治	68-69	ディズニーの宣伝映画製作に言及
			戦争と映画	今村太平	75-78	映画の思想宣伝力の一例→文盲の老婆がディズニーの漫画映画を驚異をもって見たこと
			軍事関係製作の漫画映画に就いて	米山忠雄	84-85	戦時下における漫画映画の重要性を主張。『桃太郎の海鷲』『ニッポンバンザイ』『マー坊の落下傘部隊』紹介
		12月11日号	内務省検閲済新映画メートル数		52	『太郎さんの冒険撮影』
	1943	1月1日号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
			内務省検閲済新映画メートル数		78	『日の丸太郎おぼけ退治の巻』
		1月21日号	興行展望		41	大阪朝日会館の吉例マンガ大会→「全大阪から阪神間の子供を吸収した観があった」
			<広告>傑作封切漫画大会 三幸商会製作 映画配給社配給		45	『スパイ撃滅』『敵機来らば』『協力防空戦』『キンタロー体育日記』『健康は幸福』『牛若丸』。「国民に見せて欲しい、見て欲しい!!」「ダレニデモワカルタメナル漫画」
		2月1日号	昭和十七年度の検選定映画の成果		5	課外用選定映画合格→線画14、影絵11
			大華(ロキシ-ン)映画専門館に転向		5	『桃太郎の海鷲』封切予定
			興行成績決算		31-33	9月:『西遊記』『空の神兵』二本立→劇映画『母の地図』『お市の方』を粉砕
			作品別全国封切成績順位一覧表(自四月第一週至十二月第三週)		33	『西遊記』『空の神兵』→12位
			映写科学常識	田口柳三郎	43-51	『ファンタジア』→立体トーキーの例
			昭和十七年度自十月至十二月封切映画一覧		57-59	『協力防空戦』『踊るエンヂン』『夢の浦島』『金太郎』『空の慰問隊』『海の小勇士』
		2月11日号	本年度文部省推薦		4	第二回『桃太郎の海鷲』→描画として最初
			『桃太郎の海鷲』		19	紹介
		2月21日号	勤労映画の方向	鈴木肇	30-31	『フクチャンの増産部隊』→「誰にでも喜ばれる漫画で鉱山労働者の生活指導を扱った」
			<広告>『ニッポンバンザイ』		33	「誰ニデモワカル時局映画」
			短編映画紹介		36-37	『くもとちゅうりっぷ』『空の慰問隊』『海の小勇士』『協力防空戦』『塩原太助』『夢の浦島』『皇国のために』『金太郎』『踊るエンヂン』
			内務省検閲済新映画メートル数		42	『くもとちゅうりっぷ』ほか
		3月1日号	マライ映画断想	小出英男	22-23	『ファンタジア』『白雪姫』『ガリバー旅行記』『ピノキオ』『ダンボ』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画旬報			最近の漫画映画	今村 太平	26-27	『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』『フクちゃん奇襲』批評(『くもとちゅうりっぷ』を最も称賛「ウォルト・ディズニーのシリー・シンフォニーに迫った佳作」)
			真珠湾以後の敵国アメリカ映画界	徳澤 献子	28-30	ドナルド・ダック主演の色彩漫画『ニュー・スピリット』→納税報告の宣伝映画。ディズニー作品の75%が国策宣伝映画
			<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
		3月11日号	移動映写整備強化		7	映画配給社の一支配下、フィルム・ストックが粗末→漫画8本、しかも相当古い。
			<広告>『桃太郎の海鷲』		無	3頁「米利犬製のベティ・ブーブやポパイなんかとは月とスッポンの違いだ！」
		3月21日号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	3頁「米利犬製漫画映画撃滅！」
			短編映画紹介		25	『城主と太郎』『スパイ撃滅』『芋と兵隊』
			内務省検閲済新映画メートル数		32	『映記版 城主と太郎』
		4月1日号	<広告>『くもとちゅうりっぷ』		無	見開き2頁と1/3頁
			昭和十八年 一月-三月封切映画一覧表		38-40	『桃太郎の海鷲』『ハタラク動物』『健康は幸福』『城主と太郎』
		4月11日号	昭南映画界管見	徳川 夢声	63-66	『ファンタジア』を称賛「途方もない野心作」「終始私は息をつめ見物した」
			興行展望		100	『桃太郎の海鷲』→「日本の漫画映画が呼び物作品となってかくの如き数字を示したことは嘗てないこと」
		4月21日号	興行展望:長篇漫画初陣の巧名		48	『桃太郎の海鷲』→「日本の漫画映画も興行的に可能である認識が一般に出来た」
		5月1日号	インドネシア人と映画-「大東亜ニュース」マライ版を中心に-	北町 一郎	24-27	線画を一部使用。「線画一馬半島上陸地点及び地名シンゴラ、コタバル、そして進攻路線画」
		5月11日号	松竹動画研究所 製作活動活発		5	
			<広告>『ニッポンパンザイ』		20	
			敵国アメリカの宣伝映画と日本の対外映画宣伝の考察	赤峰 俊	21-23	漫画映画→「日本独特のもの」や、フクちゃんなどで政治的なものを希望
			興行展望		32	『くもとちゅうりっぷ』→称賛「漫画映画の佳品」。ただし併映の劇映画『家』のため興行成績は低迷。『家』→「漫画でもなかったらおそらく最低の興行数字を現出したにちがひない」「くもとちゅうりっぷ」が多少はものを云ふかと思ひきや一向に助とならない」
			内務省検閲済新映画メートル数		34	『お猿三吉無敵艦隊』
		5月21日号	警視庁調査帝都映画鑑賞者数十七年度は最高数字を記録		3	『桃太郎の海鷲』→65万円強をあげ「気を吐いた」
			松竹動画研究所改称		7	松竹「漫画制作部」へ改称
			興行展望:「家」最悪の記録を現出す!			『くもとちゅうりっぷ』が之と組まれ、相当客には喜ばれたが、吸引力の点ではさして影響は見られなかった」
			興行収入		33	『桃太郎の海鷲』10位、『西遊記』25位
			内務省検閲済新映画メートル数		34	『マー坊の落下傘部隊』
		6月1日号	上海大華大戲院(Roxy)上映日本映画興行成績表		21	『桃太郎の海鷲』S.18年1/24-29。6日間の入場者数2441人中、中国人80%日本人20%
		6月11日号	新認定文化映画		4	『ニッポン・パンザイ』
			漫画執筆養成 女性に呼び掛く漫画と童心	波多野 完治	8-9	『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』→表現技術を称賛、内容に不満。「アメリカの漫画には「童心」がある」
			<広告>線画映画研究所 川島画室		19	線画、字幕 (以降、ほぼ毎号掲載)
		6月21日号	<広告>『マンガ映画決戦大会』		無	2頁と1/2頁。『フクちゃんの増産部隊』『お山の防空軍』『マー坊の落下傘部隊』『ナカヨシ行進曲』『お猿三吉 戦ふ潜水艦』
			『ニッポン・パンザイ』	村上 忠久	19	紹介と批評(おおむね称賛「相当に成功したと言える効果を収めてゐる点で注目さるべき物」)
			<広告>川島画室		27	線画、字幕
			内務省検閲済新映画メートル数		30	『ニッポン・パンザイ』
		7月1日号	<広告>『マンガ映画決戦大会』		無	3頁
			<広告>『ナカヨシ行進曲』		18	
			文部省認定文化映画		34	『ニッポン・パンザイ』
		7月11日号	映画検閲中の特殊事情	池田 国雄	28-29	朝鮮で検閲した映画(昭和16年中)→『三吉とおさよ』『ベティの学芸会』『お蝶夫人の幻想』『夢の招集令』
			漫画映画の改善に研究会設置さる		57	社団法人日本少国民文化協会に設置
			文部省の新選定映画		57	全学年向→『マー坊の落下傘部隊』『お猿三吉 戦ふ潜水艦』
		7月21日号	第二次国民映画普及会 描画批評	村上 忠久	4	『マー坊の落下傘部隊』
			興行展望:漫画日曜に効果発揮		15	『フクちゃんの増産部隊』『お山の防空軍』『マー坊の落下傘部隊』『お猿三吉 戦ふ潜水艦』
			興行展望:漫画日曜に効果発揮		31	『マンガ映画決戦大会』『大陸新戦場』の混合番組→日曜に児童を吸引。「映画統制の枠外に置かれた漫画映画は興行の現実では活発に国家に寄与しつつある」
			内務省検閲済新映画メートル数		34	『お猿三吉 戦ふ潜水艦』
		8月1日号	興行展望		32	『マンガ映画決戦大会』『大陸新戦場』→戦記映画のなかで下から2位。「漫画の力を藉りても下から二位の成績だから戦記映画の興行的処理は如何に難しいか」

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画旬報		8月11日号	文化映画脚本の事前検閲に二本申請		5	『マー坊の天奇襲』内務省の脚本事前検閲に申請
			馬来映画通信	神保環一郎	15-17	『ピノキオ』を称賛「こんな美しい楽しい映画を見てゐるマレーの子供達をどんなに羨しく思ったか知れなかった・・・こんな映画を自分達の子供に与へることさへ出来ない日本映画界に義憤を感じた」
			興行展望		33-34	『マンガ映画決戦大会』『大陸新戦場』京阪神の成績
		8月21日号	漫画を年二本 松竹の製作本数割当		5	
			興行展望		34	『マンガ映画決戦大会』『大陸新戦場』名古屋の成績
		9月1日号	漫画にも認定制適用		4	文部省は漫画映画を文化映画の認定圏外にしていたが、『桃太郎の海鷲』『ニッポン・パンザイ』などで質的向上が見られるため、今後は優秀であれば漫画映画も文化映画として認める予定
		9月11日号	日本移動映写連盟結成 九月一日より新発足		4	全国鉱山部会の指定鉱山に巡回、第一回プログラムに『桃太郎の海鷲』を含む
		10月1日号	第九回文部省選定 課外用、青年向映画		5	国民学校課外用映画→『マー坊の落下傘部隊』『お猿三吉 戦ふ潜水艦』
		10月11日号	南支映画界報告	近藤百太郎	10-13	『鉄扇公主』→「中国の名画」といわれる。「再映につぐ再映でも依然人気落ちない」
			ジャワに於ける映画的基盤—その歴史的概況(二)	川名完次	15-20	『白雪姫』→華僑、インドネシアの観客に人気。配給収入は『大独裁者』『風と共に去りぬ』についで3位
		11月1日号	昭和十八年四月—十月封切映画一覧表		31-32	『ニッポンパンザイ』『フクチャンの増産部隊』『お山の防空軍』『マー坊の落下傘部隊』『ナカヨシ行進曲』『お猿三吉 戦ふ潜水艦』『嵐さはぎ』『天空旅行』
			内務省検閲済新映画メートル数		34	『天空旅行』
		11月11日号	華北映画通信		15	中国学校巡回映写、『マー坊の南海奮戦記』を含む
			南方映画往来	高木俊郎	16-20	ジャワ島でアメリカの漫画映画を日本の漫画映画のかわりに上映
			名古屋「産報会館」報告	本郷一夫	35	1943年8月に『桃太郎の海鷲』上映
		11月21日号(終刊号)	『マレー沖海戦』		62	紹介
映画教育	1928	3月号(創刊号)	時報		30-32	○『ジラフの首はなぜ長い』『蝸の骨』上映情報 ○大毎フィルム・ライブラリーの成績 半年間の貸出回数→線映画2位(1位の教訓映画とほぼ同数) ○巡回フィルム連盟映画プログラム A班『火星旅行』B班『一寸法師』D班『蛙の王様』
		4月号	学校教育における活映教育の実際問題	吉崎民之輔	3-4	教育漫画をプログラムの一つに希望
			教材映画解説資料 飛行機の話	中正夫	18-20	線画の図解写真
			『花咲爺』		27	
			教育映画界消息		30	岡本洋行→漫画『文福茶釜』村田安司製作中
			時報		28-31	『動物サーカス』(パラマウント)『花咲爺』上映情報
			大毎フィルムライブラリー 三月の成績		31	貸出回数→線映画28(計157中)
		5月号	昭和二年度文部省推薦映画一覧		7	童話人形劇『蛙の王様』、線画『蝸の骨』『花咲爺』→娯楽的一般向
			<広告>学校巡回フィルム連盟		無	プログラムA『火星旅行』B『一寸法師』D『蛙の王様』
			教材映画解説資料 潜水艦について	古田中博	22-23	線画の図解写真
			学校巡回フィルム連盟 第一回映写会所感		25	『火星旅行』感想(「ホツとして映笑がそここりにきこえて盛会であった」)
			時報		26-30	漫画『フェリックスの野球戦』『風船玉』上映情報
			大毎フィルムライブラリー 四月の成績		30	貸出回数→線映画4(計77中)
		6月号	『七つの夢』の一場面		表紙	スチール。影絵映画風
			<広告>学校巡回フィルム連盟		無	プログラムA『火星旅行』B『一寸法師』D『蛙の王様』
			子供に見せたいと思ふ映画		14-16	『カリフの鶴』『蝸の骨』(スチール)『壺』『みかん船』『花咲爺』。大藤信郎の千代紙映画。「凸坊新画帳」。
			学校の映画教育(三)		24	プログラム→低学年:線画『蝸の骨』『正ちゃんとなズミ』高学年:線画『懸賞尋ね人』『ガムズ就職の巻』
			教育映画界消息		30	アクメ商会 漫画『孫悟空』発売
			時報		27-32	『豹の斑はかうしてできる』『ジラフの首はなぜ長い』『花咲爺』
			大毎フィルムライブラリー 五月の成績		32	貸出回数→線映画26(計110中)
		7月号	児童映画に望む	大藤信郎	7	
			新作映画の物語と解説 誌上家庭映画週間		8-22	『きりぬき浦島』『孫悟空』『文福茶釜』『日本一の桃太郎』『花咲爺』(すべてスチール付)
			教育映画界消息		31	岡本洋行→漫画『文福茶釜』、タカマサ映画社→漫画『日本一の桃太郎』、千代紙映画社→実景応用千代紙細工映画『きりぬき浦島』8月中旬完成予定、銀映社→『四十人の盗賊』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育		8月号	時報		29-32	線画『ジラフの首はなぜ長い』上映情報
			大阪学校巡回映画連盟 第三回 試写研究会 教育映画界消息		31	人形映画『蛙の王様』
			<広告>『牛若と弁慶』		無	「新様式影絵映画」、東京シネマ商会
	9月号	大毎フィルムライブラリー 昭和三年 前半期購入映画一覧 教育映画界消息		17	漫画『文福茶釜』『花咲翁』『協調』『蝸の骨』	
		<広告>『牛若と弁慶』		無	「新様式影絵映画」、東京シネマ商会	
		東京線画フィルム研究所『舌切り雀』(金井木 一路、山本早苗)		27	東京線画フィルム研究所『舌切り雀』(金井木 一路、山本早苗)	
			『動物オリムピック大会』		28	梗概とスチール
			時報		29-32	プレイ漫画『奇妙々々』(児童映画の夕で上映)
			大毎フィルムライブラリー 八月の 成績		32	貸出回数→線映画53(計239中)
			<広告>『牛若と弁慶』		無	「新様式影絵映画」、東京シネマ商会
			<広告>名物 村田安司漫画集		無	『猿蟹合戦』『蝸の骨』『花咲翁』『文福茶釜』『動 物オリムピック大会』、アテナ・ライブラリー
	10月号	学校映画会めぐり 東平野第二小 小学校		14-15	『動物オリムピック』→「始めから終わりまで満場破 れるやうな拍手と哄笑、爆笑」	
『舌切り雀』			27-28	梗概とスチール		
大阪学校巡回映画連盟			30	漫画『動物オリムピック』		
			大毎フィルムライブラリー 九月の 成績		32	貸出回数→線映画12(計116中)
	11月号	学校映画会めぐり(二) 天王寺第 五小学校		22	『動物オリムピック』	
学校巡回映画連盟			23	11月のプログラム A組『舌切雀』 C組『動物オリ ムピック』		
時報			30-32	『動物オリムピック』『文福茶釜』『蝸の骨』上映		
			<広告>映画教育・講演と映画の 会		31	漫画『動物オリムピック』
	12月号	新作小型映画紹介		18	16ミリ映画『花咲翁』『動物オリムピック』『文福茶 釜』『パター・ベビー』『花咲翁』	
学校巡回映画連盟			19	12月のプログラム 乙種『舌切雀』 丙種『動物 オリムピック』		
<広告>農村教育映画の会			31	プログラムに漫画あり		
			時報		30-33	漫画『舌切雀』『動物オリムピック』、千代紙細工 映画、線画『忠臣蔵』上映情報
			教育映画界消息		33	「村田安司氏の漫画『蛙は蛙』、アテナ・ライ ブラリー
			<広告>短編映画の珠玉一実写 と漫画の粋一		無	『猿蟹合戦』『蝸の骨』『花咲翁』『文福茶釜』『動 物オリムピック大会』、アテナ・ライブラリー、サク ラ・グラフ
1929	1月号	大毎フィルム・ライブラリー 昭和 三年後半期購入映画一覧 映画会を開くまでの用意	大貫三蔵	無	線画『動物オリムピック大会』『三人組の冒険』 『舌切り雀』	
		時報		37	『動物オリムピック』→「大人も子供もやんやとい はせました」	
		時報		38-41	『動物オリムピック』『舌切り雀』『花咲翁』上映情 報	
	2月号	『アクメッド王子の冒険』の一場面		表紙	スチール	
影絵映画『アクメッド王子の冒険』			10	梗概		
千代紙映画『黄金の花』			30	梗概とスチール		
			新作小型映画紹介		32	16ミリ映画『ジラフの首はなぜ長い』『猿蟹合戦』 『蝸の骨』
			時報		32-34	○『動物オリムピック』上映情報。○横浜シネマ 商会→漫画『蛙は蛙』完成発売中、東京線画 フィルム研究所→移転、千代紙映画社→移転 アテナ・ライブラリー新作
	3月号	<広告>村田安司漫画『蛙は蛙』		無		
第一回全国活映教育大会記			8-19	新作教育映画試写→漫画『蛙は蛙』。宝塚大劇 場の家庭映画鑑賞会→『蝸の骨』『動物オリム ピック』		
科学漫画『アルキメデスと黄金の 王冠』			26	梗概とスチール		
			衛星映画『寄生虫』		27	梗概とスチール。線画あり。
			教育映画界消息		27	『アクメッド王子の冒険』→文部省推薦映画に
			時報		29-32	○『蝸の骨』『動物オリムピック』『文福茶釜』上 映情報○学校巡回映画連盟 2月のプログラム 隔月組第六回 漫画『舌切り雀』
			大毎フィルムライブラリー 二月の 成績		32	貸出回数→漫画38(計169中)
			<広告>『ジラフの首はなぜ長い』 『蝸の骨』		無	サクラグラフ
	4月号	漫画『蛙は蛙』		32-33	梗概とスチール	
教育映画界消息			38-39	北山活映紹介開設。『蛙は蛙』→文部省推薦映 画に。村田安司は『太郎さんの汽車』を製作中。		
時報			39	『蛙は蛙』工場映画連盟で試写		
			<広告>短編映画の珠玉		無	漫画『猿蟹合戦』『蝸の骨』『花咲翁』『文福茶 釜』『動物オリムピック』『蛙は蛙』『ジラフの頸』
			<広告>『寄生虫』		無	線画と実写。内務省衛生局作製映画
	5月号	教育映画における表現形式の価 値	印南亨	2-3	『アクメッド王子の冒険』スチール(内容は触れ ない)	
『浦島太郎』			21	人形映画。紹介とスチール(コマ撮り法か不明)		
			時報		22-26	○『蝸の骨』『舌切雀』上映情報 ○千代紙映画 『こがねの花』→「繊細な技巧と、グロテスクでし かもユーモアに富んだ内容と相俟って、十分に 観客を魅了してしまったやうであった」

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			学校巡回映画連盟近況		27	東京→A班:漫画『蛙は蛙』。大阪→隔月組:線画『蛙は蛙』、毎月組:線画『南京街』。
			教育映画界消息		27-28	東京シネマ商会→大藤信郎氏作千代紙映画『こがねの花』発売。横浜シネマ商会→村田安司氏の漫画『太郎さんの汽車』完成。千代紙映画社→「従来製作の千代紙映画は今度同社で直接発売することになったが、なほ今後は教育ものに力を注ぐ」と。伴野商店大阪支店→千代紙映画『孫悟空物語』『珍説吉田御殿』『パターベビー映画』として発売中。
			人事往来(四月)		28	大藤信郎氏→『こがねの花』鑑賞会の件で11日来阪、14日本社における同鑑賞会に臨んで15日帰東
			<広告>『寄生虫』		無	線画と実写。内務省衛生局作製映画
			<広告>『こがねの花』		無	
		6月号	線映画の撮影法	大藤信郎	17-18	
			学校映画説明一ヶ年の所感	叶忠司	23-24	児童の最も喜ぶ映画＝線画。「とくに動物オリムピック大会は最も喜んで手の鳴りが止まなかった」
			時報		26-27	教材映画『アルキメデスと黄金の王冠』上映情報
			学校巡回映画連盟近況		28	6月の巡回映画プログラム→線画『太郎さんの汽車』5月の巡回映画プログラム→大阪隔月組:線画『蛙は蛙』。和歌山:線画『一寸法師』
			人事往来(五月)		29	佐伯永輔氏→新作線画『太郎さんの汽車』を携へ16日来社
			<広告>『太郎さんの汽車』一新作村田安司漫画一		無	「思はず吹き出す様なユーモア!ワツと腹を抱へる爆笑。その軽妙洒脱な新鮮味は正に村田安司漫画の新機軸」※イラスト付
			<広告>『寄生虫』		無	線画と実写。内務省衛生局作製映画
		7月号	<広告>教育映画夏期大学		無	線映画の作り方 北山清太郎氏
			『太郎さんの汽車』		22	梗概とスチール
			『アリババの話』		23	梗概とスチール。『四十人の盗賊』を改題、且つ教育用に二巻に編集しなおしたもの
			一六ミリ映画		23	『猿の合戦』村田安司氏作漫画。『孫悟空』大藤信郎氏作千代紙細工映画。『太郎と白』(学校の巻、毛生え葉の巻)漫画。『フェリックスの願ひ』
			時報		28-29	『ジラフの首はなぜ長い』『動物オリムピック』上映情報
			学校巡回映画連盟だより		31	6月の巡回映画プログラム→東京A班:漫画『舌切り雀』。大阪毎月組:線画『太郎さんの汽車』。奈良市:線画『南京街』。金沢市:線画『花咲爺』
			<広告>『太郎さんの汽車』		無	文部省推薦。アテナ・ライブラリー
			<広告>パターベビー新作映画		無	新作千代紙細工『孫悟空物語』『珍説吉田御殿』線画『桃太郎』『猿蟹合戦』『花咲爺』
		8月号	一六ミリ映画		18	『懂れて』教育漫画、作画若山赤童、操作東浦康介
			パターベビー映画		18	新輸入映画→『アラダンの不思議なランプ』(映画)
			線映画の撮影法(2)	大藤信郎	19-20	
			最近教育映画目録		32-35	[保健、衛生、生理]→『病毒の伝播』。[博物、物理、化学]→『星』『蒸気機関の構造』『電送写真』。[童話]→『壺』『七つの夢』『馬具田城の盗賊』『西遊記孫悟空物語』『みかん船』『きりぬき浦島』『吉田御殿』『猿蟹合戦』『蜻の骨』『花咲爺』『文福茶釜』『動物オリムピック』『花咲爺』『或夜の都』『日本一の桃太郎』『孫悟空』『蛙の王様』『大和魂』『法螺大佐の猛獣狩』『舌切り雀』『海姫物語』(劇映画、政岡憲三)。[社会、教化宣伝]→『貧乏神と金』『世の為人の為己を守れ』
			時報		36	線画『太郎さんの汽車』上映情報
			学校巡回映画連盟だより		38	神戸市:線映画『太郎さんの汽車』、岐阜市:線画『花咲爺』、徳島県:線画『蛙は蛙』上映。7月の巡回映画プログラム→大阪隔月組:線画『太郎さんの汽車』。奈良市:線画『蛙は蛙』
			<広告>『太郎さんの汽車』		無	文部省推薦。アテナ・ライブラリー
		9月号	大毎フィルム・ライブラリー 昭和四年前半期購入映画一覧		無	理科的教材→『アルキメデスと黄金の王冠』『寄生虫』。漫画→『南京街』『蛙は蛙』『太郎さんの汽車』
			故牧野省三氏と教育映画	北山清太郎	4-5	「線画を盗みに来た?牧野さん」
			わが国最初の映画教育夏期大学		6-9	「線映画の作り方」北山清太郎講演(顔写真あり)。線画『蛙は蛙』上映。
			パターベビー映画		18	新輸入映画→『フェリックスの怪談』『フェリックスの復讐』
			時報		28	線画『太郎さんの汽車』上映情報
			<広告>『癩取り』村田安司次回作品		無	アテナ・ライブラリー
		10月号	千代紙映画『うそつき城』の一場面		表紙	スチール
			映写日記	關猛	10-11	『蛙は蛙』上映
			線映画の撮影法(3)	大藤信郎	18-19	
			千代紙映画『うそつき城』		23	梗概。『珍説吉田御殿』を教育的に増補改正一巻物とせしもの

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			小型新映画紹介		25	16ミリ→『蛙は蛙』『フェリックスの願ひ』。パターベビー→フェリックス3本、『トビーの酒呑巡査』『動物小屋の椿事』『メカニカ博士のお目ざめ』『新式飛行船』『乱暴な自動車』
			時報		30-31	『ワン公の活動狂時代』『蛙は蛙』上映情報
			学校巡回映画連盟だより		31	10月のプログラム→大阪毎月組:線画『アリババの話』9月のプログラム→金沢市:線画『太郎さんの汽車』。岐阜市:線画『南京街』。奈良市:線画『花咲翁』。
			<広告>『瘤取り』村田安司新作お伽漫画		無	スチール2枚。「新手法シルベットを用いた夜間シーンの見事さ」
		11月号	<広告>『瘤取り』		無	「すでに世の定評ある村田安司漫画の中のこれはまた近來になき改心の作」
			映写日記(続)	關猛	8-9	『蛙は蛙』『動物オリンピック大会』『七つの夢』『太郎さんの汽車』上映
			小型新映画紹介		17	
			漫画『瘤取り』		23	梗概とスチール
			漫画『二つの太陽』		23	梗概
			時報		29-30	『太郎さんの汽車』『ホラ大佐猛獣狩』『蛙は蛙』上映情報
			学校巡回映画連盟だより		31-32	10月のプログラム→関東A組:漫画『アフリカ探検』。関西毎月組:影画『アリババの話』。金沢市:線画『舌切雀』。岐阜市:線画『太郎さんの汽車』。徳島県:線画『花咲翁』。11月のプログラム→毎月組:漫画『瘤取り』、隔月組:影画『アリババの話』。
		12月号	<広告>『忠太の上京』『火山の話』		無	アテナ・ライブラリー(『火山の話』村田安司の線画を含む)
			大毎フィルム・ライブラリー時報(第一号)		(三)	線映画『ワン公活動狂時代』梗概。影絵映画『アリババの話』梗概とスチール。
			学校映画研究		20-21	影絵映画『アリババの話』、線画『瘤取り』。ともに上映中の説明は必要無し。
			時報		29-30	『動物オリンピック』上映情報
			教育映画界消息		32	横浜シネマ商会→教材映画『火山の話』完成、漫画『忠太の上京』製作中
			学校巡回映画連盟だより		33	11月のプログラム→大阪毎月組:線画『瘤取り』、隔月組:影絵『アリババの話』。金沢市:線画『瘤取り』、岐阜市:線画『ジラフの首は何故長い』。和歌山市:線画『太郎さんの汽車』。姫路市:線画『動物オリンピック』。松山市:線画『蛙の王様』。徳島県:線画『南京街』。12月のプログラム→大阪毎月組:千代紙映画『うそつき城』。
	1930	1月号	影絵映画の話(一)	大藤信郎	20-21	『アクメッド王子の冒険』『四十人の盗賊』スチール
			学校映画解説資料		26-30	『二つの太陽』『火山の話』
			『火山の話』		30	スチール
			千代紙細工トーカー『黒ニヤゴ』		30	梗概とスチール
			時報		37-40	『火山の話』『太郎さんの汽車』『瘤取り』上映情報。
			学校巡回映画連盟だより		40	12月のプログラム→大阪毎月組:千代紙映画『うそつき城』。和歌山:線画『蝸の骨』。1月のプログラム→大阪毎月組:線画『二つの太陽』、隔月組:千代紙映画『うそつき城』
			<広告>金井木一路 東京線画フィルム製作所		無	
		2月号	大毎フィルム・ライブラリー時報(第二号)		(一) - (三)	○新入庫映画目録→線映画:『瘤取り』『うそつき城』『二つの太陽』『憧れて』『太郎さんの冒険撮影』『カリフの鶴』。○九州支庫在庫映画目録→線映画:『お伽噺文福茶釜』『蝸の骨』『花咲翁』『南京街』
			<広告>『国家 君が代』		無	「わが国最初の試み スクリーンミュージック」
			時報		30-34	『火山の話』『アルキメデスと黄金の王冠』『太郎さんの汽車』『瘤取り』『太郎さんの冒険撮影』『蛙は蛙』上映情報
			学校巡回映画連盟だより		33	○1月のプログラム 大阪毎月組:線画『二つの太陽』、隔月組:千代紙映画『うそつき城』。徳島県:線画『火星旅行』。神戸:漫画『南京街』影絵『アリババの話』。姫路市:線画『花咲翁』。和歌山:線画『蝸の骨』。松山市:影絵『アリババの話』
			教育映画業界		34	東京線画フィルム研究所→移転
			<広告>『映画教育の基礎知識』		無	北山清太郎「線映画の作り方」(同年4~6月号、1931年1月号も掲載)
			<広告>能登屋商会 井上勝太郎商店		無	線画撮影機(同年3~8月号も掲載)
		3月号	映画『魔法の時計』の一場面		表紙	スチール
			<広告>『おいらのスキー』村田安司新作漫画		無	スチール2枚。アテナライブラリー第四十二篇。
			昭和四年度 優秀学校映画推薦 第一回発表		3	漫画 1位『蛙は蛙』 2位『動物オリンピック』
			小型新映画紹介		27	16ミリ 教材『火山の話』漫画『瘤取り』
			影絵映画の話(二)	大藤信郎	28	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			映画効果の考察	永田敏 吉田賢一 叶忠司 稲田達雄	30-31,33	『瘤取り』『火山の話』『二つの太陽』を子どもに見せて調査。
			時報		34-37	『太郎さんの汽車』『火山の話』『蝸の骨』『瘤取り』『アリババの話』『二つの太陽』『うそつき城』『太郎さんの冒険撮影』上映情報
			<広告>『蛙の王様』風刺人形劇・教訓映画		無	アローグラフ
			<広告>北山活映商会		無	教訓漫画『勤労の蟻』『蟻と鳩』『一寸法師』『協調』
	4月号		<広告>『おい等のスキー』村田安司新作漫画		無	スチール4枚。アテナ・ライブラリー no43
			<広告>『吾等の映画』鑑賞会		(1)-(4)	『魔法の時計』あらすじ、スチール3枚。座談会記録。「フランス前衛映画派の巨頭 ラチスラス・スタレヴィッチ氏作」
			学校映画研究大会参考資料		(2)-(3)	『太郎さんの冒険撮影』の講堂映画解説資料
			昭和四年優秀学校映画を推薦す		6-7	漫画1位『蛙は蛙』47票。スチール。村田安司、青地忠三、上野幸清、佐伯永輔の写真。
			学校巡回映画連盟だより		23	漫画映画多数
			『おい等のスキー』		27	梗概とスチール
			時報		32-36	『太郎さんの冒険撮影』『蝸の骨』『蛙は蛙』『瘤取り』『花咲翁』上映情報
	5月号		<広告>村田安司漫画10本		無	スチール6枚。アテナ・ライブラリー
			大毎フィルム・ライブラリー時報(第三号)		(一)	映画目録追加→線映画:『ワン公活動狂時代』『アリババの話』『瘤取り』『うそつき城』『二つの太陽』『懂れて』『太郎さんの冒険撮影』『カリフの鶴』『おいらのスキー』
			小型映画界		17	16ミリ新映画 千代紙細工『みかん船』
			漫画映画に就て	松田宇一	24	『太郎さんの冒険撮影』の教育的価値について
			学校映画解説資料		26-29	『おい等のスキー』(5月の巡回映画プログラム)
			時報		30-34	『瘤取り』『太郎さんの汽車』『人喰島』『アフリカ探検』『太郎さんの冒険撮影』『おい等のスキー』『懂れて』『アルキメデスと黄金の王冠』『蝸の骨』『ワン公活動狂時代』『動物オリムピック』『魔法の時計』上映情報
	6月号		<広告>『おい等の野球』村田安司 新作漫画		無	スチール。アテナ・ライブラリー no44 「Y. MURATA'S SPECIAL PRODUCTION」
			<広告>『魔法の時計』		無	2頁見開き。スチール6枚。「フランス前衛映画派の巨頭 ラチスラス・スタレヴィッチ氏作品」「これぞ映画芸術の前衛第一線に燦として輝く太陽篇!!」
			<広告>『吾等の映画』鑑賞会		無	『魔法の時計』
			小型新映画		17	『魔法の豆』『お伽の国』『天体旅行』フェリックスシリーズ
			時報		26-32	『太郎さんの汽車』『瘤取り』『花咲翁』『蛙は蛙』『太郎さんの冒険撮影』『ワン公活動狂時代』『火山の話』『蝸の骨』上映情報
			教育映画界消息		32	帝国教育発声映画協会創設→第一回作品 大藤信郎氏の千代紙発声漫画『黒ニヤゴ』完成
	7月号		表紙		表紙	「人形映画『魔法の時計』は私を映画家にした文学博士 坪内逍遙」
			<広告>『おい等の野球』		無	スチール3枚 アテナ・ライブラリー 「Y. MURATA'S SPECIAL」
			人形映画『魔法の時計』は私を映画家にした	坪内逍遙	2-3	『魔法の時計』スチール、坪内逍遙の写真
			千代紙細工トーキー映画『お関所』		6-7	梗概とスチール
			影絵映画の話(三)	大藤信郎	14-15	『アクメッド王子の冒険』スチール
			時報		30-32	『火山の話』『魔法の時計』(看板の写真)『動物オリムピック』上映情報
			<広告>第二回活映教育夏季講習		無	『おいらのスキー』『火山の話』講堂における活映会
			<広告>『蠅』		無	パターベビー
			<広告>実演と漫画『化物屋敷』		無	梗概。サクラグラフ
			『国歌 君が代』			
	8月号		初期の映画撮影挿話(下)	澤田順介	11	北山清太郎のタイトルについて
			映画を利用した学習指導の実際	辻輝雄 森作蔵	17	『火山の話』を利用
			教育映画界消息		22	横浜シネマ商会→『おい等の野球』完成。振進キネマ社→『昭ちゃんの玩具箱』近く完成。岩松洋行教育活動写真部→『バクテリアの進軍』発売権を得る。小西六本店→『化物屋敷』『おい等のスキー』『おい等の野球』完成発売。
			大毎フィルム・ライブラリー 半年の概況	伊藤祐之	23	貸出本数→線映画17.8%(教訓劇映画に次いで2位)
			時報		24-32	『火山の話』『蛙は蛙』『文福茶釜』『おい等のスキー』『動物オリムピック』『花咲翁』『太郎さんの汽車』『雪』『瘤取り』『太郎さんの冒険撮影』上映情報
	9月号		影絵映画『煙突屋ペロー』の一場面		表紙	スチール
			新作影絵映画『煙突屋ペロー』		7	梗概
			教材映画としての『火山の話』は果たして適当か?		11, 19	小学校の先生にアンケート→否定的意見が多い
			映画学習の実際を見る		22-25	『火山の話』を利用
			九月の学校巡回映画		26-27	毎月組:漫画『おい等の野球』→梗概とスチール

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			第二回活映教育夏季講習概況		30-31	『おい等のスキー』『火山の話』解説伴奏付き上映
			時報		32-34	『猿蟹合戦』『蛸の骨』『おい等の野球』上映情報
			大毎フィルム・ライブラリー 新購入フィルム		34	○線映画『おい等の野球』○16ミリ→漫画『南京街』『アフリカ探検』『ワンゴルフ狂時代』
			<広告>『蟻と蟋蟀』『バクテリアの進軍』		無	岩松洋行教育活動写真部
		10月号	<広告>『おい等の野球』村田安司スポーツ漫画		無	スチール。アテナ・ライブラリー
			映画教育グラフィック		6	映画の印象をかいた児童の画『おいらの野球』
			映画教育グラフィック		7	千代紙細工児童映画『村祭り』スチール
			<広告>国産愛用『昭チャンの玩具箱』		8	紹介とスチール
			千代紙細工児童映画『村祭り』		13	紹介、歌詞、スチール
			映画『火山の話』は教材映画として果して不適当か？		33	利用価値ありとみならず。第31号の記事への反論。
			小型新映画紹介		42	漫画『シャボン玉』(KOKOシリーズのひとつ)
			<広告>『煙突屋ペロー』		43	紹介とスチール。ホーム・ムービース・ライブラリー
			時報		46-49	『太郎さんの冒険撮影』『動物オリンピック』『火山の話』『瘧取り』上映情報
			<広告>漫画『シャボン玉』		54	サクラグラフ
		11月号	<広告>『かうもり』村田安司漫画次回作品		無	「名作」『蛸の骨』を思はせる村田安司得意のお伽漫画」アテナ・ライブラリー
			<広告>国産愛用映画『昭チャンの玩具箱』		6	振進キネマ社
			国産愛用映画『昭チャンの玩具箱』		33	梗概
			時報		36-38	『うそつき城』『おい等のスキー』『太郎さんの冒険撮影』『動物オリンピック』『おいらの野球』『昭チャンの玩具箱』上映情報
			教育映画業界消息		40	振進キネマ社→国産愛用映画『昭チャンの玩具箱』完成。帝国教育映画株式会社→第二回作品として坪内逍遙指導の影絵映画を製作中。
		12月号	<広告>『かうもり』村田安司新作漫画		無	スチール2枚。アテナ・ライブラリー no.45
			<広告>『魔法の時計』		3	スチール2枚。「大阪毎日新聞社輸入 問題の二映画愈々全国的に公開」
			漫画映画礼讃	水島爾保布	20	『ちよん切れ蛇』を称賛。スチール
			『ちよん切れ蛇』について	前川千帆	20-21	『ちよん切れ蛇』を称賛
			小型映画界消息		26	プロキノの秋季映画界で『俺達の広告』上映
			漫画『ちよん切れ蛇』		35	梗概とスチール
			時報		36-40	『太郎さんの冒険撮影』『うそつき城』『おいらの野球』『ちよん切れ蛇』『おい等のスキー』『蛸の骨』『電送写真』上映情報
			<広告>『ちよん切れ蛇』		無	推薦の言葉、スチール多数
	1931	1月号	<広告>『かうもり』		無	横浜シネマ商会
			<広告>『昭チャンの玩具箱』		無	振進キネマ社
			小型新映画紹介		24	千代紙映画『村祭り』
			<広告>『魔法の時計』		26	紹介とスチール。ホーム・ムービース・ライブラリー
			<広告>東京線画フィルム製作所、横浜シネマ商会など		無	
			時報		38-44	『太郎さんの汽車』『瘧取り』『おい等のスキー』『アリババの話』『蛙は蛙』『ちよん切れ蛇』『寄生虫』ほか上映情報 ○教材映画『耳の構造』『電鈴』
		2月号	人形映画『蟻と蟋蟀』より		表紙	スチール
			『魔法の時計』		29	
			昭和六年二月 学校巡回映画		34-35	毎月組：漫画『かうもり』教訓劇『蟻と蟋蟀』→解説資料
			時報		37-42	『かうもり』『人喰島』『アフリカ探検』ほか上映情報
			<広告>教育映画関係商店案内		無	東京線画フィルム製作所ほか
			<広告>マーベルグラフ 二十大作品		無	『馬具田城の盗賊』ほか
			<広告>『かうもり』		無	
		3月号	小型新映画紹介		21	千代紙『こま狗の眼』ほか
			<広告>『魔法の時計』		29	ホーム・ムービース・ライブラリー
			三月の学校巡回映画と資料		32	隔月組：『かうもり』
			漫画解説について	大木助自	34-35	落語・漫才のような大阪弁での解説を提案
			影絵映画『国家君が代』		36	梗概とスチール
			漫画『かうもり』		36	梗概とスチール
			<広告>北山清光社		37	S・K・S健康太陽燈の宣伝
			<広告>教育映画関係商店案内		38	幸内純一 スミカズ映画創作社ほか
			時報		39-46	『おいらの野球』『うそつき城』ほか上映情報
			教育映画界消息		46	千代紙映画社『君が代』完成。スミカズ映画創作社『ちよん切れ蛇』トーキー版完成、大辻司郎吹込
			<広告>漫画『笑ひぐすり』		無	サクラグラフ
			<広告>『猿正宗』		無	
		4月号	『タヌ吉』		23	紹介とスチール
			『ろぼ』		23	紹介とスチール
			小型新映画紹介		29	『御国のために』『ちよん切れ蛇』『魔法の時計』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			昭和六年四月 学校巡回映画		34-35	毎月組：漫画『猿正宗』→解説資料「私はこの映画によって、教育的な何ものをも要求したくはありません。只面白く見せるといふだけにしたい」
			時報		37-44	○『魔法の時計』→文部省推薦映画 ○『かうもり』『猿正宗』ほか上映情報
			<広告>戦争漫画『御国の為めに』		無	
			<広告>『猿正宗』		無	
			<広告>教育映画関係商店案内		無	千代紙映画社ほか
	5月号		小型映画欄		19	9ミリ半になる『魔法の時計』
			小型新映画紹介		19	『猿正宗』『君が代』
			<広告>『魔法の時計』		21	ホーム・ムービー・ライブラリー
			五月の学校巡回映画		29	隔月組：『猿正宗』
	6月号		時報		40-47	『蟻の仇討』『忠臣蔵』ほか上映情報
			文部省映画『タヌ吉』		表紙	
			小型新映画目録		16	『鼠の留守番』『レヴュー春』
			第二回全国活映教育大会記		34	漫画『ため吉』（文部省作品）上映
			映写技術及解説法講習会		37-38	フィルムの引火時間 線画→9秒
			時報		38-47	『驢馬』『二つの太陽』ほか上映情報
			<広告>『レヴュー春』		無	
			<広告>教育映画関係商店案内		無	千代紙映画社ほか
	7月号		『五一ちゃん』		27	梗概とスチール
			新作小型フィルム目録		30	『猫の卵屋さん』ほか
			昭和六年七月の学校巡回フィルム		34-35	毎月組：漫画『タヌ吉のお話』→解説資料
			活映教育界時報		38-47	『吃驚仰天真珠大王』『蟻と蟋蟀』ほか上映情報
	8月号		<広告>『三角の世界』		6	作画木村白山 あらすじ、スチール
			小型シネマ欄		26	○『魔法の時計』9ミリ半に ○新作『黄金の花』
			<広告>『魔法の時計』		29	ホーム・ムービー・ライブラリー
			八月の学校巡回映画と資料		34	隔月組：『タヌ吉のお話』
			活映教育界時報		38-46	『蛙は蛙』『魔法の時計』ほか上映情報
			<広告>『漫画レヴュー春』		無	スチール
	9月号		フィルム・ライブラリー時報 第四号		(三)	『文福茶釜』『レヴュー春』
			グラフィック・セクション		3	千代紙映画『心の力』スチール
			<広告>『三角の世界』		無	
			新作小型フィルム紹介		33	人形衛門映画『魔法の時計』
			『心の力』		36	梗概
			活映教育界時報		40-47	『文福茶釜』『おい等の野球』ほか上映情報
			<広告>『電信、電話、電鈴』『電燈』		無	
			<広告>教育映画関係商店案内		無	東京線画フィルム製作所ほか
	10月号		<広告>北山活映商会		21	映画脚本(筋書)を募る
			『電信、電話、電鈴』		33	実写を併用。梗概とスチール
			『電燈』		33	実写を併用。梗概とスチール
			活映教育界時報		38-47	『おいらのスキー』『癩取り』ほか上映情報
			<広告>『電信、電話、電鈴』		無	サクラグラフ
			<広告>『電信、電話、電鈴』『電燈』		無	アテナ・ライブラリー
	11月号		横浜シネマ作品『空の桃太郎』より		表紙	スチール
			グラフィック・セクション		4	影絵映画『商人と猿の群れ』、漫画『空の桃太郎』 スチール
			台湾活映行脚(一)	水野新幸	8-9	『魔法の時計』『レヴュー春』台湾で上映。とくに『魔法の時計』は非常なセンセーションを起した
			活映教育を高唱して台湾本島を縦断		10-13	『電信電鈴電話』『電燈』『レヴュー春』魔法の時計』台湾で上映
			『商人と猿の群れ』		37	梗概とスチール
			『空の桃太郎』		37	梗概とスチール
			昭和六年十一月の学校巡回映画		38	隔月組：漫画『レヴュー春』
			大毎フィルム・ライブラリー優秀教育映画 台湾巡回公開日誌		42	人形映画『魔法の時計』漫画『レヴュー春』
			活映教育界時報		43-48	『昭ちゃんの玩具箱』『アリババの話』ほか上映情報
			<広告>『電信、電話、電鈴』『電燈』『空の桃太郎』		無	アテナ・ライブラリー
	12月号		台湾活映行脚(二)	水野新幸	10	『魔法の時計』の解説に苦心したエピソード
			活映教育界時報		40-48	『こがねの花』『ちよん切れ蛇』ほか上映情報
			<広告>教育映画関係商店案内		無	東京線画フィルム製作所ほか
			<広告>『電信、電話、電鈴』『電燈』『空の桃太郎』		無	アテナ・ライブラリー
	1932 1月号		グラフィック・セクション		5	『汽車の発達』『海の桃太郎』スチール
			<広告>『汽車の発達』『海の桃太郎』		9	アテナ・ライブラリー
			台湾活映行脚(三)	水野新幸	15-16	『魔法の時計』を在住名士が三嘆するエピソード
			小型フィルム新作		30	『空の桃太郎』『海の桃太郎』ほか
			<広告>『魔法の時計』		32	ホーム・ムービー・ライブラリー
			『汽車の発達』		38	梗概とスチール
			活映教育界時報		45-50	○『かうもり』『空の桃太郎』満州で上映 ○文部省最初の優良映画賞牌『こがねの花』『蛙は蛙』
			<広告>北山活映商会		無	懸賞募集映画物語の当選作品決定に就て(『峠』が当選)
			<広告>教育映画関係商店案内		無	東京線画フィルム製作所ほか
	2月号		<広告>お伽影絵『一寸法師』		27	ホーム・ムービー・ライブラリー
			<広告>北山活映商会		33	不要映画及機械の活用
			『海の桃太郎』		36-37	梗概とスチール2枚

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			活映教育界時報		45-50	○『空の桃太郎』『蟻と蟋蟀』台湾で上映(1931年12月26日 台湾支庫開設披露) ○『電信・電鈴・電話』『ちよん切れ蛇』ほか上映情報
			<広告>『汽車の発達』『海の桃太郎』		無	アテナ・ライブラリー
	3月号		漫画漫談	北山清太郎	16	
			漫画製作の話	村田安司	17	
			<広告>北山活映商会		19	不要映画及機械の活用
			昭和六年中の文部省推薦映画		19	漫画『春』(娯楽的・横浜シネマ)漫画『摩天楼建築』(娯楽的・パラマウント)
			昭和七年三月 学校巡回映画		36	毎月組:漫画『空の桃太郎』→解説資料(指導・解説ほとんど必要なし)ただ童心になって見ればよい)
			活映教育界時報		39-48	『タヌ吉のお話』『空の桃太郎』ほか上映情報
			<広告>『汽車の発達』『海の桃太郎』		無	アテナ・ライブラリー
	4月号		<広告>アテナ・ライブラリーの漫画		9	16作品
			<広告>お伽影絵『一寸法師』		37	ホーム・ムービーズ・ライブラリー
			『豚平と猿吉』		39	梗概とスチール2枚
			<広告>北山活映商会		19	不要映画及機械の活用
			十六ミリ版新作映画		19	『猿吉は勝った』
			昭和七年四月 学校巡回映画資料		44	毎月組:漫画『海の桃太郎』→解説資料(指導・解説ほとんど必要なし)。偶数月組:漫画『空の桃太郎』
			活映教育界時報		47-50	『海の桃太郎』『かうもり』『猿正宗』台湾で上映
			<広告>『猿吉は勝った』		無	サクラグラフ
			<広告>『電信、電話、電鈴』『電燈』		無	アテナ・ライブラリー
	5月号		昭和六年度 優秀教育フィルム推薦		12-13	漫画 1位『猿正宗』2位『かうもり』3位『タヌ吉のお話』青地忠三の写真とインタビュー、村田安司の写真。
			<広告>北山活映商会		33	映画製作の御用は
			<広告>アテナ・ライブラリーの漫画		無	16作品
			活映教育界時報			『蝸の骨』『汽車の発達』ほか上映情報
	6月号		映画教育研究大会記		12-18	『豚平と猿吉』『海の桃太郎』上映
			地理教科フィルムシナリオ 近畿地方		24-27	線画を含む
			<広告>北山活映商会		43	映画製作の御用は
			活映教育界時報		49-54	『汽車の発達』『健康と美』(実写併用)『あこがれて』台湾で上映
			<広告>『汽車の発達』『電燈』		無	
	7月号		我が校の映画教育 過去、現在と小見	神原直裕	29-31	香川県立丸亀中学校3年生100名にアンケート調査→線画漫画9位
			<広告>北山活映商会		38	映画製作の御用は
			活映教育界時報		50-54	○『汽車の発達』朝鮮で上映 ○算術教科フィルム 脚本『圓』の研究
			<広告>『体育デー』		無	アテナ・ライブラリー
	8月号		<広告>『体育デー』		9	アテナ・ライブラリー
			グラフィック・セクション		8	『ポケット』(北山清太郎の劇映画)スチール
			『ポケット』		48	梗概
			『体育デー』		48	梗概
			活映教育界時報		50-54	『海の桃太郎』ほか上映情報
	9月号		グラフィック・セクション		無	『大当り空の円タク』『峠』(北山清太郎の劇映画)スチール
			第四回活映教育夏季講習会		12-19	『汽車の発達』上映
			『峠』		38	梗概
			<広告>『体育デー』		無	アテナ・ライブラリー
			堺市英彰小学校の小型映画視覚教育研究会		42-44	『君が代』『御国の為に』『茶目子の一日』上映
			活映教育界時報		51-54	『体育デー』ほか上映情報
	10月号		<広告>北山活映商会		無	16ミリ映写機「ライト」
			童話と映画	暗田仙	28-29	『カリフの鶴』ほか
			映画学習の実験的研究	和田勉	40-41	『円』ほか
			活映教育界時報		51-54	『猿吉は勝った』ほか上映情報
			<広告>『あひるの子』		無	
	11月号		グラフィック・セクション		無	『あひるの子』紹介とスチール
			全九州活映教育大会記		12-16	読方科学習『かうもり』
			<広告>『あひるの子』		無	
			十六ミリ映画彙報		35	『あひるの子』
			活映教育界時報		50-52	『猿正宗』朝鮮で上映
	12月号		<広告>『あひるの子』		無	
			フィルムによる効果ある指導が目的一かかると論議に私は基く	北野藤治郎	18-21	『円』について(北山清太郎の算術教科フィルム)
			算術シネマ化の『シナリオ』ことども	近藤伊与吉	21-22	『円』について
			教科映画撮影に対する意識	北山清太郎	22-23	
			<広告>北山活映商会		無	16ミリ映写機「ライト」
			教育フィルム新作紹介 『圓』		43	
			活映教育界時報		49-54	『かうもり』ほか上映情報
活映(『映画教育』改題)	1933	1月号	理化学協会の蹶起に中等学校働く 座談会	奥三代松、加藤豊ほか	16-21	線画の活用について指摘多数
			天王寺師範附属小学校 『圓』を使った教授	北野藤治郎	21-23	
			<広告>北山活映商会		無	賀正
			活映教育界時報		55-58	『魔法の時計』『圓』ほか上映情報

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
活映 (『映画教育』改題)		2月号	体験から語る批判『圓』と算術の指導	竹島要之助	20-23	
			<広告>『雲雀の宿替』		無	アテナ・ライブラリーの漫画17作品
			<広告>北山活映商会		無	16ミリ映写機「ライト」
			活映教育界時報		51-56	『瘤取り』『猿ヶ島』ほか上映情報
		3月号	<広告>北山活映商会		21	ゲバルト16mmシネ・フィルム
			講堂映写会の理想的方法	西川幸次郎	22-23	漫画、劇、実写への児童の嗜好調査
			『圓』のフィルム使用について 川島要之助先生に對ふ	北野藤治郎	24-25	
			<広告>『魔法の時計』		32-33	ホーム・ムービーズ・ライブラリー
			活映教育界時報		49-54	『おいらのスキー』『火山の話』ほか上映情報
			<広告>『雲雀の宿替』		無	
		4月号	<広告>『雲雀の宿替』		無	
活映			北野先生に呈す 再び圓の指導について	竹島要之助	24-26,31	
			<広告>北山活映商会		無	ゲバルト16mmシネ・フィルム
			活映教育界時報		55-60	『太郎さんの汽車』朝鮮で上映
		5月号	昭和七年度優秀教育フィルム推薦		30-31	漫画:『空の桃太郎』 教科:『汽車の発達』 村田安司、青地忠三の写真
			<広告>村田安司作品3本		無	
			『雲雀の宿替』		48	紹介とステール
					50-54	『太郎さんの汽車』朝鮮・釜山で上映
		6月号	昭和七年度の優秀教育フィルム推薦		20-21	漫画:『あひるの子』『海の桃太郎』『粘土のいたづら』(フライシャー) 教科:『電燈』
			東京赤羽小学校の活映学習研究発表を觀る	森田篤慶	24-25	『ポケット』
			再度竹島先生に對ふ、『圓』の指導に関連して	北野藤治郎	26	
			<広告>『のらくろ二等兵』		無	アテナ・ライブラリー
			本校生徒の活動写真観覧調査	加藤正壽	28-29	福岡県大牟田第二小学校3~6年生アンケート調査→好きな活動写真 漫画2位
			『うにとなまこ』		42	紹介 (線画を含む)
		7月号	<広告>『のらくろ二等兵』		無	アテナ・ライブラリー
			活映教育界時報		48-54	『豚平と猿吉』ほか上映情報
		8月号	目次写真『魔法の時計』		無	
			<広告>『のらくろ二等兵』		無	
			<広告>北山活映商会		無	暑中御伺
			アメリカニズムとトーキー漫画	清水俊二	14-15, 39	
			私の漫画観	北山清太郎	16-18	
			満州国政府活映運動の実際	山中正守	20-21	漫画『馬戯団観覧』『黄金の花』満州で上映
			色刷教科書は色彩漫画を要求す	稲垣国三郎	22-23	
			漫画フィルムの持つ教育価値および調査	天王寺師範附属小学校 活映教育部	24-25	
			活映利用による児童の知能テスト	塚本弘	28-29	『あひるの子』を利用
			トーキー漫画の製作について	政岡憲三	33-36	
			トーキー漫画のこと	神原直裕	38-39	「アニメーター」の用語を使用
			活映教育界時報		44-51	『太郎さんの汽車』朝鮮・平壤で上映
			新作紹介『紙芝居 いたづら狸』		51	紹介
			新作紹介『のらくろ二等兵』		51	紹介とステール
			九月の教材と教便フィルム		52	『火山の話』『アルキメデスと黄金の王冠』
		9月号	目次写真『魔法の時計』		無	
			第五回活映教育夏季講習会記		14-19	『のらくろ二等兵』『圓』『うにとなまこ』上映
			南洋撮影の旅より歸りてー『海の生命線後記一』	佐伯永輔	22-23	村田安司の線画を含む
			<広告>『海の生命線』『お猿の大漁』『のらくろ二等兵』		無	
			活映教育界時報		48-54	『ジラフの頸はなぜ長い』『正ちゃんのカメラマン』『猿吉は勝った』『不幸なフェリックス』『あひるの子』朝鮮の子供活映デーで上映
		10月号	グラフィック・セクション		無	『海の生命線』紹介とステール
			<広告>『海の生命線』		無	
			新京活映座談会記	小林参謀、岡田大尉他	23-25	『空の桃太郎』満州で上映→「元来排日の教科書にあるもので、観衆一同変な顔をする」
			フィルム『石炭』を使って五学年理科の学習	藍川彦五郎	34-35	線画を含む
			十一月の教材フィルム		42	『歯の構造』『健康と美』(線画を含む)
			活映教育界時報		46-54	『ポケット』(劇映画)『猿吉は勝った』『のらくろ二等兵』朝鮮で上映
		11月号	グラフィック・セクション		無	『海の生命線』鳩山文相等のメッセージ ステール多数
			<広告>『海の生命線』		無	
			<広告>『猿ヶ島』		無	ホーム・ムービーズ・ライブラリー
			一つの試案的実験三学年綴方の指導ー取材指導の場合ー	喜岡正竹	36-37,39	『あひるの子』を利用
			シナリオ 郷土大阪		37	線画を含む
			十二月の教材フィルム		42	読方:『猿蟹合戦』(漫画)『炭坑』(実写併用) 地理:『パナマ運河』(線画と模型) 理科:『雪』『電気の話』『電信、電鈴、電話』(実写併用)
			海の生命線 誌上物語		47-50	
			<広告>北山活映商会ほか		無	16ミリ映写機「ヒカリ」4頁カラー広告
			活映教育界時報		51-56	『あひるの子』『電燈』台湾で上映
		12月号	<広告>『お猿の大漁』		無	奥商会
			グラフィック・セクション		無	『海の生命線』ステール
			<広告>『お猿の大漁』		無	横浜シネマ商会
			<広告>『昭ちゃんの玩具箱』		無	ホーム・ムービーズ・ライブラリー

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
活映			一月の教材フィルム		34	読方:『炭坑』(実写併用) 理科:『電気の話』 『電信・電鈴・電話』(実写併用)
			活映教育界時報		35-38	『バナマ運河』『炭坑』ほか上映情報
			大毎フィルム・ライブラリー所蔵映画目録		39-40	劇:『峠』『ポケット』 教材:『燈台の話』『うにとなまこ』『砲弾の効力』『円』『石炭』 漫画:『あひるの子』『体育デー』『猿ヶ島』『雲雀の宿替』『紙芝居いたづら狸の巻』『のらくろ二等兵』『海の冒険』
映画教育 (『活映』改題)	1934	1月号	時報		34-41	○『お猿の大漁』『海の冒険』→1月2月の巡回映画 ○『うにとなまこ』(実写併用)→新入庫 紹介とスチール
			漫画『海の冒険』		56-57	
		2月号	児童は漫画を如何に見るか	吉本右次	22-25	
			地理映画編集の態度		16-19	シナリオ『関東地方』(線画を含む)
			漫画『お猿の大漁』		58	紹介
		3月号	児童は漫画を如何に見るか	吉本右次	30-33	
			映画教育欠点への対策	中光潔	26-29	『うにとなまこ』『流水の働』(実写併用)
			時報		35-37	○東京2月の巡回映画『お猿の三吉防空線』 ○大阪4月の巡回映画『のらくろ伍長』
			人の眼をごまかす仕事	政岡憲三	48-53	トリックが主
			学校映画短評集		54-56	1月プログラム『海の冒険』賛否両論
			四月の教材映画		59	『うにとなまこ』
		4月号	児童は漫画を如何に見るか(完)	吉本右次	30-33	
			講堂映写番組中の劇物に対する検討	赤羽小学校 映画部	22-25	男子615女子621名にアンケート調査。児童の求める映画→1位『水戸黄門』68.5% 2位『魔法の時計』9%
			時報		36-38	○東京4月の学校巡回映画『のらくろ伍長』 ○横浜4月の学校巡回映画『お猿の大漁』○ ○大阪4月の学校巡回映画『のらくろ伍長』○ ○大阪5月の学校巡回映画『狼は狼だ』
			漫画『のらくろ伍長』		56-57	紹介
			学校映画短評集		56-57	3月プログラム『お猿の大漁』おおむね好評
		5月号	時報		42-43	『海の冒険』『のらくろ伍長』『一九三六年』上映
			学校映画短評集		58-59	『お猿の大漁』『のらくろ伍長』ともに好評
			大毎フィルム・ライブラリー新入庫映画目録		60-61	漫画『あひるの子』『フェリックスと燕の巻』『のらくろ二等兵』『猿ヶ島』『大当り空の円タク』『武者修行物語』
		6月号	時報		38-40	○大阪7月の学校巡回映画 漫画『鼠と獅子』 ○『お猿の三吉突撃隊』『お猿の三吉防空戦』 ○『狼は狼だ』『のらくろ伍長』上映情報
			女学生に興行映画を観せた体験など	大野静	42-49	漫画『おいらのスキー』『おいらの野球』
		7月号	時報		45	○東京6月の学校巡回映画 漫画『鼠と獅子』 ○横浜6月の学校巡回映画 漫画『のらくろ伍長』
			学校巡回映画短評集		57-59	『のらくろ伍長』『狼は狼だ』おおむね好評
		8月号	時報		41-44	○大阪9月の学校巡回映画 漫画『一九三六年』 ○東京10月の学校巡回映画 漫画『海の冒険』 ○『鼠と獅子』『のらくろ伍長』『海の冒険』上映情報
		9月号	教育映画伴奏論	関野嘉雄	24-27	漫画の場合、奇想天外な伴奏がよい
			教化映画論	板垣鷹穂	32-35	線画映画を二分化①「娯楽本位」=「漫画」②「芸術的観賞的」=「圖型」(フィッシーンガー作品等)
			第六回映画教育夏季講座記録		44-49	『のらくろ伍長』会場で上映。日比谷映画劇場に入場「納涼家族週間」→漫画3本『譽の消防夫』『ミッキーの道路工事』『ボバイの鍛冶屋』上映。 『魔法の時計』を発声映画化、10月公開予定
			時報		60	
		10月号	時報		35-37	○学校巡回映画 東京11月:『特急艦隊』東京10月:A・B班『海の冒険』E班『鼠と獅子』大阪10月:『特急艦隊』門司9月:『鼠と獅子』
			学校巡回映画連盟短評集		58-59	『一九三六年』賛否両論 『鼠と獅子』おおむね好評
			『絵本一九三六年』		58-59	紹介
映画教育		11月号	<広告>『特急艦隊』『黒猫バンザイ』『絵本一九三六年』『おばけ祭』		無	深田商会映画部
			時報		36-39	○大阪学校巡回映画連盟 9月第二次委員会懇談会→「漫画製作についての希望など打合せ、漫画製作者に問ふことを決議」 ○学校巡回映画 大阪11月『黒猫萬歳』大阪10月『特急艦隊』横浜10月『お猿の三吉突撃隊』○『魔法の時計』『あひるの子』『海の桃太郎』上映
		12月号	時報		32-36	○学校巡回映画 東京12月・大阪11月『黒猫萬歳』大阪12月『お猿三吉突撃隊』 ○『魔法の時計』『鼠と獅子』上映情報
			無説明主義を排す	鈴木喜代松	42-43	漫画映画には説明が必要
			学校巡回映画短評集		57	『特急艦隊』おおむね好評
	1935	1月号			26-29	○学校巡回映画 東京・大阪1月『月の宮の女王様』門司12月『月の宮の女王様』
			算術映画『ピタゴラスの定理』	北野藤治郎	30-35	「線画といふ新しい武器・・・教材映画には欠かすべからざるもの」「円」については最早試験済
			アフター・レコーディング(附トーカー漫画)	中野孝夫	48-51	
			漫画『月の宮の女王様』		59	紹介とスチール

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育		2月号	映画教育論のために一その九	関野嘉雄	20-23	漫画映画の「無説明・全伴奏」という一般方針を支持。82号の鈴木説に反論。
			漫画映画論(1)	山崎利一	48-51	漫画映画＝「童心芸術」
			時報		26-28	○大阪2月の巡回映画『狐狩り』『ミー坊と狼』 ○『あひるの子』『鼠と獅子』上映情報
		3月号	漫画『ミー坊と狼』 <広告>『月の宮の王女様』『ミー坊と狼』		56 無	紹介 スチール 横浜シネマ商会
			漫画映画論(2)	山崎利一	24-27	漫画映画と「民族文学」を比較
			時報		29-31	○東西学校連盟共通プロ4月分『いなばの白兔』 ○東京2月の巡回映画『ミー坊と狼』 ○昭和9年文部省推薦映画→彩色漫画『空飛ぶ鼠』(娯楽的)米ユナイテッド
		4月号	漫画映画論(3)	山崎利一	16-19	漫画映画における「リアリズム」の重要性
			<広告>児童向漫画のストーリー懸賞募集		33	
			時報		34, 37	○東京4月の巡回映画 漫画『いなばの国の兎さん』 ○東京5月の巡回映画 漫画『天国は銀世界』 ○米国で試みられた児童映画興行→「オーケー児童興行」2時間10銭均一「異常な成功」。ミッキー・マウス、シリー・シンフォニー、ポパイなど上映「ベティ・ブーブ漫画が稀にしか使用せられないのも面白い」
			教育映画の伴奏研究(下)	上田治雄	42-45	漫画映画の伴奏
			我が校の映画教育	多治見小学校	50-52	漫画映画を23種、昭和6-9年にかけて上映
			四月の教材映画		54	『うにとなまこ』
			漫画『いなばの国の兎さん』		58	紹介
		5月号	映画教育論のために一その一二	関野嘉雄	14-17	漫画映画の伴奏→レコードや擬音楽器は不適切 映写後の指導→漫画映画はおおむね不要
			漫画映画論(4)	山崎利一	18-21	「清涼剤」として軽視されがちな漫画映画→劇映画と同様に重視すべき
			時報		28	○第一回東西連盟共通プロ4月巡回映画→漫画『いなばの国の兎さん』
			映画に対する児童の志向	藤井元了	40-44	東京市赤羽小学校1-6年生にアンケート調査 ★1-3年生→50%以上が漫画映画を好む ★好みに性差が出た作品→『茶目子の一日』(女子人気)『のらくろ』『海の桃太郎』(男子人気)
		6月号	漫画映画論(5)	山崎利一	34-37	漫画映画の伴奏について
			時報		50-52	○東西学校巡回映画連盟6月プロ『ちび動物語』(予選落ち『森の野球団』) ○東日トーキー巡回映画連盟第2回プロ A組『フェリックスの猫騒動』『お伽王国』B組『月の宮の王女様』『お伽王国』
			漫画『一寸法師 ちび動物語』		55	紹介とスチール
		7月号	漫画映画論(6)	山崎利一	20-23	漫画映画の説明について→「補助的なもの以上にあり得ない」
			滋賀県大野の映画教育を観る	下野宗逸	24-27	『浦島太郎』(レコードトーキー漫画)上映
			時報		50-51	○学校巡回映画連盟7月プロ『僕等のサーカス』(予選落ち『蛙の子』)
			漫画『蛙の子』		54-55	紹介とスチール
		8月号	漫画映画論(完)	山崎利一	32-35	漫画映画の鑑賞指導→映写後に必要
			時報		55	○学校巡回映画連盟8月プロ『森の野球団』(予選落ち『蛙の子』) ○東日トーキー連盟第3回プロ『ポパイのアイス・スケート』 ○『二つの世界』上映情報
		9月号	<広告>『ピョンチャンと小熊』		無	『茶釜音頭』『飛入り忠臣蔵』のスチールも。深田商会映画部
			第七回映画教育夏季講座記録		8-13	○『ターチャンの海底旅行』上映 ○J・オスタジオ見学『珍選組』『空襲対防空』『絵本一九三六年』観賞
			青少年の映画鑑賞教育(アメリカのハイ・スクールにおける実験)一その四	関野嘉雄	18-21	ミッキー・マウス映画におけるリズムの重要性について論議
			学校映画会の諸問題(下) 関野氏の「映画教育論のために」について(完)	T・N・C	47-49	漫画映画の「無説明・全伴奏」→高学年にのみ適切。低学年にはある程度の説明が必要。
			時報		54-55	○学校巡回映画連盟9月プロ『ターチャンの海底旅行』(予選落ち『塙団右衛門』『蛙の子』)
		10月号	漫画『ターチャンの海底旅行』 <広告>『絵本一九三六年』『特急艦隊』『黒猫萬歳』『飛入り忠臣蔵』『茶釜音頭』		59 無	紹介とスチール 団子之助のイラスト。JOスタジオ
			<広告>『海の水はなぜからい』『ターチャンの怪物退治』		無	奥商会
			全日本映画教育研究会 九州支部巡回映画会報告		29	『文福茶釜』上映
			体験論に基づく映画教育(其の二)	鈴木喜代松	30-33	児童は空想を信じる→『豚平と猿吉』『海の桃太郎』『あひるの子』など。『魔法の時計』は「くだらない」→児童はそれを真実として見るから面白く感じる

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			時報		50-53	○学校巡回映画連盟9月プロ C・D班『ターチャンの海底旅行』A班『僕等のサーカス』B班『森の野球団』○学校巡回映画連盟10月プロ『ターチャンの怪物退治』(予選落ち『蛙の子』)
			十月の教材映画		54	線画『猿蟹合戦』
			『鮭』		56-57	実写併用。紹介
			『製氷と冷凍』		58-59	実写併用。紹介
		11月号	映画教育時評	T・N・C	29	『製氷と冷凍』『鮭』『海の水はなぜからい』→「線画による物語映画・・・これに漫画と銘をうち、これが漫画だと思はれてみるとすれば、そのまちがひを指摘しておく必要がある」
			『海の水はなぜからい』『ピョンチャンと小熊』		50-51	紹介とスチール
			『北進日本』		52-53	線画 村田安司。文部省推薦映画、文部大臣牌。
			時報		57-59	○学校巡回映画連盟11月プロ『海の水はなぜからい』(予選落ち『ピョンチャンと小熊』) ○『海の水はなぜからい』『北進日本』『ターチャンの怪物退治』『ターチャンの海底旅行』上映情報
		12月号	十二月の教材映画		46-47	『石炭』『電信電話電鈴』『電気の話』(実写併用)『忠臣蔵』(漫画)
			時報		53-56	○学校巡回映画連盟12月プロ『ピョンチャンと小熊』(予選落ち『北進日本』) ○『あひるの子』『海の水はなぜからい』『ターチャンの怪物退治』上映情報
	1936	1月号	『塩の話』		47-48	実写併用。紹介
			『お山の大将』		49	紹介とスチール
			『蛸退治』		49	紹介とスチール
			一月の教材映画		50-51	『石炭』『汽車の発達』(実写併用)
			時報		52-53	○学校巡回映画連盟1月プロ『蛸退治』(予選落ち『塩の話』『お山の大将』『蛸退治』『お日様と蛙』) ○第四回新作教育映画研究会において「近來製作される漫画の貧弱なこと」が話題にのぼる ○『お山の大将』『蛸退治』『お日様と蛙』『海の水はなぜからい』『塩の話』上映・試写情報
			<広告>『おいらの非常時』		無	日本電報通信社 活動写真部
		2月号	時報		31-32	○学校巡回映画連盟2月プロ『小鳥と兎』(予選落ち『おいらの非常時』『茶釜音頭』『塩の話』) ○『蛸退治』試写
			二月の教材映画		48-49	『花咲爺』『電信電話電鈴』『電気の話』『峠』
			『小鳥と兎』『茶釜音頭』『お日様と蛙』		53-54	紹介。『茶釜音頭』はトーキー版を無声版にしたもの
		3月号	第三回映画教育大会		12	『塩の話』『小鳥と兎』試写
			時報		40-43	○学校巡回映画連盟3月プロ『茶釜音頭』(予選落ち『凸の助武勇伝』『お日様と蛙』) ○『小鳥と兎』試写 ○東日トーキー巡回映画第六回プロ『ボパイの敵無し』 ○16ミリトーキー『北進日本』『お猿の大漁』 ○横浜シネマ『凸の助武勇伝』発売。岡本洋行『日の丸太郎 武者修行の巻』『日の丸太郎 お化け退治の巻』発売
			三月の教材映画		54-55	漫画『体育デー』『蛔虫と人生』
			『おいらの非常時』		57	紹介とスチール
		4月号	時報		44-48	『凸の助武勇伝』『日の丸太郎 武者修行の巻』『日の丸太郎 お化け退治の巻』『蛸退治』『お山の大将』上映情報
		5月号	<広告>『居酒屋の一夜』		無	スチール 横浜シネマ商会
			昭和十年年度の学校巡回映画を顧みて		22-32	漫画映画について辛口評価(「よいと思ふのは非常に少なかった」など)。比較的好評の作品は『ターチャンの海底旅行』『茶釜音頭』
			『雷ゴロ吉下界修行』		45	紹介
			時報		54-57	○学校巡回映画連盟4月プロ『お日様と蛙』 5月プロ『雷ゴロ吉下界修行』 ○東京市麹町区映画教育研究部→漫画研究会を開催。『白兎』試写
			<広告>『白兎』		無	瀬尾光世 東京シネマ商会
			<広告>『お猿の艦隊』『孝行狸』		無	『孝行狸』→『凸の助武勇伝第二編 孝行狸』。
			『居酒屋の一夜』		無	小西六本店
		6月号	<広告>『居酒屋の一夜』		無	スチール 横浜シネマ商会
			第八回映画教育夏季講座		2-3	「漫画映画論」村田安司講演、漫画・教材試写
			時報		72-75	○学校巡回映画連盟6月プロ『森の小兎』(予選落ち『蛙の子』『お猿の艦隊』『オスワルドの悪戯』) ○『茶釜音頭』『お猿の大漁』『魔法の時計』上映情報
			<広告>『お猿の大漁』『空の桃太郎』『月の宮の女王様』『海の水はなぜからい』		無	小西六本店
			<広告>『おいらの非常時』		無	日本電報通信社 活動写真部
			<広告>日本視覚教育研究所		無	「線画の活用」
			<広告>『森の小兎』		無	スチール オール・キネマ社
			<広告>『白兎』		無	東京シネマ商会
		7月号	<広告>『居酒屋の一夜』		無	スチール 横浜シネマ商会
			第八回映画教育夏季講座		2-3	「漫画映画論」村田安司講演、漫画・教材試写研究

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			第八回映画教育夏季講座を前に講座内容について全講師の円卓会議		8-15	村田安司、青池忠三など出席。漫画映画について「近來おもしろい漫画が出ないといふ声が高い」「学校の先生方の漫画映画に対する考へにも、ハッキリしないところがある」など論議。
			『凸之助武勇伝』『森の小兎』『玉手箱』『お猿の艦隊』 時報		49-50	紹介。『玉手箱』はスチール付
			女学校の講堂映画会調査 門司 高等女学校の場合		53-54	○学校巡回映画連盟7月プロ『玉手箱』(予選落ち『誠の報ひ』『お猿の艦隊』)
					58-59	○映画会への生徒の希望→毎回漫画を入れること ○テストの一例:『豚平と猿吉』→何を諷刺しているか○漫画映画は下級生にとくに人気
		8月号	<広告>『居酒屋の一夜』 時報		無	スチール 横浜シネマ商会
					55	『玉手箱』『森の小兎』上映・試写情報
			<広告>『お猿の大漁』『空の桃太郎』『月の宮の王女様』『海の水はなぜからい』『居酒屋の一夜』		無	スチール 横浜シネマ商会
		9月号	第八回映画教育夏季講座記録		8-18	○「漫画映画論」村田安司講演→「漫画の二様式」○「漫画・教材映画試写研究」関野嘉雄解説→「海の水はなぜからい』『森の小兎』(「童心的味はひ)』『玉手箱』(「大人向興味)』『居酒屋の一夜』(「純然たる大人向」漫画界の行詰りを感ずる漫画)
			時報		49-51	○学校巡回映画連盟9月プロ『お猿の艦隊』(予選落ち『誠の報ひ]) ○岡本洋行『誠の報ひ』発売
			<広告>『小兎の天空旅行』『森の小兎』		無	オール・キネマ社
		10月号	<広告>『お猿の大漁』『空の桃太郎』『月の宮の王女様』『海の水はなぜからい』『居酒屋の一夜』 <広告>『雀のお宿』		無	横浜シネマ商会
			十月の映画利用研究教授一尋常 一年修身「ウソライフナー」 『天空旅行』	森田篤慶	34-37	東京市明治小学校一年生に『ミー坊と狼』を利用。解説・伴奏付き、映写後の指導あり。
			時報		44	紹介
					45	○学校巡回映画連盟10月プロ『天空旅行』(予選落ち『誠の報ひ』『雀のお宿』) ○『お猿の艦隊』試写 ○岡本洋行『玉手箱』、奥商会『雀のお宿』発売
		11月号	<広告>サイレント村田安司作品 <広告>『雀のお宿』		無	7作品 横浜シネマ商会
			漫画映画の話	村田安司	12-15	日本の漫画映画→「線画物語に進むべき…漫画映画といふ言葉では表現できぬ」
			漫画映画座談会(1)	青地忠三、 大藤信郎、 瀬尾光世、 關猛、田河 水泡、濱田 廣介ほか	16-31	トピック「漫画と漫画映画」「童話と漫画映画」「映画としての漫画映画」「漫画映画の二様式」
			学校巡回映画 九月プログラムの感想と批判		39-41	『お猿の艦隊』辛口の批判が多い
			納涼映画会と其の反省	戸津川繁 茂、難波護	48-53	昭和10年『海の水はなぜからい』上映
			時報		54-57	○学校巡回映画連盟11月プロ『雀のお宿』(予選落ち『誠の報ひ]) ○漫画映画座談会の開催『のらくろ伍長』『特急艦隊』『玉手箱』『天空旅行』『月の宮の王女様』『海の水はなぜからい』『白兎』試写 ○『雷のゴロ吉下界修行』『雀のお宿』『天晴れガル助』『お猿三吉突撃隊』『ちび助物語』上映情報
			『雀のお宿』		59	紹介
		12月号	<広告>サイレント村田安司作品 漫画映画座談会(続)	前号と同じ	12-23	7作品 横浜シネマ商会
			学校巡回映画 十月プログラムの感想と批判		32-34	『天空旅行』賛否両論。賛成例:「よく出来た漫画」 批判例:「こまったものです…映画を中止しました」
			『龍神祭』と『天空旅行』に対する感想への批判	関野嘉雄	35	賛否の食い違い→「漫画に対して求むる所の相違から起きたと考へられる。非難する人々は表面的な、固定した漫画の概念に累されてはゐないだらうか」
			十月プログラムの調査		36-37	『天空旅行』に対する小学生の感想
			十二月の映画利用研究教授一尋常四年 手工・劇の舞台面一	關猛	38-41	『お猿の大漁』→手工教育に利用
			和歌山市番丁校の映画教育研究会を観て	星野幸雄	46-49	『月の宮の王女様』試写 青地忠三の講演
			時報		50-53	○学校巡回映画連盟12月プロ『誠の報ひ』(予選落ち『新日本島万歳]) ○『天空旅行』『雀のお宿』上映 ○日本マンガフィルム研究所→電話番号変更
			『鉛筆の話』		57	実写併用。紹介
			『誠の報ひ』		58	紹介とスチール
			<広告>『お猿の大漁』『空の桃太郎』『月の宮の王女様』『海の水はなぜからい』『居酒屋の一夜』		無	小西六本店
	1937	1月号	学校巡回映画 十一月プログラムに対する感想		50-51	『雀のお宿』 賛否両論

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			時報		55	○学校巡回映画連盟1月プロ『風さわぎ』(予選落ち『蛙の子]) ○『黒猫萬歳』『猿正宗』上映情報
			『風さわぎ』		56	紹介
			<広告>『お猿の艦隊』『孝行狸』『凸之助武勇伝』『居酒屋の一夜』		無	小西六本店
		2月号	<広告>日本視覚教育研究所		無	線画の活用
			<広告>『白鼠物語』『昭和の桃太郎』		無	奥商会
			学校巡回映画 十二月プログラムの感想と批判		45-46	『誠の報ひ』賛否両論
			十一月、十二月プロの感想に対する批判	星野幸雄	47	『雀のお宿』→舌切雀の近代的解釈に対する賛否 『誠の報ひ』→「技術的に秀れたものではない」という意見は、内容にも目を向けるべき
			『白鼠物語』		54-55	紹介とステール
			時報		56-59	○学校巡回映画連盟2月プロ『白鼠物語』(予選落ち『蛙の子]) ○『誠の報ひ』『雀のお宿』『風さわぎ』上映・試写
			<広告>『お猿の艦隊』『孝行狸』『凸之助武勇伝』『居酒屋の一夜』		無	小西六本店
		3月号	学校巡回映画 一月プログラムに対する感想		42-45	『風さわぎ』賛否両論
			時報		55-59	○帝国教育会に映画教育部新設 第一回優秀映画鑑賞会→RKO彩色漫画上映 ○京都市九条第二小学校で映画教育実地研究会→『いなばの国の兎さん』による尋二修身教授、『北進日本』第二巻による尋五合科教授、研究発表「漫画映画と道徳的談義」○『天空旅行』『ターチャンの海底旅行』上映情報 ○加治商会 英文字幕漫画『猫の卵屋さん』→邦文字幕『ニヤ坊奮闘』に改題
			<広告>『お猿の艦隊』『孝行狸』『凸之助武勇伝』『居酒屋の一夜』		無	小西六本店
		4月号	<広告>『白鼠物語』『昭和の桃太郎』『五匹の力』		無	奥商会
			昭和十一年度の学校巡回映画を顧みて(1)		34-39	漫画映画を批判。例:「漫画は一年間を通じてあまりよいものが無かった。日本の漫画も行詰ったと考へられるもの進理である。その中『玉手箱』は相当よかったが、もっとも内容的にも技術的にもすぐれたものが作られてほしいものである」
			昭和十一年中の文部省推薦・認定映画		40	認定映画『雀のお宿』
			学校巡回映画 二月プログラムに対する感想		44-46	『白鼠物語』 おおむね好評
			『漫画のマン吉』		55	紹介
			時報		56-60	○学校巡回映画連盟4月プロ『漫画のマン吉』(予選落ち『小兎の魚釣り]) ○東日トーキー巡回映画連盟第十三回プロ『ホッパのやせ薬』○『風さはぎ』上映情報 ○オールキネマ社『小兎の魚釣り』完成、佐藤映画製作所『マー坊の東京オリンピック大会』完成、奥商会『五匹の力』、山本早苗の移転先の住所
		5月号	京都市の映画教育	青戸要三	16-21	『文福茶釜』『雀のお宿』『お山の大将』
			昭和十一年度の学校巡回映画を顧みて(2)		34-38	漫画映画を批判。例:「子供は漫画といへば唯無条件で喜ぶ。然し...傑出したものゝ少いやうに思ふのは私一人ではないだらう」
			『五匹の力』		53	
			時報		54-59	○学校巡回映画連盟5月プロ『五匹の力』(予選落ち『小兎の魚釣り』『マー坊の東京オリンピック]) ○『玉手箱』『ベティの動物病院』『誠の報ひ』『白鼠物語』上映情報 ○村田漫画映画製作所→横浜市に設立・独立
		6月号	学校巡回映画 四月プログラムに対する感想		36-38	『漫画のマン吉』賛否両論
			二・四月のプロに対する感想の感想	稲田達雄	38-39	『白鼠物語』の好評→「おもしろい中に教訓があつてよかった」といふので、技術的に見ると、あまり優れたものとも思へない。依然として「どうもいゝ漫画がない」といふ声が高いのに対しては、何とかして打開の途をこうじさせなければならぬ」
			『チュウ助の報恩』『マー坊の東京オリンピック大会』		50	紹介
			時報		55-57	○学校巡回映画連盟6月プロ『チュウ助の報恩』(予選落ち『マー坊の東京オリンピック大会]) ○『居酒屋の一夜』上映情報
		7月号	学校巡回映画 五月プログラムに対する感想		50-53	『五匹の力』 おおむね好評
			『小兎の魚釣り』		54	紹介
			時報			○学校巡回映画連盟7月プロ『マー坊の東京オリンピック大会』○『チュウ助の報恩』『五匹の力』『ピョンチャンと小熊』『オスワルドの狐狩り』上映情報

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育		8月号	映画利用研究教授案 検討座談会(五)	関野嘉雄、 稲田達雄他	8-17	『ミー坊と狼』尋常一年修身→「ウソライフナ」には不適。『お猿の大漁』→手工教育での映画利用の困難
			横浜市の映画教育	稲田達雄	18-23	『太郎さんの汽車』上映
			学校巡回映画 六月プログラムに対する感想		41-45	『チュウ助の報恩』 おおむね好評
			時報		58-60	○和歌山市で『あひるの子』を利用した綴方教育 ○『漫画のマンガ』『チュウ助の報恩』上映情報
		9月号	第九回夏季講座記録		11	講堂映画試写研究『だんごの行方』、参考映画試写研究『魚釣り』
			『正ちゃんクマ坊珍戦記』		55	紹介
			『だんごの行方』		55-56	紹介
			時報		58-59	○学校巡回映画連盟9月プロ『だんごの行方』(予選落ち『正ちゃんクマ坊珍戦記』) ○千代紙映画社『だんごの行方』完成、タカマサ映画社『正ちゃんクマ坊珍戦記』完成
		10月号	映画学習の体験を語る(下)	坂根実夫	28-35	『あひるの子』を利用、修身教材として低学年に効果大。ただし漫画映画は①娯乐的②道徳的の二種類があるので選択に気をつけること。
			学校巡回映画 七月プログラムに対する感想		53	『マー坊の東京オリンピック大会』 おおむね好評
			『健康への道』		55	紹介
			時報		58-59	○学校巡回映画連盟10月プロ『小兎の魚釣り』(予選落ち『獵師と仔馬』) ○山ロシネマ『獵師と仔馬』完成
		11月号	児童映画の児童観—児童心理と映画の問題(二)—	波多野完治	13-19	「童心映画」について(漫画映画を含む)
			学校巡回映画 九月プログラムに対する感想		46,47,52	『だんごの行方』 賛否両論
			『マー坊の少年航空兵』		54	紹介
			時報		57-59	○学校巡回映画連盟11月プロ『マー坊の少年航空兵』(予選落ち『蛙の子』) ○『漫画のマンガ』上映情報 ○東京シネマ商会『だんごの行方』トーキー版、佐藤線映画製作所『マー坊の少年航空兵』完成
		12月号	学校巡回映画 十月プログラムの感想について	稲田達雄	50-51	『魚釣り』→「もの足りない」という意見が多い。漫画映画は①奇想天外・荒唐無稽②教訓映画の二傾向。しかし『魚釣り』はどちらでもなく新しい行き方を開拓。
			『蛙三勇士』		53	紹介。1933年版と設定が異なる→びよん七とおそでの兄弟蛙(旧版では恋人同士)
			時報		55-56	○学校巡回映画連盟12月プロ『蛙三勇士』(予選落ち『蛙の子』) ○帝国教育会映画教育部『かつら姫』(千代紙映画社16ミリ、コダクローム漫画)
	1938	1月号	昭和十二年の映画教育界(下)		14-21	漫画映画について「依然として優秀なものが現はれなかったことが痛感された」
			学校巡回映画 十一月プログラムの感想について	星野幸雄	60-61	『マー坊の少年航空兵』→「全体としては佳作とは云へない」
			時報		65-68	○帝国教育会映画教育部 第十回映画鑑賞会→『だんごの行方』 ○『誠の報ひ』上映情報 ○深田商会映画部新作漫画『低空五十米』
			<広告>『だんごの行方』		無	東京シネマ商会
		2月号	<広告>『源九郎義経』		無	奥商会
			映画界最近の問題	岡部龍	36-37	ニュース劇場、事変後の不振→「ニュース映画以外に漫画、文化映画、記録映画等を入れた「文化ニュース劇場」として行くのが最良の方策」
			学校巡回映画 十二月プログラムの感想について		52-53	『蛙三勇士』 おおむね不評
			『沼の大将』『低空五十米』		55	紹介
			時報		57-59	○学校巡回映画連盟1月プロ『沼の大将』(予選落ち『低空五十米』) ○奥商会『源九郎義経』発売
		3月号	学校巡回映画 一月プログラムの感想について		58-60	『沼の大将』 おおむね不評 例:「千代紙漫画は鮮明を欠く」
			<広告>マー坊シリーズ3本		無	佐藤映画製作所
			<広告>『だんごの行方』		無	東京シネマ商会
			『源九郎義経』		75	紹介
			時報		77-79	○学校巡回映画連盟2月プロ『源九郎義経』 ○和歌山市湯浅小学校の映画教育研究発表会→尋一修身仲良し『海の水はなぜからい』 ○『低空五十米』『小鳥と兎』上映情報
		4月号	ロシヤの児童映画—その製作機構と最近の作品について—	袋一平	22-27	ソユーズムリフィルム(国立漫画映画製作局)について。フトウシコ、ホダターエフ等の作品紹介
			映画界最近の問題	岡部龍	40-41	第五回ヴェニス国際映画コンクール 漫画賞 ウォルト・ディズニー
			映画による劣等児指導の実際的研究	下野宗逸	46-49	『あひるの子』を例に国語科綴方の学習

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			学校巡回映画 二月プログラムの感想について		52-53	線画『源九郎義経』賛否両論「線画と漫画はどう区別があるのですか」
			時報		57	○京都市の映画学習研究会『小鳥と兎』尋一合科の利用について ○『文福茶釜』上映情報
		5月号	職業指導における映画の利用について	柿野保夫	30-33	『忠吉は帰った』→高一・高二「人生と職業」
			時報		60-66	○学校巡回映画連盟改組 第一回配給映画を審議『空の荒鷲』『マー坊の大陸秘境探検』『荒鷲万才』『無敵総動員』○神戸市初等教育研究会映画部主催第一回「小学生の会」三宮劇場『森の小勇者』上映 ○佐藤映画製作所『マー坊の大陸秘境探検』、千代紙映画社『空の荒鷲』、オールキネマ社『荒鷲万才』、土田商会『無敵総動員』
			<広告>大毎東日学校巡回映画連盟		無	昭和13年度第一回配給プログラム『空の荒鷲』
		6月号	映画教育運動十周年記念映画教育功労者表彰		16-21	【先覚者並に特別功労者】村田漫画映画研究所・村田安司 横浜シネマ商会・佐伯永輔【教育映画関係業者】千代紙映画社・大藤信郎 北山活映商会・北山清太郎 全日本映画教育研究会
			<広告>第三回児童映画並に漫画映画筋骨懸賞募集		46	
			『マー坊の大陸秘境探検』		54	紹介
			『空の荒鷲』		54-55	紹介とスチール
			時報		58	京都市九条第二小学校 尋六年綴方『海の水はなぜからい』
		7月号	<広告>『北進日本』(文部省推薦)		無	トーキーサイレント漫画各種 横浜シネマ商会
			<広告>大毎東日学校巡回映画連盟		8-9	革新第一回定期配給プログラム『空の荒鷲』
			漫画映画作家の悩みと希望	大藤信郎	18-21	
			教育漫画映画製作者への提言	森田久	22-24	教育市場の大きさを指摘
			<広告>第三回児童映画並に漫画映画筋骨懸賞募集		25	全日本映画教育研究会
			時報		51-56	○学校巡回映画連盟13年度第一回プロ『空の荒鷲』○全日本映画教育研究会内 学校映画研究委員会第一回配給プロ『空の荒鷲』○『狼は狼だ』上映情報 ○小西六本店 16ミリトーキー 『北進日本』
		8月号	<広告>第三回児童映画並に漫画映画筋骨懸賞募集		42	全日本映画教育研究会
			時報		56-58	○学校映画研究委員会に「漫画部会」→大藤信郎、村田安司、山本早苗も出席。漫画製作の方針・方法について懇談(7/11)『猿蟹合戦』に決定、あと2つ計3作品並行して製作予定(7/19)「漫画映画の製作は、難物中の難物」○『沼の大将』青森県で講堂映画学習の映写前・中・後指導の実際についての研究会
		9月号	<広告>『北進日本』(文部大臣賞)		無	トーキーサイレント漫画各種 横浜シネマ商会
			文化映画と教材映画	桑木来吉	6-13	映画を分類→娯楽映画(架空を描く映画)を二分①劇映画(線画による物語映画も含む)②漫画映画
			学校巡回映画に対する感想		28-32	『空の荒鷲』おおもむ不評 例:「気分を悪くする下卑たしやれ」→「この一線死線を越えて五銭」、「支那語(コワイアル)」など
			<広告>第三回児童映画並に漫画映画筋骨懸賞募集		33	全日本映画教育研究会
			第十回映画教育夏季講座記録		53	波多野完治講演「児童映画の精神と形態」三、児童映画の文法への素描一特に漫画映画について一
			時報		61-62	○『あひるの子』尋常4年女子に実地授業(映写後の指導) ○京都教映会「夏季映画学園」開催 京都松竹座にて7/28-8/21午前→「アカデミー賞漫画」上映
		10月号	大毎東日学校巡回映画連盟加盟団体紹介 愛知県映画教育協会		46-47	本年度プログラム『低空五十米』『源九郎義経』『姥捨山』『空の荒鷲』『だんごの行方』『マー坊の大陸秘境探検』
			『亀サンノ報恩』		56	紹介(『漫画のマン吉』のトーキー版)
			時報		60-62	○東京市小学校長視察団が南洋諸島で映画を公開『鼠と獅子』○神戸市三宮映画館で第二回小学生の会『森の小勇者』『赤毛布の忠さん』○『空の荒鷲』『鼠と獅子』『源九郎義経』『チュウ助の報恩』上映情報
		11月号	映画界最近の問題	岡部龍	30-31	洋画の制限付の輸入許可→ディズニーの『白雪姫』など「噂的の作品」の輸入を期待
			映画即教授を叫ぶ	井上宗一	44-47	映画学習『北進日本』教授案
			大毎東日学校巡回映画連盟加盟団体紹介 北海道所学校巡回映画連盟会		50-51	『空の荒鷲』『雷のゴロ吉下界修行』
			笑へ山男		55	紹介とスチール 「久々の千代紙漫画」
			お猿飛助スパイ戦線		55	紹介

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			時報		59-62	○学校巡回映画連盟次回プロ『森の狼』○『お猿の大漁』『空の荒鷲』『のらくろ伍長』上映情報 ○佐藤映画製作所 電話が不通
		12月号	『森の狼』の一場面		表紙	スチール
			青森県の講堂映画会を観る	森田篤慶	42-47	『太郎さんの汽車』上映
			時報		58	○学校巡回映画連盟13年度第二回プロ『森の狼』
	1939	1月号	児童映画並に漫画映画筋書懸賞募集第三回入選発表		8-9	
			大毎東日学校巡回映画連盟加盟団体紹介		42-46	例:高州映画協会 巡回映画番組(1938年9月)『お猿の艦隊』『茶釜音頭』『猿蟹合戦』『お日様と蛙』『月の宮の王女様』『鼠と獅子』
			『マー坊の木下藤吉郎』		49-50	紹介とスチール
			『荒鷲』		50	紹介
			時報		61-62	『空の荒鷲』『おいらのスキー』『太郎さんの汽車』上映情報
		2月号	<広告>第四回懸賞募集		40	B 漫画映画梗概
			児童映画並に漫画映画筋書審査合評(承前)		41-45	入選者の言葉
			学校巡回映画に対する感想		49-53	『森の狼』 おおむね好評
			『海の荒鷲』		54	紹介
			<広告>昭和十三年度第三回配給映画プログラム		56	漫画『仔猫のいたづら』
			時報		58-61	○『森の狼』『仔猫のいたづら』上映情報 ○『お猿の艦隊』『茶釜音頭』高州で上映
		3月号	時報		10-12	○昭和十三年度第三回配給映画プロ『仔猫のいたづら』○『森の狼』『仔猫のいたづら』『雷のゴロ吉下界修行』『だんごの行方』『風さわぎ』『マー坊の少年航空兵』『森の小兎』上映情報
			漫画映画筋書『森のお祭』	唐田三平	22-24	
			<広告>第四回懸賞募集		25	B 漫画映画梗概
			学校巡回映画に対する感想		48-53	『森の狼』 賛否両論
		4月号	映画による青年学校職業科指導案	中村正己	45-46	『汽車の発達』『太郎さんの汽車』
			時報		57,60	○佐藤映画製作所『マー坊の無敵海軍』『森のお医者』と白衣の勇士』製作中 ○「漫画映画について」飯田心美寄稿 ○『あひるの子』『日本一の桃太郎』『いなばの国の兎さん』上映情報
		5月号	人形映画『二匹の蛙』の一場面		表紙	スチール(コマ撮り法かは不明)
			漫画映画筋書『狸祭り』		24-26	
			人形漫画『二匹の蛙』		26	紹介
			<広告>第四回懸賞募集		27	B 漫画映画梗概
			学校巡回映画に対する感想		48-51	『仔猫のいたづら』 賛否両論
			新映画紹介 その他提供映画		57	ベテラン漫画『動物病院』、ヴァン・ヴェーレン漫画『北極に追はれて』、フェリックス漫画『頼智猫』
			時報		60	教育雑誌首脳者を招いて映画教育座談会 『森の狼』上映
		6月号	第二回全日本映画教育大会		14-15	『月の宮の王女様』 尋二年漫画による総合学習
			映画法の制定と映画教育の再出発(二)	関野嘉雄	18-23	14才未満の制限→「対象は一般劇映画及漫画等であらう」
			『森のお医者』と白衣の勇士』		52	紹介
			時報		57,60,62	○学校巡回映画革新第4号プロ『二匹の小蛙』○『マー坊の木下藤吉郎』『マー坊の無敵海軍』○『森のお医者』と白衣の勇士』上映情報 ○漫画映画作家協会生一・村田安司、山本早苗、大石郁、瀬尾光世など。事務所は村田漫画映画研究所内
		7月号	<広告>第四回懸賞募集		49	B 漫画映画梗概
			<広告>大毎・東日学校巡回映画連盟		53	革新第四号プログラム 人形漫画『蛙とバラシユート』
			時報		54-55	○本誌百号記念第四回懸賞募集第一次予選の結果 漫画映画梗概『忠猫ミケ』○小型映画・幻灯スライド第四回製作技術講習会「タイトル・線画・トリックの撮影」池上信次
		8月号	京都教映会主催 第二回夏季映画学園(朝の児童映画会)		21	7/27-8/30午前9:00-11:00 京都新京極松竹座、10銭均一(応召軍人遺家族児童は半額)、漫画映画4-5本上映(ほとんどミッキーやポパイなど外国もの)
			大毎東日学校巡回映画連盟加盟団体紹介 岐阜県映画教育連盟		44	『マー坊の木下藤吉郎』『マー坊の大陸秘境探検』『無敵総動員』『仔猫のいたづら』『空の荒鷲』『無敵荒鷲』『森の狼』上映
			新映画紹介		49	『ミッキーの愛犬大騒動』『ミッキーの自動車大暴れ』
			時報		55-56	○「講堂映画資料」第四号『カヘルとパラシュート』解説・伴奏 ○『仔猫のいたづら』『小鳥と兎』『猿正宗』上映情報
		9月号	大毎東日学校巡回映画連盟 革新第四号プログラム紹介		50-51	漫画『カヘルとパラシュート』 紹介とスチール
			時報		59	奥商會『ニヤンの浦島』『新猿蟹合戦』『ベンケイと牛若』35ミリトーキー・16ミリ無声発売
		10月号	年少者の映画観覧制限と児童映画の問題(座談会)	不破祐俊、関野嘉雄他	17-24	○銀座座の広告に『ニヤンの浦島』『ポパイの大工』○銀座座・倉沢秀夫「漫画の週は普通よりいい」○松竹文化映画劇場・三柴保「漫画の場合など、それ(検閲に引っかかる)が多い」と予測

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			時報		54-58	○学校巡回映画第5号プロ『新猿蟹合戦』○波多野完治講演「児童映画の心理」→漫画映画と児童について言及 ○『カヘルとパラシュート』『兄弟こぐま』『マー坊の少年航空兵』上映情報
			<広告>本誌百号記念第四回懸賞募集 第二次予選の結果		60	漫画映画梗概『森の長期戦』
		11月号	満州より一筆啓上一満州学校映画の動向一	小林盛策	34-35	満州映画協会第一巡回5/22-『小鳥と兎』『月の宮の女王様』『マー坊の東京オリンピック大会』※ただし在満の日本人観客が主
			第二回夏季映画学園報告書	青戸要三	36-37	短編映画が潤いを失いつつある→そのため漫画映画を昨年より倍増
			『べんけい対ウシワカ』		50	紹介とスチール
			時報		54-59	○学校巡回映画第5号プロ『新猿蟹合戦』○『狼は狼だ』『チュウ助の報恩』上映情報 ○台南州で『ミッキーの汽車旅行』上映
		12月号	東日児童文化映画劇場開館		17	漫画『子供の夢』(RKO)上映
			大毎東日学校巡回映画連盟定期配給プログラム		45	第一～五号『空の荒鷲』『森の狼』『仔猫のいたづら』『カヘルとパラシュート』『新猿蟹合戦』
			時報		54-57	○『太郎さんの汽車』『新猿蟹合戦』上映情報 ○土商會『茂助と壺』、8ミリ文化映画普及会『ターチャンの怪物退治』発売
	1940	1月号	<広告>第四回懸賞募集		19	漫画映画梗概
			年少者の教育上支障なき一般映画認定状況		26-27	線画 日本物→非一般用映画3本(208本中)。うち1本は『元禄恋模様 三吉とおさよ』
			東日児童文化劇場だより		28	『新猿蟹合戦』ほかに上映
			漫画映画と学習効果	志水寛次	41-44	『二つの世界』を利用
			学校巡回映画に対する感想		48-49	『新猿蟹合戦』賛否両論
			『カチカチ山』		50	紹介
			時報		52-59	『ミッキーカーボーイ』『小鳥と兎』満州で上映
		2月号	文化映画認定月報		26-28	『光の踊り』(独フィッシンガー)→認定文化映画1939.12.11-1940.1.15
			東日児童文化劇場だより		29	外国漫画『お父さんの仮病』ほかに上映
			学校巡回映画に対する感想		42-47	『新猿蟹合戦』 賛否両論
			時報		52-59	○学校巡回映画第6号プロ 影絵『黄金の鉤』○本誌百号記念第四回募集筋書 第三次予選の結果 漫画映画梗概『子鳥と白兎』
		3月号	東日児童文化劇場だより		29	極彩色漫画『ミッキーの造船技士』ほかに上映
			時報		50-59	『だんごの行方』『兄弟こぐま』ほかに上映情報
		4月号	影絵映画『黄金の鉤』より		表紙	スチール
			漫画映画私感	戸田隆雄	22-23	「日本漫画映画が技術的にも内容的にも拙劣であると云ふことは常識的な定評である」「新猿蟹合戦」の作者が仮令幾分かでも道徳的な概念から離れた感性を生かそうとした態度は大いに敬服していると思ふ」
			文部省推薦・認定月報		26-28	『ハンガリアンダンス六番』(独オスカーフィッシンガー)→認定文化映画1940.2.16-3.15
			東日児童文化劇場だより		29	極彩色漫画『貧しき少年』ほかに上映
			教育映画界消息		50-51	○芸術映画社『テクスケと兎と河馬と狼』製作進行中 ○東和商事文化映画部『ハンガリアンダンス六番』試写
			時報		52-59	
		5月号	本誌百号記念第四回懸賞募集 児童映画筋書・漫画映画梗概入賞者発表		6-7	漫画映画梗概 入賞該当なし 佳作三編『蛙と蛇』『子鳥と白兎』『玩具行進曲』
			漫画映画の世界	戸田隆雄	16-17	ディズニー作品と『アリババ退治』(フライシャー)を称賛
			文部省推薦・認定月報		22-24	『魔術師の弟子』(独オスカー・フィッシンガー)→認定文化映画1940.3.16-4.15
			東日児童文化劇場だより		29	『ボバイの泣虫小僧』ほかに上映
			漫画映画梗概 『蛙と蛇』		42	
			アマチュア映画界		49	荒井和五郎の影絵映画『黄金の鉤』→35ミリトーキー版:映画館に東和商事が配給、16ミリ無声版:大毎学校巡回映画連盟のプログラムに採用
			『マー坊の鐵血陸戦隊』		50	紹介
			時報		52-59	映画教育中央会 第七回配給プロ『二つの世界』
		6月号	広範囲の取材を	波多野完治	6-10	第四回懸賞募集の漫画映画梗概について批判「「児童漫画映画」の児童性といふものをもう少し考へてもらひたい。といて道徳的イデーの盛りこみはまっぴらであるが」
			時報		22-25	釜山府映画教育連盟結成式で『日本一の桃太郎』『森の狼』上映
			東日児童文化劇場だより		30	『お猿の軍神』ほかに上映
		7月号	支那映画界の近況(上)	高木俊朗	10-15	『ガリヴァー旅行記』『白雪姫』上映
			東日児童文化劇場だより		29	『ベティの鷲鳥狩り』ほかに上映
			第三回全日本映画教育大会記録		50	『お日様と蛙』尋常一年修身
			時報		54-60	釜山映画教育連盟第一巡回配給プロ『日本一の桃太郎』『森の狼』
		8月号	文部省推薦・認定月報		15-19	『発声漫画の出来るまで』→認定文化映画
			東日児童文化劇場だより		29	影絵『朱金昭』ほかにボバイ・ベティ多数上映
			学校巡回映画に対する感想		38-45	影絵『黄金の鉤』 おおむね不評「芸術的すぎてゐる」など
			学校巡回映画第六号プログラムの「感想」をめぐって		46-47	『黄金の鉤』称賛 「今回のプログラムの中で最も高く評価されるべきものはこの映画ではなかったらうか」

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育		9月号	東日児童文化劇場だより		31	ポパイ、ベティを上映
			学校巡回映画に対する感想		38-42	影絵『黄金の鉤』賛否両論
			大毎東日学校巡回映画連盟 革新第七号プログラム		43	『ペンケイと牛若』
		10月号	東日児童文化劇場だより		30	ポパイ、ベティをおもに上映
			時報		53-59	釜山府映画教育連盟 第三巡回プロ『のらくろ二等兵』
		11月号	東日児童文化劇場だより		27	ポパイ、ベティをおもに上映
			時報		54-59	『小鳥と兎』尋二修身トモダチニシンセツニ新潟県映画教育講座の映画利用実地授業
		12月号	東日児童文化劇場だより		29	ポパイ、ベティを上映
			学校巡回映画に対する感想		36-41	『べんけいとウシワカ』賛否両論
			学校巡回映画に対する「感想」を読んで	宮崎和男	42-43	「画面が暗くて不鮮明」の意見に賛同。「史実に即してほしい」の意見には反対。
			大毎東日学校巡回映画連盟 第八号プログラム		43	『カンガールの誕生日』
			時報		50-59	釜山府映画教育連盟 第四巡回プロ『マー坊の無敵海軍』
	1941	1月号	東日児童文化劇場だより		36	ポパイ、ベティを上映
			時報		60-67	『べんけいとウシワカ』釜山府で試写
		2月号	東日児童文化劇場だより		38	極彩色漫画『ミッキーの造船技師』ほか上映
			時報		52-59	『キンタロー体育日記』ほか上映情報
		3月号	東日児童文化劇場だより		29	『発声漫画の出来るまで』ほか上映
			『カンガールの誕生日』		51	紹介とスチール
		4月号	文部省推薦・認定月報		29-30	『富士の地質』(線画を含む)→文部省推薦映画
			東日児童文化劇場だより		33	ポパイをおもに上映
			<広告>今村太平『漫画映画論』		47	
			『動物となり組』		50-51	紹介とスチール
			『玉手箱』		51	紹介
			受贈新刊紹介『漫画映画論』		53	
			時報		54-60	学校巡回映画連盟第八号プロ『カンガールの誕生日』→16ミリ生フィルムの関係で配給が遅れていたが4月半ば頃から配給開始の見込み
		5月号	<広告>『動物となり組』『カンガールの誕生日』		無	深田商会映画部
			東日児童文化劇場だより		27	ポパイのみ上映
			文部省推薦・認定月報		24-25	『とびこんだ文福』(日本動画)→非一般用映画
			時報		53-59	蒲田線映画研究所→森尾鑑郎、越智健次、鈴木英男氏等によって東京市蒲田区連沼七五に創立、漫画、線画、タイトル等の製作研究を行う
		6月号	文部省選定児童生徒向け映画		28-29	『ジャックと豆の木』
			東日児童文化劇場だより		31	『ジャックと豆の木』ほか上映
			時報		53-59	釜山府映画教育連盟第6回プロ『動物防諜戦』
		7月号	文部省推薦・認定月報		19-20	『新篇とびこんだ文福』(松竹)→非一般用映画
			東日児童文化劇場だより		23	『ミッキーの捕鯨船』ほか上映
			学校巡回映画に対する感想		40-43	『カンガールの誕生日』おむね好評
			学校巡回映画の「感想」に現れた諸問題	下野宗逸	44-45	『カンガールの誕生日』に教訓がないという批判に対して「余り漫画に教訓を盛ることに賛成出来ない。願はくは漫画の本質をもう一度検討していただきたいと思ふ」
			『カチカチ山』		51	紹介とスチール(動画榎木統三、脚色政岡憲三)
			時報		52-59	『タヌ吉のお話』『動物となり組』ほか上映情報
		8月号	東日児童文化劇場だより		27	ポパイ、ベティを上映
			文部省推薦・認定月報		28-29	『子供と工作』(影絵と実写)→認定文化映画
			時報		54-59	児童映画再検討座談会(全日本映画教育研究会主催)で『マー坊の大陸宣撫隊』上映
		9月号	<広告>『カンガールの誕生日』		無	深田商会映画部
			『子供と工作』	關猛	19	やや不評「相当に気どったテクニック」など
			東日児童文化劇場だより		25	ポパイとベティを上映
			時報		52-59	京都市で第四回夏季映画学園(京都教化映画翼賛会主催)→7/24-8/20午前中、河原町三条ニュース館にてポパイ、ベティ、ミッキーマウス等を上映
		10月号	東日児童文化劇場だより		27	ポパイをおもに上映
			『おもちゃの舞踏会』		48	紹介(ティズニ作品)
			時報		52-60	『お蝶夫人の幻想』ほか上映情報
		11月号	京都市に於ける郊外映画教育	青戸要三	17-22	『夏季映画学園』S13~16年の上映プログラム(アメリカの漫画映画が主)
			神戸市に於ける郊外映画教育	五島泰三	22-25	『小学生の会』等の上映プログラム(アメリカの漫画映画が主)
			<広告>『子供と工作』		無	
			東日児童文化劇場だより		47	ポパイのみ上映
			時報		55-59	『カチカチ山』ほか上映情報
		12月号	東日児童文化劇場だより		29	ポパイをおもに上映
			時報		52-59	在満日本教育会北部会 第一回学校巡回映画会で『カチカチ山』『馬芝居』『證城寺の狸囃子』『マー坊の鐵血陸戦隊』上映
	1942	1月号	映画教育中央団体の統合について	稲田達雄	6-9	漫画映画は一卷ものを年5種、製作予定
			東日児童文化劇場だより		29	ポパイをおもに上映
			<広告>『こがねの花』『玉手箱』		無	日本視覚教育研究所
			『だんごの行方』			
			時報		50-57	『ミッキーの愛犬騒動』台湾で巡回映写
		2月号	東日児童文化劇場だより		29	日米開戦後、漫画映画が激減
			時報		54-60	『カンガールの誕生日』ほか上映情報
			文部省推薦・認定月報		29	『居酒屋の一夜』→非一般用映画

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育			東日児童文化劇場だより		31	『子供と工作』上映
			時報		52-59	『子供と工作』ほか上映情報
		4月号	『かぐや姫』	森田篤慶	22-23	
			文部省推薦・認定月報		25-26	『空の荒鷲』→非一般用映画
			東日児童文化劇場だより		27	
			文部省検定・選定映画(一)		50-51	国民学校課外用映画:『海の生命線』高学年高等科、『あひるの子』全学年
			受贈新刊紹介 『ジャックと豆の木』		52	作・絵:荒井和五郎 文:長谷川和夫(影絵の絵本)
			時報		53-59	『アリチャン』『二つの世界』ほか上映情報
		5月号	文部省検定・選定映画(二)		50-51	国民学校課外用映画:全学年『猿正宗』『海の桃太郎』『文福茶釜』『お日様と蛙』『ひばりの宿替』『ミー坊と狼』『仔猫のいたづら』『黄金の鉤』『森の狼』『兎と亀』『新猿蟹合戦』『雀のお宿』『カンガルーの誕生日』
			時報		52-59	『ジャックと豆の木』台南州で上映 『子供と工作』朝鮮・京城で上映
		6月号	文部省選定児童生徒向け映画		19	『富士の地質』(実写併用)『ジャックと豆の木』(影絵) 昭和15年7月~昭和16年5月
			東日児童文化劇場だより		32	『富士の地質』上映
			時報		50-59	『雲雀の宿替』台南州で上映
		7月号	東日児童文化劇場だより		31	『かぐや姫』上映
			大毎東日学校巡回映画連盟加盟団体紹介 39、在満日本教育会北部会		35-41	十六耗発声フィルム目録 漫画『カンガルーの誕生日』
			時報		54-59	『動物となり組』『ジャックと豆の木』台南州で上映
		8月号	東日児童文化劇場だより		29	『フクチャン奇襲』上映
			東京市国民学校関係保有一六ミリ映画調査		34-39	漫画映画『あひるの子』ほか多数
			時報		52-59	夏季少国民映画教室 関西九大都市十五館のプログラム(漫画映画多数)
		9月号	東日児童文化劇場だより		29	『世界一の隣組長』(実写併用)上映
			時報		52-59	『鼠と獅子』ほか上映情報
		10月号	文部省選定・検定映画購入注文調査		16-18	漫画映画 計70組
			東日児童文化劇場だより		27	『マー坊の南海奮戦記』『芋と兵隊』上映
			時報		55-59	『スパイ撃滅』『天晴れガル助』ほか上映情報
		11月号	八、九両月中の東京市国民学校郊外映画引率観覧状況調査		10-13	『西遊記』観覧(麻布日活のみ)
			東日児童文化劇場だより		31	『お山の総動員』『子宝行進曲』上映
			文部省検定・選定映画(八)		50	国民学校課外用映画 全学年『桃太郎の海鷲』
			時報		52-59	『マー坊の木下藤吉郎』ほか上映情報
		12月号	東日児童文化劇場だより		25	『夢の魔術師』『動物防諜戦』『鳥の保健勧誘員』
			『桃太郎の海鷲』	關猛	28-29	紹介とスチール
			時報		51-57	『兄弟ごま』ほか上映情報
	1943	1月号	<広告>『新猿蟹合戦』『雀のお宿』		無	奥商会
			東日児童文化劇場だより		29	『忠臣蔵』『夢の浦島』『月夜の兎』上映
			時報		52-59	『夢の浦島』 朝鮮・京城で上映
		2月号	文部省推薦・認定月報		25	描画『桃太郎の海鷲』→文部省推薦映画
			東日児童文化劇場だより		26	『チュー助の報恩』『マー坊の木下藤吉郎』『砂煙高田グラウンド』『空の慰問隊』『海の小勇士』上映
			時報		39-43	『くもとちゅうりっぷ』文部省で試写審議
		3月号	『くもとちゅうりっぷ』	關猛	25	
			東日児童文化劇場だより		27	『ワン公の武勇傳』『新日本島萬歳』『非常時の桃太郎』
			時報		40-43	『桃太郎の海鷲』ほか上映情報
		4月号	時報		40-43	『夢の魔術師』 朝鮮・京城で上映
	1944	1・2月合併	文部省推薦映画		14-15	『桃太郎の海鷲』
			文部省選定映画		16-19	全学年向:『マー坊の落下傘部隊』『お猿三吉闘ふ潜水艦』
			昭和十八年中の封切上映映画と文部省推薦・認定及選定		20-25	『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』『ニッポンバンザイ』『マー坊の落下傘部隊』『お山の防空陣』『フクチャンの増産部隊』『お猿三吉闘ふ潜水艦』上映情報
			文部省選定 国民学校課外用青年向 映画一覧		53-55	漫画映画13本 影絵映画1本
			昭和十八年度定期配給映画		56	○国内児童向番組:第三回『空の桃太郎』、第五回『マー坊の落下傘部隊』 ○満州児童向番組:第一回『桃太郎の海鷲』第二回『マー坊の落下傘部隊』第三回『お猿三吉闘ふ潜水艦』
		3月号	文部省選定映画		25	国民学校課外用映画 『桃太郎の海鷲』
			決戦下映画教育推進のために		38-39	講堂映写指導案『桃太郎の海鷲』 「前半画面の感じは独創日本の面目あり、味深く、後半の或る部分は多少アメリカ漫画の悪臭を脱し切れない点あり、扱ひかたに考慮を要す」
			時報		46	日本少国民文化協会映画部会 第五回漫画映画研究会 政岡憲三、瀬尾光世も出席
		4月号	文部省選定映画		7	国民学校課外用映画 『マー坊の落下傘部隊』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育		5月号	マー坊の落下傘部隊		4-5	定期配給映画観覧指導資料「児童を科学的に仕向けようとか、発明に対する教訓乃至は暗示を与へようとするが如き直接的効果を期待し、又その意図を以て取扱ふことは好ましくない。「やあ、面白いなあ」と思はせればそれでよいのであるが……ただ面白をかしく笑はせればよいのではない」
			映画教育界時報		15	日本少国民文化協会映画部会新役員決定→熊木喜一郎(松竹漫画映画製作所主事)(重任)
映画と演芸	1928	8月号	『四十人の盗賊』		18	紹介とステール
			『文福茶釜』		22	紹介とステール
	1929	1月号	『浦島』		36	紹介とステール (森青園監督の人形映画)
		5月号	『こがねの花』		24	紹介とステール
	1930	6月号	『魔法の時計』		12	紹介とステール
		11月号	『ちよん切れ蛇』		32	紹介とステール
	1931	1月号	『難船物語 第一編 猿ヶ島』		27	紹介とステール
		4月号	『奴隷戦争』		25	紹介とステール
		9月号	ユナイトと発声漫画の頁		21	○ミッキーマウスの人形、ビン坊、オスワルド、フリップの写真 ○アブ・アイワークスの自画像「ミッキーとフリップとの作者アブ・アイワークスさん」
		10月号	『商人と猿の群れ』		20	紹介とステール
	1932	5月号	恍笑の世界 漫画トーキーのありがた味	堤寒三	31	
		12月号	『カと女の世の中』		14	紹介とステール
			日本のベティ・ブーブ	如月敏	30-31	女優・市川春代の紹介
	1933	3月号	日本で生れる漫画トーキー: 京都政岡漫画製作所のスナップ		16-17	政岡漫画製作所の写真多数
			『與太交響楽』		20	紹介とステール (シリー・シンフォニー)
		11月号	『お猿の三吉 防空戦』		26	紹介とステール
		12月号	『シリー・シムフォニー』その他	平尾郁次	30	
	1934	1月号	『ギャングと踊り子』		33	紹介とステール
			『沼の大將』		33	紹介とステール
		6月号	『シリー・シムフォニー』		14	紹介とステール (『三匹の小豚』)
		7月号	漫画の主人公		14	フリップ、ボス公、ベティ、ポパイほかイラスト
		9月号	『カチカチ山』		無	紹介とステール (大石郁雄)
		11月号	ミッキーマウスのブロンズ像		44	ステール
	1935	4月号	ミッキーの実演		9	横井福治郎のーコママンガ
		11月号	ミッキーマウスの誕生日(米誌より)		63	ーコママンガ
	1936	2月号	欧米化され行く映画—中国映画界、最近のトピック—		21	「ミッキーマウス大会」の中国の新聞広告
	1938	1月号	ムーヴィ・メリーゴーラウンド	ジョン・カーステアス	116-121	漫画映画の製作プロセス、ディズニー夫妻の写真
		4月号	廿世紀の奇蹟 長篇漫画「白雪姫」(九巻)成る!		22-23	製作プロセス ディズニー・スタジオの写真多数
映画朝日(『映画と演芸』改題)	1938	9月号	漫画製作法	田中敏男	52-55	
	1939	1月号	ポパイの作者逝く		194	
			ミッキーマウス誕生十周年記念祭		196	
			海外映画短信		197	○バ社の着色ポパイ映画 特別記念賞獲得 ○『ハッピー・ハーモニス』の作者、メトロと7年の長期契約を更新
		3月号	ディズニー英国で勝訴		168	『白雪姫』の著作権 リー・ブリッジ社が賠償
		4月号	ポパイの銅像		197	ほうれん草が主産物のクリスタル・シティに建立予定
		5月号	パラマウント短篇	伊勢壽雄	122-125	ベティ、ポパイ、カラー・クラシックなど
		9月号	ハリウッドの日本人座談会	桑原信六郎ほか	98-106	桑原信六郎→ウォルト・ディズニー・プロダクションからMGMIに引き抜かれた漫画映画考案家
		10月号	上半期・佳篇揃いのソ連児童映画	袋一平	90-91	ソ連の漫画映画→半分以上が色彩化
	1940	1月号	映画朝日新聞		239	漫画王ウォルト・ディズニー 第二回長篇『ピノキオ』明年2月末完成予定と発表
		2月号	映画朝日新聞		206	『元禄恋模様 三吉とおさよ』非一般用映画に
		3月号	映画朝日新聞		204, 208	○満映が漫画製作 ○『明治文化』など漫画映画製作の日本映画科学研究所→北村ただし氏外10名の同人から成る「日映漫画研究会」結成
		5月号	「ピノキオ」誌上封切		無	紹介とステール
		8月号	映画朝日新聞		190	文部省が漫画映画製作
		9月号	映画朝日新聞		160	ディズニーの長篇新作 脚本を製作中
日本映画事業総覧 昭和三四年版	1928		日本映画事業者名簿		181-197	東京線画フィルム製作所、自由映画研究所、横浜シネマ商会、タカマサ映画製作所ほか
日本映画事業総覧 昭和五年版	1930		日本映画人名録		199-242	大藤信郎ほか
			昭和三年月例記事		101	日活の中山呑海監督 漫画人形映画を製作
			小型映画界	田口修司	110-116	『動物オリムピック』
			昭和四年各撮影所監督別映画製作評		127-131	大藤信郎プロ 大藤信郎 こがねの花 ほか
			昭和三年各撮影所監督別映画製作評		131-135	銀映社 上野武夫作画 四十人の盗賊 ほか
			昭和四年外国映画輸入表		136-138	『アクメッド王子の冒険』ほか

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項	
日本映画事業 総覧 昭和五 年版			世界映画界概観:独逸	岩崎昶	264	ライニガーに言及	
			全国主要実用映画製作所設備及 撮影一覧表		445-448	北山活映商会ほか	
			日本映画事業商社録		475-493	北山活映商会、千代紙映画社ほか	
			日本映画人名録		499-550	北山清太郎、村田安司、大藤信郎ほか	
			昭和四年度発売十六ミリ映画目録		619-623	漫画、影絵、千代紙映画 31本	
			昭和四年度発売パター・ベビー映 画目録		623-624	線画、千代紙映画 4本	
			<広告>東京線画フィルム製作所 金井木一		無		
			<広告>タカマサ映画社、北山活 映商会		無		
国際映画年鑑 昭和九年版	1934		内外映画在庫目録		701-722	『魔法の時計』ほか	
			本邦映画界回顧		33-96	○「漫画は発声映画化してから、俄にその価値 が認められてきた」(43) ○松竹:政岡漫画映 画製作所と提携、トーキー漫画に進出 第一回 『力と女の世の中』製作(53) ○大藤信郎『お関 所』(79)	
			日本主要映画事業会社興信録		239-272	J・Oトーキースタジオ 発声漫画部を開設	
			発声映画界概観		283-298	『蛙三勇士』『力と女の世の中』ほか	
			文化映画事業調査資料		368-369	北山活映商会、横浜シネマ商会ほか	
			<広告>日本マンガフィルム研究		無	技術部 瀬尾光世	
			<広告>精巧キネマ商会		無	線画漫画一般撮影製作	
			日本映画事業商社録		389-405	三谷商会(山本早苗)、スミカズ創作社(幸内純 一)、政岡映画美術研究所ほか	
映画年鑑 一九三六年版	1936		日本映画人名録		464-482	北山清太郎、村田安司、大藤信郎ほか	
			小型映画の一年間	宇野真佐男	35-36	フィッシングの影響を指摘	
			監督・プロデューサー・脚本家列伝		115-126	ディズニ、フライシャー	
			日本主要映画関係事業一覧		183-196	千代紙映画社ほか	
日本映画年鑑 昭和十六年度 版	1941		日本撮影所録		201-205	政岡映画研究所ほか	
			外国撮影所録		206-214	ウォルト・ディズニ撮影所ほか	
			全日本映画製作従業員統計年鑑 (昭和十四年度)		(口) 74-75	山本早苗製作所ほか	
			東宝住所録 特殊技術課		(ニ)67	大石郁雄	
			文化映画		(ト)1-7	東和商事文化映画部 フィッシング4本	
			日本映画人名録		(オ)1- 68	大藤信郎、金井喜一郎ほか	
			日本映画事業商社録名鑑		(ワ)1- 36	村田漫画映画製作所ほか	
		映画年鑑	1942		文化映画		4-23
	其他映画				4-37	『ジャックと豆の木』	
	文部省製作映画一覧				6-42,43	『あひる陸戦隊』『なまげつね』『アリチャン』	
	文部省映画交付一覧				6-44	『二つの世界』	
	朝鮮総督府学務局選定児童生徒 向映画一覧				7-5	『ジャックと豆の木』	
	台湾				8-3,4	『動物防諜戦』『お山の総動員』『ジャックと豆の 木』『ミッキーの自動車大暴れ』『ミッキー愛犬大 騒動』巡回映写	
	其他日本映画補遺				17-26	『動物となり組』	
	外国文化映画其他				17-26,27	『お伽の国』『ゴリラ狩り』ほか18本	
	其他日本映画 描画				135-138	漫画映画多数	
	東亜共栄圏劇映画 作品総覧				139-140	『鉄扇公主』	
	満州国映画界 学校と映画				611	『スパイ撃滅』 満州国日系学校で上映	
	巡回映写使用映画				675-676	日本の漫画映画 9種293回 中南支で上映	
	南方諸地域映画界 仏印		694	『ピノキオ』『白雪姫』 仏印で上映			
	南方諸地域映画界 発送せる映 画		713-714	『お蝶夫人の幻想』 南方諸地域へ発送			
映画年鑑 昭 和十八、十 九、二十年	二、五、八巻				無	漫画映画多数掲載 (東京国立近代美術館フィ ルムセンター図書室所蔵)	
映画評論	1929	4月号	驚嘆すべき根気『アクメッド王子 の冒険』一	寺崎廣節	415	ハーフトーンで立体的に見える→大藤信郎 『鯨』も	
		7月号	『お関所』		87	賛否両論 賛:音響→「純日本趣味」で良い。 否:千代紙映画→「本来的なマンネリズム」「動 きが円滑でない」「境界線の判然としている」	
		9月号	ブロードウェイの短編映画劇場		62	コメディ、漫画、ニュースなど 25セントで上映	
			日本製トオキイに就いて	寺崎廣載	53-55	『お関所』称赞 「音響効果も伴奏もなかなかよ く、アメリカの発声漫画を見る位いの気持ちで見ら れるもの」	
		12月号	<広告>『アヂ太プロ吉消費組合 の巻』		無	プロキノ	
		1931	1月号	プロキノ作品を観る		107	『アヂ太プロ吉消費組合の巻』→「新しい試みと して、種々の困難を排して斯る漫画映画にも進 出してゆくことは敬意と注目に値しよう」
			4月号	独逸のヴァンギアルド映画	来島雪夫	42-51	ロッテ・ライニガー、ヴィキング・エッゲリング、ハ ンス・リヒター、ヴァルター・ルットマンに言及
			モホリイ・ナギイの絶対映画論	清水光	52-59	ヴィキング・エッゲリング、ハンス・リヒター、ヴァ ルター・ルットマン作品→「絶対映画」	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画評論		8月号	プロキノ映画		96-97	『奴隷戦争』は線画漫画による新しい形式の映画だ。統計を図示して経済地理の概念を与へようとしたもの。東洋一主に支那に於ける列強の搾取振り、線画なので伸縮融通自在で、思ふままに面白く帝国主義ブルジョアの植民地政策を暴露してゐる
		10月号	日本映画芸術史	安田清夫	81	漫画映画→「ニュースと同様、トーキーになって俄然頭をもたげ、立派に一つの呼び物となつてゐる。法楽座には漫画を見にゆく人々も居るといふ位である。ミッキー・マウスは現代人にお馴染となつてゐる。此の漫画の方面は益々発展してゆくであらう」
			日本映画とトーキー	大塚恭一	104-107	『お閑所』を称賛。「音響効果も伴奏も仲々よく、『マダムと女房』以前の唯一の楽しめるトーキー」
		12月号	『商人と猿の群れ』(影絵映画)		96	紹介
1932		3月号	小型科学映画		114-115	「線画映画こそは教材として最も活用の範囲の広いものであるが故にこの方面の一層の研究を希望し度い」
		8月号	中表紙		無	ベティとピン坊のイラスト
			発声漫画管見	安田清夫	22-23	
			発声漫画について	木内嗣夫	24-35	
			笑の哲学	加藤彦平	36-40	
			発声漫画の芸術性	飯田秀世	42-45	
		10月号	フランスの教育映画		70-73	『かへるの王様』『魔法の時計』
1933		4月号	シリイ・シムフォニー	滋野辰彦	91-92	
		5月号	ミッキイ・マウスとシリイ・シムフォニー	C.A.ルジュン(上野一郎訳)	160-164	
		11月号	人工映画の理論と方法—エリック・ウォルター・ホワイトの「歩む影」—	E.W.ホワイト(蔵田国正訳)	94-99	ディズニー、スタレヴィッチ、ライニガーに言及
			『海の生命線』 オフィシャルフィルムの飛躍	来島雪夫	115-117	
1934		1月号	影絵映画とミッキイマウス漫画映画—エリック・ウォルター・ホワイトの「歩む影」(2)—	E.W.ホワイト(蔵田国正訳)	168-177	ライニガー、ディズニーに言及
		3月号	『光の交響楽』について	青山唯一	105-107	オスカー・フィッシーの「音楽の視覚化」を称賛
		7月号	発声漫画論考	加藤彦平	24-25	
			漫画映画の特異性	蔵田国正	26-32	
			AD LIBITUM	山中栄造	33-34	
			発声漫画の解釈学	瀬木忠夫	35-38	
			日本最初の漫画映画製作の思ひ出	下川凹天	39	
			漫画映画製作への抱負	漫画家十二氏	40-41	江島ハツキ、和田邦坊、失名氏、近藤日出造、池田永一治、服部亮英、幸内純一、細木原青起、下川凹天、宮尾しげを、前川千帆、穴戸左行の発言
			発声漫画映画の製作	ウィリアム・ゲリテイ、齊藤晃司訳	42-52	ディズニー・スタジオのスタッフ
			トーキー漫画の出来るまで	中野孝夫	53-57	
			J・O発声漫画作品目録		57-58	
			発声漫画の製作に就いて	村田安司	59-62	
			村田安司漫画映画作品目録		63-64	
			千代紙映画と色彩映画について	大藤信郎	65-67	
			千代紙映画社作品	齊藤晃司	68	
			フィッシーの映画	青山唯一	88-90	
			漫画短編映画製作者評伝と作品目録	齊藤晃司、野口久光	93-115	フライシャー兄弟、ディズニー、その他目録
			トーキー漫画録音台本 天狗退治		160-163	
1935		2月号	映画脚本用語集	高原富士郎、木村彦	96	千代紙映画＝影絵映画の一種、映画となしたものの
		5月号	趣味映画理論	アンドリュク・ブキャナル	126-140	「ディズニーの創造ほど真実に映画的なスクリーン上の作品はない…そこには動きがある」
		6月号	現代映画表現の諸問題	ルドルフ・アルンハイム	74-80	ディズニーを称賛。フィッシー、アレクセイエフ、『生の悦び』も紹介
		7月号	発声漫画製作に関する用語集	中野孝夫	114-115	
		9月号	美術家と映画	アーサー・シャアーズビイ(上野一郎訳)	94-97	「ミッキイ・マウスの大流行を鑑みれば、絵画的象徴のみが人々の想像力に与へ得る無限の影響について今更とやかく言ふがものはないであらう」
			作家と映画	キャムベル・ネーアン(上野一郎訳)	98-103	「ウォルト・ディズニーは永いあひだハンス・アンデルセンが占めてゐた位置を奪つた」
			戦近欧米映画技術の傾向	高原富士郎	43-44	漫画映画がカラー化を先行する理由→漫画映画は現実的な色より原色を欲するから、発展途中のカラー技術に適する(「色彩映画」の項)
1936		1月号	漫画映画論(一)—明日の映画への試作—	時津黎	155-158	ディズニー作品
		3月号	漫画映画論(二)	時津黎	72-76	『生命の悦び』『禿げ山の一夜』『Idée』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画評論	1937	2月号	日本教育映画の此の一年	鈴木喜代松	77-83	漫画映画は児童が最も喜ぶもの。しかし昭和5・6年の良品『あひるの子』『お猿の大漁』『海の桃太郎』ほどのものがない。「暗雲低迷の状態」
		9月号	アマチュア映画界の一年間 映画の現実性と非現実性	宇野真佐男 今村太平	84-91 37-43	主要発売映画『動絵狐狸達引』ほか 「トーキー漫画の中では、口述的で言語的な表現系統の到達しえない人間の空想、幻想がリアリティーを与えられてゐるから、いつか、映画の非常に普及した暁には・・・現在の漫画の非常に発達した形式で童話が書かれるかもしれない」
		12月号	ソヴェートと独逸の人形映画	G.プレトン・スミス(北村莊一郎訳)	92-94	ドイツのディール兄弟の人形映画 ソビエトのプトウシコ『新ガリヴァー』
			人形映画『新ガリヴァー』	フェリックス・パーカー(北村莊一郎訳)	94-96	
	1938	1月号	海外映画通信	上野一郎		『白雪姫』『パンピ』情報
		2月号	短篇映画評		114-116	『だんごの行方』『マー坊』『森の妖精』→「外国漫画の模倣が多くて、創意の見られなかったことが悲しい」
		4月号	ワルト・ディズニー試論	辻久一	51-57	
	1939	1月号	海外映画通信		108-111	○1938-39年発売のディズニー作品18本一覧 ○シリー・シンフォニーで有名になった作詞家アン・ロネル
		5月号	米國に於ける三八年ベスト・テンに就て	上野一郎	99-103	『白雪姫』 Film Diary 1位、National Board of Review 2位
		8月号	映画と児童—映画教育の再出発—	加藤彦平	54-58	尋常小学校一・二年生には『ミッキー漫画』『シリー・シンフォニー』がぴったり
	1940	4月号	興行について—観客は何を求めてゐる？	登川尚左	58-61	「文化映画は、そのみが上映されるのではなくて、同時にニュースや漫画や音楽短篇や等々を伴はなければ、文化映画館では上映されない」
			華北電影だより	村尾薫	74-80	『白雪姫』を称賛。北京で「大入満員続きの盛況」
			読者投稿 アナウンス抹殺論—文化映画の問題—	安藤貞雄	104-106	ミッキー・マウスやポパイが言語の壁を越え全世界で人気→チャップリン人気と同じ理由「文字や言語を最小限度に止めて、具体的イメージによって彼の感情乃至思想を表現した」
		5月号	<広告>『お蝶夫人の幻想』		無	「問題の影絵、音楽映画」
			グラフィ文化映画=		無	『お蝶夫人の幻想』スチール
			上海から	青山唯一	58-60	『白雪姫』『ガリヴァー旅行記』を称賛、日本の漫画映画を批判。「日本で此の頃文化映画が注目され始めたのを良いことに、簡単な良い加減な仕事で一巻ものを無暗に作ってゐるのを、これは対照して考へると暗澹たる気持になる」
			海外通信 アカデミー賞	上野一郎	94-97	短篇漫画賞『醜い仔字鴨』(ディズニー)
		6月号	文化映画月評	登川尚左	67	『お蝶夫人の幻想』
		7月号	最近のアメリカ映画(その二)	辻久一	46-55	上海で近く『ピノキオ』上映予定
		8月号	海外通信 一九四〇—四一年のアメリカ映画	上野一郎	78	『パンピ』『ファンタジア』製作情報
		10月号	海外通信 アメリカ映画人の俸給	上野一郎	93	ウォルト・ディズニー・プロ→ウォルト・ディズニー 10万4千111\$, レオポルド・ストコフスキー8万\$
	1941	1月号	『ファンタジア』紹介		38-42	
		3月号	<広告>『ジャックと豆の木』		無	
			アメリカ映画のベスト・テン		56-60	『ファンタジア』 NYタイムスのボスレイ・クロウサアのベスト・テン10位
			絵画的な映画論		94-97	発声漫画と色彩映画
		5月号	皇軍進駐下の仏印映画界		110-114	『ピノキオ』上映
		6月号	ウォルト・ディズニーのファンタジア	ディームス・テイラー	48-56	ストーリー、スチール多数
		7月号	ウォルト・ディズニーのファンタジア	ディームス・テイラー	32-42	ストーリー、スチール多数
		8月号	ウォルト・ディズニーのファンタジア	ディームス・テイラー	48-58	ストーリー、スチール多数
			世界映画通信 ソヴェト		112-113	漫画映画振ふ
		9月号	ウォルト・ディズニーのファンタジア・完	ディームス・テイラー	98-105	ストーリー、スチール多数
		10月号	英米映画裸記 ディズニーについて		80-81	「ディズニーは紙芝居屋ではない。芸術家である」ディズニーとフライシャーを対照
			世界映画通信 ディズニーの新作長篇を紹介		127	
		12月号	<広告>『かぐや姫』		無	
	1942	2月号	上海租界進駐と文化工作	多田裕計	34-37	『鉄扇公主』 民国三十年度上海中国映画封切 88作品中8位以内のヒット
		4月号	『鉄扇公主』をめぐって	澤田稔	96-99	
		5月号	映画史	モリオス・バルデッシュ、ロベエル・ブラジャック	74-83	エミール・コール『変化万化』(1907)スチール
		7月号	映画史2	モリオス・バルデッシュ、ロベエル・ブラジャック	74-84	笑劇と漫画映画
		8月号	上海の映画界から	清水晶	26-32	『白雪姫』『リラクタント・ドラゴン』『鉄扇公主』紹介
		10月号	二三の感想	中谷孝雄	40-42	『西遊記』(鉄扇公主)称賛

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項	
映画評論	1943	12月号	矢笑的偶感	八尋不二	44-46	『西遊記』(鉄扇公主)批判「技術が稚拙」	
		1月号	従軍画家座談会 南方事情と映画	小磯良平、 藤田嗣治他	52-59	南方で漫画映画は歓迎されている	
		2月号	清郷地区巡迴映写記(上)	清水晶	51-55	『お猿の大漁』巡迴上映	
		3月号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	白黒	
			<広告>『桃太郎の海鷲』		無	カラー	
			日本漫画映画のために	今村太平	58-60		
		4月号	映画対談	今村太平、 大熊信行	6-10	『桃太郎の海鷲』ほかについて	
		5月号	座談会 日本漫画映画の興隆	政岡憲三 瀬尾光世 荒井和五郎 熊木喜一郎 今村太平 野口久光 滋野辰彦	12-19		
			清郷地区 巡迴映写記(下)	清水晶	26-29	「漫画映画が大喝采」	
	1944	3月号	座談会 敵国映画界と国際宣伝戦		4-11	漫画映画の変貌	
米国映画界近況調査				12-14	『バンビ』=宣伝映画。「ドナルド・ダックが他愛ない宣伝映画にしばしば一役買って出ている」		
		5月号	上海映画近情	菅見恒夫	14-18	『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』『鉄扇公主』『白雪姫』上映情報	
		7月号	南方から見た日本映画	村尾薫	5-7	「古くは『白雪姫』から近くは『ファンタジア』『ダンボ』などの技術的優秀さには敵ながら感心せざるを得なかった。支那でさへも米国の長篇漫画に刺激されて『西遊記』を作っている。日本の漫画は立ち遅れたまゝでいつまでも放任されてゐる」	
		9月号	漫画映画発展のための諸問題	政岡憲三、 瀬尾光世、 前田一	37-41		
			<広告>『フクチャンの潜水艦』		43		
		10, 11月合併号	<広告>『フクチャンの潜水艦』		83		
1945		1,2月合併号	<広告>『桃太郎 海の神兵』		無		
新映画		1931	5月号	短篇映画		89	○漫画の輸入は割に遅い ○トーカーツーン『レジオ・リオット』『エロぐも』→近來の傑作 ○小唄漫画『ラ・パロマ』『スタイン・ソング』名曲
			7月号	アメリカ明年度ライン・ナップ	井川三八	82-87	パラマウント 小唄漫画18本 トオカアツーン18本
	1932	7月号	パラマウント一九三二-三三年度作品発表		123	ベティの漫画18本 小唄漫画18本	
		10月号	ベティ・ブープの論理	双葉十三郎	30-34	○ベティ「エロティシズムが横溢」「エロティックなポーズや声がたまらない」○「発声漫画は最初の中唄や踊りを主とする物が多かったが、次第に物語的になって来ている・・・将来はより劇的なシチュエーションを重んずる様になるであろう」	
	1933	3月号	表紙		表紙	ベティ・ブープのイラスト	
		4月号	新漫画評		54	シリーズ・シンフォニー『森の朝』『人魚と海賊』『森の妖葉』『おもちゃの国』『蜂熊合戦』→好評 ミッキー・マウス→不評。『蛙三勇士』→不評「全然失敗作」	
	1937	9月号	ミッキー座	リディア・ シャーウッド	107-109		
	1938	1月号	短篇・漫画・決算	飯田心美	95	ディズニー、フライシャー作品、『生の悦び』	
		5月号	『白雪姫』のこと	ウォルト・ ディズニイ	53		
		7月号	クレエル、コルダ色彩映画を語る	岡田真吉	69-71	「現在、欧州で上映されるミッキー・マウス色彩映画なども、すべて、税金を免れるためにネガチヴの儘英国に輸入せられ、こゝで現像されて居る」	
	9月号	撮影所ニュース		121	ディズニー第三回長篇漫画『ピノキオ』に決定		
	11月号	ヴェネツィア国際映画博における授賞の決定		90	映画博の芸術トロフィ『白雪姫』(この賞は今回初めて設定された)		
		ハリウッド・ゴシップ		91	ディズニイ大人 一日五時間労働制、有給の二週間休暇を実施		
		アメリカ各社新作総覧(上)		96	R・K・Oラヂオ『白雪姫』		
		1938-39年度 米国映画製作陣(その二)		127	ウォルト・ディズニイ作品18本、中6本は特作品		
1939	1月号	ミッキー・マウス登場	ウォルト・ ディズニイ 田中敏男訳	40-49			
		ミッキー・マウスについて	林語堂	50-51			
			昭和14年の外国映画		129	RKO 「此の次に輸入が許可されるとすれば、おそらく問題の『白雪姫』を間違ひなく入れるだらう」	
		7月号	短篇跋渉	岡俊雄	69	『ドナルドの北極探検』『ミッキーの造船技師』『驃馬物語』(フライシャー)	
	1940	1月号	ポパイ一家訪問記-フライシャー兄弟と語る-	ロ・デュカ	90		
		3月号	『白雪姫』		84	あらすじとスチール	
		8月号	マックス・フライシャーの半生(1)	妹尾篤司	74-75		
		9月号	マックス・フライシャーの半生(2)	妹尾篤司	72-73		

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
新映画		12月号	アメリカ映画史(三)	ルイス・ジェイクス(飯島正訳)	26-30	G. メリエスとディズニーの相似点を指摘
	1941	4月号	アメリカ映画最近の傾向と空爆下のロンドン映画館を訊く	磯部佑治、津村秀夫、南部圭之助	80-88	『ガリヴァー旅行記』→「たいした人気」。『ピノキオ』→「漫画の極致を行ってゐる」「実に素晴らしい」
		12月号	『ガリヴァー旅行記』		32-33	制作プロセス、スチール多数
			ファンタサウンド	田村幸彦	70-71	『ファンタジア』のサウンド・システムの説明
	1942	2月号	支那で見た映画	西川光	54-55	『鉄扇公主』、ディズニー『少年の龍征伐』を称賛
		3月号	喜劇一般について(座談会)	近藤日出造、徳川夢	34-47	漫画映画について言及
		5月号	上海映画日記	筈見恒夫	40-43	『鉄扇公主』萬兄弟のインタビュー
		7月号	映画鑑賞上の技術的基礎知識	大野徹郎	68-73	漫画映画の撮影
			文化映画		74-75	「漫画、影絵は南方の輸出映画として大いに発達させなければぬかん」
			南方輸出映画の問題	真名子兵太	74-76	影絵映画、漫画映画→南方輸出映画に適する
		11月号	作品月評	水野青磁	88-89	『西遊記』称賛、ただし日本語吹替の欠点を指摘
	1943	1月号	『桃太郎の海鷲』		無	紹介とスチール(=『桃太郎の海鷲』)
		5月号	桃太郎の海鷲を観て一漫画栄華論一	近藤日出造	46-47	
			海軍漫画映画の新作	木下武男	56-57	『桃太郎の海鷲』『ニッポンパンザイ』
	1944	4月号	漫映漫歩	近藤日出造	50-52	漫画映画製作所訪問記 朝日映画 横山隆一
			春の映画界		54	『上の空博士』紹介とスチール
		7月号	『フクチャンの潜水艦』		8-9	紹介
		8月号	<広告>『フクチャンの潜水艦』		28	
		9月号	<広告>『フクチャンの潜水艦』		無	
		10月号	<広告>『フクチャンの潜水艦』		無	
		11月号	<広告>『フクチャンの潜水艦』		無	
	1945	2月号	『鉄扇公主』		無	
映画之友	1933	4月号	女優と飼物風景		100-101	逢初夢子の「ペット」はミッキーマウス→ハンドバック、フローチ、コンバクトなどのミッキーマウス・グッズを愛用
		10月号	ミッキーのギャラ・プレミア(漫画物語)		106-107	
	1934	8月号	短編映画雑誌	飯田心美	52-53	「なんと言っても短篇トーキーのよさは漫画につきる」ディズニー、フライシャーほか
		3月号	ウォルト・ディズニー物語(二)	妹尾篤司	58-61	
		4月号	ウォルト・ディズニー物語(三)	妹尾篤司	58-62	
		5月号	ウォルト・ディズニー物語(完)	妹尾篤司	92-96	
	1942	5月号	支那映画に夢を描く	筈見恒夫	33-35	『鉄扇公主』スチール「素晴らしい人気を呼んでゐる長篇漫画」
		9月号	<広告>『鉄扇公主』		無	
		11月号	『西遊記』	大塚恭一	92	称賛「日本映画界の顔色を奪ふに十分」
	1943	3月号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
日本映画	1936	6月号	輸出映画検閲一覧		95	『のらくろ伍長』→上海など
			官庁団体申請フィルム検閲一覧表		90-92	『忠吉は帰った』『改訂 蛙の王様』ほか
		7月号	内務省検閲輸出映画		91	『孫悟空物語』→ホノルル市『特急艦隊』→青島
			内務省検閲各官庁公共団体申請映画		94-96	『三公と蝸』(保険局)『空の桃太郎』(海軍協会)ほか
		8月号	内務省検閲各官庁公共団体申請映画		90-94	『茶釜音頭』(大阪鉄道局)『蕃地征服』(鉄道省)ほか
		9月号	内務省検閲輸出映画		103-104	『トーキー 空の桃太郎』→ホノルルほか
	1938	2月号	新映画一覧		180-183	『白雪姫』(彩色漫画)
		6月号	輸出劇映画目録		23	千代紙映画『吉田御殿』昭和4年
		8月号	ウォルト・ディズニー	菊池多々良	157-161	ディズニーを称賛
	1939	3月号	アメリカ映画評判記	砂川新	120-123	『白雪姫』1938年度ベストフィルム
		5月号	楽屋口		118	丸山定夫が最近気に入った映画=『ドナルドの駅長さん』
			榕林通信		125	W. ディズニー RKOと契約終了間近
		6月号	楽屋口		92	内田吐夢が最近気に入った映画=『驢馬物語』
		11月号	企画月評		110-112	新興映画『文福茶釜』→ディズニーを見習うべきと批判「描かれた漫画と生きた俳優の違いなどこの際末梢的な相違に過ぎない」
	1940	3月号	企画月評	鴉生	115-119	エノケン映画、狸映画→「この方向の究極点は、漫画映画や童話に通じる」
			ミッキーマウス映画の考察	河西二郎	128-129	
		6月号	ソヴィエトに於ける最近の児童映画について	佐々木一夫	86-90	『新ガリバー物語』『小さな金の鍵』(人形映画)『イバントと魔法使ババヤーガ』(漫画映画)ほか多数
	1941	1月号	世界映画情報		35	ドイツで人形映画『失はれた王冠』『ヘンゼルとグレーテル』ほか
			<広告>今村太平『漫画映画論』		199	
		2月号	映画講座 撮影		137	八. アニメーション
		3月号	<広告>今村太平『漫画映画論』		21	
		4月号	<広告>『ジャックと豆の木』		無	
			世界映画情報		163	紐育映画批評団の最優秀賞銜→特別賞『ファンタジア』
		5月号	無題	大石郁雄	165-166	
		6月号	映画講座 撮影		155	動く線の撮り方
			彙報		110	『富士の地質』(実写併用)一文部省推薦映画
		7月号	富士の地質	岡山巖	68-71	
			世界映画情報		140	ディズニーがゴールドウィンに協力

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
日本映画		9月号	『子供と工作』	石本統吉	25	
		12月号	<広告>『かぐや姫』		無	
			昭和十六年度第二期技能審査試験問題		33-45	漫画映画についての問題を含む
	1942	1月号	<広告>『かぐや姫』		無	
		2月号	映画を通じてアメリカ文化を評す	新居格	12-15	ポパイ、ベティ、Donald Duck等の漫画映画→アメリカ人気質とアメリカ文化の一面を端的に表現
			アメリカ映画の文化的意義	津村秀夫	21-29	漫画映画がアメリカで発達→アメリカ文明の理解に格好の手掛かり
			映画を通して覗いたアメリカ	長與善郎	29-33	ミッキー・マウス式のポンチ映画の技術→まだまだ大いに進歩するであろう
		3月号	北支の映画界 文化映画月評『道路』	村尾薫 上野耕三	65-67 16-19	『白雪姫』上映 線画を含む。「かういふ線画はよくあるが、その場合いつも腹立たしく思ふことは、あまりゴタゴタしすぎて…結局訳が判らずじまひに終ることが多い」
		5月号	文化映画月評『闘ふ兵団』	上野耕三	15-17	線画を含む。線画の重要性を主張
		6月号	昭和十六年度第二期技能審査試験問題		110-117	漫画映画についての問題を含む
		8月号	<広告>『西遊記』		無	
	1942	9月号	<広告>『西遊記』 <広告>『世界一の隣組長』		無	(実写併用) 文部省認定文化映画 文部省選定全学年課外用映画
		10月号	技能審査の今年度合格者		126	○演出『かぐや姫』荒井和五郎 『フクちゃん増産部隊』桑田良太郎 ○撮影『かぐや姫』飛石中也
			映配が短篇・漫画の配給開始		127	
		11月号	<広告>『桃太郎の海鷲』 日本映画の弱点—南方映画工作の問題に寄せて— 『世界一の隣組長』	上野耕三 上野耕三	11-19 29-30	『西遊記』からの教訓 称赞「かういふ種類の映画に漫画を入れたところは教訓的である」
			ジャワ島巡迴映画記	横山隆一	60-61	
			長篇漫画『桃太郎の海鷲』完成		115	
		12月号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
	1943	1月号	<広告>『ニッポンパンザイ』		無	
		3月号	<広告>『桃太郎の海鷲』 <広告>『ニッポンパンザイ』		無	
		4月号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
		5月号	撮影技術時評『桃太郎の海鷲』	半峰學人	27	称赞と批判「二十年前に北山清太郎画伯がやってみた切り抜き式のものと同じやうな動きの大欠点(全く地に足がついてゐない遊ぶやうな歩行)をまざまざと見せつけられた事について遺憾であった」
			昭和十八年前期技能審査試験問題集		95	漫画映画についての問題を含む
		6月号	新聞映画欄側面月評	石川純	83-85	『桃太郎の海鷲』上映映画館のエピソード→子どものマナーの悪さ
		8月号	文化映画月評「漫画」に就いて 文化映画界上半期の回顧	大木直太郎 三田郁美	14 24-27	『フクちゃん』称赞 『ニッポンパンザイ』称赞
		10月号	映画界		86	漫画映画も決戦色 少国民の戦意昂揚→『お猿三吉大爆撃二萬キロ』色彩漫画として試作予定
	1944	4月1日号	南方諸地域映画事情		29-32	『桃太郎の海鷲』『お山の防空陣』『くもとちゅうりっぷ』『マー坊の落下傘部隊』香港で上映
		4月15日号	記録		36	情報局対外映画選定委員会選定映画『闘球肉弾戦』
		5月1日号	漫画映画待望		17-18	
		5月15日号	『フクちゃんの潜水艦』 『上の空博士』		17-18 20	称赞 称赞
			共栄圏映画情報 協会日誌		25 32	『桃太郎の海鷲』香港で好評 5月6日 描画映画懇談会
		6月1日号	記録		2	情報局対外映画選定委員会選定映画『鉄扇公主』
			『ポッポ島大空中戦』		21	やや不評
			昭和十八年度封切文化映画傾向一覧		26-27	『ニッポンパンザイ』
			共栄圏映画情報		32-33	『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』ジャワで上映
		改新第六号	映画界時事		28	『ポッポ島大空中戦』映協脚本審査委員会が脚本を承認
			撮影所近況 漫画製作界近況		38 39	『オウマ』『防諜』(影絵)
		改新第七号	記録		無	情報局対外向映画選定委員会選定映画『オウマ』(影絵映画)
		改新第九号	記録		無	情報局対外向映画選定委員会選定映画『上の空博士』
		改新第十号	対外映画解説		39	『スパイニチュウイ』 防諜影絵映画
		改新第十二号	『闘球肉弾戦』		26-27	称赞と批判
		改新第十五号	『フクちゃんの潜水艦』 対外映画への希望		18-19 23	やや不評 漫画や影絵を活用したい
		改新第十九号	映画界時事		39	租界学童慰問映写→『桃太郎の海鷲』『フクちゃんの増産部隊』『くもとちゅうりっぷ』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
アマチュアキネマ	1928	1号	独逸影絵映画『アラダンの不思議』		8-9	紹介、スチール4枚
映画世界	1928	8月号	クレヂー・カット製作		4-3	製作現場の写真あり
シネマ教育	1928	創刊号	解説的科学映画と潜水艦に就て	小路玉一	10-11	潜水艦の線画図解
映画時代	1928	8月号	<広告>『四十人の盗賊』		無	
	1929	6月号	<広告>『アクメッド王子の冒険』		無	
	1931	4月号	漫画用 ナンセンスシナリオ 無題		93-95	
シネマレコード	1929	7月号	16ミリ映画リスト サクラグラフィ		3	線画→『動物オリンピック』『日本一の桃太郎』。漫画→『花咲爺』『文福茶釜』『ジラフの首はなぜ長い』『猿蟹合戦』『蝸の骨』
			アツマグラフィ帝国教育界映画選定		4	線画→『実録忠臣蔵』『昭和の浦島』『兎と亀』影絵→『玉取姫』
映画往来	1929	9-10月合併号	フランスに於ける日本映画の進出	岡田真吉	29-32	千代紙細工映画『吉田御殿』と衣笠貞之助の『十字路』→巴里の前衛劇場アンリイ・ディアン・ベルジェにて 1929年2月6日上映
	1930	1月号	映画時事		165-166	面白い短篇トオキイ「レウウ物や漫画物となると・・・こんな面白い見せ物はない」
		8月号	ソフキノの為にイワノフが作った漫画映画		無	スチール
	1931	11月号	音画喜劇の史的展開一及びそれに関連しての二三の考察一	双葉十三郎	8-13	〇トーキー漫画を称賛『発声漫画が音画芸術に基だ重要な暗示を含んでゐる』『発声漫画は、実際、音画喜劇にとって智慧の泉である』〇ミッキー・マウスについてのエイゼンシュテインの言葉を紹介
			影絵トーキー『からくり地獄』（撮影台本）	田中喜次、中野孝夫他	117-123	
文部省教育映画時報	1929	1号	文部省推薦映画		26-27	『こがねの花』『蛙は蛙』
			文部省製作活動写真フィルム目録		41-54	〇衛生に関するもの『病毒の伝播』〇線画『壺』『七つの夢』『魚の国』
		2号	新作映画解説『二つの世界』		23-28	
			文部省製作活動写真フィルム目録		45-59	時局に関する教化映画『二つの世界』追加
	1930	3号	文部省製作活動写真フィルム目録		52-55	『忠吉は帰った』（線画）追加
	1931	4号	文部省製作活動写真フィルム目録		47-62	『ろば』（線画）追加
		5号	表紙『タヌ吉のお話』		表紙	スチール
			文部省映画近況		38-39	〇近く完成『五一ぢいさん』〇完成『タヌ吉』
		6号	新作映画解説『タヌ吉』		24-31	
		7号	新作映画解説『五一ぢいさん』		21-27	
			文部省製作活動写真フィルム目録		57-62	『タヌ吉のお話』（漫画）『五一ぢいさん』（漫画）追加
		8号	優良映画賞牌交付		46	千代紙映画『こがねの花』線画『蛙は蛙』
			最近完成の映画		64	千代紙映画『心の力』
	1932	9号	新作映画解説『地震と震災』		1-22	線画を含む
			新作映画解説『セメント工業』		23-33	線画を含む
			文部省製作活動写真フィルム目録		60-65	『心の力』（千代紙映画）『狼は狼だ』（漫画）追加
	1933	10号	新作映画解説『飛行機の話』		1-12	線画を含む
			新作映画解説『狼は狼だ』		20-24	
			新作映画解説『兄弟こぐま』		25-29	
			文部省製作活動写真フィルム目録		95-104	『兄弟こぐま』（漫画）追加
	1934	13号	新作映画解説『満州 序篇』		1-6	線画を含む
			新作映画解説『満州 資源篇』		7-20	線画を含む
			新作映画解説『満州 地方篇』		21-51	線画を含む
			文部省製作活動写真フィルム目録		77-87	『與太郎の敬禮』（漫画）『タヌ吉のお話』（発声）追加
		14号	新作映画解説『陶磁器の話』		1-9	線画を含む
			新作映画解説『時と時計』		10-21	線画を含む
			文部省推薦映画目録		69-76	『春』『摩天楼建築』『小鳥の冒険』『妖婆の森』『おもちゃの国』『虹のお国の兎さん』『空飛ぶ鼠』（『春』以外すべてアメリカ製）
	1936	16号	新作映画解説『乳児の発育と生活』		35-42	線画を含む
			文部省推薦映画目録（続）		50-52	『こほろぎと蟻』（アメリカ製）
			文部省製作頒布映画一覧		57-62	『忠吉は帰った』（漫画）（発声）これまでの文部省製作活動写真フィルム目録掲載作品に追加
			文部省製作貸与映画一覧		67-69	『壺』『七つの夢』『二つの世界』
	1937	17号	文部省映画教育ニュース		27-28	『忠吉は帰った』文部省推薦映画会で上映（横浜市、広島市、岐阜市、新潟市）
小型映画	1929	11月号	<広告>線画『昭和の浦島』『実録忠臣蔵』		無	アツマグラフィ社
			<広告>漫画『動物珍芸団』『カチカチ山』『汽車馬』		無	幹彦映画研究所
		12月号	<広告>漫画『チャップリンの似顔』他三種		無	Empire Prints
			<広告>千代紙映画『うそつき城』		無	日の丸グラフィ
	1930	1月号	<広告>16mm白眉の特選線画集『動物珍芸団』『カチカチ山』『汽車馬』『石油成金』『一寸法師』『舌切雀』		無	ミキライブラリー
			<広告>『正ちゃんのカメラマン』		無	日の丸グラフィ
		2月号	<広告>『瘤取り』『人喰島』		無	サクラグラフィ

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
小型映画		5月号	<広告>『ボチのいたづら日記』		無	人と漫画の共演映画、米国プレイ映画会社 アローグラフ
			<広告>『雲の上まで』		無	萩グラフ
			小型映画協会映写部報告	外山寛郎	16	『こがねの花』『四十人の盗賊(アリババ物語)』はちす子供会で上映
			<広告>漫画『動物オリンピック』		無	小型映画協会 配給部在庫映画目録
			『フェリックスの或る日』『こがねの花』ほか			
		6月号	<広告>『黒ニヤゴ』『鯨』		無	前衛影絵映画『鯨』→「本映画は袋一平氏渡露の時、無字幕前衛影絵映画として、衣笠氏の『十字路』と共に持参、彼地一流大劇場に於て絶大なる好評を博したるもの」
			<広告>外国漫画『ゼリーと汽車』		無	アローグラフ
			小型新映画紹介		無	『黒ニヤゴ』『鯨』スチール
			家庭トーカーについて	大藤信郎	15-17	
			本邦ニュース		42	千代紙のトーカー「千代紙映画の泰斗大藤信郎氏の作品、『黒ニヤゴ』と『鯨』の二本が、ホームトーカーとして最近十字屋から発売」
			プロダクション通信		43	千代紙グラフ『黒ニヤゴ』『鯨』
			<広告>漫画『動物オリンピック』		無	小型映画協会 配給部在庫映画目録
			『フェリックスの或る日』『こがねの花』ほか			
		7月号	<広告>千代紙グラフ『武者修行物語』『黒ニヤゴ』『鯨』		無	十字屋小型映画部
			家庭トーカー		無	『黒ニヤゴ』『鯨』スチール
			サクラ・グラフ		無	『化物屋敷』スチール
			『お関所』		40	称赞「氏のウィットのつゞく限り千代紙萬歳だ」
			新作十六ミリ映画展望	内藤友彌	42-45	○『黒ニヤゴ』『鯨』、大藤信郎を称赞「蓋し昭和映画界に於ては同氏如きは至宝とせねばなるまい」○『化物屋敷』紹介
			東京映画小劇場の第六回試写会		54	『黒ニヤゴ』上映
			レコードによってシンクロナイズせる小型トーカーの出現		55	○『茶目子の一日』映画化・発売予定 ○大藤信郎『きりぬき浦島』は新たにレコードを作って発売予定
			本誌後援十字屋小型映画部の新作品試写会		55	『黒ニヤゴ』『鯨』上映
		9月号	<広告>『吃驚仰天真珠大王』		無	大石郁作画並編集
			千代紙映画	大藤信郎	45-46	
		10月号	<広告>大爆笑漫画『シャボン玉』		無	フライシャー-KOKOシリーズ サクラグラフ
			私の映画伴奏スコアーより	富田龍	62	『シャボン玉』(フライシャー) 『狛犬の眼』(大藤信郎)
			近作映画を組上りにのせて その将来を語る	大藤信郎、西村正美他	81-91	座談会 漫画映画に言及
			<広告>『村祭』		無	十字屋小型映画部
		11月号	<広告>動物漫画『おい等の野球』		無	サクラグラフ
			業界ニュース		無	第七回十六ミリ映画の夕『黒猫フェリックス』5種上映 説明:戸川秋声
			『お祭り』		51-52	(=『村祭』)称赞「千代紙ならではのめぬ動きの面白味は一層人々を決定的に千代紙党たらしめる」
			<広告>『村祭』		無	
			<広告>『狛犬の眼』		無	
		12月号	<広告>『かうもり』		無	
			<広告>『ボチのいたづら日記』		無	
			<広告>『黒ニヤゴ』『村祭』『鯨』		無	「作画、権威大藤信郎」童謡トーカー『黒ニヤゴ』『村祭』前衛影絵トーカー『鯨』マーベルグラフ
			『馬具田城の盗賊』			
	1931	1月号	『こうもり』		無	スチール
			今年こそは	大藤信郎	41-43	トーカー化を推奨
			影絵映画戯談	青山徹	54-55	制作プロセス
			漫画『かうもり』		68	紹介
			何が一九三〇年をそうさせたか	佐藤秀雄	99-102	家庭トーカー『鯨』『黒ニヤゴ』『村祭』→「すばらしい成績をしめして居る」
		3月号	『魔法の時計』		無	スチールのみ
			『君が代』『ちよん切れ蛇』		無	スチールのみ
			『君が代』『ちよん切れ蛇』		47	紹介
		4月号	<広告>『君が代』『切り抜き浦島』		無	
			<広告>『魔法の時計』		無	スチール有 ホーム・ムービース・ライブラリー
			『猿蟹合戦』『魔法の時計』		無	スチールのみ
			『鼠の留守番』		73	称赞「如何にも巧みな日本製漫画である。たとえばそれがミッキーマウスに殆んど同じ動きや姿のマウスたちであつても之とは自ら別である」
		5月号	<広告>『猿蟹合戦』『切り抜き浦島』		無	マーベルグラフ
			<広告>『猿正宗』『レビュー春』		無	サクラグラフ
			動画タイトルの製作(三)	手島増次	11-14	
			『春の唄』『健康と美』		無	スチールのみ(『健康と美』は実写併用)
			『切り抜き浦島』		30-31	称赞「千代紙独特の興味ふかき物語」
			第七回開票愈々発表! 優秀映画投票白熱化 四月十五日得点		32	『黒ニヤゴ』2位(1位は伊藤大輔の劇映画『斬人斬馬剣』) 『動物オリムピック』5位 『村祭』12位など

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項	
小型映画			プロダクション通信		33	○マーベル・グラフ『茶目子の一日』『飴屋狸』『切抜き浦島』○サクラ・グラフ『猿正宗』『健康と美』○パター・ベビー『文福茶釜』『春の唄』	
		6月号	<広告>『おもちゃの汽車』『切抜き浦島』		無		
			<広告>『文福茶釜』『春の唄』『あっぱれ安さん』		無	あらずじ付 十六ミリ日活ライブラリー	
		7月号	『魔法の時計』『切抜き浦島』		無	スチールのみ	
		8月号	『魚釣り大当り』		無	スチールのみ F・A・Sの漫画	
			<広告>『漫画スピード時代』		無	スチール アロウ・グラフ (フェリックスシリーズ)	
		9月号	『山を思ふ』		30	紹介 (大石都作画)	
ベビーシネマ	1930	1月号	誰にも出来るパテートキー映画	よし浪	35-37	線画『桃太郎』を例	
		2月号	線画『馬化汽車』		57-58	紹介、称赞 (外国製)	
			線画『生ける幽霊』		59-60	紹介、不評「線画としてのナンセンス味に乏しい」(銀映社製作)	
			パター教育映画『蠅を撲滅せよ』		61	紹介 (実写併用、オ・ガロップ氏作)	
		3月号	『フェリックスの復讐』『フェリックスの辛子せめ』		無	スチールのみ	
		5月号	<広告>パターベビー線画研究		12	講師 千代紙細工映画製作者 大藤信郎氏	
			時報		13	パターベビー線画研究会 大藤信郎講師	
			<広告>『黒ニヤゴ』		24		
		6月号	『年月と四季』		64-65	解説 (実写併用)	
			パテートキー 黒ニヤゴのかけ方		65		
		7月号	パターベビー新着映画		73	線画10本 (うちフェリックス・シリーズ7本)	
		8月号	パテートキー製作に関する研究会速記 大藤信郎氏の講演		25-26		
			誌上マーケット及紹介		74	『黒ニヤゴ』『太郎の飛行機』	
		10月号	『村の祭』		無	スチールのみ	
			<広告>『村の祭』		13		
			線映画製作に関する研究会談会速記 大藤信郎氏講演		19-23		
			レポート		60	『黒ニヤゴ』台北で上映	
		11月号	一駒撮りの扱方	水野程之	28-29		
		12月号	『マッチの頭』		無	スチールのみ (アマチュア作品)	
週刊キネマガイド	1930	第1号	今週の映画		4	『お関所』芝園館、道玄坂キネマ 6/19~	
		第6号	今週の映画		4	『おれ等の野球』(漫画) 帝国館7/27~	
		第11号	今週の映画		4	短篇トーキー大会『ノアのハコ船』芝園館	
劇場街	1930	1月号	邦楽座は外から見たところが一番美しい	番匠谷英一	65-67	『オールド・ブラック・ジョー』(フライシャーの小唄漫画)→「つまらない」	
新興映画	1930	6月号	煙突屋ペロー	松崎啓次	18-19		
プロレタリア映画(『新興映画』改題)	1930	7・8月合併号	公開闘争の記録		54-57	『煙突屋ペロー』 第二回プロレタリア映画の夕で上映	
			巡回映写隊が組織されたぞ!		73-74	『煙突屋ペロー』 上映	
		9月号	プロキノのために—ニュースと絵解きと	山田清三郎	18-20	『煙突屋ペロー』→「シナリオの不明確さが全き失敗を招いていた」。影絵、線画等→シナリオさえよくなれば、素晴らしい効果をあげるだろう	
			日本プロレタリア映画同盟報告		62-64	『アジ太プロ吉消費組合の巻』製作予定	
		11・12月合併号	『アジ太プロ吉消費組合の巻』		無	スチール	
プロレタリア映画			『俺達の広告』	中島信	18-19		
			『俺達の広告』の意義	北川鉄夫	20-21		
			『アジ太プロ吉消費組合の巻』	中島信	21-22		
			トラック台の側で	須山計一	23-25	『アジ太プロ吉消費組合の巻』について	
			『不在地主』のダイアグラム	中島信	53-55		
			『俺達の広告』	北川鉄夫	61-63	シナリオ	
			『アジ太プロ吉消費組合の巻』	松崎啓次	63-65	シナリオ	
			<広告>プロキノ第三回公開		無	『アジ太プロ吉消費組合の巻』『俺達の広告』	
		1931	1月号	プロキノの映画について	秋田雨雀	24-26	
			貴重なる試作品—漫画映画アジ太プロ吉消費組合の巻—	鈴木賢二	42-43	まだ幼稚。「ソヴェートの方が優れている」	
			第三回公開を通じてプロキノへの注文	八田元夫	44-47	『アジ太プロ吉消費組合の巻』は試作。将来を期待	
			切抜人形に動きを与へるまで—漫画映画製作の実際—	中島信	91-99	『アジ太プロ吉消費組合の巻』制作プロセス	
		3月号	奴隷戦争—統計を中心とする線画映画—	北川鉄夫	92-98		
プロキノ(『プロレタリア映画』改題)	1932	5月号	『三吉の空中旅行』		無	スチール	
映画クラブ	1932	1月1日号	いよいよ陣容を整へ プロキノ製作開始さる		2	『三吉の空中旅行』	
			漫画映画 三吉の空中旅行	北川鉄夫	4	紹介、スチール	
		2月1日号	『三吉の空中旅行』を呼んで		4		
		2月20日号	『三吉の空中旅行』		1	スチールのみ	
		1933	1月5日号	『三吉の空中旅行』トーキーで撮影か		2	
アマチュア映画	1931	12月号	坪内博士の『商人と猿の群れ』		32	紹介 スチール	
	1932	1月号	<広告>『茶目子の一日』『黒ニヤゴ』『村祭』『あめや狸』ほか		7	マーベル・トーキー	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
アマチュア映画			『おもちゃの汽車』		49	紹介「我国の漫画トーキーが、極くわずかながらでも改良されて外国製の優秀な漫画の動きと線に近づくことはよるこばしいことである」
		2月号	<広告>『気まぐれ船』ほか		82	スチール マーベルトーキー
		3月号	<広告>『汽車の発達』『ニャゴダンス』『海の桃太郎』		137	スチール サクラグラフ
			『一寸法師』『ニャゴダンス』		181	紹介 スチール(『ニャゴダンス』のみ)
			<広告>『猿吉は勝った』		201	スチール サクラグラフ
			線画製作に就いて	大石郁雄	236-238, 259	
		4月号	『猿吉は勝った』		201	紹介。『御存知荒木又右衛門』(大石郁雄)スチールのみ。新作『石器時代』『人造人間』(バ社漫画)『フェリックスの恩返し』オスワルド・シリーズ3種
		5月号	<広告>『戦争ゴッコ』『花咲爺』		275	マーベルグラフ
		6月号	<広告>『花咲爺』		342	マーベルグラフ
			優秀教育フィルム推薦		391	猿正宗『かうもり』『タヌ吉のお話』(大毎学校巡回映画連盟の推薦)
		7月号	漫画フィルムの悩み	加藤禎三	33, 48	『体育デー』スチール
			『体育デー』		42	紹介
		8月号	<広告>『フェリックスと戦争』		無	BELL&HOWELL
			線画製作に就いて(2)	大石郁雄	92,93,109,110	「日本のデイズネー、大石氏」
			ホワイト・スクリーン		104	『山小屋の夕』スチールのみ
			内外ニュース		107	ディズニーがハリウッド・フィルム・エンタープライズと16ミリサイレント版の契約成立
		9月号	線画製作に就いて(3)	大石郁雄	148-149	『シリー・シンフォニー』スチール
			<広告>光彩映画社 大石郁雄		172	『ゴー・ストップ』『山小屋の夕』スチール
		10月号	ミッキーマウスと16ミリ	ワルト・デイズネー	218-219	
1933		1月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	44	『鈴』スチールのみ
		2月号	ミッキーマウスのアトリエから	小野富彌	104	
		3月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	156	『雲雀の宿替』スチールのみ
		4月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	227	『紙芝居いたづら狸』製作予定
		5月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	264	『紙芝居いたづら狸』スチールのみ
		6月号	トリック・タイトルに就いて	松浦慶二	300-301	
			<広告>アマチュア映画の夕		329	『ミッキーマウスの鷲進列車』『のらくろ二等兵』
			ホワイト・スクリーン	西村正美	333	『のらくろ上等兵』『のらくろ二等兵』
		7月号	文化映画	島崎清彦	37	『あひるの子』『海の桃太郎』『粘土のいたづら』(フライシャー)
		9月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	140	『猿ヶ島』(政岡憲三)
		10月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	194	『ミッキーの波のり越えて』『髑髏の舞踊』『ミッキーの化物屋敷』『ミッキーマウスの鷲進列車』
		11月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	248,262	『お猿の大漁』『おいらの生命線』『ミッキーの化物屋敷』『熊のシッポはなぜ短いか』
		12月号	12月号特集 線画・漫画映画の研究 理論と実際 本特集について		282-283	
			線画と漫画	青地忠三	283-284	
			シリー・シーズンの感想	西村正美	284-285	線画と漫画の区別について
			傾向映画における漫画	戸塚貞雄	285-286	
			漫画映画の発達略史	アール・タイゼン	287-291	
			トーキー漫画と16耗	ワルター・ラント	291-293,314	
			ホワイト・スクリーン	西村正美	302	フェリックス・シリーズ4本
1934		8月号	ホワイト・スクリーン	西村正美	82	『月の宮の王女様』『天狗退治』
			『光の交響楽』	西村正美	96	紹介
映画第一線	1931	第4号	線画フィルムの発達	金井木一路	43-45	
	1933	第14号	一九三三いう年を決算する		53	外国映画の批評対象にシリー・シンフォニーが含まれる「シリー・シンフォニーの極彩色漫画が、技術的にも表現の上にも優れたものとして……これを特殊映画として認めることにした」
	1934	第15号	<広告>『のらくろ伍長』		無	
		第16号	童話映画論	大内秀邦	41-55	シリー・シンフォニー、ロッセ・ライニガー、ラディスラフ・スタレヴィッチに言及
			<広告>『のらくろ伍長』『鼠と獅子』		無	
映画情報	1933	11月号	ミッキーが生れる迄	小泉夏夫	1-2	スチール多数
		12月号	ミッキーマウス五周年記念		無	W. ディズニーとミッキーマウス人形に花束が贈呈される写真
	1934	12月号	ベティの漫画「ベティ・ブーブ嬢 サインジグザグの巻」	マクス・フライシャー画	2-12	4~5コマでオチが付きながらストーリーが進む形式
	1935	1月号	ベティ漫画「ベティ・ブーブ嬢の目が癒えて困ったです」「ベティ・ブーブ嬢の顧問弁護士は忠実です」	マクス・フライシャー画	2-15	
		2月号	ベティ漫画「ベティ・ブーブ嬢の顧問弁護士は忠実です」	マクス・フライシャー画	2-9	
	1938	8月号	いざ解禁 待望の名画をさぐる	辰野滋天	47-49	「老若男女を問はず無条件に待憧がれてゐるディズニーの漫画『白雪姫』」
	1940	7月号	『ピノッチョ』の声の主		50-51	『ピノキオ』声優の紹介
映画連盟	1934	第1号	光の交響楽	宇野甫	57-58	オスカー・フィッシングの「絶対音画」
映画	1935	第1号	<広告>家庭トーキー		無	「嵐の如き人気!も・の・言・ふ・漫・画」
映画集団	1935	第3号	色彩映画小論	花村禎治郎	34-36	ディズニーのテクニカラーについて言及
		第4号	一九三五年の映画技術について	花村禎治郎	30-33	シリー・シンフォニー→「美事」

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画集団	1937	第10号	絶対映画	エス・ジョン・ウッズ(馬場英太郎訳)	64-49	フィッシー兄弟、W. ルットマン
			人形映画	マリイ・シイトン(北村莊一郎訳)	70-74	スタレヴィッチの人形映画、ライニガーの影絵映画
			影絵映画	ロッテ・ライニガア(今村太平訳)	75-77	
	1938	第11号	旅の映画	日名子元雄	53-58	シリーズフォニー『森の小勇者』→「驚嘆」
		第12号	喜劇映画論	アルベルト・キャバルキャンティ(馬場英太郎訳)	88-97	マット・アンド・ジェフ、フィリックスなどに言及。とくにディズニーを称賛
映画国策	1935	9月号	<広告>衛生漫画第一篇『悪魔のささやき』		無	原作脚色 細木原大学、三幸商会漫画部作画「恐るべき結核菌・・・この国民病を撲滅させよう」
映画国策			<広告>『元禄恋模様 三吉とおさよ』『お猿の三吉 突撃隊の巻』『お猿の三吉 防空戦の巻』		無	岩松洋行
			<広告>『塙団右衛門の狸退治』『幸運飛行家』		無	大日本教育映画株式会社
	1938	1月号	ニュース漫画の出現		4	三幸商会漫画部製作
			昭和十二年度文化映画新作品一覧		8-12	○衛生、保健映画『見えざる敵』『健康への道』 ○漫画12本 あらすじ付
			<広告>ニュース漫画『爆弾二将校』『空の上海戦線』『上海戦線 高田馬場』		無	三幸商会
パターシネ	1935	5月号	時報		24	関東部主催 漫画の製作に関する研究会を開催す
			<広告>漫画の製作に関する講習会		25	
		7月号	全日本パターシネ協会関東支部主催第二回コンテスト理事審査合評		31-35	『汽車ポッポ』森野二九呂作→不評「動作が固い」「線の動きがスムーズでない」
		8月号	私の線画製作に就て	小野寺一	64-66	
			試写室		99-100	『ターチャンの海底旅行』梗概、シナリオ、スチール
		11月号	ブダペストの国際コンテストに於ける日本代表作品に就て	荒瀬順治	19-20	荻野茂二を「天才的手腕」と絶賛
			洪牙利アマチュアシネ協会主催第一回国際小型映画競技会成績表		20-25	九ミリ半、八ミリ特殊映画：一等『開花』(荻野茂二) 二等『リズム』(荻野茂二)
	1936	1月号	天然色映画の基礎知識		26-45	シリーズフォニー ミッキー・マウス 新様式二色カラー『森の朝』 三色テクニカラー漫画 コミカラー
			試写室		102-104	『狸と狐の化け試合』(『森の野球団』の姉妹編) 『ターチャンの怪物退治』 スチール
			小型広告映画コンテスト成績発表		64-69,89	『ピストン太郎』(山口タケヲ) 森永キャラメル
		2月号	広告映画に就いて	大藤信郎	28-30	
			ミッキー・スタジオ訪問	浜野古扇	62-66	
		3月号	漫画の描き方	浅田勇	54-55	
			漫画の作り方	小野寺一	56-58	
		4月号	試写室		99	『小鳥と兎』
		9月号	西川トニーを見て	大藤信郎	57-58	
		12月号	第三回連合コンテストグラフ		無	『怪談』(浅田勇)スチール
			全日本パターシネ協会主催 第三回各支部連合九ミリ半映画作品競技会成績表		24-29	二等『ポスト』(荒井和五郎)※劇映画
	1937	2月号	特集 漫画製作講座 第一講	大藤信郎	26-29	
			試写室		90-92	ミッキー・マウスシリーズ シリーズフォニー
		4月号	特集 漫画製作講座 第二講	大藤信郎	46-49	
		5月号	特集 漫画製作講座 第三講	大藤信郎	34-37	ミッキーのイラストで解説
		6月号	評	大藤信郎	40-41	
			全日本パターシネ協会関東支部主催第四回春季コンテスト成績表		32-35	審査員顧問 大藤信郎
		8月号	全日本パターシネ協会主催 第六回国際コンテスト日本予選大会成績表		24-27	『怪談』(浅田勇) 『ミッキーとゴリラ』(今枝柳蛙)※人形
			第六回国際コンテスト出品の日本代表作品に就て	大澤詔風	30-32	『怪談』『ミッキーとゴリラ』
		11月号	第四回連合コンテスト関東予選会合評		26-31	『製鐵』(浅田勇)※実写併用(30)
		12月号	全日本パターシネ協会主催 第四回各支部連合コンテスト成績表		24-27	一等『製鐵』(浅田勇)
			第四回コンテスト評	大藤信郎	33-35	
			漫画「製鐵」	浅田勇	43-44	
	1938	3月号	私の小型映画歴を語る	荒井和五郎	254-257	
			我が漫画発達史を語る	浅田勇	257-258	
		6月号	一卷コンテストに就て	大藤信郎	542-543	
		7月号	短評	大藤信郎	630-632	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
パテーシネ		9月号	最近見た広告映画の感想	三村喜作	897-899	文化映画『花火』の一部、村田安司の漫画映画
		10月号	漫画シナリオ「東は東、西は西」	広瀬淳	968-973	ミッキー、ベティ登場
	1940	4月号	全日本パテーシネ協会主催 第七回全日本九ミリ半映画作品競技会成績表 審査評		114-117	二等一席『旅の一寸法師』(竹村猛兒)※人形
		5月号	コンテスト作品の批評に就て 童話の世界	大藤信郎 大藤信郎 竹村猛兒	124-127 150-151 153-154	
学校映画資料	1935	第1号	『いなばの国の兎さん』		5-6	解説・伴奏資料
		第2号	『天国は銀世界』		8-10	解説・伴奏資料
学校映画資料		第3号	四月のプログラムに対する感想 『一寸法師 ちび動物語』		3 6-8	『いなばの国の兎さん』 解説・伴奏資料
		第4号	『感想簿』から 『僕等のサーカス』		2 10-11	『天国は銀世界』 解説・伴奏資料
		第5号	『感想簿』から 『森の野球団』		2-3 7-10	『一寸法師 ちび動物語』 解説・伴奏資料
		第6号	『ターチャンの海底旅行』		4-6	解説・伴奏資料
		第7号	巡回映画プログラム 一連盟委員 回顧一年座談会(三)一 『ターチャンの怪物退治』	稲田達雄他	2-5 12-14	『月の宮の王女様』ほかに言及 解説・伴奏資料
		第8号	『感想簿』から 『海の水はなぜからい』		2 6-10	『僕等のサーカス』 解説・伴奏資料
		第9号	『ピョンチャンと小熊』		10-13	解説・伴奏資料
	1937	第13号	感想と批判 『お日様と蛙』		1-4 9-11	『蟾退治』『小鳥と兎』 解説・伴奏資料
		第14号	感想と批判 『雷のゴロ吉下界修行』		1-2 7-10	『茶釜音頭』 解説・伴奏資料
		第17号	『お猿の艦隊』		9-10	解説・伴奏資料
教育 映画創造	1936	4巻11号	漫画映画	岡本一平	77-82	
	1936	7月号	新しい芸術の欲望—映画美学の ために—	今村太平	6-18	フィッシング『光の交響楽』
		11月号	映画芸術学のために	上野耕三	6-17	今村太平のディズニー論を批判
十六ミリ映画 教育	1936	4月号	解説法の一考察	鈴木忠雄	34-36	漫画映画→「無説明全伴奏」が良い
		6月号	講堂映写会解説法 教育映画界七花八裂	服部栄 XYZ	37-41 12-15	漫画映画→「よい伴奏」が必要、解説不要 漫画映画=「教育映画界で一番遅れているもの」
教材映画(『十 六ミリ映画教 育』改題)	1938	1月号	尋二修身「恩を忘れるな」の指導 案	吉田達	26-33	『猿正宗』を使用
		2月号	映画学習指導実録 漫画映画を素材とする図画指導 二月の教材と映画	下野宗逸 山根武士 森田篤慶	39-43 18-23 35-39	『あひるの子』を尋四年に使用 『小鳥と兎』 尋一修身『蛙は蛙』 尋一読方『花咲爺』 尋二 修身『泳げや泳げ』 尋三修身『蟾退治』
			特選映画解説 重力の話—理科 映画大系第五編一 教材映画撮影台本 理科映画大 系「消化の話」		40-43 65-68	実写併用 実写併用
		3月号	三月の教材と映画	長谷川和夫	42-46	『あひるの子』『小鳥と兎』
		4月号	今月の映画教育経営	服部栄	25-29	『体育デー』『雲雀の宿替』『漫画レビュー春』
		5月号	今月の教材と映画	森田篤慶	26-32	『小鳥と兎』『紙芝居金太郎の巻』
		6月号	今月の教材と映画	長谷川和夫	30-35	『雀のお宿』『一寸法師 ちび動物語』
		7月号	幼児と一緒に映画を観て—感じた まゝを—	山村きよ	28-31	おもに幼稚園で漫画映画を和洋作品ともに上映
		9月号	九月の教材と映画		30-36	『鼠と獅子』『日本一の桃太郎』『二つの世界』
		10月号	十月の教材と映画		28-32	『蟾の骨』『猿蟹合戦』『太郎さんの汽車』
		11月号	十一月の教材と映画		20-25	『太郎さんの汽車』
			国語教育における映画の必要	久米井束	26-29	『汽車の発達』ほか
		12月号	十二月の教材と映画		15-19	『猿正宗』
	1939	1月号	一月の教材と映画 シナリオ「石炭の話」		20-25 40-42	『蛙は蛙』『癩取り』 実写併用
		2月号	二月の教材と映画		24-27	『花咲爺』『泳げや泳げ』『蟾退治』『汽車の発達』
		3月号	三月の教材と映画		18-21	『あひるの子』
		4月号	四月の教材と映画		22-25	『体育デー』『雲雀の宿替』『漫画レビュー春』
		5月号	五月の教材と映画		32-34	『小鳥と兎』『蛙は蛙』
		7月号	七月の教材と映画		24-27	『猿正宗』
		9月号	満州国に於ける映画運動の動向		14-16	○沿線巡回映写『動物病院』『お猿の大漁』 ○ 日本学校巡回映写『小鳥と兎』『月の宮の王女 様』『マー坊の東京オリンピック大会』
			九月の教材と映画		18-22	『鼠と獅子』『空の桃太郎』『海の桃太郎』『日本 刀』(実写併用)
		10月号	「あひるの子」と尋常一年生 十月・十一月 教材と映画	西村松雄	24-28 40-48	『蟾の骨』『猿蟹合戦』『太郎さんの汽車』 『猿正宗』
		11月号	十二月の教材と映画		49-52	『猿正宗』
	1940	1月号	映画教育分析(2)	森田篤慶	16-19	漫画映画の人気高い
		2月号	二月と三月の教材		21	『花咲爺』『泳げや泳げ』『蟾退治』『汽車の発明』 『あひるの子』
教材映画		3月号	ライブラリタイムス		23-24	『体育デー』『雲雀の宿替』『義経物語』『森のお 医者と白衣の勇士』
		4月号	ライブラリタイムス		35	『小鳥と兎』『蛙は蛙』
		5月号	ライブラリタイムス		33	『雀のお宿』
		6月号	第三回小学校巡映報告書		16-20	『マー坊の少年航空兵』『マー坊の無敵海軍』 『マー坊の北陸探検』満州で上映
			常設館に於ける漫画映画上映作 品表(昭和十五年度)		38-39	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
教材映画		7・8月 合併号	常設館に於ける漫画映画上映作品表		40-41	
		9月号	常設館に於ける漫画映画上映作品表		18-19	
		10月号	常設館に於ける漫画映画上映作品表		60-61	
日本教育映画総目録 昭和十二年版	1937	『映画教育』1937年1月号付録	漫画		85-92, 131-133	
教映ニュース	1937	第20号	第一学期用十六ミリ学習映画		14-20	サクラグラフィ特選 『あひるの子』ほか
		第22号	第二学期用十六ミリ学習映画		14-19	
		第24号	第三学期用十六ミリ学習映画		9-13	
		第26号	第一学期用十六ミリ学習映画		16-22	
		第27号	『海の生命線』『北進日本』		21-22	紹介
		第30号	第三学期用十六ミリ学習映画		13-17	
		第31号	第一学期用十六ミリ学習映画		24-31	
		第36号	第三学期用十六ミリ学習映画		26-27	
		第37号	漫画トリック撮影	池上信次	8-11	
			第一学期用十六ミリ学習映画		18-19	
		第39号	簡易シルエット映画製作の葉	今枝柳蛙	2-9	
		第40号	第二学期用十六ミリ学習映画		12-13	
教育映画研究資料	1937	第14号				『道府県・市に於ける利用映画に関する調査』目録に漫画映画多数
		第17号				『中央官庁に於ける映画利用状況』目録に漫画映画多数
季刊映画研究	1937	第1号	映画に於ける動き―「映画と演劇」より―	アラダイス・ニコル(中川龍一訳)	134-145	ディズニー作品、『新ガリヴァー』に言及
	1938	第2号	文化映画の現状展望と将来への意見	河本正男	108-123	シリーズフォニー、ミッキー・マウス、カラー・ラブソニーほか
スタア	1937	12月上旬号	ミッキー招待	坪田譲治	14-15	
	1938	1月下旬号	表紙 ミッキー・マウスのイラスト		表紙	
			映画物語 白雪姫	長谷川修二	8-9	
		3月上旬号	白雪姫異聞	妹尾篤司	42-43	
		3月下旬号	映画と大衆	ウォルト・ディズニー	8-9	
		5月下旬号	『スキング・アルバム』と『ミッキイ・マウス・アルバム』を聴いて	野口久光	23	『ミッキイ・マウス・アルバム』→シリーズフォニー『子守歌』『ロビンは誰が殺したか?』などフィルムをそのまま録音したレコード。ビクター発売
		7月上旬号	輸入解禁を待つアメリカ映画		7-8	『白雪姫』
			ハリウッド雑信		14	ベティ・ブープ首になる!
		10月上旬号	ヴェニス国際映画展	内田岐三雄	5-7	1937年第五回国際映画展 漫画映画賞 ウォルト・ディズニー作品
		2月上旬号	世界綺談集		63	アメリカの漫画映画、動物や人間の指は4本のみ→労力と時間の莫大な節約
		7月上旬号	『ピノキオ』		無	
神戸映画教育	1938	第2号	漫画映画談義	石亀忠利	15-17	
映画集団	1938	第1号	ボバイ漫画更に継続		23	『ボバイ』原作者シガー死去
映画界	1938	第1巻第1号	舞台と色彩映画	岩淵正嘉	46-51	ディズニー、フィッシングに言及
		1巻2号	漫画映画―日本漫画映画の前提としての日本芸術―	今村太平	22-29	
			音楽映画	岩淵正嘉	34-37	ディズニー作品を称賛
		1巻3号	映画技術時評	花村禎治郎	37-41	シリーズフォニー
	1939	2巻4号	外国映画	馬場英太郎	17-21	シリーズフォニー『村の水車』ほか
			批評論	小坂彦太郎	34-38	今村太平『漫画映画論』を称賛
			速度について	吉岡俊雄	58-62	シリーズフォニー
			同盟通信社映画月報シナリオ 漢口攻略 その後に来るもの		91-108	漫画を含む
		2巻5号	漫画映画シナリオ マネキン	岩淵正嘉	84-87	
映画界		2巻6号	映画芸術の性格(承前)	今村太平	11-29	3 絵画と映画→ディズニー作品について
シネ・テアトル	1938	第9号	漫画映画序想	伊豆村豊	20-25	アメリカ映画史に鑑みて漫画映画を述べる
			映画批評時評	時実象平	62-68	今村太平著『映画芸術の形式』評「トーキー漫画が、映画の純粋性を最も強固に守っている」
	1939	第11号	音楽映画の形式	鈴木寛	18-22	漫画トーキー=「純粋の音楽映画」ディズニー=「トーキー美学の先駆」
東宝映画	1938	11月上旬号	漫画について	坪田譲治	8	アメリカ作品を称賛 日本作品を批判「技術の点で、アメリカ迄進歩しなければなりません」
	1939	1月上旬号	新輸入のアメリカ映画	由谷三郎	17-18	『白雪姫』は今や世界中の話題を一人占めしてゐる感がある
映画文化資料	1938	1巻1号	文化・短編映画米数便覧		30-31	『赤の脅威』『夢の召集令』『北進日本』『だんごの行方』『天狗退治』『マー坊の大陸秘境探検』
			<広告>『南国奇譚』『文ちゃんの冒険飛行』『非常時桃太郎』『珍芸動物行進曲』『ワン公の武勇伝』		無	
		1巻4号	防空・航空に関する映画(一)		29	『空は生命線』(実写併用)『マー坊の少年航空兵』
	1939	2巻2号	『お山は総動員』		11	紹介
			文化・短編映画米数便覧		38-39	ボバイ4本、ベティ1本、おやぢシリーズ3本
		2巻3号	『ボバイの武勇伝』		11	称賛(実写の俳優が登場)
			『子供の夢』		11	称賛
			漫画映画特集	橋本文雄他	20-23	本邦主要漫画映画一覧など

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
文化映画研究			文化・短編映画米数便覧		38-39	『空の荒鷲』『だんごの行方』『べんけい対牛若』 ポパイ、ベティ、ミッキー、シリー・シンフォニーなど
	1938	1巻1号	最近世界の文化映画	来島雪夫	20-27	イギリスのドキュメンタリー Ebb Tide, Community Life→「作者の生物に対する態度には、ディズニーと同じものがある」
			広告映画学要領	石本統吉	32-40	Cartoon film→漫画ならお客は怒らず楽しんでくれる Puppet film→漫画に劣らぬ効果
		1巻2号	<広告>芸術映画社		3	漫画映画のイラスト
			<広告>『だんごの行方』『天狗退治』『白兔』		7	東京シネマ商会
			<広告>『ギャングと踊り子』		9	日本短編映画社
			国際情報		33	『ピノキオ』の映画化
		1巻3号	<広告>村田漫画映画製作所		47	トーキー漫画、各種線画、アートタイトル
			えいぐわせんでん談義	水上鐵也	56-57	「漫画は面白いので、広告的利用には適してゐる」例『ポパイ』
			『孫悟空』		82	バナナの宣伝漫画
		1巻4号	<広告>『ギャングと踊り子』		無	日本短編映画社
		1巻5号	ミッキイ・マウスの微笑	八木仁平	147-149	
			旬報社主催 世界傑作文化映画週間		176	『光の交響楽』上映
			<広告>『ギャングと踊り子』		無	日本短編映画社
		1巻6号	<広告>『ギャングと踊り子』		無	日本短編映画社
	1939	2巻1号	モオティマアからミッキイ・マウスまで(ディズニイ半世紀)	フランク・J・ティラア(八木仁平訳)	31-35	
文化映画	1938	1巻1号	『低空』		36	紹介(雷のゴロ吉シリーズ第二編)
			『たばこものがたり』		36	漫画村田安司、芸術映画社 紹介(実写併用)
		1巻3号	観客層の廣汎な開拓を目指す	肥後博	7	「文化短篇漫画は非常な品不足」
			『だんごの行方』		16	紹介
		1巻5号	朝日映画製作所		54-55	線画室の写真、スタジオ見取図など
			『発明家の幻想』		56	紹介(米国エデンケーショナル社)
		1巻6号	文部省推薦映画目録		29	S.12.10-S.13.5 彩色漫画アカデミーショウ 5巻
		1巻7号	<広告>『ビール萬歳』大日本麦酒		25	東宝映画株式会社文化映画部
			『孫悟空』台湾青果			
			広告映画宣伝映画・作品目録		34-41	『お菓子の出来るまで』(実写併用)『お山の大将』『孫悟空』『ビール萬歳』『わかもと行進曲』
						『歯と健康』『歯と養生』(実写併用)『口腔衛生』(実写併用)『智恵と歯』『口腔衛生』
			アサヒコドモニュースの製作発表		43	時折は漫画も挿入
			『乱痴気騒ぎ』		49	紹介(フェリックスシリーズ)
文化映画	1939	2巻1号	パ社漫画『ポパイとアリババ』賞牌獲得		49	ヴェニス映画展で特別記念賞牌
			『笑へ山男』		55	紹介(千代紙漫画)
			『荒鷲』		55	紹介(佐藤映画製作所)
		2巻2号	<広告>マー坊シリーズ		27	『出世太閤記 木下藤吉郎』スチール 佐藤映画製作所
			<広告>新作及発売映画		31	国内外の漫画映画22本 オールキネマ社
			松竹が漫画製作に乗出す		40-41	「政岡システム」により月4-5本
		2巻3号	<広告>パラマウント短篇		無	ポパイ漫画、ベティ漫画 ポパイのイラスト
			<広告>日本動画協会 日本動画研究所 政岡憲三		無	
		2巻4号	浅草六区の観客と文化ニュース	大久保龍一	59-60	浅草文化ニュース劇場→漫画とニュースが主
		2巻5号	<広告>『朱金昭』ほか		無	文化起業株式会社映画部
		2巻6号	<広告>『朱金昭』ほか		無	文化起業株式会社映画部
		2巻8号	満映開発課巡回映写班 七月中巡映実施報告		39	『月の宮の王女』『空の桃太郎』『ベティの動物病院』
	1940	3巻1号	文化映画製作配給所巡り		54-55	○ミナツカ映画部→マー坊シリーズの佐藤映画製作所と提携 ○日本科学研究所→『漫画映画の出来るまで』
			東宝文化映画部		75-80	作品目録 『ビール萬歳』『漫画孫悟空』『漫画ハビイの鬼ヶ島』『動絵狸達引』『ポン助の春』『カチカチ山』『蟻と蛙』
			文部省認定文化映画		87	『自動電話交換の話』線画のステール
		3巻2号	満映が漫画映画製作「漫画映画研究委員会」製作部内に設置		29	「満州ローカルカラーを充溢させた漫画映画の製作に本格的に乗出すことになった」
			満州配給部開発課巡回映写だより		29	『マー坊の無敵艦隊』『森の医者と白衣の勇士』『小鳥と兔』『ミッキイの愛犬騒動』『ミッキイのカウボーイ』
			文化映画製作配給所巡り		34	芸術映画社『わかもと漫画』「前作『黒吉列車』を製作して圧倒的好評を受けた漫画部が愈々本格的に線漫画界に乗り出し、本社新設漫画スタジオに於て製作に着手した」
			文化映画の興行に就いて	井東松太郎	45	名古屋の名宝会館の「文化映画ショウ」→ベティ、ポパイ、ミッキー、おやぢシリーズを上映
		3巻6号	<広告>マー坊シリーズ		無	
			文化映画の観客層	中山四郎	42-43	『ポパイの鉛筆屋』『生ちゃん大工』梅田小劇場で上映
			全日本映画教育研究会第四回懸賞児童映画筋書、漫画映画入選者発表		53	漫画映画梗概→入選なし、佳作三篇
			「お蝶夫人の幻想」一般映画となる		60	

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
文化映画		3巻7号	文化映画製作配給所巡り		52	朝日映画製作株式会社→「影絵シリーズ」企画
		3巻8号	ディズニーの新型漫画		25	漫画と実写を併用する作品の企画をディズニーが発表
		3巻11号	梅田小劇場八月の特殊番組 文化映画輸出状況一覧表 昭和十五年年度		50 36-40	ディズニー傑作選4本 ○新京『玉手箱』『猿蟹合戦』『お日様と蛙』○天津『健康と美』○青島『ニヤンの浦島』○北支厚和『見世物見物』『瘤取り』○紐育『お蝶夫人の幻想』
			ディズニーの新長篇作大公開		43	『ファンタジア』11月ニューヨーク公開予定
			<広告>マー坊シリーズ 文化映画製作配給所巡り		57 85-86	ミヅナカ映画部 ○朝日映画→『ジャックと豆の木』『沙漠』製作進行中 ○松竹文化映画製作所→『進めフクちゃん』
	1941	1月号	文化映画製作所展望		50-51	『あひる陸戦隊』『ジャックと豆の木』
			演出者はかく語る(座談会)	田中喜次、 亀井文夫他	58-65	
			文化映画作家伝		71	田中喜次について
		2月号	表紙 ジャックと豆の木		表紙	スチール
		3月号	亀井文夫君への手紙に托して 文化映画製作所展望	田中喜次	48-49 86	○旭映画社『鼻合戦』原案構成・長崎拔天で製作中 ○芸術映画社『あひる陸戦隊』製作中 実写併用、亀井文夫監督
		4月号	『富士の地質』	秋元憲	71-73	
			<広告>『子供と工作』		77	
		5月号	文化映画製作所展望		83-84	『子供と工作』近く完了 『あひる陸戦隊』完成
		6月号	『子供と工作』		80-81	
		8月号	漫画映画論序説	高木場務	24-25	
	1942	3月号	影絵映画雑考	滋野辰彦	24-25	
		10月号	絵画映画の特殊性—中華の作品 「西遊記」を見て—	高木場務	50-52	
		11・12月合併号	絵画映画の特殊性(2)	高木場務	54-55	
			<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
	1943	1月号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
		2月号	<広告>『桃太郎の海鷲』		無	
		3月号	文部省選定検定映画解説		22	『桃太郎の海鷲』
		7月号	文化映画封切記録 昭和十八年度上半期		57-58	『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』『ニッポンバンザイ』
		8・9月合併号	少国民と記録映画	関野嘉雄	23-26	少国民映画＝児童劇映画ではない。漫画映画や文化映画など学校教育用映画についても考えるべき
		10・11月合併号	漫画映画への期待	今村太平	46-47	漫画映画のリアリティについて言及
小型映画	1940	12月号(創刊号)	『ピノキオ』		無	『ピノキオ』のスチールのみ3頁
	1941	8月号	映画教育に於ける二つの試み	高原勝千代	9-10	『カヘルとパラシュート』→「児童の漫画の観方が表面的」
		10月号	ディズニーのスタジオ旅行		12	
		12月号	視覚教育と結核予防(三)	深水正策	9-11	影絵映画の日独比較
	1942	1月号	小型映画の技能審査に就て		8-14	技能審査員に山本早苗、瀬尾光世。S.16試験問題「ディズニー作品の撮影技術について批評せよ」
		3月号	『かぐや姫』		表紙	スチール
			荒井和五郎氏に影絵映画かぐや姫の製作談を訊く		5-9	
			荒井氏とかぐや姫		無	スチール
		5月号	漫画映画のことなど	上野耕三	7-9,15	
			ミッキー・マウスとベティ		無	イラスト
			E.MENGERTの影絵作品		無	スチール (日本で生れたドイツ人)
			ジャックと豆の木より		無	スチール
			日本漫画映画の将来に就て(座談会)	荒井和五郎 大藤信郎 瀬尾光世 村田安司他	16-21	荒井、大藤、瀬尾、村田の写真
		6月号	日本漫画映画の将来に就て(座談会)		6-10、 14	
			横浜シネマ研究所を視る	名古佐一郎	無	漫画映画の製作プロセス、写真多数
映画精神	1940	12月号	劇映画の理念に関する若干の考察	原敬之助	28-36	ディズニーを称賛「ワルト・ディズニーはトーキーに於けるチャップリン」「ディズニー漫画の精神は劇映画に於て摂取すべき貴重な精神」
映画教育研究	1940	第15号	講堂映画上映フィルム一覧表		28-32	漫画映画多数
	1941	第17号	『ジャックと豆の木』		47	紹介
			文部省選定児童向映画		62,65,66	『ジャックと豆の木』選定理由「影絵としての出来上りの美しい点」「テムポの幼少児童に適する点」など
			昭和十五年文部省映画製作実績		68	描画映画『あひる陸戦隊』『狐の行方』

雑誌名	年	号	題目	著者名	頁	特記事項
映画教育研究			昭和十六年度前期定期配給映画紹介		70	『あひる陸戦隊』
			貸与映画目録		97,99,103	『タヌ吉のお話』『忠吉は帰った』『黄金の鉤』など
季刊映画研究	1941	1巻2号	漫画映画製作論	山本茂	22-33	
			漫画映画の特質	飯田心美	34-42	
			漫画映画の合成		無	スチール
	1942	2巻2号	映画音楽	深井史郎	74-83	『ファンタジア』に言及
映画技術	1942	9月号	動画映画とその技術	島崎清彦	7-10	
			日本漫画の電灯	西村正美	11-14	
			漫画映画の技術 瀬尾光世氏と語る	青木光照	15-17	
			線画技術とその必然性 前田一氏と語る	青木光照	18-19	
			大石郁郎氏が語る線画と図解映画	北條希士雄	20-21	
映画技術			影絵と影絵映画	立花伸夫	42-43	
			漫画「西遊記」とその作者	野口久光	22-27	
			漫画映画の製作過程—横浜シネマの場合—		無	スチール多数
			ディズニー撮影所の機構	渡部多美三	31-34	
			ディズニーはどうやってあつたか？—彼等の漫画映画製作のプロセス		無	スチール多数
			漫画映画の立体的撮影法	渡部多美三	39-41	
			漫画影絵映画に望む(ハガキ回答)		17	
			<広告>『西遊記 鉄扇姫の巻』		無	
		10月号	漫画「西遊記」合評—瀬尾光世氏を囲んで—	大日本映画協会文化映画研究会	64-66	
MUSASHINO WEEKLY	1929	vol.9 No.37 9月5日	上映順序		無	四 発声漫画 螢の光
		vol.9 No.38 9月12日	上映順序		無	三 発声漫画 オペラ見物
		vol.9 No.41 10月4日	上映順序		無	五 発声漫画 薔薇の花
			パラマウント特作傑作短篇トッキー集		9	発声漫画 薔薇の花 原名「母さん薔薇を挿して下さい」
		vol.9 No.42 10月11日	上映順序		無	一 パラマウント発声漫画 薔薇の花
		vol.9 No.43 10月17日	上映順序		無	四 パラマウント発声漫画 『支那街恋しや』
		vol.9 No.44 10月25日	上映順序		無	四 パラマウント発声漫画 『カウ・ボーイの唄』
		vol.9 No.47 10月25日	上映順序		無	三 パラマウント音楽漫画 『デイクシー』
		vol.9 No.49 11月29日	上映順序		無	四 パラマウント音楽漫画 『オールド・ブラック・ジョー』
			今週のサウンド・ショー		6	『オールド・ブラック・ジョー』の歌詞を掲載

1928-45年におけるアニメーションの言説調査および分析 <書籍リスト>

著者名	書名	出版社名	年	特記事項と掲載頁
下野宗逸	映画による学習の実際と施設	教育書館	1928	○『蛙の王様』を称賛(143) ○昭和二年度文部省推薦映画一覽『蛙の王様』『蝸の骨』『花咲翁』(231-232)
六車修	映画の小窓	文行社	1928	東京朝日新聞主催 児童映画の会 『花咲翁』『動物サーカス』上映(247-248)
平田潤雄、秋間保郎	活動写真の新智識	子供の日本社	1928	漫画(線画)映画の話(139-147)
仲木貞一	教育映画物語	興文社:文藝春秋社	1928	○『壺』(51-56)スチールあり ○『蝸の骨』(236-239)スチールあり
村山知義	プロレタリア映画入門	前衛書房	1928	教育映画『蝸の骨』『花咲翁』(219)
文部省普通學務局編	文部省推薦映画目録	文部省普通學務局	1928	『姥捨山』『馬具田城の盜賊』『蝸の骨』『花咲翁』『蛙の王様』『みかん船』
櫻井小學校	映画教育の理論と実際	駸々堂出版部	1929	○描画の分類(6) ○娯楽としての映画一線映画(183-186) ○教材映画の調査(257-260) ○本校映画日「動物オリムピックは、低学年高学年とも最も興味を引き起こした」(314-318)
飯島正	映画の研究	厚生閣書店	1929	○ヴィッキヌイ・エゲリヌイの中斜交響楽(100-112) ○ハンス・リヒター著「物体の運動」(113-118) ○『中斜交響楽』『リズム1925』スチール(無)
各務忠方	活動写真の実際知識	太陽堂	1929	漫画の撮影(155-156)
橘高廣	教育映画概論	明治図書	1929	○大毎東日フィルムライブラリー目録(79-86) ○教育映画製作会社の住所:自由映画研究所他(161-163) ○描画、混合画の種別(308)
タイムス出版社国際パンフレット通信部	最近教育映画上の諸問題	タイムス出版社国際パンフレット通信部	1929	ラディ斯拉フ・スタラヴィッチ、ロッテ・ライニガー、フェリックスシリーズ(29-31)
森岩雄	映画芸術	春秋社	1930	「映画劇」に非ざる芸術映画の製作→影絵映画、千代紙映画を含む(131-139)
酒井真人	映写幕上の独裁者	中央公論社	1930	『四十人の盜賊』→「見るに忍びざる凡作」(26)
全日本活映教育研究会編	映画教育の基礎知識	全日本活映教育研究会	1930	北山清太郎「線映画の作り方」(321-341)
文部省編	教育映画目録	文部省	1930	線画(漫画)多数(実写併用を含む)→用途:倫理教育、情操教育、知的教育、公民教育、生活擁護及生活改善の指導奨励
文部省編	教化映画利用状況	文部省	1930	『二つの世界』全国上映状況
岩崎昶他	現代映画芸術論	天人社	1930	絶対映画→V. エゲリング、H. リヒターほか(45-46)(武田忠哉「ドイツ映画一―九三〇年」[33-74])
北尾鎌之助、鈴木陽	小型映画の研究	創元社	1930	『魔法の時計』スチールのみ(無)
佐々木能理男、飯島正	前衛映画芸術論	天人社	1930	絶対映画→V. エゲリング、H. リヒターほか(13-22)(佐々木能理男「前衛映画芸術論」[3-60])
レオン・ムウシナック(飯島正訳)	ソヴィエト・ロシヤの映画	往来社	1930	「動く画」=Dessin animé (188)
宮川菊芳、星野長作	映画教育の理論と実際	厚生閣書店	1931	『魔法の時計』スチールのみ(無)
森岩雄他	小型映画講座 2 映画製作法	日本教材映画	1931	線画・影絵・人形映画のつくり方(203-216)
岩崎昶	映画と資本主義	往来社	1931	影絵映画に就いて→『アケメッド王子の冒険』の製作法(386-399)
帰山教正他編	活動写真撮影術	日本教材映画株式会社	1931	第八章 タイトルと線画の撮影法(原田三夫、大石郁述)(226-265)
立花高四郎	常識の映画:テキスト	日本放送協会関東支部	1931	(5)カーツーン・フィルム(19-23)
日本プロレタリア映画同盟編	プロレタリア映画のために	京都共生閣	1931	線画映画=「最も簡明直裁な説明に役立つ様式」「外に「漫画映画」「影絵映画」「切抜映画」等の様式がある」(93)
エリック・エリオット(岸松雄訳)	映画技術と映画芸術	往来社	1932	「漫画フィルムの線画が、屢々素晴らしい運動調和の効果を生むことがある」(77)
寺田寅彦	映画芸術	岩波書店	1932	「人工映画」として漫画映画を論じる 「漫画は詩であり歌であり得る」(33-34)

著者名	書名	出版社名	年	特記事項と掲載頁
ベエロ・ボラージュ (佐々木能理男訳)	映画美学と映画社会学	往来社	1932	8. 絶対映画→L.スタレヴィッチ、L.ライニガー、V.エッゲリング、フェリックスシリーズ、オスワルトシリーズに言及(原本は1930年刊)(168-178)
北尾春道	影絵之研究	素人社書屋	1932	『カリフの鶴』『アクメッド王子の冒険』スチール(無)
岡崎市立高等女学校 校友會映画部編	嗜好映画種目についての調査概要	岡崎市立高等女学校 校友會映画部	1932	『レビュー春』にアンケート
東京シネマ商会	特選教育映画集	東京シネマ商会	1932	漫画映画、実写併用のもの多数
大伴喜祐	パター・シネ	古今書院	1932	第8節 線映画及影絵映画(41)
村山知義他	プロレタリア映画の知識	内外社	1932	○『俺達の広告』『アヂ太プロ吉消費組合の巻』(55-58) ○ミッキー・マウス→アメリカトーキーの芸術的成果(97) ○「漫画、線画、千代紙、影絵一映画」(196-198) ○映画用語集→線画映画、千代紙映画、人形映画、影絵映画(201-207)
袋一平	露西亜映画史略	往来社	1932	トンフィルム(ロシアの漫画映画製作所)、イワーノフなどに言及(183-184)
馬上義太郎譯編	音画芸術の方法論	往来社	1933	「発声漫画」→ミッキー・マウスなど(127-130)
サクラグラフ	サクラグラフ教科用映画目録	サクラグラフ	1933	村田安司作品が主
映画評論社同人 責任編者	定本世界映画芸術発達史	映画評論社出版部	1933	トーキー漫画及びシリーズ・シムフォニー「呼物以上の人気を呼んでゐるのは何故であらうか」(179-180)
鈴木喜代松	最新映画教育の動向と実践	明治圖書	1934	○漫画映画を分類(36) ○漫画映画のプログラム編成(92-93) ○小学1~3年の過半数が漫画映画を好む(94) ○漫画映画の解説・指導は必要(104) ○漫画映画は修身科に不向き(130-131) ○『円』を批判(244-246) ○フランスの巴里技術教育部で漫画映画を上映(274-275)
早瀬松蔵	映画教育の志向と実践	高踏社	1935	○『あひるの子』で教育効果を実験(36-41) ○漫画の説明の仕方「多くを言ふ必要がない」(118) ○情操陶冶の映画教育細目→漫画映画が多数(130-134)
橘高廣	映画芸術発達史(上)	日本大学出版部	1935	(11)トーキー漫画(42-43)
活動新聞社編	映画事業名簿 昭和10年 下期版	活動新聞社	1935	千代紙映画社ほか(住所、電話番号、代表者氏名)
來島雪夫	映画人必携 昭和10年版 映画読本	国際映画通信社 書林絢天洞	1935	最新主要映画関係者社録(83-110) 漫画映画=animated cartoon, dessin animée フィッシンガー、ライニガー、『シリーズ・シムフォニー』(260-262)
	映画文化展覧会録	キネマ旬報社	1935	○会場略図→政岡映画製作所ほか(2-3) ○製作プロセスと原画集の写真(17)
吉川速男	小型映画の写し方	アルス	1935	線画・漫画・映画の製作(188-194)
岡本洋行	十六ミリ映画在庫目録	岡本洋行	1935	漫画映画多数(21-26)
飯島正	新映画論	西東書林	1935	○ミッキイ・マウス物語(148-156) ○シリーズ・シムフォニーに言及(183-184)
大阪府教護聯盟 編	中等学生の興行映画観覧に関する調査	大阪府教護聯盟	1935	中等学生1-5年の嗜好→外国の漫画映画:男女1位 日本の漫画映画:女子1位 男子2位(12-18)
東京市役所	東京市教育局社会教育課活動写真目録 発声映画	東京市役所	1935	第五部第一類 漫画(35-40)
コーアン編(阪本 捷房訳)	レイモンド・スポティ スウッド(佐々木能 理男訳)	コロナ社	1935	「動物漫画は、音にあわせて図をきめる」(213)
山根幹人	映画の文法:映画技巧の分析	映画評論社出版部	1936	7. 漫画映画 The Cartoon (原本は1935年刊)(36)
山根幹人	最新映画辞典	映画国策社	1936	○カーツーン Cartoon=線画、漫画、カリカチュア(25) ○線画=カーツーン(68)
文部省社会教育 局	文部省製作映画目録	文部省社会教育 局	1936	線画(漫画映画)多数(実写併用を含む)
東京市芝区赤羽尋 常小学校	我校の映画教育	東京市芝区赤羽 尋常小学校	1936	児童の好む映画→低学年に漫画映画が人気(26-29)

著者名	書名	出版社名	年	特記事項と掲載頁
ルジュワン(上野一郎訳)	映画芸術と映画作家	映画評論社出版部	1937	○ディズニーの漫画映画(82-90) ○実験的映画「シリイ・シムフォニー」は、マン・レイの映画と起源を全く同じうしてゐる(205)
滋野辰彦	映画探求	第一藝文社	1937	シリイ・シムフォニー(204-207)
金子龍一編	外国映画名鑑	新映画社	1937	ウォルト・ディズニー(336)
関野嘉雄、下野宗逸	講堂映画会方法論	成美堂	1937	○第三章 漫画映画(65-71) ○講堂映画会の実際の考察『特急艦隊』ほか(126) ○漫画映画は「無説明・無伴奏」がよい(161)
国際映画協会編	国際映画協会事業報告	国際映画協会	1937	線画22本(104)
手島増次	アマチュア映画のトリック撮影	日本映画技術協会出版部	1938	○一齣撮影に依るもの→漫画映画ほか(3-17) ○ロッセ・ライニガーの影絵人形の写真(19)
吉岡重三郎	映画	ダイヤモンド社	1938	ホ 漫画映画その他→シリイ・シムフォニー、ミッキー・マウス、ポパイ、ベティ、『白雪姫』(28-29)
今村太平	映画芸術の形式	大塩書林	1938	「トーキー漫画論」「トーキー漫画と人間」「トーキー漫画の原始性」「漫画喜劇論」ほか
北川鉄夫	映画用語辞典	第一藝文社	1938	○影絵映画(23) ○絶対映画(52) ○ベティ・ブープ(82) ○ポパイ(83) ○漫画映画(84-85) ○ミッキー・マウス(87)
不破祐俊	教育映画の諸相(教育パンフレット 第307号)	社会教育協会	1938	映画教育中央会 第一回配給『忠吉は帰った』(33)
田島太郎	検閲室の間に呟く	大日本活動写真協会	1938	トーキー漫画のお話(81-91)
上田久七	都市と農村の娯楽教育	太白書房	1938	(3)漫画物(125-126)
山本栄枝	映画・映画教育:教育的映画論	山本栄枝	1939	「漫画を必ず添えるのは何故かと問ひ度い」(137-138)
今村太平	映画芸術の性格	第一藝文社	1939	「日本漫画映画のために」(137-159)ほか
京都市教育部學務課編	京都市映画教育沿革史	京都市役所	1939	巡回映写、タイトル多数
日本医学映画研究会編	日本医学映画目録 昭和十四年度	日本医学映画研究会事務所	1939	○産婦人科→実写併用のもの多数(63-68) ○一般→漫画『衛生不如帰』ほか(97-99)
津村秀夫	映画と批評 続	小山書店	1940	ミッキー・マウスを好きな娘にせがまれてニュース映画館へ行くエピソード(84)
今村太平	映画と文化	第一藝文社	1940	色彩漫画→シリイ・シムフォニー中心(112-121)
大日本映画協会	映画文化展覧会記録:映画法実施記念	大日本映画協会	1940	漫画映画の製作プロセスほか展示(無)
鈴木喜代松	映画教育論	四海書房	1941	○無説明主義を排す→漫画映画は解説必要(23) ○昭和6年優秀映画フィルム『猿正宗』ほか(152-154) ○昭和8年『円』論争(157-166) ○理科学習と映画→線映画の挿入(236)
大日本映画協会編	映画撮影学読本 下巻	大日本映画協会	1941	○大石郁雄著「漫画と線画の技術」(66-84) ○『蝸の骨』原画のスケール(無)
日本映画雑誌協会	映画新体制展覧会録	日本映画雑誌協会	1941	○会場略図説明→製作プロセス(横浜シネマ、ディズニースタジオ)『ガリヴァー旅行記』スケール ○第二部 映画科学→製作プロセス(『こがね丸』、ディズニースタジオ、『ガリヴァー旅行記』)
若葉馨	映画入門第一歩	新興音楽出版社	1941	発声漫画、影絵映画、人形映画(175-179)
杉山平一	映画評論集	第一藝文社	1941	○「異様な声にマクされた漫画人物の生き生きした個性」(105) ○クロオズ・アップ→「漫画映画は…クロオズ・アップできなかった事物のこころを近写する」(116-118) ○漫画→「シリイ・シムフォニーによってはじめて芸術品として登場」(119-122)
西村正美	小型映画:歴史と技術	四海書房	1941	○第一回国際アマチュア競技大会→荻野茂二の『開花』一等『リズム』二等『表現』一等(142) ○『煙突屋ペロー』(184-185) ○『兎と亀』影絵映画(194) ○『茶釜音頭』(284) ○『カンガルーの誕生日』(286)
永富映次郎編	新篇 映画用語辞林	管書店	1941	○シリイ・シムフォニー(37-38) ○線画Cartoon(55-56)

著者名	書名	出版社名	年	特記事項と掲載頁
日本映画雑誌協会編	日・満・支映画館録	日本映画雑誌協会	1941	○映画関係業者録→日本マンガフィルム研究所、蒲田線漫画研究所、村田漫画映画製作所ほか(1-78) ○<広告>佐藤映画製作所(頁無)
今村太平	日本芸術と映画	管書店	1941	「日本芸術と映画」(人形芝居と漫画映画の比較)
今村太平	漫画映画論	第一藝文社	1941	
大槻憲二	映画創作鑑賞の心理	昭和書房	1942	『子供の夢』(ディズニー)を称賛(286-288)
筈見恒夫	映画と民族	映画日本社	1942	フランク・キャブラの劇映画『わが家の楽園』→「まるでシリー・シムフォニーの一家の様に幸福さうじゃないか」(310)
筈見恒夫	映画の伝統	青山書院	1942	○『白雪姫』→「何と恐ろしく喰ひ込んだ敵性映画の魅力であらうか」(78)「さわやかな『白雪姫』の感触」(269) ○ウォルト・ディズニー→「芸術家である」(136-138)
澤村勉	映画の表現	管書店	1942	○ニュース映画とウォルト・ディズニーの漫画映画→「現在、映画が進みつつある二つの大きな方向」(51) ○オスカー・フィッシャー『青の交響楽』→「色彩映画芸術」しかし「傍系的」(190)
全日本映画教育研究会編	映画教育講座	四海書房	1942	○講堂映画会→児童漫画映画など一般興行映画から切り離された児童映画の上映の場(111) ○広告:土田商会『動物防諜戦』ほか、奥商会『べんけいとウシワカ』ほか
関野嘉雄、關猛	国民学校と家庭に於ける映画教育	照林堂書店	1942	国民学校課外用映画選定制度 『ジャックと豆の木』→「何よりもまづ影絵としての出来上りの美しい点、テムポの幼少児童に適する点がこの映画の積極的意味」(212-213)
今村太平	これからの映画	田中宋栄堂	1942	ディズニー作品を解説・称賛 スチール多数
今村太平	戦争と映画	第一藝文社	1942	「漫画映画論」(137-153)ほか
日本映画編集部編	映画学入門	大日本映画協会	1943	○アニメーション(101-102) ○動く線の撮り方(117)
津村秀夫	映画政策論	中央公論社	1943	『ピノキオ』『白雪姫』『ファンタジア』(437-438)
掛下慶吉	映画と音楽	新興音楽出版社	1943	○音楽短編映画→ディズニー、フィッシャー(78-81) ○「トオキイ音楽に関する二、三の反駁」→『シリー・シムフォニー』を称賛(157)
岡田真吉	映画文献史	大日本映画協会	1943	ナンシー・ナウムベルグ『静粛、撮影開始』Silence! On tourne(1938)→第十六章 ミッキイ・マウス物申す(ウォルト・ディズニー)(58-59)
権田保之助	娯楽教育の研究	小学館	1943	○『二つの世界』文部省が全国上映(46) ○文部省製作『あひる陸戦隊』『狐の行方』『アリチャン』(104,105) ○児童生徒向映画の選定『ジャックと豆の木』(115) ○国民学校課外用映画の選定『新猿蟹合戦』ほか(120)
横田昇一編	戦争映画と児童:麹街区教育研究会映画教育部研究発表	十字屋出版部	1943	『西遊記(鉄扇公主)』児童に人気高い(45,57,61)
今村太平	日本映画の本質	新太陽社	1943	「漫画映画の音楽」(137-147)「漫画映画の絵」(151-155)「漫画映画の色」(155-165)ほか
映画配給社	封切委託映画目録	映画配給社	1943	短篇(含漫画)映画の部(63-71)
日本映画社海外局調査	アメリカの短編映画	日本映画社	1944	兵士教育用の漫画映画など多数紹介
クルト・ロンドン(津川主一訳)	映画音楽の美学と科学	楽苑社	1944	発声漫画について→シリー・シムフォニー、ミッキーマウス(126-132)
津村秀夫	映画戦	朝日新聞社	1944	○政治的宣伝映画に漫画映画の活用『ニッポン・バンザイ』(52-53)○『桃太郎の海鷲』上海の上映成績(107)○『お蝶夫人の幻想』ベトナムで上映(125)
飯島正	科学映画の諸問題	白水社	1944	動画と科学映画(67-68)
千葉俊一	大華大戲院:中國人を對照したる日本映畫専門館	中華電影研究所資料部	1944	上映した文化映画短篇 『桃太郎の海鷲』『子供と工作』『かぐや姫』『蜘蛛とチューリップ』(41-42)

韓国における日本のアニメーションの受容に関する一考察

朴 紀昡

序

第1章 受容の変貌

1. 1970年代～1980年代前半
2. 1980年代後半～1990年代
3. 1998年～2005年現在

第2章 韓国の映画文化の理解

1. 映画産業の動向
2. アニメーションに対する認識

第3章 韓国の映画文化と日本のアニメーション

1. 日本のアニメーションの特質
2. 韓国映画への影響

結語にかえて

序

日本で制作されたアニメーションは 1970 年代以来、ヨーロッパやアジアなど海外へ数多く輸出されてきた。最近、宮崎駿のアニメーションはディズニー社によって世界各国に配給され、批評家たちからも注目されている。S・J・ネイピアの『現代日本のアニメー「AKIRA」から「千と千尋の神隠し」まで』や S・Hayward の『Hayao Miyazaki, Master of Japanese Animation』などの著書は、アメリカで日本のアニメーションがどのように受容されたかを論じたものとして、海外におけるその関心が高まっていることを示す資料であった。

そのような中で、日本のアニメーションが韓国においてどのように受容されたかを知る資料は乏しい状況であるといえよう。韓国では 1998 年に日本の大衆文化開放が発表されて以後、日本の映画及びアニメーションが公の場で一般観客に上映され、研究者や批評家たちからも注目されるようになった。特に、『ハウルの動く城』や『千と千尋の神隠し』などは、これまで韓国で上映された日本映画の中でもっとも観客を動員し、スムーズな受容を見せている。さらに、それは韓国で制作されたアニメーションより大衆の支持を得た。

韓国において日本映画及びアニメーションはどのように受容されてきたか。その評価はどのようなものか。そこで浮き彫りになった日本のアニメーションの特質と、韓国にも受け入れられた背景について論じたい。本研究では、韓国における日本アニメーションの受容の現状を明らかにし、海外との関わりからアニメーションを見る新たな視野を与えることを目的とする。

まず、韓国で日本アニメーションの受容がどのように変わってきたかを、筆者の個人的な体験に基づいて考察する。次に、韓国の映画文化はどのようなものかを調べ、日本との文化的差異を見出す。ここでは、1990 年代以後の状況を知るために、文献及び新聞の資料を調査する。最後に、韓国で上映された日本の劇場用アニメーションのもつ特質を、韓国の映画文化との関連で分析する。さらに、これから韓国映画へ及ぼす影響を考える。

第1章 韓国における日本のアニメーションの受容

1. 1970年代～1980年代前半

筆者が子供のとき、午後6時前後にテレビで放映されるアニメーションは実に楽しみだった。『未来少年コナン』を見て、コナンがあり得ないスピードで走り絶壁から落ちる姿に、はらはらしていたことを覚えている。また、コナンに助けられ守られるラナを憧れの心で見ている。大人になって考えると、男の子たちが好みそうな物語だったが、なぜかもっとも記憶に残っているアニメーションである。当時、女の子たちは『キャンディキャンディ』のテーマ曲を口ずさんだりしていた。キャンディは活動的で、施設に捨てられる逆境の中で屈しない少女だった。筆者は彼女に感情移入して見ていたし、ときには心が励まされた。このように、韓国の放送局では『キャンディキャンディ』や『未来少年コナン』などの日本のアニメーションが放送法に従って輸入されていた。

韓国でテレビが始まったのは1961年である。韓国の国営放送局であるKBSは開局とともに、12月にはじめて海外のアニメーションを放映した。その後、1964年に開局したTBCは1967年に『黄金バット』を放映した。このアニメーションは日本の東映動画がストーリーとキャラクターとカラーを指定し、TBCが背景と色塗りを担当した、いわば下請けのものである。⁽¹⁾1970年代になると、テレビはもっとも影響力のあるメディアとなった。1964年に3万台ほどだったテレビの普及数は、1975年頃180万台となり、1980年代に690万台に増加した。⁽²⁾テレビのある家に近所の人たちが集まって、ニュースを見、ドラマやプロレスリングを楽しんだ。午後6時前後には子供たちが楽しみにしているアニメーションが放映された。この時期に放映されたアニメーションは主に海外のもので、その中に日本のアニメーションが含まれていた。

『鉄腕アトム』は日本で、はじめての30分もののテレビシリーズで、日本で1963年に放映された。このアニメーションは韓国で1971年にTBCで放映され、子供たちの間で人気があった。その物語よりは主人公のアトムが腕を延ばして空を飛ぶ姿が筆者の記憶に残っている。日本アニメーション社の世界名作劇場シリーズも多く放映された。放映の時期は正確に判明できなかったが、1970年代に『フランダースの犬』や『母をたずねて三千里』が、1980年代には『赤毛のアン』が放映された。『アルプスの少女ハイジ』はアルプスの山での生活と少女ハイジの明るさが印象的なアニメーションで、1976年4月から1977年10月にかけてMBCで月曜日午後6時に放映され人気を得た。『キャンディキャンディ』が放映されたのもこの1977年頃で、キャンディのキャラクターとテーマ曲は当時の女の子たちにとって共通する思い出になったに違いない。男の子たちがロボットの登場するSFアニメーションを多く見ていた。1975年10月から放映さ

れた『マジンガーZ』は毎週月曜日の6時に放映されて、1978年、1979年、1980年に再放映されるほど、人気があったアニメーションである。この時期に、テレビで放映された日本のアニメーションは、ヨーロッパの童話が題材になっているかSFものも多く、日本のものであることは知られなかった。⁽³⁾

日本のアニメーションのテレビ放映は1970年代から1980年代に繋がり、放映時間帯は午後6時前後で子供たちの文化を形成していた。1980年にカラーテレビが普及し、アニメーションはますます子供たちをテレビの前に釘付けにした。1980年『銀河鉄道999』がMBCで放映された。このアニメーションは毎週日曜日午前8時から9時まで放映されたが、当時アニメーションの1時間の放映ははじめてである。1979年に日本のNHKで放映された『未来少年コナン』は1982年に放映され、もっとも人気のあったアニメーションである。その他に、『ジャングル大帝』『リボンの騎士』『タイガーマスク』『科学忍者隊ガッチャマン』『ベルサイユのばら』『魔法使いサリー』などが放映された。当時、映画館でアニメーションを観ることもあった。⁽⁴⁾ 韓国で劇場用として1976年に制作された『ロボットテクオン V』シリーズは当時人気があったアニメーションである。しかし、テレビの普及が急増し、テレビで放映されるアニメーションの方が手軽に観られたために、日常生活の娯楽として楽しまれていた。

2. 1980年代後半～1990年代

筆者は1990年代のはじめごろ、はじめて日本の劇場用アニメーション『となりのトトロ』を観た。このアニメーションについては、少女たちが天真爛漫にはしゃいでいたことや、物語の展開がゆったりだったことを覚えている。この時期に日本のアニメーションは映画館での上映を禁じられていたために、筆者が観たのはビデオだった。ビデオは1982年から本格的に普及されはじめ、1984年にビデオの普及数が40万代をこえた。このようにメディアが多様化し、日本のアニメーションの受容の形態においても変化がおきつつあった時期である。さらに、1988年韓国ではオリンピックが開かれ海外への往来が増えると、個人によって海外文化が流入するようになり、日本のビデオや歌謡のCDも正式でないルートをとおして海賊版が多く流入された。また、1988年スタートした衛星放送を観るシステムが揃えられると、日本の映画やテレビ番組を手軽に観ることができるようになった。

そんな中で、テレビは相変わらず主なメディアとして影響を及ぼしていた。1979年からテレビのカラー放映がはじまると、その影響力はますます大きくなる。当時、映画館ではカラーのアニメーションが上映されていたが、テレビで観られるようになって、映画館まで行く必要がなくなった。テレビで放映されるアニメーションは主に海外のも

ので、1990年代のはじめごろまで放送局の海外アニメーションの依存度は100%に近かった。SBSの場合、1993年に放映されたアニメーションの100%が海外のもので、その大部分は日本のアニメーションとされる。⁵⁾1987年に韓国の放送局でテレビ用アニメーションが制作されるようになって、1998年自国アニメーションのシリーズものの放映時間が週1回固定編成されるまで、やはり日本のアニメーションが多くを占めていた。この時期のもので、筆者の記憶に残っているアニメーションは数少なく、それは高校生から大学生になるにつれ、アニメーションを観なくなったからではないかと考える。当時、5時から7時までの間に放映される番組は子供のために組まれたもので、その中にアニメーションが含まれる。高校生や大学生が観るのに時間帯も合わなかったし、漫画やアニメーションは一般的に子供のものと思われがちであった。

一方、映画館での日本のアニメーションが上映されることは禁じられていたが、公の場として映画祭で紹介され、認知が高まっていった。韓国で開かれる、釜山国際映画祭、釜山ファンタスティック映画祭、全州国際映画祭、富川ファンタスティック映画祭などに日本で制作された映画及びアニメーションが出品された。1996年釜山国際映画祭の場合、『攻殻機動隊』（押井守、1995年）、『沈黙の艦隊』（高橋良輔、1995年）、『MEMORIES』（大友克洋、1995年）が、1997年には『フランダースの犬』（黒田昌郎、1997年）などの日本のアニメーションが上映されている。特に、この映画祭では2003年に「日本映画の特集」が生まれ、そこでは日本映画が上映され、詳しい情報が伝えられ、一般観客が日本映画に接する公の場となった。

1990年代にあった大きい変化は、インターネットが普及し、正式でないルートで日本の映画やアニメーションが若い世代を中心に広まったことである。1995年ケーブルテレビの時代になると、アニメーション専門チャンネルTooniverseが開局する。このチャンネルでは1年に1500編のアニメーションが放映される。自社制作が20%、他の制作社のものが50%、海外からの輸入ものが30%を占めている。

韓国のアニメーションは映画館で不振だったが、ディズニーのアニメーションは興行に成功していた。⁶⁾この時期は、日本のアニメーションの映画館での上映は禁じられていたにもかかわらず、ビデオやインターネットやケーブルテレビなどメディアの多様化により、様々な形態で日本のアニメーションが観られていたと考える。

3. 1998年～2005年現在

筆者は1997年に日本の映画館で『もののけ姫』を観て大変驚いた。まず、映画館で『もののけ姫』を観るために、長蛇をなして待っている観客たちの姿に驚かされた。次に、『もののけ姫』の難解さに驚いた。日本語が通じない上、次々とダイナミックに物

語が展開されていったので、個々のシーンを理解できなかった。『もののけ姫』において感じた難解さとは、おそらく筆者がこれまで韓国で観てきたアニメーションとの違いから生じたものだと考える。この時期にまだ韓国では日本のアニメーションの映画館での上映が禁じられていたので、映画館で日本のアニメーションを観たのはこれがはじめてである。その後、韓国で上映されるようになって、筆者は 2004 年ほぼ同じ時期に日本で、そして韓国で『ハウルの動く城』を観ることができた。『ハウルの動く城』の内容は『もののけ姫』より理解しやすかった。韓国で『ハウルの動く城』を観にきている観客は日本ほど多くはなかったが、満員であった。以前は、子供たちとその家族が観客の大部分を占めていた観客層が、学生たちや若い女性たちにも拡大されていた。

このように、韓国で日本のアニメーションが正式に上映されるようになった。1998 年 10 月、韓国政府は日本の大衆文化開放を発表し、段階的に開放を進めていった。しかし、日本のアニメーションは直ぐに開放の対象にされず、韓国の映画館で正式に上映されるには、2000 年まで待たなければならなかった。1998 年 10 月の 1 次発表では、段階的な開放方針に従って、日本映画及び漫画単行本や漫画雑誌が即時開放されることになった。アニメーションをはじめ、歌謡、音盤、ゲーム、放送などの分野は開放の対象から外された。その後、同じく段階的な開放方針に従って、1999 年 9 月の 2 次開放において開放の範囲が拡大された。日本の劇映画の場合、全体観覧可⁷⁾のものや公認された国際映画祭での受賞作が開放の対象になったが、アニメーション分野の開放は 1 次るときと同じく延ばされた。2000 年 6 月、日本の大衆文化の 3 次開放が発表された。18 才未満観覧不可の映画を除いた全ての日本の劇映画に対して開放が決まった。そして、文化観光部が指定する国際映画祭の受賞作に限って、日本の劇場用アニメーションの上映が可能になった。2000 年 9 月 9 日に日本アニメーションとしてはじめて『獣兵衛忍風帖』(1993 年、川尻善昭)が韓国の映画館で上映された。その後、『風の谷のナウシカ』(1984 年、宮崎駿)をはじめ宮崎駿のアニメーションが次々と上映された。開放は、日本の歴史教科書問題によって、2001 年 7 月 12 日からしばらく中断されたが、2002 年の日韓ワールドカップの共同開催が成功を収め、両国の間に友好的な雰囲気造成されたため、日本大衆文化の全面開放が積極的に検討された。2003 年 9 月に発表された 4 次開放では、劇映画の場合、18 才以上観覧可と制限上映可の日本映画の全てが開放された中で、劇場用アニメーションの分野のみが全面開放にならなかった。さらに、2 年という猶予期間を与えられた。2006 年日本のアニメーションが韓国で完全に開放される予定である。(表 1.日本の大衆文化開放の現況を参照)

この時期に情報メディアの変貌は激しく、日本のアニメーションは映画館での上映を含め、様々な形態で受容された。相変わらずテレビでの放映も続いている。『美少女戦

士セーラームーン』『ドラゴンボール』『それいけ！アンパンマン』『クレヨンしんちゃん』『魔法のプリンセスミンキーモモ』などが放映された。『ドラえもん』は2001年7月からMBCで月火水曜日の午後5時20分に、『ポケットモンスター』は2003年7月からSBSで毎週月曜日と火曜日の午後5時25分に、それぞれ放映されている。『ポケットモンスター』は日本ではもっと以前から放映されていたが、韓国で放映されたのは、2003年に制作されたシリーズからである。これらの放映時間は5時20分頃で、やはり子供たちの楽しみであることに変わりはないようである。さらに、受容の形態はますます多様化していく。ケーブルテレビのアニメーション専門チャンネルTooniverseでは「日本5大巨匠特集」で押井守や高畑勲をはじめとする日本の監督とそのアニメーションが放映され、日本のアニメーションに関する情報が積極的に紹介されている。また、インターネットサイトでは有料でアニメーションを鑑賞することができるようになった。例えば、DAUMという情報サイトにあるアニメーションの上映館では、アクション、少女もの、コミックなど、ジャンル別に分かれていて、1本あたり300ウォンから2000ウォンまでの料金を払う有料システムとなっている。

第2章 韓国の映画文化の理解

1. 映画産業の動向

日本でも上映された『シュリ』は韓国で1999年に封切りになって、韓国映画史上はじめてソウルで200万人以上の観客を動員した。それまで韓国映画は『約束』『手紙』が70万人を少しこえる程度しか観客を動員していなかった。(表4. 韓国で100万人以上の観客を動員した映画1998年～2003年を参照) ゆえに、『シュリ』の記録は驚くものであった。⁽⁸⁾ 『シュリ』に続いて韓国の観客及び映画関係者を驚かせたのは2004年封切りの『ブラザーフード』で、一千万人をこえる観客を動員したとされる。『シュリ』と『ブラザーフード』の成功以後、韓国では自国映画に対する一般的な認識が変わり、自国映画のもっとも盛んな時期を迎えるようになった。

このような産業的活性化は国の政策と密接に関連する。1998年発足したキム・デジュン政府は文化の産業的な側面をとらえ、その育成に力を入れた。その結果、文化分野において干渉せず支援していくという改革の政策が進められた。また政府は、国民のための政府を表明し、文化政策を権威政治の道具として使わないという決意を見せた。そのような方向性は映画政策にも適用された。

政府は何より映画産業を振興することに焦点を合わせた映画政策に乗り出した。映像産業はベンチャー産業として指定され、金融支援や減税措置が与えられた。この時期の韓国映画の特徴は、金融資本流入の本格化とされる。⁽⁹⁾ その結果、1998年以後、創業投資会社が映画制作に本格的に参加しはじめた。1999年に設置された映画振興委員会は、映画政策の立案と施行を担当するものである。この委員会は2000年3月に、韓国映画振興総合計画を発表し、韓国映画の振興政策を進めた。その中の一つが韓国映画の制作活性化のための支援制度である。それは韓国映画の制作本数を増やし多様性を増加させるために、劇映画の制作費を支援するものである。それから、韓国映画の底辺の拡大を図る事業として、劇映画及びアニメーションのシナリオ公募、インディペンデント映画及びアニメーション制作支援、映画団体への支援などがあげられる。このように、政策上で資金援助が映画制作の増加を促したと見られる。

このような自国映画の活性は市場占有率にも現れた。1990年代まで、ハリウッド映画がほとんどを占めていたが、2001年になると、韓国映画がもっとも高い市場占有率を記録した。それまで25%をこえなかったのが、50%に至ったのである。当時、「韓国映画の占有率がいよいよ‘魔の40%’をこえる記録を出した。」⁽¹⁰⁾ と報じられた。2003年には韓国映画が49.4%を占めるに至った。アメリカ映画は43.5%を、日本映画は3.0%を占めていた。⁽¹¹⁾

韓国で日本映画の正式な輸入が可能になったのも 1998 年キム・デジュン政府の出発からである。日韓の修交以後 30 年間、韓国で日本の大衆文化は禁じられてきた。日本の大衆文化開放の発表は政策上の大きな変化であり、これからの日韓の文化的交流の新たな可能性を示すものであった。これまで禁じられた背景には、韓国が日本の植民地だったという両国の歴史的関係がある。日本の植民地時代を経験した世代が日本に対して反感をもっていることもあって、政策は国民のこのような感情が反映されたものと見られる。

日本の大衆文化開放の 1 次発表で、日本映画は日韓共同で制作した映画あるいは日本人の俳優が出演する韓国映画、そして国際映画祭で受賞した映画のみが開放の対象になった。『HANA-BI』（北野武、1997 年）、『影武者』（黒澤明、1980 年）、『うなぎ』（今村昌平、1997 年）など、芸術性の認められたものが先に上映された。しかし、それらは娯楽的な要素が少なく一般の観客に馴染みにくいものだった。1998 年『HANA-BI』は 37771 名、『影武者』は 57777 名、1999 年『うなぎ』は 52994 名を動員している。（表 3. 韓国で上映された日本の劇映画の観客動員を参照）

2 次発表で公認された映画祭とは、映画振興委員会が褒賞金を支給する対象となる 13 の映画祭と国際映画制作連盟（FIAPF）が認める 70 余りの映画祭で、そこには、東京、モスクワ、モントリオールなどが含まれている。これに該当する日本映画は 113 編で、『Love Letter』（岩井俊二、1995 年）、『死国』（長崎俊一、1999 年）、『四月物語』（岩井俊二、1998 年）、『生きない』（清水浩、1998 年）などが上映された。この中で『Love Letter』は 645615 名の観客を動員し、韓国で人気のある日本映画となった。その後 3 次発表で、18 才未満観覧不可のものを除いた全ての日本映画が開放されるようになった。韓国へ輸入された海外の映画は審議を通過して上映されることになる。映像物等級委員会が民間自立の発想の下でその審議及び等級判定を担当している。映画等級は、2002 年改定された映画振興法によって、「全体観覧可」「12 才観覧可」「15 才観覧可」「18 才観覧可」「制限上映可」の 5 つに分類されている。⁽¹²⁾

そんな中で、開放後韓国で上映された日本のアニメーションは劇映画より多くの観客を動員した。特に、スタジオジブリのものが多くの観客を動員している。『ハウルの動く城』は 2004 年から 2005 年にかけて上映され、韓国で上映された日本映画の中で最多の、全国 300 万以上の観客を動員したとされる。⁽¹³⁾ 観客動員から見ると、『ハウルの動く城』『千と千尋の神隠し』は日本の劇映画より韓国人に受け入れられたといえるのではないか。『千と千尋の神隠し』は 2002 年 6 月に上映されソウルで 937459 名の観客を動員し、『ハウルの動く城』は 2004 年 12 月に上映され 981221 名を動員した。これは韓国で上映された海外のアニメーションの中で歴代 4 位と 3 位の記録（表 5. 韓国で上映

された海外のアニメーションの観客動員を参照)であり、他の日本のアニメーションと比べると好成績といえよう。⁽¹⁴⁾ その他に、『猫の恩返し』が25位、『ポケットモンスター ミュウツーの逆襲』が26位、『ファイナルファンタジー』が29位、『となりのトトロ』『もののけ姫』『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』がそれぞれ31位、35位、39位、41位となった。『ポケットモンスター ミュウツーの逆襲』『もののけ姫』『となりのトトロ』は日本で収益をあげたため、韓国でも期待されたが、それに答えられず失敗に終わった。

しかし、これまで日本の劇映画が文化的な隔たりを克服していなかった上、産業的なブームにも繋がらなかったのに比べると、日本のアニメーションは劇映画と違って可能性を示したかのように見られる。それは、日本の大衆文化開放の政策においてもっとも制限された分野でありながら、実際に上映されると、一部ではあるが、劇映画より大衆的に支持されたからである。むしろ、韓国のアニメーションの方が観客動員に大きく負けている。日本でも上映された『ワンダフルデイズ』は140080名、『マリといた夏』は54404名の観客をそれぞれ動員しているため、それに比べると日本のアニメーションが大いに受け入れられたといえる。

映画は政策とともに観客の選択によって興行の収益が左右されるところがある。ところが、支援があったとしてもかならず成功が保証されることはない。観客がどの映画を選んでどの映画を好むかがまた別の要因として働く。映画振興委員会の調査によると、韓国人の観客はコメディやアクションを好み、映画を鑑賞する際、ストーリーをもっとも重要と考えたと分析されている。⁽¹⁵⁾ 『シュリ』『ブラザーフッド』もアクションが中心のものである。2001年に100万人以上の観客を動員した映画6本の中で『風林高』『花嫁はギャングスター』『達磨よ、遊ぼう』『マイ・ボス マイ・ヒーロー』がコメディものである。(表4. 韓国で100万人以上の観客を動員した映画1998年～2003年を参照)『猟奇的な彼女』は日本でも上映され人気を得たコメディ風の映画である。一方、そのような好みにも変化が見られつつある。アクションかコメディ類が多い中で、2002年上映された『おばあちゃんの家』はジャンルに縛れない新しい傾向を見せた。主人公に無名のおばあさんが選ばれた。そして、祖母と孫の葛藤が日常生活で淡々と描かれている。この映画は興行的な成功の要素が少ないとされながら、成功をしジャンルの多様化が期待される契機を作った。このように、韓国の映画界は量的な成功とともに、質的な成功が求められているところである。

2. アニメーションに対する認識

韓国の劇映画が活性化されている中で、アニメーションに関連する産業も動きはじめ

た。政府の支援によって、アニメーションに関する政策が増え、大学に漫画とアニメーション制作を教える学科が設けられた。それは韓国でアニメーションに対する認識と関連しつつそれに変化を与えている。1997年に関して、「映像産業として潜在力と青少年の有害物という価値観。今年の国内（韓国）の漫画界はこの二つの相反する話が克明に対立した1年だった。」⁽¹⁶⁾と伝えられたように、当時漫画及びアニメーションに対して否定的な考えは根強くあった。ソウル国際漫画フェスティバル（SICAF）をはじめ漫画やアニメーション関連の行事が多く開かれ、関心が高まっていたが、一方で、漫画表現において扇情性が問題になって漫画家が召喚されることがおきた。このように、韓国で漫画やアニメーションは産業として期待されている分野であり、他方、度の過ぎる暴力と性の描写は子供や青少年に及ぼす問題として懸念されることがある。日本の大衆文化をめぐる議論においても日本の漫画やアニメーションに対してそのような懸念があった。様々な議論の末、開放が発表されたが、劇場用アニメーションのみが上映を制限された。4次開放まで、韓国の映画館で上映された日本のアニメーションは、国際アニメーション映画祭を含む各種国際映画祭の受賞作のみである。

韓国での海外アニメーションの輸入は、配給形式によってそれぞれ違った法律が適用される。つまり、劇場用は映画振興法、テレビ用は放送法、ビデオ用は音盤・ビデオ及びゲーム物に関する法律に従って輸入の手続が行われる。劇場用アニメーションの場合、劇映画と同様、映画振興法に従って、映像物等級委員会の審議を経て、上映される。推薦されたアニメーションは委員会の審議及び等級判定を受けることになる。このように海外からアニメーションが輸入され上映されるまでには一定の審議を通らなければならない。その基準とは、韓国社会と国民の美風良俗に反しないこと、国民の情緒に悪い影響を与えないことなどである。これは、度の過ぎる暴力的なものや扇情的なものなど、文化的に受け入れられないと考えられるものを事前に防ごうとする方針である。このような審議は、観客には映画鑑賞を制約してしまう欠点があるものの、韓国で上映される映画のスタイルや鑑賞態度など、映画を取りまく環境を決定し、独特な映画文化を作っていく要素であるといえる。審議の決め手になる反社会的また国民の感情や情緒に関わる問題は、時代によって地域によって様々な形で現れるので、決して明確な基準だとはいえないかもしれない。しかし、このような明確といえない側面こそが韓国において日本アニメーションの輸入を決める文化的判別基準として働いている。⁽¹⁷⁾先述のように、韓国でアニメーションは子供や青少年に有害な影響を与えるのではないかと懸念されるところがある。次の引用では、そのような韓国人のアニメーションに対する認識が言及されている。

韓国人のアニメーションに対する認識は日本人のそれとはかなり違う。アニメーションを子供たちの専有物として受け止めることこそが韓国人の考えである。既成世代の認識そのものが、アニメーションは子供が観るつまらないものと固定されていて、学年があがるにつれ、アニメーションを観る学生数はだんだん減っていく。アニメーションがあたかも劣等生の専有物のように思われているのである。このような社会風潮の中で、子供でない大人がアニメーションを観るということは非常になすべき行動として認識されてきた。⁽¹⁸⁾

このような認識はアニメーションを産業的に促すことを阻害する側面があった。開放が発表される以前、映画評論家イ・ヒョインは日本映画の開放を賛成する見解を述べる中で日本のアニメーションの可能性を次のように言及した。

特に、日本のアニメーションはわれわれを‘公式’的に強く刺激する一方、名作より大衆娯楽ものが主に輸入されるという否定的な現象も予想される。しかし、頑強に輸入を反対して一時的に得られる経済的かつ心理的利益より、これ（開放）を契機に新たな出発点を見出せるのであれば、それがより長期的利益になると見られる。いずれにしても韓日両国は相互の市場を‘非常に’必要としている。⁽¹⁹⁾

日本の大衆文化開放をめぐる議論によって、アニメーションに対する認識が浮き彫りになった。アニメーションに対する認識が変化していることに注目したい。「EBS（教育テレビ）の漫画専門プログラム‘アニトピア’（毎週土曜日午後7時）は18日と25日2回にかけて、国内（韓国内）では下位文化として知られる成人向けアニメーションに対する認識の転換を模索する‘成人向けアニメーションの世界’を放映する。」⁽²⁰⁾ という記事から、アニメーションの影響は憂慮されているところがあると考えられる。しかし、このように成人向けという枠でアニメーションを紹介するほど、認識も変わりつつあるといえよう。日本のアニメーションの中では『獣兵衛忍風帖』や『クレヨンしんちゃん』が成人向けとして紹介された。

政府の積極的な支援が続いて、アニメーションの産業的な重要性が注目されるようになった。大学でそれに関連する学科が設けられ、職業として人気のある分野となった。さらに、『五歳庵』と『マリといた夏』が、興行的には成功をしていないものの、それぞれ2004年と2002年アヌシー・アニメーション映画祭で長編部門のグランプリを受賞したことによって、アニメーションの位置は高まっている。このように、アニメーションに対して産業的文化的重要性が認識されつつある。

第3章 韓国の映画文化と日本のアニメーション

1. 日本のアニメーションの特質

韓国への受容に映し出された日本の劇場用アニメーションのもつ特質は「多様性」というキーワードで説明できると考える。まず、需要者の多様性があげられる。日本におけるアニメーションは、劇映画を遥かに上回る好調で期待される産業であり、劇映画以上の興行的成功によって、もっとも大衆的と位置付けられているメディアであるといえる。さらに、単純に観て楽しむ娯楽としてのレベルをこえ、人と人そして世代と世代を繋ぐコミュニケーションツールとして、社会の現実を反映している。スタジオジブリで制作された『ハウルの動く城』『千と千尋の神隠し』は、日本でそれぞれ公開された年に最高の収益を記録し、もっとも支持されているアニメーションとなった。特に、宮崎駿の名は人気を保証するブランド化しているといっても過言ではない。韓国で上映された劇場用アニメーションの中でも、彼のアニメーションはもっとも多く観客を動員し、歴代興行順位の上位を占めた。宮崎駿は子供のためにアニメーションを制作するという方向性を保ってきた。それが結果的に幅広い年齢層を呼び寄せ、大人も子供も共感するアニメーションの世界を作り出すことになった。韓国で人気があった理由も、アニメーションは子供のものであるという条件に合ったためであり、そこに大人たちも共感したと見られる。次の引用は、韓国で宮崎駿のアニメーションが幅広く支持される理由を、テーマにおいて言及したものである。

宮崎監督のアニメーションが大人の観客に好感を与える理由は何か。おそらく‘保護’のモチーフが彼らに訴える力になったのでは。子供（『天空の城ラピュタ』）と自然（『風の谷のナウシカ』）そして精霊（『となりのトトロ』）。これらのように弱くもろい存在を天が崩れ落ち地が割れても何とかして守らなければならないというのは宮崎駿がきかせる変わらない物語の馴染みのある変奏である。あの声は聞いている人が耳をふさぐことができなくさせる断固たるものが宿っている。⁽²¹⁾

“自然と人間の共生という生態学的テーマ”だという観点が日本の評論家たちの一般的な視点である。しかし、何より『もののけ姫』はユートピアそして愛の物語である。⁽²²⁾

宮崎駿のアニメーションに描かれるテーマは難解な場合もあるが、それが想像力の豊かなアニメーションの世界において演出されるとき、子供たちを楽しませる要素となる。テーマのもつ深みが、彼のアニメーションを『ポケットモンスター』シリーズとともに、

明らかに子供向けとされつつ、それより幅広い年齢層に観られることに繋がったと考える。

韓国で上映された日本のアニメーションの中では『パーフェクトブルー』のように明らかに成人向けとして制限上映可に分類されたものもある。『獣兵衛忍風帖』『攻殻機動隊』『千年女優』『イノセンス』なども決して子供向けと分類されない。しかし、韓国で上映できる日本のアニメーションは海外の映画祭で受賞したものと限定されたために、その条件に合わせて上映された結果、一部のアニメーションしか期待に答えられなかった。このように、日本のアニメーションは幅広い年齢層に受け入れられる可能性も素地している一方で、マニアや成人向けなど一部のファンのためのものも少なくない。それを支えているのは日本国内のテレビや映画やビデオなどのメディアの連係であるといえよう。例えば、劇場用で失敗してもビデオの販売で収益をあげることが可能になっている。それから、一部のマニアのために制作される場合、ビデオあるいはDVDだけの制作も可能である。無論、テレビで認知を高めて劇場用で制作され大人気に繋がることもあるが、そうでなくてもそれぞれの需要者に合わせて、制作者たちはメディアを横断しながら失敗を怖れず制作に取り組むことができると見られる。

次に、コンテンツの多様性があげられる。ここでコンテンツとは作品の素材と考える。例えば韓国で放映された日本のアニメーションの概は日本を背景としていなかった。いわゆる無国籍アニメーションである。『ポケットモンスター』『風の谷のナウシカ』『イノセンス』の背景はどこの国か分からない世界である。一方、『千と千尋の神隠し』『もののけ姫』『千年女優』には明らかに日本のイメージが描かれている。このように、アニメーションの素材において、無国籍のものから日本的なものまで、多様化されている。

『ポケットモンスター ミュウツーの逆襲』には、様々な造形のキャラクター、華麗な色彩やスピーディーなアクション、そして善悪の戦いなど、子供を楽しませる要素が豊富である。特に、本物と偽物の対決は複数のキャラクターの戦いを重ねて演出することによって、最大の見せ場となっている。一方、『となりのトトロ』には昭和時代の自然風景や日常生活が描かれ、それが過ぎ去った時代への郷愁を呼び起こす。『もののけ姫』において描かれた世界は日本の室町時代そして古代の精神に満ちている。『千と千尋の神隠し』において温泉という素材が用いられた。それは日本文化を明らかに表象したものである。このように、日本的な素材とそのアニメーション化は日本のアニメーションを文化的特殊なものとして明らかに特徴付ける。

神道という伝統信仰の痕跡が見られる。千尋が働く温泉には奇異な精霊の出入りが頻繁である。さらに、汚れた神も登場し体の汚れを温泉のお湯で洗い流そうとする。自然万物に魂

が宿るという土着の信仰を表わしているのである。同じ脈絡から『千と千尋の神隠し』はアニメミズムの影が盛り込まれている日本的なアニメーションである。⁽²³⁾

『千年女優』に描かれた日本のイメージは宮崎駿のそれよりリアルである。このアニメーションは初恋の相手を探し求め旅をしてきた女優の物語である。次に、『千年女優』の監督今敏と宮崎駿の描く日本という素材を比較したものを引用する。

宮崎駿の作品が大人のための童話であれば、今敏の作品は大人のための批判書である。二人の監督を比較してみる作品がある。宮崎の『千と千尋の神隠し』は日本の伝統的郷愁についてのファンタジーを描いている。今敏が伝統的素材を扱った『千年女優』は過去の女優を描きながら実際の歴史上の作品と俳優をモチーフとしていて、歴史はどこまでも日本の実現化された体験だといえる。日本の文化と歴史がなければ宮崎の作品に比べて集中力が落ちるかもしれない。しかし、このような点こそわれわれが日本を理解したり、文化を受容したりするためには、宮崎駿の普遍的な感性より、今敏の特殊化された記号や風景が遥かに重要になってくる。⁽²⁴⁾

今敏は『パーフェクトブルー』において現代日本の社会への批判を表現した。

今敏が毎回掴んでいるのは日本の現在である。そういう意味で最近猛烈に活動するアニメーターの中で今敏こそもっとも現実感に満ちた日本の風景を描く。(中略)他の彼の作品に比べると、『パーフェクトブルー』は遥かに冷徹である。日本のアイドル歌手のミマを主人公として、アイドルスターの変身という韓国国内でも最近おきている風土が描かれている。ミマの変身を喜ばないファンたちとスターと育てるために、ポルノ写真を撮らないといけないエンターテインメント産業の冷酷な面貌が現れる。1997年に制作されたこの作品は、当時日本社会に吹きはじめたインターネットという新しいメディアの特性も扱っている。隠しカメラ、インターネットの写真公開、様々なスキャンダルなど、最近、日本文化の中で見られる数多いコードが、一つのアニメーションにしみ込んでいるといっても過言ではない。⁽²⁵⁾

韓国で上映された日本のアニメーションに見られる素材は様々で、素材として日本のイメージを用いる場合でも、作り手のそれぞれの個性が表れる。また、無国籍の世界であっても人気がない場合があるし、日本的な造形及び情緒が再現されて共感を呼ぶことがあった。『もののけ姫』には日本の古代の自然観が反映されていて、『ポケットモンスター』『スチームボーイ』『天空の城ラピュタ』などの無国籍の世界に比べると、文化的

隔たりを韓国民に感じさせると予想できるかもしれない。しかし、そうだとしても『風の谷のナウシカ』『メトロポリス』が日本のイメージの濃厚な『千と千尋の神隠し』より受け入れられたわけではない。ただ、日本を描いたことがそのような文化的な隔たりに繋がることでもなく、無国籍であるから共感に繋がることでもないようである。つまり、日本的な要素が濃厚であっても、それがアニメーションの魅力を引き立たせ、共感に繋がることである。このように、素材の多様化によって描かれたアニメーションの世界は、日本のアニメーションを想像力の豊かな世界として特徴付けている。

最後に、日本のアニメーションに多様なコンテンツの保有を可能にさせたのはジャンルの交流であると指摘したい。漫画との関連は常に日本のアニメーションの要素として知られる。⁽²⁶⁾ 韓国で上映された日本のアニメーションの中にも漫画を原作としているものが多い。『メトロポリス』は手塚治虫が1949年に発表した漫画を原作としている。また、『攻殻機動隊』は士郎正宗の漫画を原作として作られた。『風の谷のナウシカ』も宮崎駿の原作の漫画をアニメーション化したものである。漫画と関連することによって、日本のアニメーションは豊富にコンテンツをもち、それが素材の多様性に繋がったと考えられる。もう一つ、劇映画との関連があげられる。アニメーションは劇映画においての制約を簡単に切り開いて表現の可能性を広げて見せる。劇映画に描かれる日本という題材は、アニメーションのそれより、ダイレクトにそして具体的に伝わる。一方、アニメーションに描かれた日本はより創造的な世界となっている。その境界線に立って、アニメーションの制作者たちは劇映画の手法を用いて独自の世界を作り出すことを試みる。『イノセンス』で、押井守は写実的なシーンを演出するために、劇映画と似たカメラワークと編集と構成を用いる。映画の空間は世界6カ国をロケし撮影した写真を土台として再現された。町の看板やコンビニの品物、そして本棚の本まで実際のように細かく描かれている。彼は『攻殻機動隊』においても実写の写真を背景の土台として近未来都市のイメージを演出した。『千年女優』は劇映画として制作してもいい⁽²⁷⁾ と思えるが、それがアニメーションだったために、他のアニメーションに見られない独自のスタイルを見せる。チヨコという女優が過去を回想していくが、そのはじめのシーンはあたかも白黒写真のようなショットで綴られていた。ゲンヤはカメラマンと一緒にその女優の物語を取材するために、チヨコの家を訪ねる。女優の過去にゲンヤとカメラマンが遭遇するという構成で物語が展開されていく。つまり、女優の過去の時間と空間の中に彼らが登場する。このように、劇映画とアニメーションの境界、そのぎりぎりまでアニメーション表現を引き上げた点がこの作品の特徴だといえる。その結果、劇映画の時間と空間の構成を借りて、アニメーション表現の特質を引き立たせることになった。これはアニメーションであるために、可能であったともいえる。

2. 韓国映画への影響

アニメーションを観る観客たちが多様化されていて、産業的にも影響が生じると考える。日本のアニメーションの映画館での受容はいま始まったばかりだが、韓国の映画産業の活性化とともに、若い年齢層を中心に観客は確かに増えているといえる。観客動員数において予想より下回る記録に留まったが、『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』は上位を占め、劇場用アニメーションの魅力と可能性を見せた。劇場用に関して、完成度の高い日本のアニメーションが小中高生は無論、大人たちまでファンとして呼び寄せる力が素地しているとされた。⁽²⁸⁾ さらに、人気のあるアニメーションによる産業的な影響としてアニメーションに関連するキャラクター商品の人形や靴やアクセサリなどが購入され付加産業として市場を形成すると、韓国内の文化産業も活性化していくことがあげられる。『ポケットモンスター』に登場するモンスターの描かれたカードをもって遊ぶ子供たちの風景は日本と変わらない日常的な光景となった。

制作方法も明らかに変化しているし、それによって、新たな表現が期待される場所である。開放とともに、日韓の制作者たちの協力制作と合作が増えた。『ガイスターズ』は2004年MBCで放映されたアニメーションである。日本側が配給を、韓国側が制作と企画を担当した。『千年女優』の制作には韓国のスタジオ Dr.Movie が動画、仕上げ、デジタルコンピジットの担当として参加している。スタジオジブリでは『千と千尋の神隠し』の制作において韓国のスタジオ D.R デジタルと協力した。D.R デジタルは動画とデジタルペイントを担当した。また、このスタジオは『人狼』『メトロポリス』の作画にも参加している。

また、アニメーション制作において、韓国的な素材の発見が注目されている。以前テレビで放映された日本のアニメーションはヨーロッパや宇宙など日本を背景にしないものが多かった。ところが、『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』は、日本的な素材を用いて、アニメーションの別の魅力を引き立たせて見せ、成功にも繋がった。そのことから韓国的な素材を生かす物語こそ競争力であるとされる。⁽²⁹⁾ 『白い心、ペック』は2000年からSBSで放映された韓国のアニメーションで、売られていった犬が主人のもとへ旅して帰ってきたという実話を素材にしている。このアニメーションは作画と演出とともに韓国人の情緒が反映された素材を美しい絵柄にしたと評価された。『五歳庵』は韓国で有名な童話作家ジョン・チェボンの原作を、『白い心、ペック』のソン・ベギョップ監督がアニメーション化したものである。このアニメーションは、キルソンという男の子が目の見えない姉と一緒に母親を探して旅する物語である。二人は僧侶に出会って寺で冬を過ごすことになる。キルソンはある日僧侶について寺から離れたオセアム（五歳庵）という庵に行った。一人になってしまったキルソンは目の見えない姉のため

に、祈り続けやがて仏様になった。そこには、彼らが寺を訪れる秋から、キルソンが仏様になる春まで、季節を表わす自然風景が美しく描かれている。制作者たちは韓国的情緒と色彩を表現するために力を注いだ。彼らはひっそりとして静けさが漂う寺を囲む自然風景の描写を、派手な色をさげパステルトーンの水彩画のように表現し、静けさの雰囲気を高めた。また、実際の山にある寺と丹青を写真撮影し、韓国的美を伝えようとした。もっとも韓国人の観客の共感と呼んだ要素は、兄弟愛と母親を恋しがる心であった。『マリといた夏』にも、父親を恋しがる心や家族愛など、韓国人の情緒が反映されている。このアニメーションは2002年アヌシー・アニメーション映画祭で長編部門のグランプリを受賞するなど、海外で注目されつつある。2004年には『五歳庵』が長編部門のグランプリを受賞した。このように、韓国の素材が海外で評価されたのは、普遍的な要素とともに、韓国的イメージと情緒という文化的特殊性が伝わったからだと考えられた。韓国ではこのような海外での受賞を契機に、下請けから逃れ創作アニメーションの可能性に対する自信をもつようになった。韓国人の感性に合う素材の発見とそのアニメーション化の実現がこれからの課題であるが、それを世界に受け入れられるようにするためには、アニメーションのメディアとしての特性を理解することも重要であるに違いない。また、これらが日本のアニメーションが正式に受容されてからおきたことだという事実は、その影響として考えても良いのではないか。

結語にかえて

以上、韓国における日本アニメーションの受容について考察した。第1章では、主に受容者の立場として、日本アニメーションの受容の変貌を辿った。社会の変化とともに、それぞれ異なった環境の下で受容の形態も変わっていた。第2章では、韓国の映画文化を理解するために、最近の映画産業の動向と、アニメーションに対する認識について言及した。韓国ではアニメーションや映画の産業及び文化が国の政策と密接に関連していて、日本のアニメーションの上映も日本の大衆文化開放の発表によって進められた。そのような日本との違いを見出そうとした。第3章では、このような事実を踏まえた上で、日本アニメーションの特質と韓国映画への影響を分析し論じた。

日本のアニメーションは産業的に成功した例とされる。日本では劇映画を上回る位置を占めている。このような成功はテレビやビデオなど様々なメディアの連係に支えられている。さらに、それはアニメーション関連のキャラクター産業を促し、日本国内に安定した市場を形成している。需要者のニーズに合わせてアニメーション及び関連商品は量産されている。そして、コンテンツも多様化されている。ヨーロッパを背景にしたものやSFものから日本的な素材を用いたものまで、ジャンルとしてスポーツものや魔女ものまで、実に豊富である。様々なジャンルとの交流も見られる。制作者たちは漫画や劇映画の手法を用いて独自のアニメーションの世界を作り出そうとする。アニメーションの作り手、アニメーターそしてアーティストのアイデアから生み出されるコンテンツにおける制約の無さは、日本のアニメーションの魅力を生み出す力になっている。

S・J・ネイピアが述べているように、日本アニメーションのもつグローバルな側面は、実写映画（劇映画）と区別されるアニメーションという表現の土台にあることは確かである。

実際、多くの評論家は、アニメを「無国籍 (mukokuseki/stateless)」という言葉で表現する。欧米人にとって、日本製アニメは確かに「エキゾチック」なものなのだ。しかし、アニメは、独自の空間世界を持っており、必ずしも現実の日本とぴったり重なるわけではない。実写映画は、すでに存在する対象物を、以前からそこにあった背景において物語を展開する。そのような、本質的に具象的な空間とは異なり、アニメートされた空間は、従来から存在する背景に縛られることなく、すべてはアニメーターおよびアーティストの頭の中から引き出される。それゆえに、アニメは国境を越えた、無国籍な文化の仲間としてとりわけふさわしい存在と言えるのである。⁽³⁰⁾

韓国への受容もこのような欧米における観点と大きく変わらなく、「エキゾチック」で、同時に、アニメーションとして限りない表現の可能性に引かれることである。さらに、アニメーションそのものが無限の可能性を潜んでいるに違いない。アニメーションは実写映画（劇映画）と違うメディアと考えられる。撮影法において、実写映画はカメラで実際の演技を捉える一方、フレーム撮影を基本とするのがアニメーションといえる。アニメーションで再現される動きは、実写映画で人物が見せる演技のようにリアリティを追求することも可能であり、遥かに誇張された動きを描くことも可能である。P・ウェルズは「フィルムランゲージやフィルムアートとしてのアニメーションは、実写映画よりも洗練され融通性のあるメディアである」⁽³¹⁾と論じた。アニメーションは明らかに実写映画と関連するが、それ自体の固有な表現領域をもっていて、現実離れた設定の自由さと技法の可能性から、実写映画と異なる表現メディアであるといえる。

韓国のアニメーションに関する産業及び文化は、国の政策と密接に関連しながら、変化の時期を迎えている。日本の大衆文化の開放が発表されて以後、日本のアニメーションが映画館で上映されるようになった。また、韓国で制作されたアニメーションも日本で上映されている。このように、両国は連動していて、韓国と日本の観客は劇場用アニメーションというメディアを共有するようになり、文化をこえた眼差しでアニメーションを楽しむようになった。一部文化的違和感の問題は変わらなく残るかもしれないが、それが個人の受容を妨げるものではないということは今日のメディアの事情からも確かである。人間の心を乱す大衆文化が量産される中で、受容者たちの選択はますます重要になっていく。アニメーションにおいても、それを作り出した人間の心が、それを受け止める人間の心に通じると、その豊かな使い方と新たな方向性を見出すことができよう。

韓国では2006年、日本のアニメーションが完全に開放される予定である。日本のアニメーションは歴史が長く、コンテンツも豊かで、韓国に産業的文化的に及ぼす影響に対する期待が大きい。他の文化圏に受け入れられる日本のアニメーションのあり方は、文化的特殊性を備えながら、アニメーションというメディアの機能に関する理解を深めた上で、人間の普遍的な心をそこに盛っていくことだと考える。いくつかのアニメーションが正式な受容の中でその可能性を示したといえよう。

表1. 日本の大衆文化開放の現況（漫画、映画、劇場用アニメーション、ビデオのみ記入）

分野	1次～3次開放範囲	4次開放範囲
漫画	日本語版出版漫画、漫画雑誌（1次）	
映画	4 大国際映画祭（カンヌ、ベニス、ベルリン、アカデミー）受賞作、日韓共同制作映画、韓国映画に日本人俳優の出演許可、日韓映画週間開催（1次） 公認された国際映画祭受賞作、映像物等級委員会が認める全体観覧可の映画（2次） 映像物等級委員会が認める12才観覧可、15才観覧可の映画（3次）	18才観覧可、制限上映可の映画
劇場用アニメーション	国際アニメーション映画祭を含めた各種国際映画祭の受賞作（3次）	全面開放2年留保
ビデオ	開放対象の映画とアニメーションの内、韓国国内で上映された作品 映画とアニメーションの開放と連係し開放	映画とアニメーションの国内上映作品

*この表は映画振興委員会の資料を参考として作成したものである。

*漫画の全面開放：1次、1998年

*映画の全面開放：3次、2000年

*劇場用アニメーションの全面開放：2006年予定

表 2. 韓国で上映された日本のアニメーション

年度	公開日	作品名（日本内公開年度、監督名）	観客数 (ソウル基準/名)
2000	9. 30	『獣兵衛忍風帖』（1993 年、川尻善昭）	12536
	12. 9	『人狼』（1998 年、押井守）	33239
	12. 23	『ポケットモンスターミュウツーの逆襲』（1998 年、湯山邦彦）	182360
	12. 30	『風の谷のナウシカ』（1984 年、宮崎駿）	63551
2001	7. 27	『となりのトトロ』（1988 年、宮崎駿）	133862
	8. 11	『ポケットモンスタールギアの爆弾』（1999 年、湯山邦彦）	20280
2002	4. 12	『攻殻機動隊』（1995 年、押井守）	15037
	6. 28	『千と千尋の神隠し』（2001 年、宮崎駿）	937459
2003	1. 17	『メトロポリス』（2001 年、りんたろう）	2796
	8. 8	『猫の恩返し』（2002 年、森田宏幸）	225650
	4. 25	『もののけ姫』（1997 年、宮崎駿）	91785
	10. 3	『カウボーイビバップ』（2001 年、渡辺信一郎）	2475
	12. 19	『紅の豚』（1993 年、宮崎駿）	17905
2004	4. 30	『天空の城ラピュタ』（1986 年、宮崎駿）	49052
	5. 26	『パーフェクトブルー』（1998 年、今敏）	634
	7. 9	『千年女優』（2001 年、今敏）	6028
	10. 8	『イノセンス』（2004 年、押井守）	20124
	12. 23	『ハウルの動く城』（2004 年、宮崎駿）	981221

* 資料：映画振興委員会、『韓国映画年鑑』、www.kofic.or.kr

表 3.韓国で上映された日本の劇映画の観客動員（最多順）

作品名	公開年度	観客数 (ソウル基準/名)
『Love Letter』（1995年、岩井俊二）	1999年	645615
『踊る大捜査線』（2003年、本広克行）	2000年	307671
『Shall We ダンス?』（1996年、周防正行）	2000年	300169
『SF サムライフィクション』（1998年、中野裕之）	2000年	224256
『鉄道員』（1999年、降旗康男）	2000年	219327
『秘密』（1999年、滝田洋二郎）	2002年	183672
『四月物語』（1998年、岩井俊二）	2000年	161423
『ラヂオの時間』（1997年、三谷幸喜）	2000年	159696

* 資料：映画振興委員会、『韓国映画年鑑』、www.kofic.or.kr

表 4.韓国で 100 万人以上の観客を動員した映画 1998 年～2003 年

公開年度 (韓国内)	作品名	観客数 (ソウル基準/名)	備考
2003 年	『殺人の追憶』	1912725	外国映画最高
	『同じ年の家庭教師』	1587975	『マトリックス 2』
	『スキャンダル』	1295921	1596000
	『オールド・ボーイ』	1140000	
	『筆箭 (たんす)』	1017027	
2002 年	『大変な結婚』	1605775	外国映画最高
	『おばあちゃんの家』	1505775	『マイノリティ・レポート』
	『色即是空』	1320189	1401000
	『公共の敵』	1161500	
	『ジェイル・ブレイカー』	1067363	
2001 年	『友へ、チング』	2678846	外国映画最高
	『猟奇的な彼女』	1735692	『ハリー・ポッターと魔法使い』
	『風林高』	1608211	1585389
	『花嫁はギャングスター』	1419972	
	『達磨よ、遊ぼう』	1253075	
	『マイ・ボス マイ・ヒーロー』	1228142	
2000 年	『JSA (共同警備区域)』	2513540	外国映画最高 『グラディエーター』 1242055
1999 年	『シュリ』	2448399	外国映画最高 『ハムナプトラ 1 砂漠の都』 114916
1998 年	『タイタニック』	1971780	韓国映画最高
	『アルマゲドン』	1170252	『約束』 704600
1997 年	『ロースト・ワールド』	1001279	韓国映画最高 『手紙』 724747

* 資料：映画振興委員会、『韓国映画年鑑』、www.kofic.or.kr

表 5.韓国で上映された海外のアニメーションの観客動員（最多順）

作品名	韓国内公開年度	観客数 (ソウル基準/名)
『シュレック 2』	2004 年 6 月	1285594
『シュレック』	2001 年 6 月	1078886
『ハウルの動く城』	2004 年 12 月	981221
『千と千尋の神隠し』	2002 年 6 月	937459
『ライオンキング』	1994 年 7 月	920948
『ムーラン』	1998 年 7 月	771194
『ターザン』	1999 年 7 月	726542
『トイストーリー2』	1999 年 12 月	664180
『ダイナソー』	2000 年 7 月	654446
『アラジン』	1993 年 7 月	647266

註

(1)ホ・イヌック；『韓国のアニメーション映画史』、シンハンメディア、2002年、48ページ。ここでは、『黄金バット』はテレビシリーズとして制作され、TBCが下請けとして制作に参加したために、劇場用としても改作し1968年映画館で上映されたと記されている。一方、日本のアニメーションとしてはじめて韓国の映画館で上映されたのは1959年に制作された『少年猿飛佐助』で、韓国では1966年8月に上映された。

(2)ソ・ジュンソク；『韓国の現代史』、ウンジン知識ハウス、2005年、292ページ。

(3)それが日本のものであることが明らかな場合、編集や録音の過程で手を加え、日本式名前を韓国式に変えたり、韓国の地名を使ったり、着物のシーンなどを削除したりすることもあったという。

(4)映画館で1950年代から主にディズニーのアニメーションが上映された。1957年に『ピーター・パン』（ディズニー、1953年）、1961年に『ガリバー旅行記』（フライシャー、1939年）、1962年に『シンデレラ』（ディズニー、1950年）などが上映されている。1970年代から1980年代にかけて劇場用アニメーションが韓国で制作されるようになったのは、ディズニーのアニメーションの影響があったと考えられる。

(5)ノ・ユンジョン；「日本文化開放と文化産業に関する研究-アニメーションの輸入と開放を中心に-」、ソウル大学大学院修士学位論文、1999年、57-58ページ。

(6)映画館ではディズニーのアニメーションが多く上映された。1980年代後半からディズニーのアニメーションが再び人気を得ると、アニメーションは家族で鑑賞するものという認識が一般的に造られた。この時期に『リトル・マーメイド』（1989年）、『美女と野獣』（1992年）、『ライオンキング』（1994年）が興行的に成功した例である。その他に、1990年『ファンタジア』、1993年『アラジン』、1995年『ポカホンタス』、1996年『ノートルダムの鐘』、1997年『ヘラクレス』などのように、ディズニーのアニメーションはほぼ1年に1作が上映されている。1997年にイギリスのアニメーションの『ウォレスとグルミット』や『ゴックス』なども上映されたが、ディズニーのアニメーションの人気に至らなかった。

(7)全年齢層が観覧可能とされるものである。18才未満観覧不可とは18才未満は観覧ができないとのことである。その他に、18才以上観覧可と制限上映可（成人用映画）がある。

(8)1998年も1997年も韓国で最多の観客を動員したのはアメリカの映画である。『タイタニック』や『アルマゲドン』や『ロスト・ワールド』などが100万人以上の観客を動員している。

(9)キム・ドンホ；『韓国映画政策史』、ナナム出版、2005年、330ページ。

(10)「韓国映画占有率40%突破」、『中央日報』、2001年6月23日。5月末までソウル地域の観客の42.4%を占めていた。

- (11)チョン・ヒョンチャン；「1999年～2003年度、韓国映画の観客の性向と変化の分析」、映画振興委員会、2004年、28ページ。
- (12)キム・ドンホ；前掲書、342ページ。
- (13)映画振興委員会の資料によると、『ハウルの動く城』のソウルでの観客動員数は981221名である。全国の観客数はこの数値に1.5をかけた数値となる。つまり、正確なデータによる集計ではなく、暫定した数値である。
- (14)映画振興委員会の資料による。韓国内で上映された海外のアニメーションの歴代興行1位は『シュレック2』で1285594名、2位は『シュレック』で1078886名をそれぞれ動員した。
- (15)チョン・ヒョンチャン；前掲書、34-35ページ。
- (16)「漫画、漫画映画、…アニメーション行事が豊かだった1年」、『中央日報』、1997年12月31日。
- (17)2006年に推薦審議制度がなくなる予定である。
- (18)ユン・ジョンスク；「日本の大衆文化が青少年に及ぼす影響-日本のアニメーションの場合-」、セミョン大学大学院修士学位論文、2001年、23ページ。
- (19)「日本映画の開放を賛成…感情的排斥止揚すべき」、『中央日報』、1997年9月20日。
- (20)「EBS「アトピア」各国成人向けアニメーションの比較分析」、『中央日報』、2000年11月18日。
- (21)『CINE21』、2001年1月19日。映画評論家キム・イチャンが『風の谷のナウシカ』について批評したものである。
- (22)『CINE21』、2003年4月22日。映画評論家キム・イチャンが『もののけ姫』について批評したものである。
- (23)『CINE21』、2002年6月25日。『千と千尋の神隠し』レビュー。
- (24)『CINE21』、2004年7月6日。『千年女優』レビュー。
- (25)『FILM2.0』、2004年6月7日。『パーフェクトブルー』レビュー。
- (26)「日本のアニメーションの現場に行く、競争力はどこから」、『中央日報』、2000年12月14日。「漫画は兄、アニメは弟」といって、漫画の基盤が今日の日本のアニメーションのブームをもたらしたと見なされた。
- (27)『CINE21』、2004年7月6日。『千年女優』レビューに「『千年女優』を見て、黒澤明と『ゴジラ』シリーズ、成瀬巳喜男と溝口健二を思い出すのは当然な反応であろうと記されている。
- (28)「日本の大衆文化3次開放、アニメーション」、『中央日報』、2000年6月28日。2000年3次開放が発表される以前に、アニメーションにおける影響は予想された。
- (29)「韓国的物語が競争力」、『中央日報』、2002年7月18日。

(30) S・J・ネイピア ; 『現代日本のアニメー「AKIRA」から「千と千尋の神隠し」まで-』、神山京子訳、中央公論新社、2002年、50ページ。

(31) Wells, P. ; *Understanding Animation*, Routledge, 1998, p.6.

参考及び引用資料

- 山口康男；『日本のアニメ全史』、テン・ブックス、2004年
- キム・ドンホ；『韓国映画政策史』、ナナム出版、2005年
- ソ・ジュンソク；『韓国の現代史』、ウンジン知識ハウス、2005年
- ホ・イヌック；『韓国のアニメーション映画史』、シンハンメディア、2002年
- ホ・ヒョンチャン；『韓国映画100年』、文学思想社、2003年
- カン・イクモ；「日本の大衆文化‘段階的開放’政策による対応方案研究」、
ソカン大学大学院修士学位論文、1999年
- イ・ウンキョン、ヨム・ヘウン；「日本の劇場用アニメーションの開放の効果及び対応方案」、
映画振興委員会、2004年
- チョン・ヒョンチャン；「1999年～2003年度、韓国映画の観客の性向と変化の分析」、
映画振興委員会、2004年
- ノ・ユンジョン；「日本文化開放と文化産業に関する研究
-アニメーションの輸入と開放を中心に-」、ソウル大学大学院修士学位論文、1999年
- ユン・ジョンスク；「日本の大衆文化が青少年に及ぼす影響
-日本のアニメーションの場合-」、セミョン大学大学院修士学位論文、2001年
- S・J・ネイピア；『現代日本のアニメ-「AKIRA」から「千と千尋の神隠し」まで-』、
神山京子訳、中央公論新社、2002年
- Wells, P. ; *Understanding Animation*, Routledge, 1998
- 「日本映画の開放を賛成…感情的排斥止揚すべき」、『中央日報』、1997年9月20日
- 「漫画、漫画映画、…アニメーション行事が豊かだった1年」、
『中央日報』、1997年12月31日
- 「日本の大衆文化3次開放、アニメーション」、『中央日報』、2000年6月28日
- 「EBS ‘アノトピア’ 各国成人向けアニメーションの比較分析」、
『中央日報』、2000年11月18日
- 「日本のアニメーションの現場に行く、競争力はどこから」、『中央日報』、2000年12月14日
- 「韓国映画占有率40%突破」、『中央日報』、2001年6月23日
- 「韓国的物語が競争力」、『中央日報』、2002年7月18日
- 『CINE21』、2001年1月19日
- 『CINE21』、2002年6月25日
- 『CINE21』、2003年4月22日
- 『CINE21』、2004年7月6日
- 『FILM2.0』、2004年6月7日

映像作品のリスト

- 『獣兵衛忍風帖』(1993年、川尻善昭)
- 『人狼』(1998年、押井守)
- 『ポケットモンスターミュウツーの逆襲』(1998年、湯山邦彦)
- 『風の谷のナウシカ』(1984年、宮崎駿)
- 『となりのトトロ』(1988年、宮崎駿)
- 『ポケットモンスタールギアの爆弾』(1999年、湯山邦彦)
- 『攻殻機動隊』(1995年、押井守)
- 『千と千尋の神隠し』(2001年、宮崎駿)
- 『メトロポリス』(2001年、りんたろう)
- 『猫の恩返し』(2002年、森田宏幸)
- 『もののけ姫』(1997年、宮崎駿)
- 『カウボーイビバップ』(2001年、渡辺信一郎)
- 『紅の豚』(1993年、宮崎駿)
- 『天空の城ラピュタ』(1986年、宮崎駿)
- 『パーフェクトブルー』(1998年、今敏)
- 『千年女優』(2001年、今敏)
- 『イノセンス』(2004年、押井守)
- 『ハウルの動く城』(2004年、宮崎駿)

財団法人徳間記念アニメーション文化財団年報 2005—2006 別冊
(平成 17 年度 第 5 号 別冊)

平成 18 年 7 月発行

編集・発行：財団法人徳間記念アニメーション文化財団
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-1-83
電話 0422-40-2211

印 刷：望洋印刷株式会社

